



CR-V e:FCEV

オーナーズマニュアル

クイックガイド

安全なドライブ

計器の見かた

各部の操作

オーディオ

運転

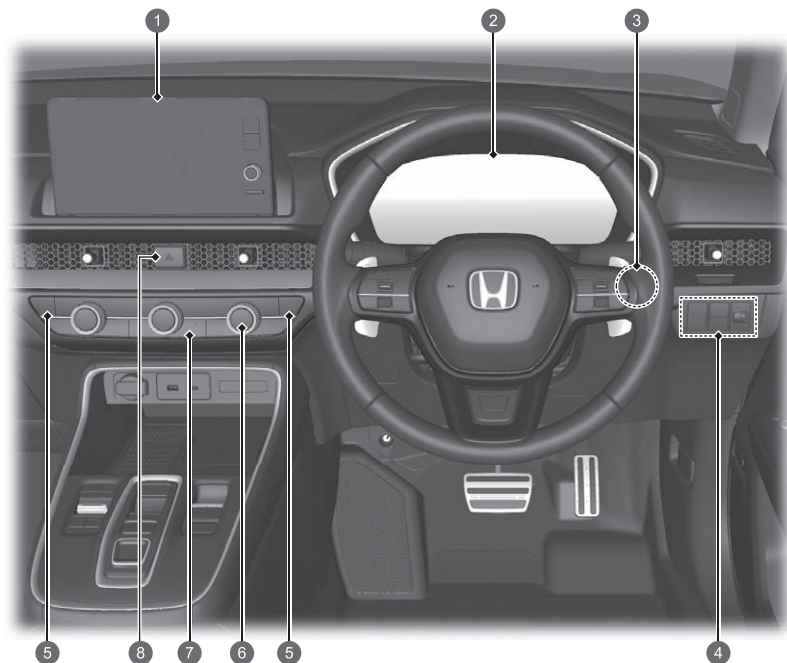
メンテナンス

万一の場合には

資料

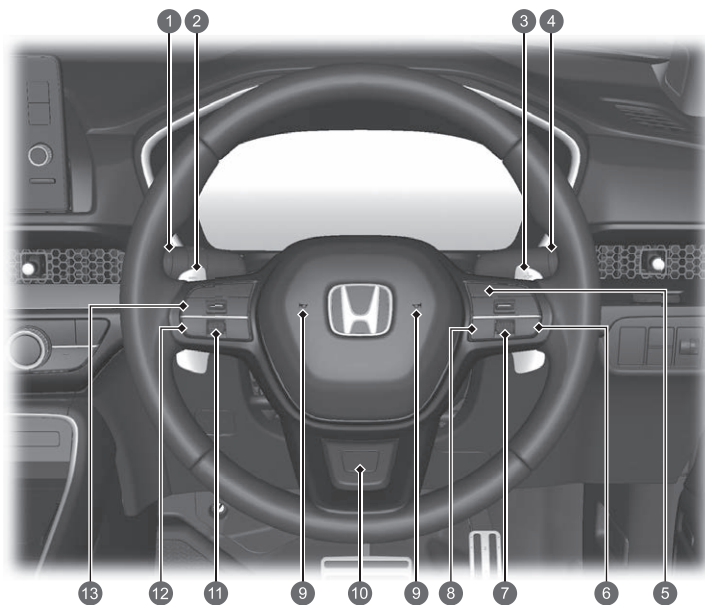
索引

ビジュアル目次



- ① ナビゲーションまたはオーディオ※
- ② メーター ➡ P.99
警告灯 ➡ P.83
表示灯 ➡ P.93
マルチインフォメーションディスプレイ
➡ P.103, 107
- ③ POWER スイッチ ➡ P.156
- ④ (VSA OFF) スイッチ ➡ P.256
ヘッドライトレベリングダイヤル ➡ P.162
パワーテールゲートボタン ➡ P.145
- ⑤ シートヒータースイッチ ➡ P.205
- ⑥ オートエアコン ➡ P.213
- ⑦ リヤデフロスター/ヒータードドアミラー
スイッチ ➡ P.169
- ⑧ 非常点滅表示灯(ハザードスイッチ)

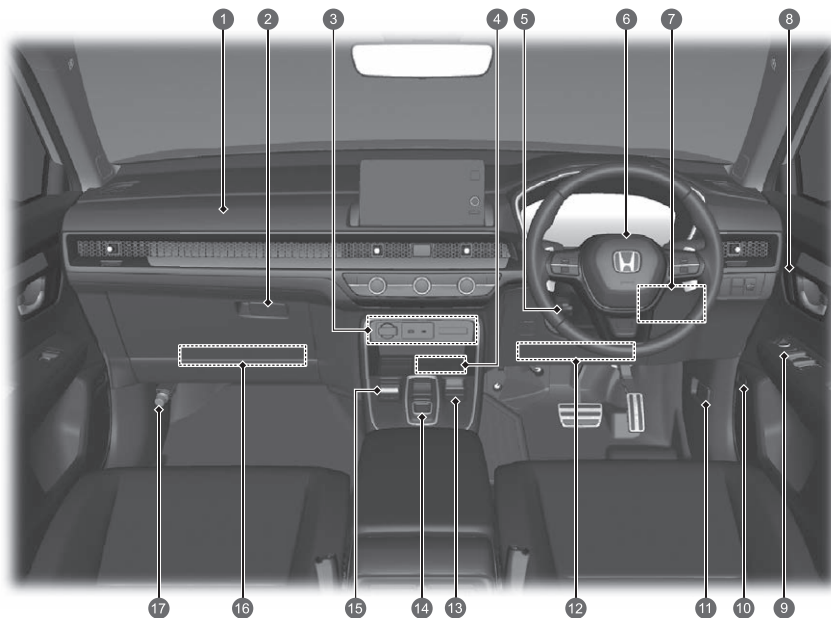
※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



- ① ワイパー/ ウォッシャースイッチ ➡P.166
- ② マルチビューカメラシステム ➡P.382
- ③ 減速セクター(－) ➡P.245
- ④ 減速セクター(＋) ➡P.245
- ④ ライト / 方向指示器(ウィンカー)スイッチ
➡P.158, 159
- ⑤ 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール
(ACC)スイッチ ➡P.265, 300
- ⑥ LKAS スイッチ ➡P.265, 325
- ⑦ ライトセクターホイール ➡P.108
- ⑧ ディスタンススイッチ ➡P.265, 311
- ⑨ ホーンスイッチ (周辺)
- ⑩ ステアリングヒーター ➡P.204
- ⑪ レフトセクターホイール ➡P.104
- ⑫ 発話スイッチ*
- ⑬ オーディオリモートコントロールスイッチ*

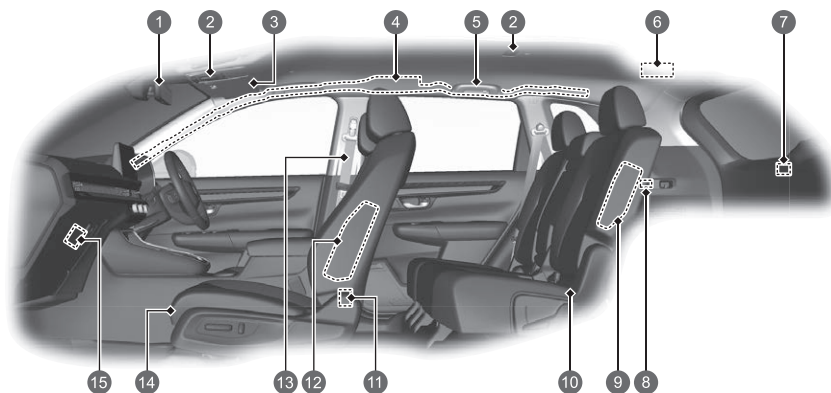
※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

ビジュアル目次



- ① SRS エアバッグシステム(助手席用) ➡P.50
- ② グローブボックス ➡P.190
- ③ アクセサリーソケット ➡P.198
充電専用 USB ジャック ➡P.199
USB ジャック※
- ④ ワイヤレス充電器 ➡P.200
- ⑤ ハンドル位置調節レバー ➡P.172
- ⑥ SRS エアバッグシステム(運転席用) ➡P.50
- ⑦ 室内運転席側のヒューズボックス ➡P.491
- ⑧ メモリーボタン ➡P.171
セットボタン ➡P.171
- ⑨ ドアミラー調節スイッチ ➡P.174
マスタードアロックスイッチ ➡P.136
パワーウィンドウスイッチ ➡P.152
- ⑩ フューエルリッドオープナー ➡P.397
- ⑪ ボンネット解除ノブ ➡P.420
- ⑫ 運転席ニーエアバッグ ➡P.53
- ⑬ パーキングブレーキスイッチ ➡P.357
オートマチックブレーキホールドスイッチ ➡P.362
- ⑭ シフトポジションスイッチ ➡P.240
- ⑮ ドライブモードスイッチ ➡P.249
 (ヒルディセントコントロール)スイッチ ➡P.254
 e ボタン ➡P.9
- ⑯ 助手席ニーエアバッグ ➡P.53
- ⑰ 発炎筒 ➡P.454

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

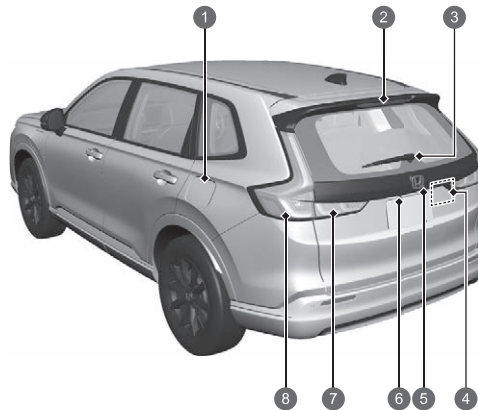
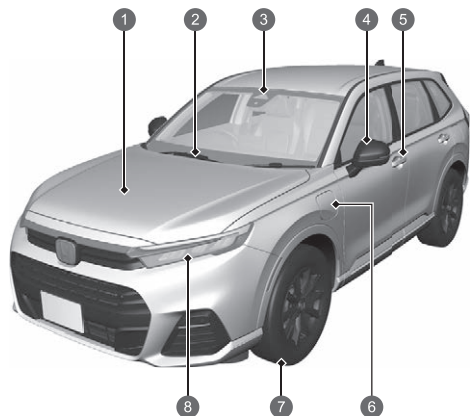


- ① ルームミラー ➡P.173
- ② 室内灯 / マップランプ ➡P.188, 189
- ③ サンバイザー ➡P.197
バニティミラー
- ④ サイドカーテンエアバッグシステム
➡P.59
- ⑤ グラブレール
コートフック ➡P.194
- ⑥ 分離収納式シートベルト ➡P.46
- ⑦ カーゴスペース照明灯 ➡P.189
- ⑧ アクセサリーソケット ➡P.198
- ⑨ 後席サイドエアバッグシステム ➡P.56
- ⑩ リヤシート ➡P.181
ISOFIX/i-Size 取付装置 ➡P.73
- ⑪ 充電専用 USB ジャック ➡P.199
- ⑫ 前席サイドエアバッグシステム ➡P.56
- ⑬ シートベルト ➡P.41
- ⑭ フロントシート ➡P.177
- ⑮ ETC 車載器*※

※：ETC 車載器については、同梱の取扱情報をご覧ください。

この「※」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



- ① モータールーム内のメンテナンス ➡P.419
- ② ワイパー ➡P.166, 428
- ③ フロントセンサーカメラ ➡P.352
- ④ ドアミラー ➡P.174
ドアミラーウィンカー ➡P.158, 423
- ⑤ ドアの施錠 / 解錠 ➡P.122
- ⑥ パワーサブライコネクター ➡P.206
普通充電 ➡P.404
- ⑦ タイヤ ➡P.433, 455
- ⑧ ヘッドライト ➡P.159, 423
デイトタイムランニングライト / 車幅灯 ➡P.159, 161, 423
ウィンカー ➡P.158, 423
- ① 充てんのしかた ➡P.397
- ② ハイマウントストップランプ ➡P.426
- ③ リヤワイパー ➡P.168, 430
- ④ 外部給電のしかた ➡P.222
- ⑤ テールゲートの開閉 ➡P.139
番号灯 ➡P.159, 426
- ⑥ マルチビューカメラシステム ➡P.381
- ⑦ 尾灯 ➡P.159, 426
後退灯 ➡P.426
- ⑧ 尾灯 ➡P.159, 426
制動灯 ➡P.426
後部側方灯 ➡P.426
ウィンカー ➡P.158, 426

Honda Total Care プレミアム

Honda CONNECT を搭載したクルマと緊急サポートセンターやスマートフォンがつながることで、お客様のカーライフがさらに安心・ストレスフリーになるコネクテッドサービスを受けることができます。ご利用になるにはお申込み・ご契約が必要です。Honda Total Care プレミアムの詳しいサービスの内容、およびご契約については Honda Total Care プレミアムのホームページをご覧ください。

<https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/>

また、本書では、Honda Total Care プレミアムのサービスをご利用されるうえで、車両側の特有部分について説明があります。サービスをご利用になる際は、ホームページの詳細説明とともに本書の内容もご参照ください。

サービス内容並びに仕様について予告なく変更、または終了することがあります。

■車両特有部分について

- 緊急通報 ➡P.503
- トラブルサポート ➡P.505

燃料電池車の特徴

この車は、水素を燃料として走行する燃料電池車です。

燃料電池車は、水素と空気中の酸素の化学反応により発電された電気を使って、モーターで走行します。

発電には、FC スタック(燃料電池本体)に加えて、燃料供給や排気や冷却などが必要であり、これらを総称してFC システムと呼びます。

また、発電した電気を一時的に蓄える高電圧バッテリーを搭載しており、加速時には燃料電池の出力をアシストし、減速時には回生電力を充電することによりエネルギーを効率よく使います。

走行中に排出されるのは、水や水蒸気だけで、CO₂ や NO_x などの排気ガスを一切出さない環境にやさしい車です。

FC スタック(燃料電池本体)について

次のような状況では、通常使用時に比べて早めに出力が低下する場合があります。

- 高濃度粉塵の場所で使い続ける
- 火山、温泉地などの高い硫黄濃度の場所で使い続ける
- 高い濃度のシンナー、塗料などの有機溶剤、アンモニア臭などのアミン系物質、塩素系物質(潮風・融雪剤など)が多く存在する場所で使い続ける
 - ▶ ただし、通常環境に戻り一定時間使用することで、出力は戻ります。
- 長期間に渡ってアイドリング(走行待機)状態を長時間続けた場合
- FC システムの起動または停止を日々頻繁に繰り返した場合
- 長期間に渡って氷点下での使用を続けた場合
- エアクリナーエレメント内に海水などが浸入したとき
 - ▶ エアクリナーエレメントの交換および周辺の清掃をおすすめします。
- 指定の Honda 販売店にご相談ください。
- 長期間に渡って長時間の給電を行った場合

以下の状況では、出力が一時的に制限されることがあります。

- パワーシステムが高温、または低温のとき
- 水素残量が少ないとき
- 標高 2,000m 以上のとき
- 急加速・急減速を繰り返したとき
- 上り坂での連続走行を行ったとき

燃料電池車特有のシステム作動モードについて

様々な環境において、燃料電池の良好な発電性能を維持するために、燃料電池車特有のシステム作動モードがあります。

- パワーモードを OFF モードにしたとき：燃料電池のコンディション調整のため、システムの動作が継続する場合があります。
- 駐車中：燃料電池のコンディション調整のため、外気温が下がるとシステムが自動的に起動する場合があります。
- 寒冷時：燃料電池の発電準備やコンディション調整のため、通常よりも起動や停止に時間がかかる場合があります。
- 高温環境下で長時間のアイドリング（走行待機）状態を続けた場合、FC システムを保護するために一時的に燃料電池の出力を制限することがあります。

水素タンクについて

■水素タンク概要

水素タンクは、圧縮水素ガスを充てんして貯めておく容器です。

■点検

燃料電池車は、定期的な容器（水素タンク）の点検が法律で義務付けられています。

容器検査に合格し、検査有効期限内でないと圧縮水素ガスを充てんすることが禁止されています。

水素タンクは法律により充てん可能期限が定められています。フューエルリッド、ボンネットの裏側および水素タンクに明記される充てん可能期限を過ぎる場合は、水素タンクを交換する必要があります。

■廃棄するとき

水素タンクまたは水素タンクバルブを廃棄するときは、法律にしたがい処分する必要があります。

詳しくは、指定の Honda 販売店にご相談ください。

■盗難されたとき

燃料電池車が盗難された場合、盗難された車両が高圧ガスを充てんするための容器を搭載していることを警察に必ず伝えてください。

燃料補給について

走行には燃料として水素が必要です。充てんする水素ガスは、指定の水素ステーションにおいて性状の確かなものを使用してください。

水素ステーションの場所については、ナビゲーションで探すことができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

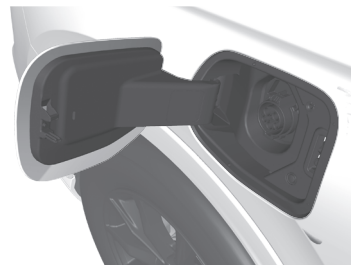
充電について

高電圧バッテリーの充電について ➡P.399

高電圧バッテリーを充電するには次の方法があります。

- 充電ケーブルを使用する
- 公共の充電設備を利用する
- 走行中に CHARGE モードを選択する
- パワーシステムを 30 分以上起動する

外部からの充電をするときは、開始時間と終了時間の設定ができます。 ➡P.407



回生エネルギーと回生ブレーキ

減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、加速時に使った電力を取り戻します。

モーターが車軸に加える回生力は、車両を減速させます。これは従来の車で使用されるエンジンブレーキと同様の働きをします。また減速の強さは、減速セレクターを操作することで変更できます。

e ボタン

選択したモードに応じて FC システムと高電圧バッテリー両方の電力を制御します。

AUTO モード

FC システムと高電圧バッテリー両方の電力を使用して走行します。

EV モード

高電圧バッテリーからの電力のみで走行します。

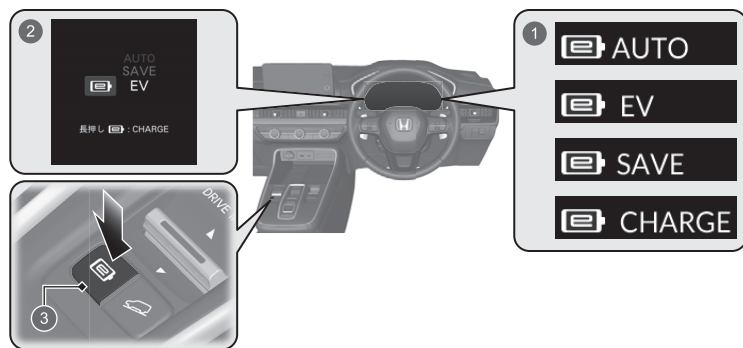
パワーモードを ON モードにしたときに EV モードでの走行が可能な状況であれば、EV モードは自動的に選択されます。

高速走行時は加速しにくくなります。

走行状態や車両状態によっては、EV モードが自動的に解除されたり、e ボタンを押しても、EV モードを選択できないことがあります。

このとき、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが鳴ります。

EV モード以外で走行を開始したときは、パワーモードを OFF モードにするまで EV モードを選択することはできません。



- ① AUTO/EV/SAVE/CHARGE モード表示灯
- ② マルチインフォメーションディスプレイ
- ③ e ボタン

CHARGE モード

CHARGE モードにすると FC システムが始動し、高電圧バッテリーが充電されます。

e ボタンを長押しすると、CHARGE モードになり CHARGE モード表示灯が点灯します。もう一度、e ボタンを長押しすると AUTO モードが選択され AUTO モード表示灯が点灯します。e ボタンを押すとモード選択ができ、選択されたモードに切り替わりと選択されたモードの表示灯が点灯します。

走行状態や車両状態によっては、CHARGE モードが自動的に解除されたり、e ボタンを長押ししても、CHARGE モードを選択できないことがあります。

このとき、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが鳴ります。

CHARGE モードであっても、坂道を登るなどの走行状態によっては、バッテリーの充電量が減少する場合があります。

SAVE モード

SAVE モードにすると、FC システムで発電した電力の使用を優先し、高電圧バッテリーからの電力を節約します。

e ボタンを押して SAVE モードを選択すると、SAVE モード表示灯が点灯します。

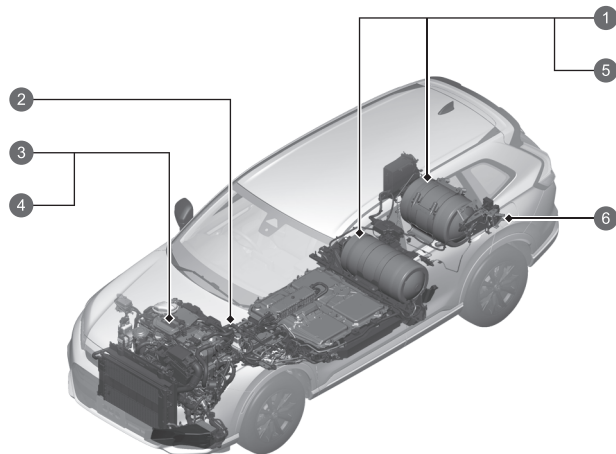
e ボタンを押すとモード選択ができ、選択されたモードに切り替わると選択されたモードの表示灯が点灯します。

走行状態や車両状態によっては、SAVE モードが自動的に解除されたり、e ボタンを押しても、モードを切り替えることができない場合があります。この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが鳴ります。

燃料電池車の注意

水素関係部位について

燃料電池車には、水素タンク・FC スタック(燃料電池本体)・水素配管などの水素関係部位があります。水素関係部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してあります。



<水素保有部品>

- ① 水素タンク
- ② 水素配管
- ③ FC スタック
(燃料電池本体)など

<ラベル対象部品>

- ① 水素タンク
- ② 水素配管

<水素センサーの配置>

- ④ FC スタック上部
- ⑤ 水素タンク
- ⑥ 水素充てん口

⚠警告

車庫や倉庫などの換気の悪い場所では長時間アイドリング(走行待機)状態にしない。酸素不足の危険があります。

車庫など密閉された場所で燃料電池車をアイドリング(走行待機)状態にし続けると燃料電池の発電で車庫内の酸素が消費され、酸欠になるおそれがあります。車庫のドアを閉めたままパワーシステムを起動させないでください。

⚠警告

水素関係部位の改造・架装・分解はしない。

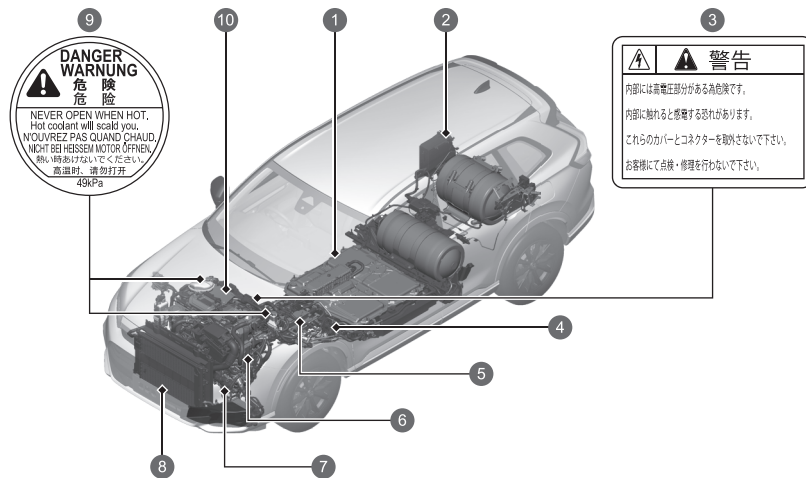
水素関係部位には、水素ガスが充てんされています。

これらの部品の取り外し、分解などを行うと水素ガス漏れの原因になり、車両火災や爆発などの重大な危険につながるおそれがあります。

車両に異常が認められる場合は必ず指定のHonda 販売店にご相談ください。

高電圧部位・高電圧配線・高温部位について

燃料電池車には、FC スタック(燃料電池本体)、FCVCU、高電圧バッテリー、パワードライブユニット、オレンジ色の高電圧ケーブル、電気モーターなどの高電圧部位や、冷却用ラジエーターなどの高温部位があります。高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してあります。



- | | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| ① 高電圧バッテリー | ⑥ 電気モーター/ パワードライブユニット |
| ② 給電口(CHAdeMO 給電口) | ⑦ エアポンプ |
| ③ FCVCU、ラベル | ⑧ 冷却用ラジエーター |
| ④ 充電口 / 給電口 | ⑨ 冷却水タンクキャップ、ラベル |
| ⑤ エアポンプパワードライブユニット / 12V DC/DC コンバーター | ⑩ FC スタック(燃料電池本体) |

⚠警告

この車両は、高電圧回路・部品を搭載しています。次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

●高電圧部品・高電圧配線(オレンジ色)およびそのコネクターの取り外し・分解・交換などは行わない。

点検・修理などの際は、必ず指定の Honda 販売店にご相談ください。

高電圧バッテリーと FC システムの維持

高電圧バッテリーは、車両が使用されていない場合でも徐々に放電します。そのため、車両を長期間駐車した場合、高電圧バッテリーの残量が低下する可能性があります。高電圧バッテリーの残量が低い状態が続くと、高電圧バッテリーの寿命が短くなる可能性があります。また FC システムを長期間起動しなかった場合、一時的にパワーシステム警告灯が点灯することがありますが、故障ではありません。車両を使用していないときにバッテリーと FC システムを維持するには、少なくとも 3 ヶ月に一度は 30 分以上パワーシステムを起動してください。

温度について

燃料電池や高電圧バッテリーが -30°C より低くなるような場所には保管しないでください。

非常に寒い状況では、パワーシステムの起動に時間がかかり、温度が上昇するまで起動しない場合があります。また、燃料電池や高電圧バッテリーが -30°C より低いときは、パワーシステムが起動できません。

エネルギー効率について

通常のカソリンエンジン搭載車と同じように、この車の燃費や航続可能距離は、運転のしかたによって大きく左右されます。急加速をしたり高速で走行する、また過度なエアコンの使用は航続可能距離に影響を及ぼします。特に、外気温が低い場合エアコンの消費電力が多くなるため、EV 走行できる距離が短くなることがあります。

バッテリーのタイプ

2 種類のバッテリーが装備されています。エアバッグ、ライト類や電気アクセサリーを使用するための 12V バッテリーと、モーターの駆動と 12V バッテリーを充電する高電圧バッテリーです。

水素検知システムについて

パワーモードを ON モードにすると、水素センサーが水素ガス漏れの検知を開始します。水素センサーが水素ガスの漏れを検知すると水素漏れ警告灯が点灯します。

▶ 水素漏れ警告灯 ➡ P.87

水素ガス漏れについて

水素ガスが漏れているときは、この取扱説明書にしたがって適切な処置をしてください。

▶ 水素ガスが漏れているとき ➡ P.479

水素供給遮断 / 高電圧遮断システム

FC システムが動作中に事故などで車体が衝撃を受けると、遮断システムが作動して水素ガスの供給を停止し、高電圧を遮断します。

遮断システムが作動すると、再起動はできません。FC システムを再起動するには、指定の Honda 販売店にご相談ください。

警告

水素ガス漏れが発生した場合には警告音と共に警告灯が点灯し、異常をお知らせします。水素漏れ警告灯が点灯しているときは、火気厳禁です。

漏れた水素ガスは、車両の外へ拡散し排出されます。

水素ガスは引火しやすいため、水素ガス漏れのおそれがある場合は車両にタバコ、発炎筒などの火気を近づけないように表示もしくは運転者や同乗者が監視してください。

運転者や同乗者が監視できない場合は、付近の人に救援を求めて監視人をつけてください。

漏れた水素ガスに引火して、車両火災になるおそれがあり危険です。

警告灯の点灯に気付いたときはただちに屋外の風通しの良い安全な場所に停車し、パワーモードを OFF モードにし、ただちに指定の Honda 販売店にご連絡ください。

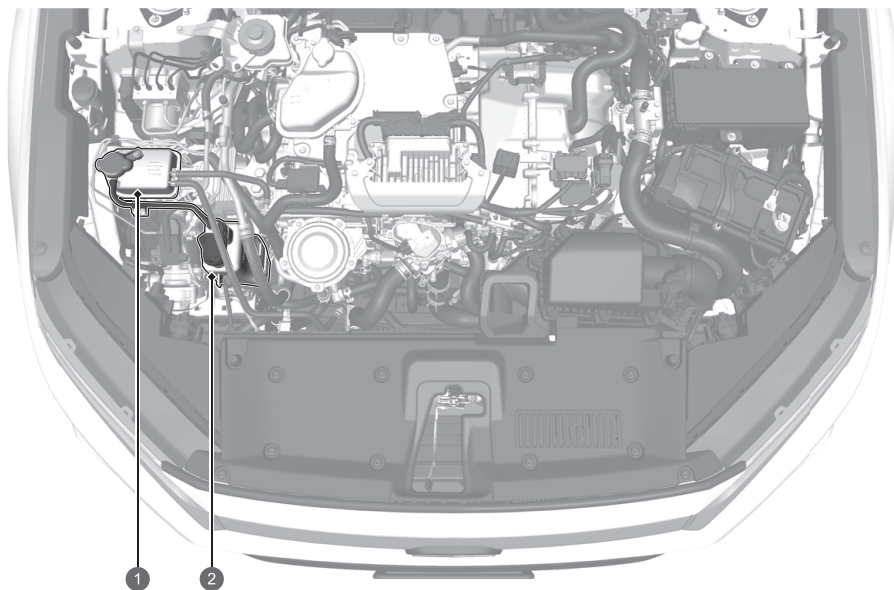
車両火災が発生したときは、火災により水素タンク内の圧力が高くなり、圧力を下げるためにタンク内の水素ガスを車両の右側斜め後方へ排出します。この水素ガスに着火し火災が噴出するおそれがあるため、車両後方からの消火は避けてください。

燃料電池用冷却水について

燃料電池を冷却するための冷却水は絶縁性の高い専用品を使用しています。

水や市販の冷却水、Honda 純正のインバータ冷却水などは、燃料電池の故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。

燃料電池用冷却水(FC 冷却水)の補充・交換の際は必ず指定の Honda 販売店にご相談ください。



- ① FC 冷却水エキパンションタンク
- ② FC 冷却水リザーブタンク

イオン交換器について

燃料電池用冷却水(FC 冷却水)の電気絶縁を維持するために、FC 冷却水の経路にイオン交換器が設置されています。

マルチインフォメーションディスプレイに「イオン交換器の交換時期です 販売店で交換してください」が表示されたときはイオン交換器の交換が必要です。必ず指定の Honda 販売店へご相談ください。

🔧 イオン交換器の交換時期メッセージ ➡ P.417

排気管について

走行後や給電中、パワーモードを OFF モードにして FC システムを停止したとき、排気管から排水されます。車両の右後方に立つと、水がかかる場合があります。

排出された水(生成水)は有害ではありませんが、飲料水としての処理はされていないため飲まないでください。

寒冷時、車両停止中に自動で FC システムが起動し、内部の水を排出する場合があります。

寒冷時に排気管から排出される白霧は水蒸気ですので、異常ではありません。

FC システムが停止する場合がありますので、排気管を異物などでふさがないようにください。

メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理、廃車の際には、必ず指定の Honda 販売店にご相談ください。

廃車の際には、指定の Honda 販売店を通じて燃料電池と高電圧バッテリーの回収を行っていますのでご協力をお願いいたします。



イオン交換器の
交換時期です
販売店で交換してください

40h



警告

生成水には直接触れない。

排気管から FC 発電による生成水が水や水蒸気として排出されます。生成水に直接触れると低温やけどをするおそれがあります。

事故が発生したとき

- 車両火災が発生したときは、漏れた水素ガスに引火するおそれがありますので、車から離れて消防署に連絡してください。消火を行う場合は、大量の水、粉末(ABC)消火器または炭酸ガス消火器を使用してください。少量の水での消火は、完全に消火できない可能性がありますので、絶対に行わないでください。
- けん引するときは、必ず四輪を持ち上げてください。前輪が接地した状態でけん引されると、モーターが回ってシステムにダメージを与える場合があります。
- マルチインフォメーションディスプレイに「水素漏れ検知器異常」が表示している場合は、車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときに水素漏れを検知できないため、パワーモードを ON モードにせず、ただちに指定の Honda 販売店にご連絡ください。
- 感電に注意する
車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線(オレンジ色)には、絶対に触れないでください。
- 高電圧バッテリー液に触れない
高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。
万一付着したときは、すぐに清浄な水で最低 5 分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。
- 火災が発生したら電気火災用消火器を使用する
少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。
- 指定の Honda 販売店で修理を受ける
車体が損傷を受けたときは、必ず指定の Honda 販売店で修理を受けてください。

⚠ 警告

車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、水素ガスが漏れているおそれがありますので、タバコ、発炎筒などの火気を近づけないでください。

❗ 水素ガスが漏れているとき ➡ P.479

車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがありますので高電圧部位や、それらを接続する配線(オレンジ色)には絶対触れないでください。車両火災が発生したときは、漏れた水素ガスに引火するおそれがあります。車から離れ、水素タンクを搭載した車両であることを消防署に連絡してください。

火災により水素タンク内の圧力が高くなると、圧力を下げるためにタンク内の水素ガスを車両の右側斜め下後方へ排出します。この水素ガスに着火し火災が噴出するおそれがあるため、車両の右側後方からの消火は避けてください。

高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

燃料電池車の近くで発炎筒は使用しないでください。万一水素が漏れている場合、引火して車両火災になるおそれがあります。

安全なドライブ ➡ P.38

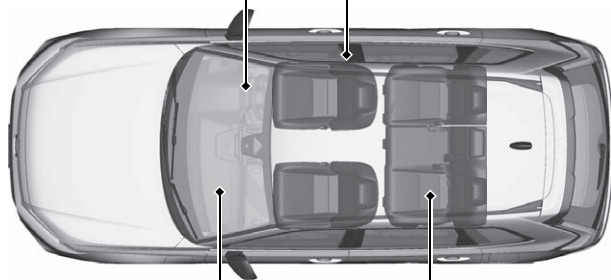
運転を始める前の確認 ➡ P.39

- 運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。

シートベルト ➡ P.41

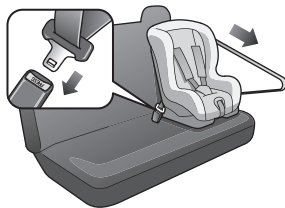


- 正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
- 妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。



お子さまの安全 ➡ P.63

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



エアバッグ ➡ P.50

- 万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた ➡P.80

警告灯 ➡P.83 / 表示灯 ➡P.93 / メーター ➡P.99 /
マルチインフォメーションディスプレイ ➡P.103,107

●メーターデザインを変更することができます。

メーターデザイン ➡P.119

パワー表示(POWER) ➡P.99

チャージメーター表示(CHARGE)/ 減速度表示(DECEL) ➡P.99

アンビエントメーター ➡P.100

高電圧バッテリー残量計 ➡P.100

標識認識機能表示 ➡P.101

スピードメーター ➡P.99

アンビエントメーター ➡P.100

燃料計 ➡P.99

オドメーター ➡P.100

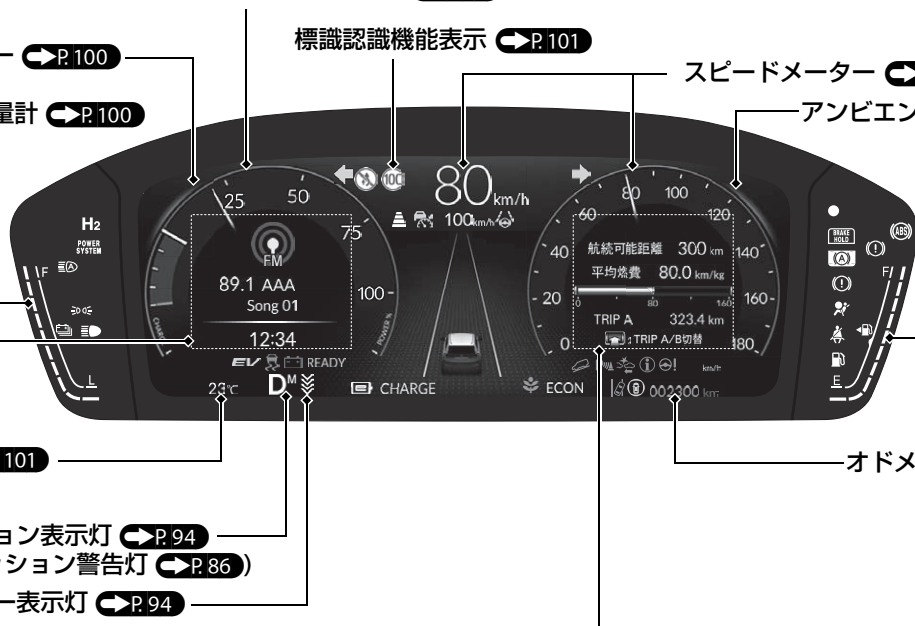
外気温表示 ➡P.101

シフトポジション表示灯 ➡P.94
(トランスミッション警告灯 ➡P.86)

減速セレクト表示灯 ➡P.94

マルチインフォメーションディスプレイ 左側 ➡P.103

マルチインフォメーションディスプレイ 右側 ➡P.107



各部の操作 ➡P.120

時刻を合わせる ➡P.121

時計を手動で調整したり、設定変更することができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

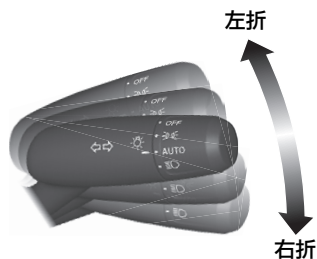
POWER スイッチ ➡P.156

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



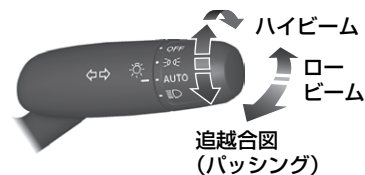
ウィンカー ➡P.158

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



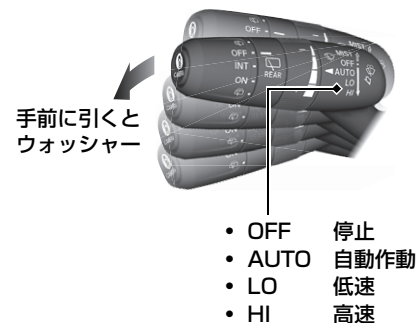
ライト ➡P.159

ライトスイッチ



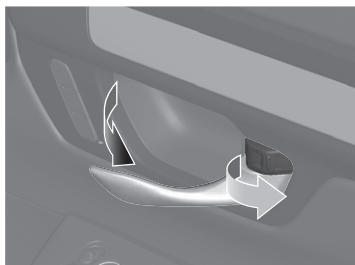
ワイパー ➡P.166

ワイパー/ウォッシャースイッチ



運転席ドアハンドルでの 解錠 ➡ P.135

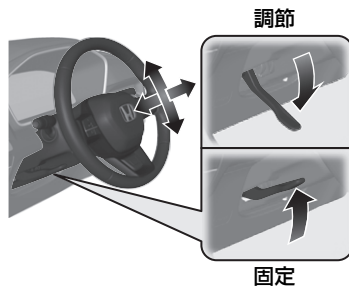
- 運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



ハンドル位置の調節

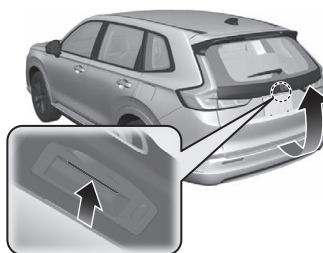
➡ P.172

- ハンドル位置調節レバーを押下げ、ハンドルの位置を調節します。

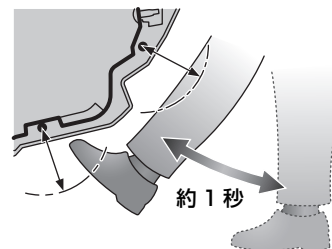


テールゲート ➡ P.139

- キーレスエントリーシステム、運転席にあるパワーテールゲートボタン、テールゲートハンドルを使って、パワーテールゲートを自動で開閉することができます。

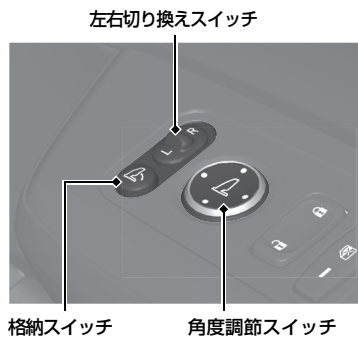


Honda スマートキーを携帯し、片足のつま先をリヤバンパー中央の下へ入れて引くような動作を行うとテールゲートを自動で開閉することができます。



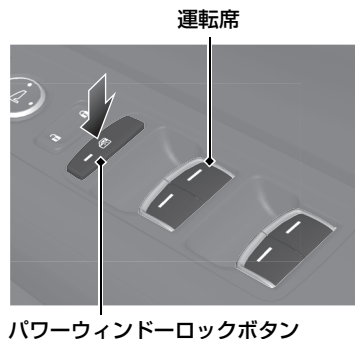
ドアミラー ➡ P.174

- パワーモードが ON モードのとき、左右のドアミラーの格納または角度の調節ができます。



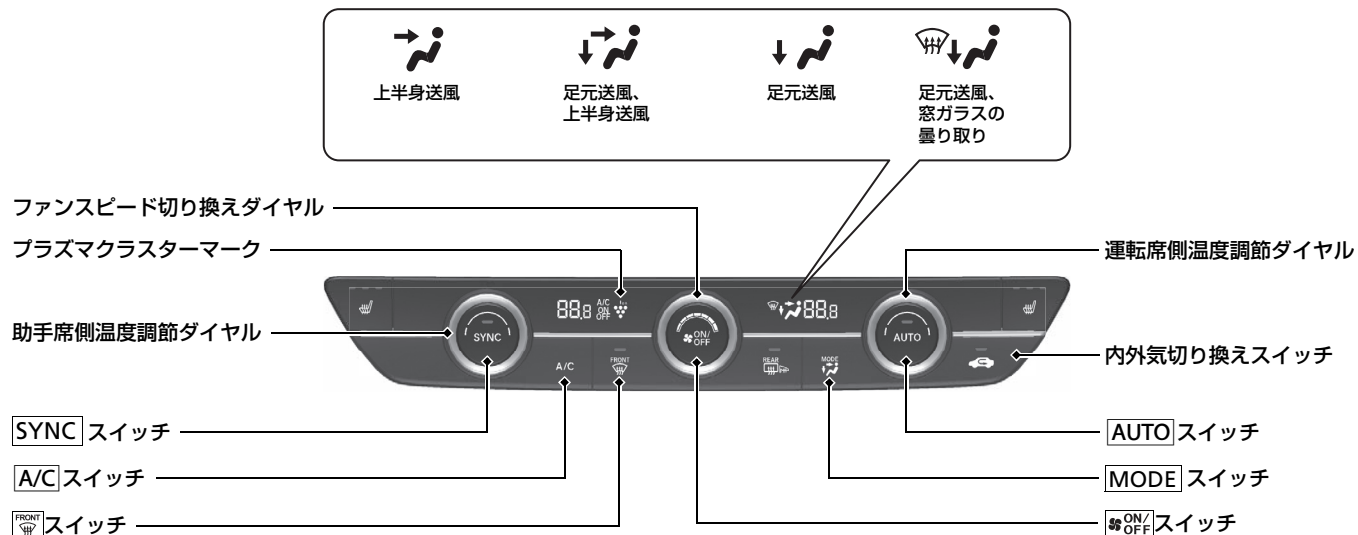
パワーウィンドー ➡ P.152

- パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。
- パワーウィンドーロックボタンが OFF のとき、全てのウィンドーが操作できます。
- パワーウィンドーロックボタンが ON のとき、運転席以外のウィンドーが非作動になります。



エアコン

- **AUTO** を押すと、オートエアコンが作動します。
- **ON/OFF** を押すと、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、**FRONT DEF** を押します。

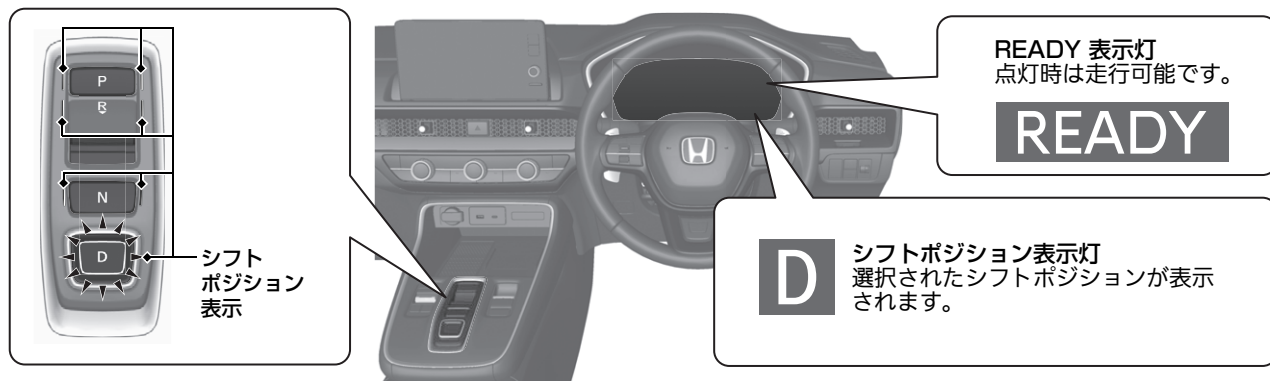


運転 ➡ P.229

電子制御シフトポジションスイッチ ➡ P.240

●パーキングスイッチを押し、ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。

シフトポジションの選択



- | | |
|----------|--|
| P | パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき |
| R | リバース
車を後退 |
| N | ニュートラル
駆動力が伝達されない状態 |
| D | ドライブ
通常走行 <ul style="list-style-type: none"> 一時的に減速セレクターを使用するとき 減速セレクターを使用するとき (SPORT モード走行時) |

減速セレクトター ➡ P.245

ハンドルにあるセレクトターで、アクセルペダルを離したときの減速の強さをハンドルから手を離さずに、4段階で変更できます。

解除したいときは **+** のセレクトターを数秒間引き続けます。

SPORT モードスイッチが OFF のとき

- ハンドルにあるセレクトターを引くと、一時的に減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さを表示します。

SPORT モードスイッチが ON のとき

- ハンドルにあるセレクトターを引くと、減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さと M が表示されます。



- のセレクトター



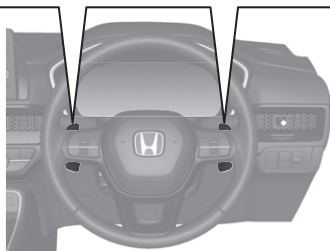
+ のセレクトター

SPORT モード OFF のとき

減速の強さ

SPORT モード ON のとき M とともに点灯

減速の強さ



CMBS の ON と OFF

➡P.270

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。
- パワーシステムを起動すると自動的に CMBS は ON になります。
- CMBS の ON と OFF を切り換えるには、マルチインフォメーションディスプレイの安全支援情報を使用します。

VSA の ON と OFF

➡P.256

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- パワーシステムを起動すると自動的に VSA は ON になります。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するには を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

水素ガスの充てん ➡P.396

水素ガスの充てんは水素ステーションの係員におまかせください。

指定燃料：圧縮水素

水素充てん圧力：70MPa(15℃時)最大 87.5MPa

水素充てん量※：約 4.3kg(70MPa 時)

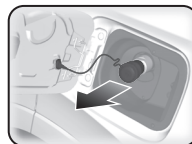
タンク容量：109 リットル

※：SAE 規格(J2601)の標準条件に基づいた水素充てん圧力 70MPa ステーションで充てんした場合の Honda 測定値。

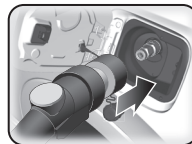
- 1 パワーモードを OFF モードにする。



- 2 運転席ドアにあるフューエルリッドオープナーを押してリッドを開ける。



- 3 水素充てん口のダストキャップを外す。



- 4 水素ガスの充てんを開始する。



Honda SENSING

➡P.264

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING には、次の機能があります。

衝突軽減ブレーキ (CMBS) ➡P.267

自車が、前方の車両(二輪車含む)のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車(移動する自転車)に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

踏み間違い衝突軽減システム ➡P.277

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の3つの機能を持ったシステムです。フロントグリル、フロントバンパーおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

路外逸脱抑制機能 ➡P.283

システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

歩行者事故低減ステアリング ➡P.291

歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) ➡P.298

先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

車線維持支援システム(LKAS) ➡P.321

左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

➡P.333

左右の白線(黄線)をとらえ、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストし、渋滞時に車線維持走行を補助するための機能です。

先行車発進お知らせ機能

➡P.342

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能 ➡P.346

走行中に認識した道路標識情報をメーターに表示し、運転者にお知らせする機能です。

オートハイビーム ➡P.163

夜間走行時にフロントセンサーカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

ブラインドスポットインフォメーション ➡P.258

隣接する車線後方に他の車両が走行していることを知らせ、運転者の車線変更などの操作の際の負担を軽減するシステムです。

後退出庫サポート ➡P.377

駐車場などから後退で出庫するときに、リアバンパー左右にあるレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

パーキングセンサーシステム ➡P.372

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと車両後方のリアセンターセンサーおよびリアコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離を警報音と表示で知らせます。

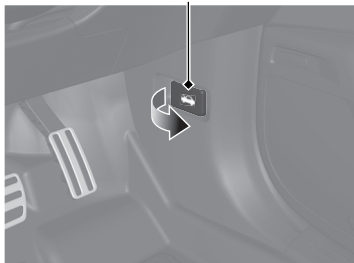
メンテナンス ➡P.413

モータールーム ➡P.419

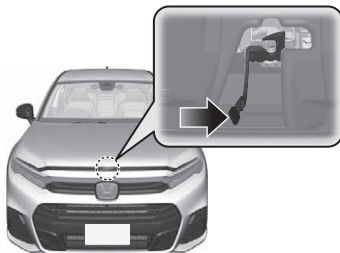
- ウォッシャー液の補給を行います。
- 12V バッテリーを点検します。

① 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。

ボンネット解除ノブ



② ボンネットのレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



ワイパーブレード ➡P.428

- ワイパーアームを起す場合は、ワイパーアームをメンテナンスポジションにセットしてください。
- 拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

ライト ➡P.423

- 後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球などの点検または交換を行います。
- 電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
- ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

タイヤ ➡P.433

- タイヤ、ホイールを点検します。
- 降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

万一の場合には ➡P.452

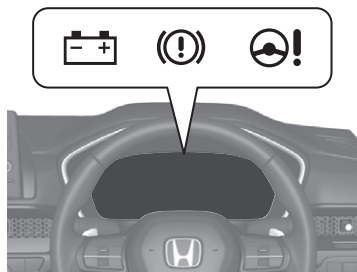
パンクした ➡P.455

- 安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



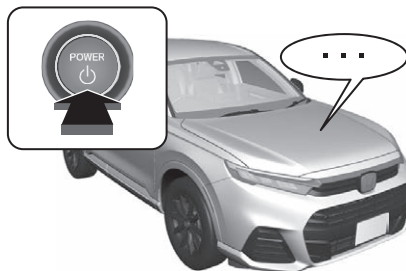
警告灯が点灯した ➡P.481

- 詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



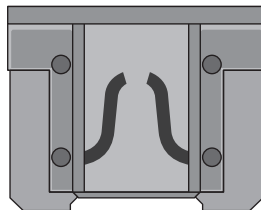
パワーシステムが起動しない ➡P.469

- 12V バッテリーあがり考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。



ヒューズが切れた ➡P.488

- 室内とモータールーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした

➡P.477

- 安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

➡P.497

- 必ず専門業者に依頼してください。



こんなときは

Q ブレーキペダルを踏んだら
ガタガタと振動した

A • ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

▶ ABS(アンチロックブレーキシステム) ➡ P.366

Q 後席ドアが車内から開けられない

A • チャイルドブルーフが施錠の位置になっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイルドブルーフのレバーを解錠の位置にしてください。



Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A • Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A • パワーモードをアクセサリ モードにしていませんか？
• ライトを消し忘れていませんか？

Q ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る

A • ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？
■ 施錠するには(降車時オートドアロック機能) ➡ P.128

Q 走行するとブザーが鳴る

A • 運転席、助手席または後席のシートベルトを着用していますか？

Q パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない

A • ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？

Q アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない

A • 運転席シートベルトを着用していますか？
• シフトポジションが **P**、**N** 以外になっていますか？

Q 車を後退させるとき、後方を確認するために運転席ドアを開けるとシフトポジションが **P** になって車が停止した

A • 運転席シートベルトを着用していますか？
運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。
■ 自動パーキング選択制御 ➡ P.243

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音をする

A • ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

車両データの記録

■車両データの記録について

この車には、車両の操作や制御、車両に搭載された各機能の作動履歴などに関するデータを記録する機能が装備されています。各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します(車内の映像や音声は記録しません。)

- 車両の状態(車速など)
- 運転状態(アクセル、ブレーキ、ステアリング等の操作状況)
- SRS エアバッグシステムの作動状況
- 衝突軽減ブレーキ作動時の前方カメラ画像
- 車両の故障診断情報

■データの取り扱いについて

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを、不具合解析のための技術的診断や、Honda の車両の研究開発、品質向上のために、取得し利用することがあります。

Honda は、取得したデータを、以下の場合を除き、第三者に開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意(リース車、レンタカーの場合は借主の同意)がある場合
- 警察、裁判所、政府機関等からの、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

ワイヤレスによるシステムアップデートについて

この車のアプリケーションは、お客様のオーディオ装置及び接続されたデバイス固有の Honda ソフトウェアの更新を自動的に Honda のサーバーへ問い合わせます。アプリケーションは、次の内容を定期的に Honda のサーバーに送信します。

車両および接続されたデバイス情報、車台番号、モデルタイプ識別番号、ハードウェアおよびソフトウェアの部品番号、シリアル番号、ソフトウェアバージョン、設定言語、インターネットプロトコルアドレス、データ処理のログ(アラートまたは更新の表示、更新のダウンロードとインストール、ソフトウェアステータス等)

お客様の個人情報

Honda に送信された前述の情報がお客様の個人情報となる場合、当該情報は、個人情報保護法に従って扱われます。

Honda は、送信された情報をソフトウェアのアップデートに利用するほか、Honda のプライバシーポリシーに従って取扱います。詳細については、Honda Web サイト (<https://www.honda.co.jp/privacy/hm/>)を参照してください。

取扱説明書表示機能について

取扱説明書を表示するアプリケーションが搭載されているオーディオ装置が装備されている場合は、ソフトウェアの更新を自動的に Honda のサーバーへ問い合わせます。アプリケーションは、次の内容を Honda の定める任意のタイミングで Honda のサーバーに送信します。

車台番号、オーディオ装置のシリアル番号、設定言語、取扱説明書バージョン、インターネットプロトコルアドレス、データ処理のログ(アラートまたは更新の表示、更新のダウンロードとインストール、ソフトウェアステータス、表示ページおよび検索キーワード等)

お客様の個人情報

Honda に送信された前述の情報がお客様の個人情報となる場合、当該情報は、個人情報保護法に従って扱われます。

Honda は、送信された情報をソフトウェアのアップデートに利用するほか、Honda のプライバシーポリシーに従って取扱います。詳細については、Honda Web サイト (<https://www.honda.co.jp/privacy/hm/>) を参照してください。

※：取扱説明書表示機能は予告なくサービスを終了する場合があります。サービス終了の際は引き続き Honda ホームページの取扱説明書をご利用ください。

既に取扱説明書をインストールされている車両においては、工場出荷状態に戻さない限り引き続きご利用いただけます。

安全なドライブ P.38

安全なドライブのために 39 シートベルト 41 エアバッグ 50
お子さまの安全 63

計器の見かた P.80

警告灯と表示灯 81 メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 99

各部の操作 P.120

時刻の設定 121 ドアの施錠と解錠 122 テールゲート 139 セキュリティシステム 150
ウィンドーの開閉 152 ハンドルまわりのスイッチ操作 156 ミラー類の調節 173
シートの調節 177 室内装備品 188 エアコン 212 外部給電のしかた 222

オーディオ P.227

運転 P.229

運転の前に 230 運転操作 233 Honda SENSING 264 ブレーキ操作 357
駐停車操作 370 マルチビューカメラシステム 381
水素ガスの充電 396 高電圧バッテリーの充電 399

メンテナンス P.413

メンテナンスの前に 414 イオン交換器の交換時期メッセージ 417
モータールーム内のメンテナンス 419 電球の交換 423
ワイパーブレードラバーの点検と整備 428 タイヤの点検と整備 433 Honda スマートキー 438
エアコンのお手入れ 441 清掃 443 アクセサリーと改造 450

万ーの場合には P.452

工具、発炎筒 453 パンクしたとき 455 ジャッキポイント 468
パワーシステムが起動しない 469 12V バッテリーがあがったとき 474
オーバーヒート 477 水素ガスが漏れているとき 479 警告灯の点灯 / 点滅 481
ヒューズ 488 けん引 497 フューエルリッドが解錠できないとき 499
充電リッドが開かないとき 500 充電 / パワーサプライコネクターが抜けないとき 501
テールゲートが開かないとき 502 緊急時や車両トラブルのとき 503

資料 P.506

仕様 507 オープンソースライセンス 508

安全なドライブ P.38

計器の見かた P.80

各部の操作 P.120

オーディオ P.227

運転 P.229

メンテナンス P.413

万ーの場合には P.452

資料 P.506

索引 P.510

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために	
安全のための確認事項	39

シートベルト	
シートベルトについて	41
シートベルトの着用	44
シートベルトの点検	49
シートベルトのアンカーポイント	49

エアバッグ	
エアバッグの種類	50
SRS エアバッグ	50
ニーエアバッグ	53
サイドエアバッグ	56
サイドカーテンエアバッグ	59

エアバッグシステム警告灯	61
エアバッグのお手入れ	62

お子さまの安全	
お子さまの安全を守るために	63
乳幼児の安全	64
大きなお子さまの安全	78

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- 充電ケーブルが取り外されているか？
 - ▶ 充電ケーブルが接続されていると走行できません。充電ケーブルを取り外してください。
- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
 - ▶ すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
❏ 車内での施錠 / 解錠 P.135
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
 - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
❏ フロントシート P.177
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
 - ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
❏ フロントシート P.177
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
❏ シートベルトの着用 P.44
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
❏ エアバッグ P.50

❏安全のための確認事項

ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。

- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
 - **お子さまの安全** P.63
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを[P]にしているか？
 - ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
 - **シフト操作** P.240
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
 - ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

※シートベルトについて



警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、指定の Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトリマインダー



■フロントシート

パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーや警告灯でお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。



- ① シートベルト着用
- ② シートベルト未着用

■リヤシート

パワーモードをONモードにしたときや、パワーモードがONモードのときに後席ドアを開閉したり、リヤシートベルトを着脱すると、マルチインフォメーションディスプレイに各座席の装着状態が表示されます。運転中にリヤシートベルトを外すと、ブザーと警告灯でお知らせします。

※シートベルトリマインダー

- 助手席に荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。
- 運転席、助手席または後席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。

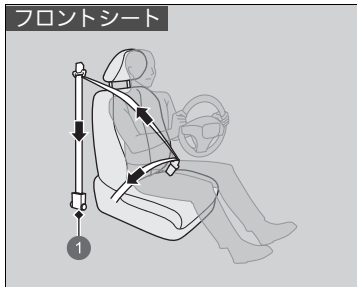
シフトポジションを[R]にしたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

シートベルトプリテンショナー

フロントシートおよびリヤシート外側2座席にはシートベルトプリテンショナーを装備しています。

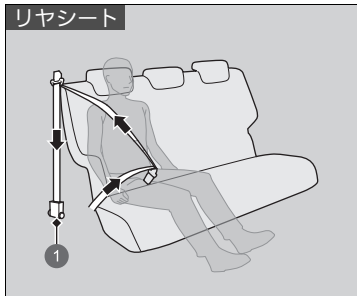
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。

フロントシート



① シートベルトプリテンショナー

リヤシート



① シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナー



注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

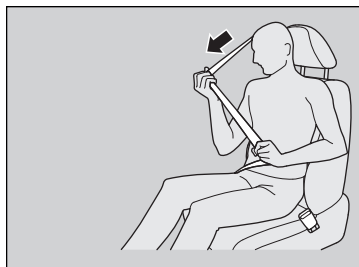
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

衝突したときは、指定の Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

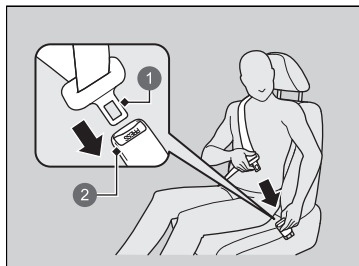
側面からの衝突により、両側のシートベルトプリテンショナーが作動します。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



- ① タングプレート
- ② バックル

※シートベルトの着用

⚠ 警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

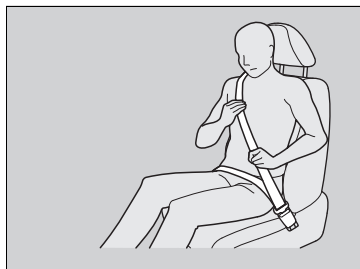
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをすおそれがあります。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかり引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

※ シートベルトについて P.41

※ シートベルトの点検 P.49



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
 - ▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
 - ▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
 - ▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

※シートベルトの着用

シートベルトを外すには、バックルの赤色の **「PRESS」** を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

※ショルダーアンカーの高さ調節

■ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンをつまんで手前に引きながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

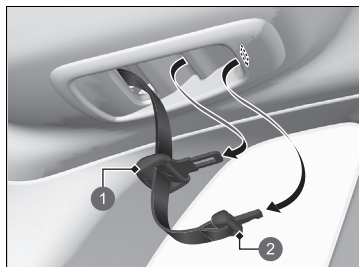
⚠ 注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

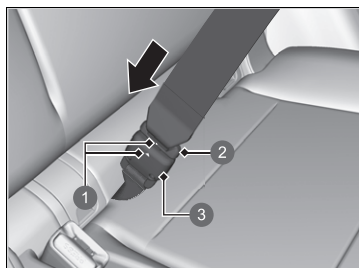
安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

■ 分離収納式シートベルト



- ① タングプレート
- ② ラッチプレート



- ① ▲/▼ マーク
- ② ラッチプレート
- ③ バックル

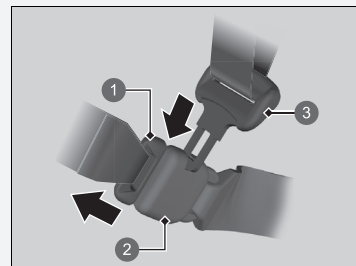
1. 天井の固定部からシートベルトのタングプレートとラッチプレートを外す。

2. ラッチプレートを引き出し、▲ マークがついているバックルに差し込む。

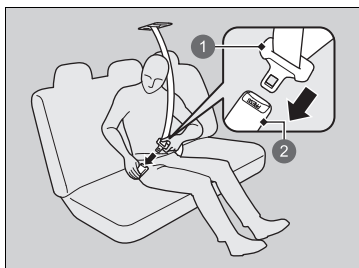
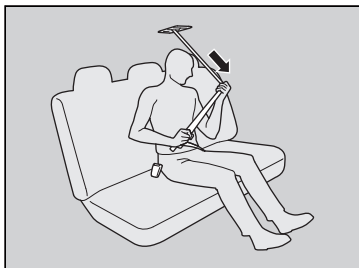
▶ ラッチプレートの ▼ マークとバックルの ▲ マークを合わせて差し込みます。

☒ 分離収納式シートベルト

シートベルトを分離・収納するときは、タングプレートを ▲ マークがついているバックルの溝に差し込み、ラッチプレートを外してください。



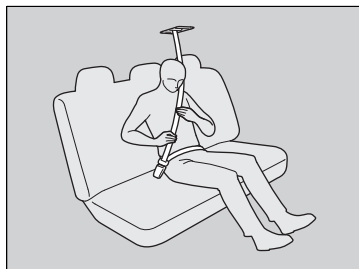
- ① ラッチプレート
- ② バックル
- ③ タングプレート



① タングプレート

② バックル

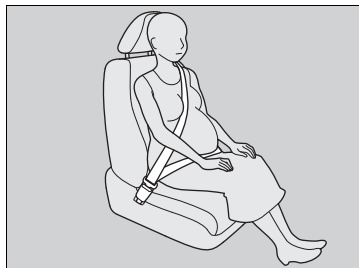
3. 正しい姿勢でシートにすわる。
4. タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出す。
5. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。



6. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかのように合わせる。
7. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

■ 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



※ 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた



注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点に注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

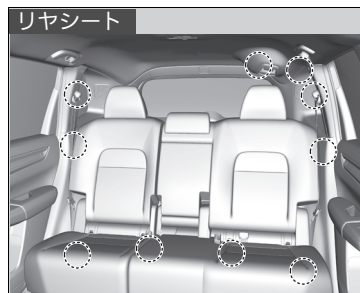
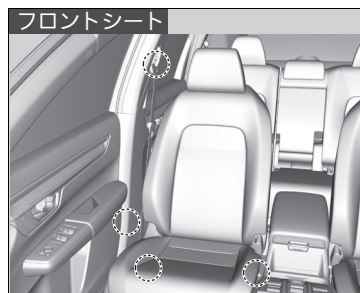
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。フロントシートには三点式シートベルトが使われています。

リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

※シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグ

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **ニーエアバッグ**：ハンドルの下とグローブボックスの下にあるエアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートおよびリヤシート外側2座席の横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストRAINTシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

※エアバッグの種類

⚠ 警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠ 注意

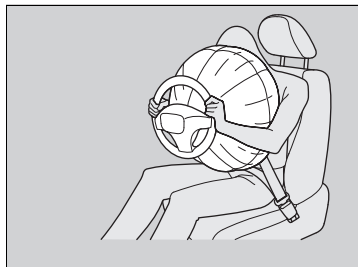
エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

この車にはイベントデータレコーダー(EDR)が装備されています。SRS エアバッグが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に車両データを記録します。
📄 **車両データの記録** P.33

SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

⚠SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

※SRS エアバッグの作動



注意

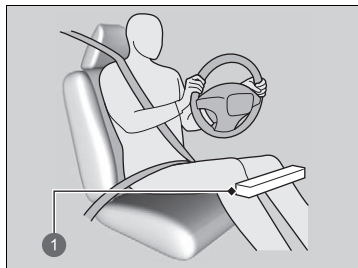
SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

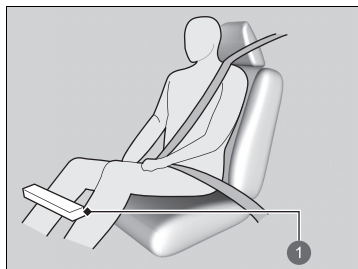
ニーエアバッグ

運転席、助手席それぞれの膝の前にあるエアバッグです。前方向からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の衝撃緩和を補助します。

格納場所



① 格納場所



① 格納場所

ニーエアバッグは運転席のハンドル下側、助手席はグローブボックス下側に格納されています。

どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

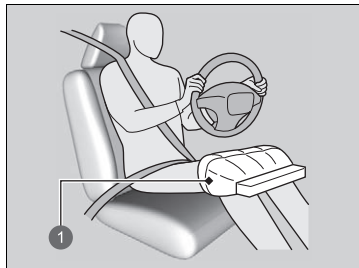
⚠ ニーエアバッグ

⚠ 注意

ニーエアバッグ格納部やその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーなどをつけたりしない。

ニーエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときにものが飛んでけがをする原因になります。

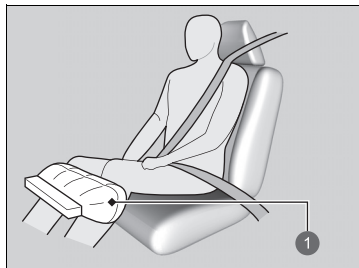
■ 作動のしくみ



運転席または助手席のSRSエアバッグが膨らむと、ニーエアバッグも膨らみます。

衝突がSRSエアバッグを展開するほどの衝撃でなくとも、ニーエアバッグだけ膨らむことがあります。

① ニーエアバッグ



① ニーエアバッグ

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、ニーエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、ニーエアバッグが作動しないことがあります。

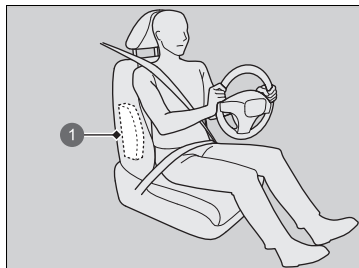
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とニーエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

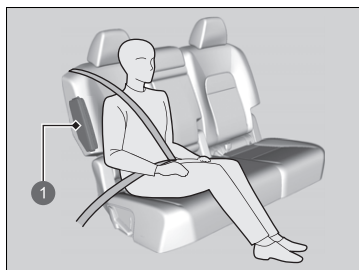
サイドエアバッグ

フロントシートおよびリヤシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席およびリヤシート外側 2 座席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

格納場所



① 格納場所



① 格納場所

運転席、助手席およびリヤシート外側 2 座席のシートの背もたれ外側に格納されています。それぞれ「SIDE AIRBAG」と表示されています。

※サイドエアバッグ

⚠ 注意

ドアやその周辺にアクセサリなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

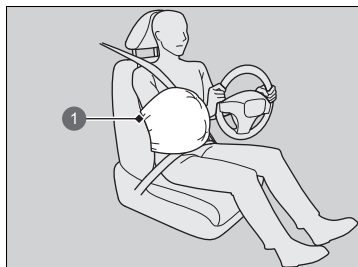
サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

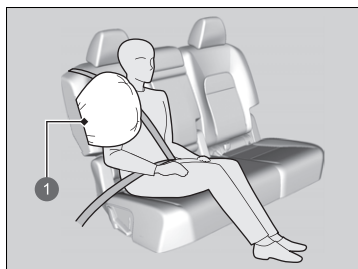
サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

シートカバー装着にあたっては指定の Honda 販売店にご相談ください。

作動のしくみ



① サイドエアバッグ



① サイドエアバッグ

センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

※サイドエアバッグ

⚠ 注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いとは故障や誤作動の原因となります。

サイドエアバッグを制御するための圧力センサーが、ドアに装備されています。不適切なドアの修理や部品の変更により、サイドエアバッグが正常に作動しない可能性が有ります。ドアの修理については、指定のHonda販売店にご相談ください。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
 安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていしますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

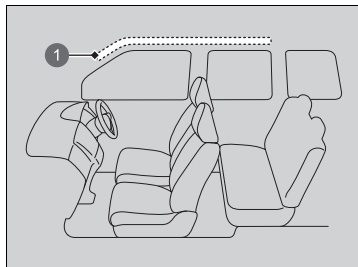
- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

格納場所



① サイドカーテンエアバッグ収納部

運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

※サイドカーテンエアバッグ

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

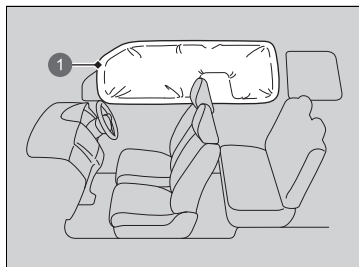
サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

■作動のしくみ



① サイドカーテンエアバッグ

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

🔗 作動条件 P.58

🔗 サイドカーテンエアバッグ

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、指定の Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

エアバッグシステム警告灯



■ **パワーモードを ON モードにしたとき**
 パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■ **異常が発生したとき**
 エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

⚠ エアバッグシステム警告灯



エアバッグシステム警告灯を無視しない。

エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

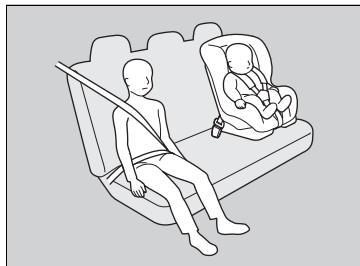
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
 - ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
また、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ 乳幼児に乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

❖ お子さまの安全を守るために

⚠ 警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠ 警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けけないでください。

お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

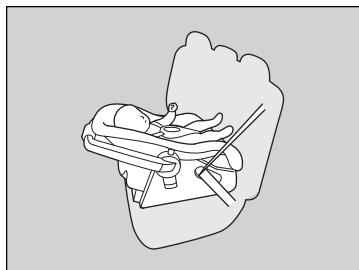
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■ 乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

- ▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。
- ▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

※ 乳児のチャイルドシート



警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

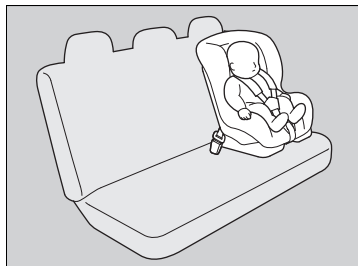
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所
リヤシートへの設置を推奨します。

幼児のチャイルドシート



警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付けの車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること。

UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

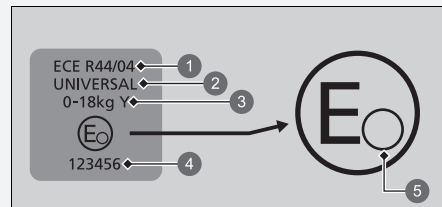
■チャイルドシートの選びかた

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては指定の Honda 販売店にご相談ください。

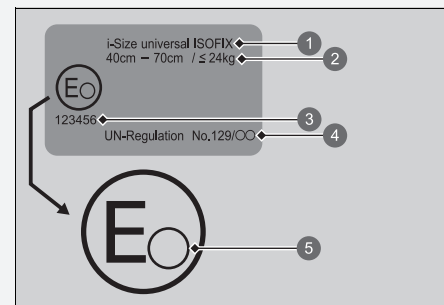
UN R44 認可表示(例)



- 1 法規番号
- 2 カテゴリー
- 3 体重範囲
- 4 認可番号
- 5 国番号

※チャイルドシートの選びかた

UN R129 認可表示(例)



- ① カテゴリー
- ② 身長範囲 / 体重範囲
- ③ 認可番号
- ④ 法規番号
- ⑤ 国番号

■ シート位置別チャイルドシート情報



	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付ける汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1： シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。

※2： ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節してください。

※3： 左後席に ISOFIX チャイルドシートを取り付けると、中央席のシートベルトが使用できなくなります。

※4： 後席中央にチャイルドシートを取り付けると左側シートベルトが使用できなくなる場合があります。

- チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定して取り付けできない場合は一番上に上げてください。
ヘッドレストが取り外せる場合は取り外します。
ヘッドレストを上げることで干渉を回避できる場合は、取り外す必要はありません。
なお、取り外したヘッドレストは急制動時や衝突時に飛ばないように荷室に収納すること。
また、チャイルドシートを取り外した場合はヘッドレストを元の座席に取り付け、ロックされていることを確認してください。
ただし、ブースタークッションのみを使用する場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。
- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができません。

	サイズグループ 重量 身長		シートの位置及びシート位置番号			
			①	②	③	④
			助手席※1	後席(左側)※3	後席(中央)※4	後席(右側)
ベルト固定の汎用(ユニバーサル) チャイルドシートが搭載可能な着座 位置(有 / 無)	グループ 0	10kg 以下	無	有	有	有
	グループ 0+	13kg 以下				
	グループ I	9-18kg	有※2	有	有	有
	グループ II	15-25kg				
	グループ III	22-36kg				
i-Size チャイルドシートが搭載可能な 着座位置(有 / 無)	150cm 以下		無	有	無	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な 着座位置(有 / 無)※5	Honda 純正 チャイルドシートリスト参照		有	有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート 固定具(L1/L2)	—		無	無	無	無
搭載可能な最大の後向きチャイルド シート固定具(R1/R2X/R2/R3)	グループ 0	10kg 以下	無	R3	無	R3
	グループ 0+	13kg 以下				
	グループ I	9-18kg				
搭載可能な最大の前向きチャイルド シート固定具(F2X/F2/F3)	グループ I	9-18kg	無	F3	無	F3
搭載可能な最大の前向きジュニア シート固定具(B2/B3)	150cm 以下		B3	B3	無	B3

- ※1： シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。チャイルドシートは前向き取り付けのみです。
- ※2： ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節してください。
- ※3： 左後席に ISOFIX チャイルドシートを取り付けると、中央席のシートベルトが使用できなくなります。
- ※4： 後席中央にチャイルドシートを取り付けると左側シートベルトが使用できなくなる場合があります。
- ※5： 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。
- Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができます場合があります、チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

- チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定して取り付けできない場合は一番上に上げてください。
ヘッドレストが取り外せる場合は取り外します。
ヘッドレストを上げることで干渉を回避できる場合は、取り外す必要はありません。
なお、取り外したヘッドレストは急制動時や衝突時に飛ばないように荷室に収納すること。
また、チャイルドシートを取り外した場合はヘッドレストを元の座席に取り付け、ロックされていることを確認してください。
ただし、ブースタークッションのみを使用する場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。
- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

次ページに続く

シート位置別チャイルドシート情報



警告

シートベルトは必ず正しく着用する

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものを**お選びください**。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

■推奨チャイルドシート

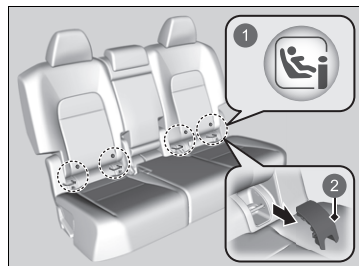
適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size(後向き)
身長 71cm 以上 かつ月齢 15 か月以上		i-Size
身長 100cm 以下		
身長 100cm 以上 150cm 以下	Honda Junior i-Size	i-Size Booster seat

※推奨チャイルドシート

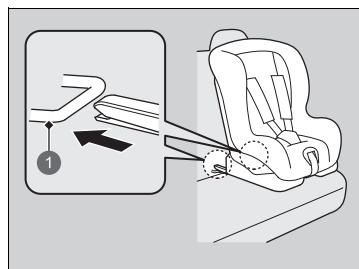
推奨チャイルドシートのご購入は指定の Honda 販売店にご相談ください。

■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



- ① マーク
- ② カバー



- ① 下部取付金具

1. マークの下にあるカバーを外し下部取付金具を確認する。

2. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。

▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠ 注意

下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

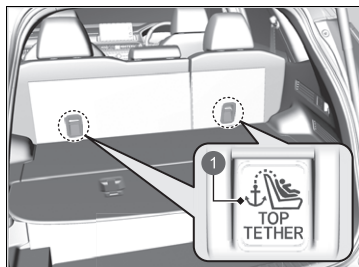
⚠ 注意

リヤシートが確実に固定されているか確認する。

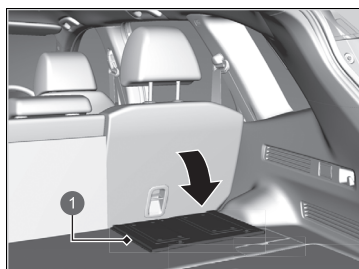
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



① トップテザー取付金具シンボル



① ボード

トップテザーストラップ付きチャイルドシート

3. ヘッドレストを上げて固定し、トップテザーストラップが1本タイプの場合はストラップをヘッドレストの下に通し、2本タイプの場合はヘッドレストの外側に通す。

▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

4. ボードを後ろに倒す。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

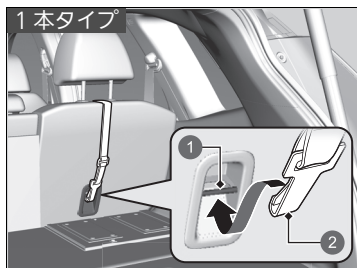
⚠ 注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

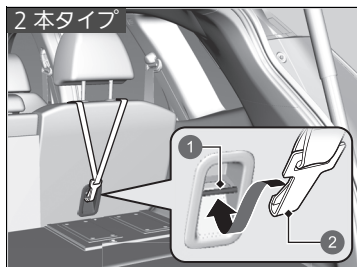
⚠ 注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

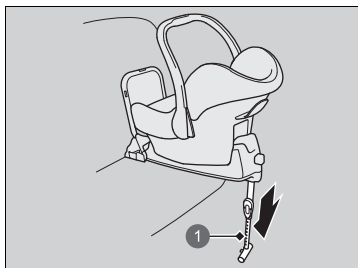


- ① トップテザー取付金具
- ② トップテザーストラップ

- 5. トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っ掛け、ストラップを締める。
- 6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。



- ① トップテザー取付金具
- ② トップテザーストラップ

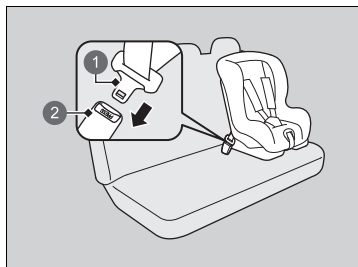


① サポートレッグ

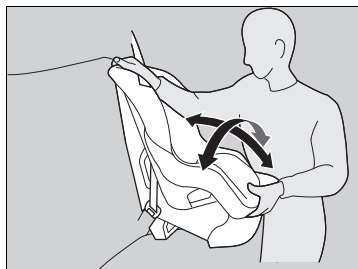
サポートレッグ付きチャイルドシート

3. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。
 - ▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。
 - ▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

■シートベルトでの取り付け



- ① タングプレート
- ② バックル



■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

1. チャイルドシートを座席に置く。
▶ チャイルドシートがヘッドレストに当たった場合は、ヘッドレストを最上段で固定します。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。
3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

※シートベルトでの取り付け

⚠ 注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

大きなお子さまの安全

■シートについて

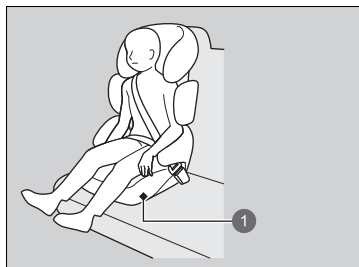
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



① ジュニアシート

三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。

安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

※大きなお子さまの安全



お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

❏ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合 P.79

※ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯	81
警告灯	83
表示灯	93
メーターとマルチインフォメーションディスプレイ	
メーター	99
マルチインフォメーションディスプレイ	
左側	103
マルチインフォメーションディスプレイ	
右側	107

警告灯や表示灯は、車両状態に応じて点灯 / 点滅します。

点灯 / 点滅と同時にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージの内容に従い指定の Honda 販売店に連絡するなどして対処してください。

 ※1 ブレーキ警告灯(レッド) P.83	 ※1 ABS(アンチロック ブレーキシステム)警告灯 P.87	 ライト点灯表示灯 P.93
 ※1 ブレーキシステム警告灯 (オレンジ) P.84	 ※1 エアバッグシステム警告灯 P.87	 ハイビーム表示灯 P.93
 ※1 パワーシステム警告灯 P.85	 ※1 VSA(ビークルスタビリティ アシスト)警告灯 P.88	 ※1 オートハイビーム表示灯 P.93
 ※1 12V バッテリー充電警告灯 P.85	 VSA OFF 警告灯 P.88	 シフトポジション表示灯 P.94
 シートベルト非着用警告灯 P.86	 ※1 EPS(電動パワーステア リング)システム警告灯 P.88	 M 減速セレクター表示灯 P.94
 トランスミッション警告灯 P.86	 パーキングセンサー警告灯 P.89	READY READY 表示灯 P.95
 水素残量警告灯 P.87	 方向指示器 / 非常点滅 表示灯 P.93	 EV※1 EV 表示灯 P.95
 H2 水素漏れ警告灯 P.87		

※1 : これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

	SPORT モード表示灯	P.95		クルーズコントロール 表示灯(ホワイト/グリーン)	P.97		※1 衝突軽減ブレーキ(CMBS) 警告灯(オレンジ)	P.89
	NORMAL モード表示灯	P.95	○	イモビライザーシステム 表示灯	P.94		衝突軽減ブレーキ(CMBS) 表示灯(グレー)	P.98
	ECON モード表示灯	P.95	○	セキュリティアラーム システム作動表示灯	P.94		※1 路外逸脱抑制機能警告灯 (オレンジ)	P.90
	SNOW モード表示灯	P.95		※1 渋滞追従機能付アダプティ ブクルーズコントロール (ACC)警告灯(オレンジ)	P.89		路外逸脱抑制機能表示灯 (グレー)	P.98
	AUTO モード表示灯	P.95		渋滞追従機能付アダプティ ブクルーズコントロール (ACC)表示灯(ホワイト/ グリーン)	P.97		路外逸脱抑制機能操舵 アシスト時停止警告灯	P.90
	EV モード表示灯	P.95		※1 車線維持支援システム (LKAS)警告灯(オレンジ)	P.89		※1 安全支援情報警告灯 (オレンジ)	P.90
	SAVE モード表示灯	P.95		車線維持支援システム (LKAS)表示灯(ホワイト/ グリーン)	P.97		安全支援情報表示灯 (グリーン/グレー)	P.98
	CHARGE モード表示灯	P.95						
	※1 オートマチックブレーキ ホールドシステム表示灯	P.96						
	※1 オートマチックブレーキ ホールド表示灯	P.96						
	※1 ヒルディセントコントロール 表示灯(ホワイト/グリーン)	P.96						
	インフォメーション表示灯	P.96						
	車間距離設定表示灯	P.97						

※1 : これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯(レッド)	パーキングブレーキをかけると点灯	- パワーモードがアクセサリモードまたは OFF モードのときにパーキングブレーキをかけるとしばらく点灯した後、消灯 - パーキングブレーキがかかっているときにパワーモードを OFF モードにするとしばらく点灯した後、消灯
		ブレーキフルード量が低下したときに点灯	走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合は指定の Honda 販売店にご連絡ください。 ☑ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した P.482
		ブレーキシステムが異常のときに点灯	- ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 ☑ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した P.482 - ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、指定の Honda 販売店にご連絡ください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。
		電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅	パーキングブレーキが故障して作動しません。 ☑ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した P.482

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	常時点灯する場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
		電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯	点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
		12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。消灯しないときは指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
		カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	常時点灯する場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
POWER SYSTEM	パワーシステム 警告灯	パワースystem、プラグイン充電システムが異常のときに点灯	- 常時点灯する場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 - マルチインフォメーションディスプレイに「走行できません」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、指定の Honda 販売店にご連絡ください。(燃料電池による発電が停止しています) - 長期間駐車をしていた場合に点灯する場合があります。 ❏ 高電圧バッテリーと FC システムの維持 P.13
		水素漏れ検知器に異常があるときに点灯	万が一水素ガスが漏れたときに、検知器が作動せずに水素を止めることができない場合があるため、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
		イオン交換器の交換時期に点灯	ただちにイオン交換器を指定の Honda 販売店で交換してください。 ❏ イオン交換器の交換時期メッセージの表示 P.417
	12V バッテリー 充電警告灯	充電システムに異常があるときに点灯	走行できません。ただちに安全な場所に停車し、指定の Honda 販売店にご連絡ください。 ❏ 12V バッテリー充電警告灯が点灯した P.481

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	シートベルト 非着用警告灯	- 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 - パワーモードが ON モードのときに、リヤシートのシートベルトを外すとしばらく点灯 - 走行中にシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	- シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 - シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 📖 シートベルトリマインダー P.42
	トランスミッ ション警告灯	- トランスミッションが異常のときに点滅 - トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションを [P] にできないときに点滅	- ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 - マルチインフォメーションディスプレイに「走行できません」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、指定の Honda 販売店にご連絡ください。 - 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 - ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	水素残量警告灯	燃料の残量が少なくなると点灯	点灯したときは水素ガスの充てんが必要です。ただちに補給してください。 ☑ 水素ガスの充てん P.396
	水素漏れ警告灯	水素ガスが漏れたときに点灯	- ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 - マルチインフォメーションディスプレイに「水素漏れ検知によりシステム停止」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、指定の Honda販売店にご連絡ください。(燃料電池による発電が停止しています)
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	ABS が異常のときに点灯	ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ☑ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.366
	エアバッグシステム警告灯	エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが異常のときに点灯	ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	• VSA が作動しているときは点滅 • VSA システム、ヒルスタートアシストシステム、アジャイルハンドリングアシストのいずれかが異常のときに点灯 • 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	— • ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ▶ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.255 • 車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。消灯しないときは指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
	VSA OFF 警告灯	• VSA を OFF にすると点灯	▶ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.255
	EPS (電動パワーステアリング) システム警告灯	• EPS システムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、指定の Honda 販売店にご連絡ください。 ▶ EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した P.483

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	パーキングセンサー警告灯	パーキングセンサーが障害物を検知したときに点滅	■ パーキングセンサーシステム P.372
	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	- 渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯 - カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	- 運転中に点灯したときは、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 - 車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。消灯しないときは指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 - 常時点灯する場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	- LKAS が異常のときに点灯 - カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	- ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 - 常時点灯する場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	CMBS が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	- 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ■ 安全支援情報警告灯(オレンジ) P.90

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	路外逸脱抑制機能が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ▶ 安全支援情報警告灯(オレンジ) P.90
	路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	路外逸脱抑制機能の操舵アシストが一時停止しているときに点灯	▶ 路外逸脱抑制機能 P.283
	安全支援情報警告灯(オレンジ)	- 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション、踏み間違い衝突軽減システム、CMBS が異常のときに点灯 - パーキングセンサーが異常のときに点灯 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯 - カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	- ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 - パーキングセンサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても点灯する場合は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 ▶ パーキングセンサーシステム P.372 - 車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。消灯しないときは指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 - 常時点灯する場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報警告灯(オレンジ)	トンネルなど閉鎖された空間や、周辺に構造物などが無い開けた道路を走行するとレーダーセンサーが物体を検知できず警告灯が一時的に点灯することがあります。	- しばらく走行してください。 - 消灯しないときは指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
		フロントグリルに汚れなどの遮蔽物がありレーダーセンサーが前の車両等を検知しにくいときに点灯	- 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 - 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 - 復帰するまでに時間がかかることがあります。  レーダーセンサー P.354
		フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報警告灯(オレンジ)	フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点灯 雨、霧、雪など悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときも点灯することがあります	- 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 - 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 - 汚れが落ちるとシステムは復帰します。
		- ブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサーが汚れると点灯 - ブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサーの温度が高温になると点灯	- 安全な場所に停車してブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサー周辺の汚れをふき取ってください。 - 温度が下がるとシステムは復帰します。 ▶ ブラインドスポットインフォメーション P.258
		バンパーのソナーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があると点灯	踏み間違い衝突軽減システムが作動しません。安全な場所に停車してバンパーの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ▶ ソナーセンサー P.356 ▶ 踏み間違い衝突軽減システム P.277

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	- 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 - 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	- 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 🔧 電球の交換 P.423
		高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	🔧 エマージェンシーストップシグナル P.369
	ライト点灯表示灯	車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯	🔧 ライトの使い方 P.159
	ハイビーム表示灯	ヘッドライトのハイビームが点灯しているときに点灯	—
	オートハイビーム表示灯	オートハイビームの作動条件がそろった時に点灯	🔧 オートハイビーム P.163

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	イモビライザーシステム表示灯	• POWER を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• POWER を押したあと、点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 • POWER のそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	📖 セキュリティアラームシステム P.150
	シフトポジション表示灯	• 現在のポジションで点灯	📖 シフト操作 P.240
	減速セレクトター表示灯	• 減速セレクトター作動時に減速の強さを表示 • 減速セレクトターを操作しても減速の強さが変わらなると点滅 • SPORTモードのときに減速セレクトターを作動させると M が点灯	📖 減速セレクトター P.245

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
READY	READY 表示灯	走行の準備が完了すると点灯	 パワーシステムの起動 P.233
	EV 表示灯	FCシステムが作動停止し、高電圧バッテリーに充電されている電気を使用して車両を動かしているときに点灯	—
SPORT	SPORT モード表示灯	ドライブモードがSPORTモードのときに点灯	SPORT モードのとき、アンビエントメーターが消灯して、メーターが赤色で点灯します。  ドライブモードスイッチ P.249
NORMAL	NORMAL モード表示灯	ドライブモードが NORMAL モードのときに点灯	 ドライブモードスイッチ P.249
	ECON モード表示灯	ドライブモードがECONモードのときに点灯	 ドライブモードスイッチ P.249
SNOW	SNOW モード表示灯	ドライブモードがSNOWモードのときに点灯	 ドライブモードスイッチ P.249
	AUTO モード表示灯	走行モードがAUTOモードのときに点灯	 e ボタン P.9
	EV モード表示灯	走行モードが EV モードのときに点灯	 e ボタン P.9
	SAVE モード表示灯	走行モードが SAVE モードのときに点灯	 e ボタン P.9
	CHARGE モード表示灯	走行モードが CHARGE モードのときに点灯	 e ボタン P.9

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	オートマチックブレーキホールドシステムが ON のときに点灯	☑ オートマチックブレーキホールド P.362
	オートマチックブレーキホールド表示灯	オートマチックブレーキホールドが作動しているときに点灯	☑ オートマチックブレーキホールド P.362
	ヒルディセントコントロール表示灯(ホワイト / グリーン)	- ヒルディセントコントロールが ON のときにホワイトで点灯 - ヒルディセントコントロールシステムが作動するとグリーンで点灯	☑ ヒルディセントコントロール P.253
	インフォメーション表示灯	異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯	- メッセージは、警告が解除されるか、ライトセレクトターホイールを回すまで通常表示に戻りません。 - 点灯しているときにライトセレクトターホイールを回し、メッセージを再表示させることができます。 ☑ 表示の切り換えかた P.107

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト/グリーン)	• スイッチを押すとホワイトで点灯 • 渋滞追従機能付ACCが作動するとグリーンで点灯	 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) P.298
	車間距離設定表示灯	• 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯が点灯しているときに点灯	 車間距離を設定するには P.311
	クルーズコントロール表示灯(ホワイト/グリーン)	• クルーズモードが設定されたときにホワイトで点灯 • RES/+SET/- スイッチを押し、クルーズモードが作動するとグリーンで点灯	 クルーズモードへの切換え P.316
	車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト/グリーン)	• LKAS スイッチを押すとホワイトで点灯 • LKAS が作動するとグリーンで点灯	 車線維持支援システム(LKAS) P.321  トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能) P.333

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	衝突軽減ブレーキ (CMBS) 表示灯 (グレー)	CMBS を OFF にしているときに点灯	➡ 安全支援情報 P.115
	路外逸脱抑制機能表示灯 (グレー)	路外逸脱抑制機能を OFF にしているときに点灯	➡ 安全支援情報 P.115
	安全支援情報表示灯 (グリーン / グレー)	- 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション、踏み間違い衝突軽減システム、CMBS、パーキングセンサー警報が ON のときにグリーンで点灯 - いずれかが ON のときにグリーン / グレーで点灯 - すべてが OFF のときにグレーで点灯	➡ ブラインドスポットインフォメーション P.258 ➡ 衝突軽減ブレーキ (CMBS) P.267 ➡ 踏み間違い衝突軽減システム P.277 ➡ 路外逸脱抑制機能 P.283 ➡ 歩行者事故低減ステアリング P.291 ➡ パーキングセンサーシステム P.372

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

メーター

メーターには、スピードメーター、高電圧バッテリー残量計などの種類があります。パワーモードがONモードのとき表示されます。

スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

パワー表示(POWER)

モーター出力の状態を表示します。
EV走行のときは、パワー表示が緑色に点灯し、EVで走行できる最大出力を表示します。

チャージメーター表示(CHARGE)/ 減速度表示(DECCEL)

高電圧バッテリーへの充電の状態を表示します。
減速セクター作動時には減速の強さを表示します。

燃料計

アドバイス

燃料計が **E** に近づいたら、早めに水素ガスを充てんしてください。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

パワー表示(POWER)

パワーフローは、オーディオ/インフォメーション画面に表示されます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■ 高電圧バッテリー残量計

高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

⌘ 高電圧バッテリー残量計

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

走行すると自動的に充電されます。

高電圧バッテリーの温度が変化すると、充電容量が上下することがあります。そのため充電量が変わらなくても、高電圧バッテリー残量計の表示が変化することがあります。

■ オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■ アンビエントメーター

SPORT モードが OFF のときの運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、 $\pm 3^{\circ}\text{C}$ の範囲で補正することができます。

補正するには、オーディオ/インフォメーション画面の車両設定を使用します。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

標識認識機能表示

走行中に認識した道路標識情報を表示します。

認識した最高速度の道路標識に対して、速度超過したときは点滅してお知らせします。

📺 標識認識機能 P.346



■外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、モータールームの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

パワーモードをONモードにしたとき、外気温が 3°C 以下の場合は、外気温低下メッセージがホワイトで表示されます。

運転中に外気温が 3°C 以下に低下した場合は、外気温低下メッセージがオレンジで表示されます。



渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/車線維持支援システム(LKAS)/トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)表示

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/車線維持支援システム(LKAS)/トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)の現在の状態を表示します。

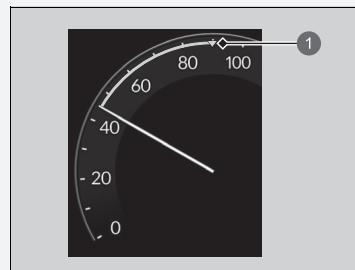
▶ 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) P.298

▶ 車線維持支援システム(LKAS) P.321

▶ トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能) P.333

▶ 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/車線維持支援システム(LKAS)/トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)表示

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)またはクルーズコントロールで速度を設定すると、スピードメーターに設定した速度の位置にマークが表示されます。



① 設定速度

マルチインフォメーションディスプレイ 左側

時計や各種音楽メディア、ハンズフリー電話の情報を表示します。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

時計

時計を表示します。

⌚時計

マルチインフォメーションディスプレイに表示される時計の ON/OFF を切り替えることができます。

⌚ 表示設定 P.104

時計については、ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

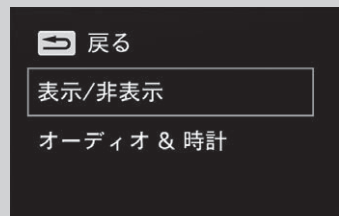
■表示設定

■オーディオソースの表示 / 非表示

オーディオソースの表示 / 非表示を変更することができます。



1. レフトセレクトホイールを回し「表示設定」を選択し、押して決定する。



2. レフトセレクトホイールを回し「表示 / 非表示」を選択し、押して決定する。

▶表示設定

設定変更するときはシフトポジションを[P]にしてください。



3. レフトセレクトアホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択し、押して決定する。

▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

■オーディオと時計の表示切り替え

オーディオと時計表示の ON/OFF を切り替えることができます。



1. レフトセレクトアホイールを回し「表示設定」を選択し、押して決定する。



2. レフトセクターホイールを回し「オーディオ & 時計」を選択し、押して決定する。



3. レフトセクターホイールを回してONまたはOFFを選択し、押して決定する。

マルチインフォメーションディスプレイ 右側

マルチインフォメーションディスプレイには、航続可能距離や燃費などの情報や、車両状態などのメッセージが表示されます。

警告メッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認して必要に応じて指定の Honda 販売店にご連絡し、点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキ性能低下」、「高電圧バッテリー熱異常」または「フューエルリッドが開いています」が表示した場合は、下記を参照してください。

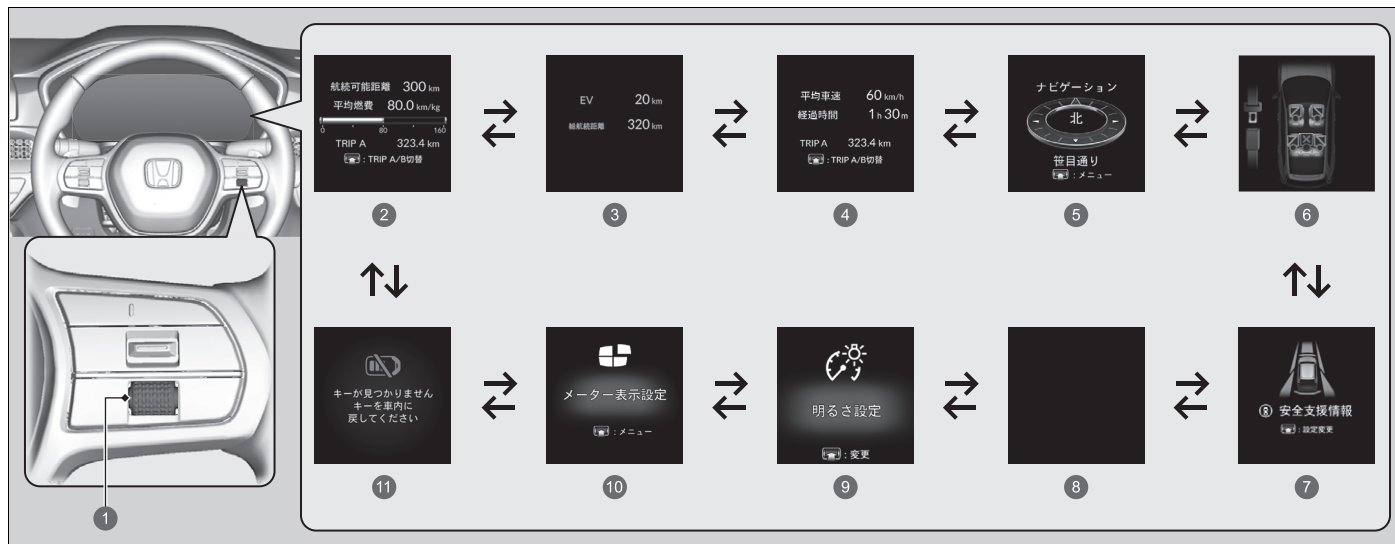
■「ブレーキ性能低下」の警告メッセージが表示された P.481

■「高電圧バッテリー熱異常」のメッセージが表示された P.486

■「フューエルリッドが開いています」のメッセージが表示された P.487

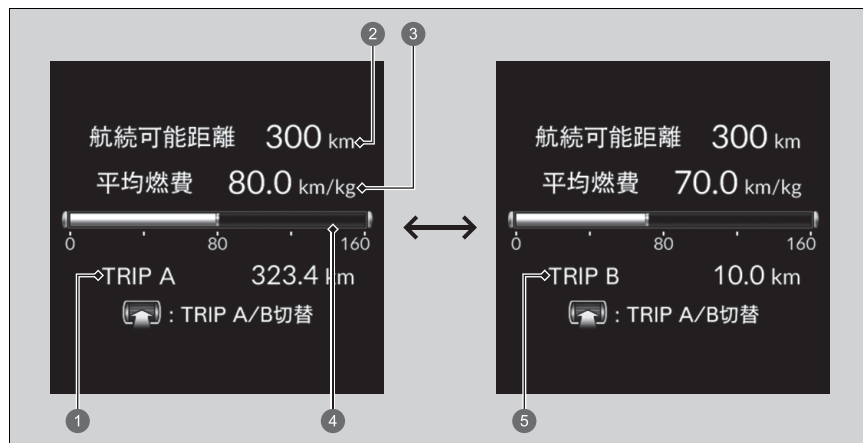
表示の切り換えかた

ライトセレクトアーホイールを回すごとに画面が切り換わります。



航続距離 / 燃費 / トリップメーター

ライトセレクトホイールを押すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。



- ① トリップメーターA
- ② 航続可能距離
- ③ 平均燃費
- ④ 瞬間燃費
- ⑤ トリップメーターB

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。

トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態でライトセレクトホイールを長押し、「リセット」を選択してください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

また、平均燃費表示、平均車速表示、経過時間表示も同時にリセットされます。

■平均燃費表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/kg で表示します。

■瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/kg で表示します。

☒トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

☒平均燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

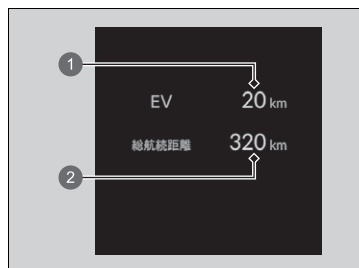
トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を水素ガスの充てんや充電と連動させて自動的にリセットさせることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

■航続可能距離表示

高電圧バッテリーと燃料の残量、平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

総航続距離



- ① EV 推定航続可能距離
- ② 推定航続可能距離

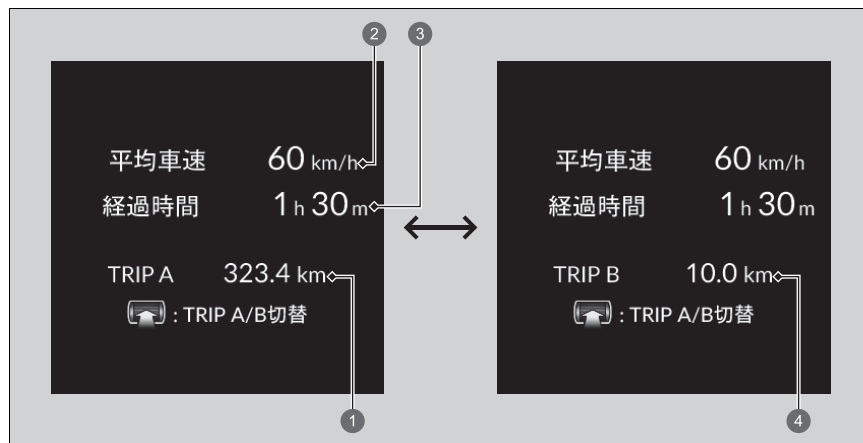
高電圧バッテリーと燃料の残量、平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

✕航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

■ 車速 / 経過時間 / トリップメーター

ライトセレクトホイールを押すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。



- ① トリップメーターA
- ② 平均車速
- ③ 経過時間
- ④ トリップメーターB

■ トリップメーター

📖 トリップメーター P.110

■経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

■平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

⌘経過時間表示

経過時間表示は999時間59分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を水素ガスの充てんや充電と連動させて自動的にリセットさせることができます。ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

⌘平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を水素ガスの充てんや充電と連動させて自動的にリセットさせることができます。ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■ナビゲーション

■コンパス

コンパスが表示されます。

■交差点案内表示

ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■シートベルト使用状況表示

全席シートベルトの使用状況を表示します。

📖 シートベルトリマインダー P.42

📖ナビゲーション

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■安全支援情報

安全支援情報は、路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション、踏み間違い衝突軽減システム、衝突軽減ブレーキ、パーキングセンサー警報の作動状態を表示します。

- グリーン：作動中
- グレー：停止中
- オレンジ：システムが異常のとき

■安全支援情報

オレンジで表示された場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

各機能の ON と OFF を切り換えるには、ライトセレクトホイールを回して機能を選択し、次にライトセレクトホイールを押して ON/OFF を切り換えます。

▶ 路外逸脱抑制機能 P.283

▶ 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.267

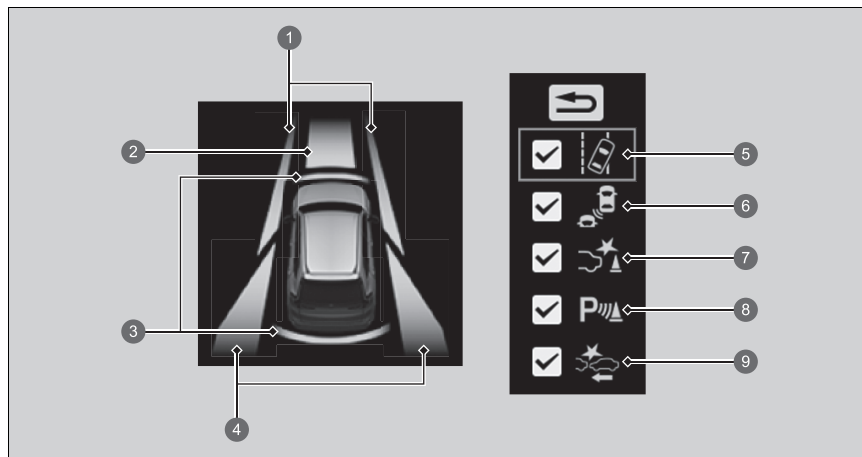
▶ 踏み間違い衝突軽減システム P.277

▶ 歩行者事故低減ステアリング P.291

▶ ブラインドスポットインフォメーション
P.258

▶ パーキングセンサーシステム P.372

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。



- ① 路外逸脱抑制機能作動状態
- ② 衝突軽減ブレーキ作動状態
- ③ 踏み間違い衝突軽減システム・パーキングセンサー警報作動状態
- ④ ブラインドスポットインフォメーション作動状態
- ⑤ 路外逸脱抑制機能アイコン
- ⑥ ブラインドスポットインフォメーションアイコン
- ⑦ 踏み間違い衝突軽減システムアイコン
- ⑧ パーキングセンサー警報アイコン
- ⑨ 衝突軽減ブレーキアイコン

安全支援情報

各機能の状態は、警告灯・表示灯でも確認できます。

- 安全支援情報警告灯(オレンジ) P.90
- 安全支援情報表示灯(グリーン/グレー) P.98
- 衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ) P.89
- 衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー) P.98
- 路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ) P.90
- 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 P.90
- 路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) P.98

踏み間違い衝突軽減システムアイコンがグリーンするときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」を OFF にしている場合は、後退時の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

明るさ設定

「明るさ設定」の画面が表示されているときにライトセレクターホイールを押す。

ライトセレクターホイールを回して明るさ調整を行います。

明るくする：ライトセレクターホイールを上に戻す

暗くする：ライトセレクターホイールを下に戻す

ライトセレクターホイールを押すと設定が完了します。

※安全支援情報

パーキングセンサー警報アイコンがグリーン
のときでも、「リアパーキングセンサー警報設
定」を OFF にしている場合は、後方のパーキン
グセンサー警報は作動しません。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報
をご覧ください。

※明るさ設定

車外の明るさに応じて、メーター内の照明の
明るさが自動で変化します。

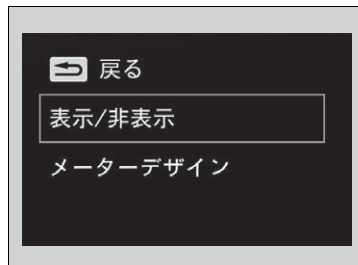
- 周囲が暗いときは照明が暗くなる
- 周囲が明るいときは照明が明るくなる

周囲が明るいときも設定変更はできますが、
画面の明るさが変わらないことがあります。

■メーター表示設定

■機能の表示 / 非表示

機能の表示 / 非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。



1. 「メーター表示設定」の画面が表示されているときにライトセレクトホイールを押す。
2. ライトセレクトホイールを回し「表示 / 非表示」を選択し、押して決定する。
3. ライトセレクトホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択し、押して決定する。
▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

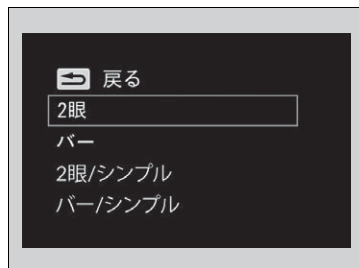
■メーター表示設定

文字色がグレーの機能を非表示にすることはできません。

設定変更するときはシフトポジションを **P** にしてください。

■メーターデザイン

メーターデザインを2眼タイプまたは、バータイプに変更することができます。



1. 「メーター表示設定」の画面が表示されているときにライトセレクトホイールを押す。
2. ライトセレクトホイールを回し「メーターデザイン」を選択し、押して決定する。
3. ライトセレクトホイールを回してお好みの設定を選択し、押して決定する。

※メーターデザイン

「2 眼 / シンプル」または「バー / シンプル」を選択しているときに、渋滞追従付アダプティブクルーズコントロール(ACC)が作動すると、シンプルなメーター表示になります。

※警告メッセージ

複数のメッセージがある場合は、ライトセレクトホイールを回すとその他のメッセージが表示されます。

■警告メッセージ

警告メッセージがある場合は、警告メッセージが表示されます。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定.....	121
ドアの施錠と解錠	
キー.....	122
Honda スマートキーの微弱電波	124
車外でのドアの施錠 / 解錠.....	125
車内での施錠 / 解錠.....	135
チャイルドプルーフ.....	137
衝撃感知ドアロック解除システム	138
テールゲート.....	139
パワーテールゲートの開閉.....	141
セキュリティシステム	
イモビライザーシステム	150
セキュリティアラームシステム.....	150

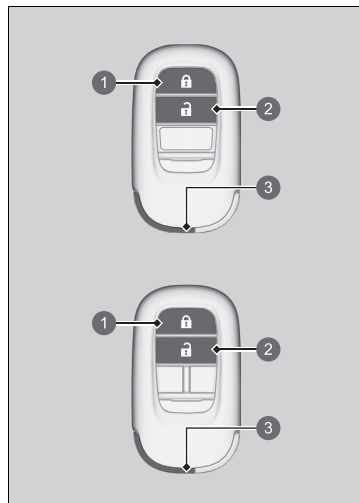
ウィンドーの開閉.....	152
ハンドルまわりのスイッチ操作	
POWER スイッチ.....	156
方向指示器(ウィンカースイッチ)	158
ライトの使い方.....	159
ヘッドライトレベリングダイヤル	162
オートハイビーム	163
ワイパー/ ウォッシャー	166
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー スイッチ	169
ドライビングポジションシステム	170
ハンドルの調節.....	172
ミラー類の調節	173

シートの調節.....	177
フロントシート	177
リヤシート	181
室内装備品.....	188
エアコン	
エアコンの吹き出し口	212
オートエアコンの使いかた	213
オートエアコンのセンサー	221
外部給電のしかた.....	222

時計を手動で調整したり、設定変更することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

キー

この車には、以下のキーが付いています。



- ① 施錠ボタン
- ② 解錠ボタン
- ③ 内蔵キー

パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲート、充電リッドの施錠 / 解錠に使用できます。

❖キー

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

❖ **イモビライザーシステム** P.150

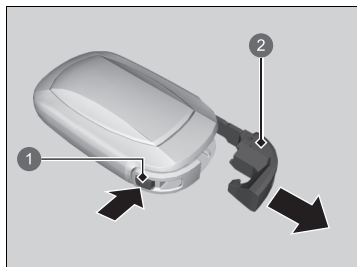
キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂やほこりを避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

内蔵キー



- ① ボタン
- ② 内蔵キー

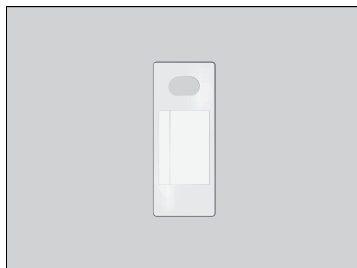
Hondaスマートキーの電池が切れたときや車の12Vバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

内蔵キーは、ボタンを押しながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Hondaスマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

❖キー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

❑ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.471

❖キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

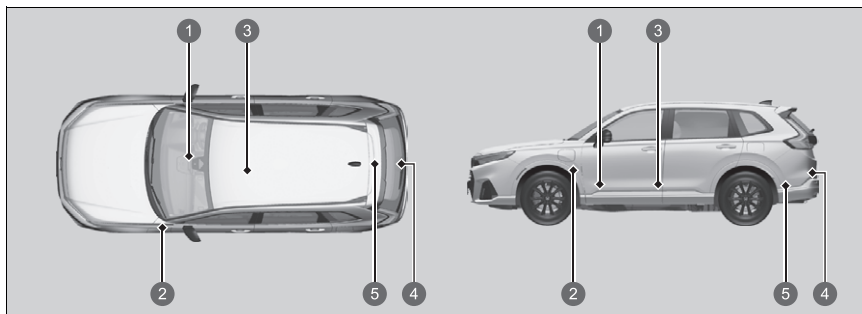
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、指定の Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲート、充電リッドの施錠 / 解錠操作をするときやパワーシステムを起動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



- ① 車室内発信機(インストルメントパネル下)
- ② 車室外発信機(左側フロントフェンダー内)
- ③ 車室内発信機(センターコンソール後方下)
- ④ 車室外発信機(リアバンパー内)
- ⑤ 車室内発信機(カーゴスペース前方下)

※Honda スマートキーの微弱電波



注意

植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から22cm以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約2年間です。

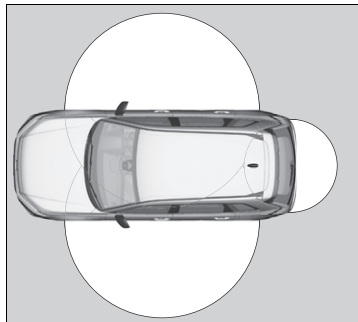
また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

電波の受信動作を停止させ、電池の消耗を抑えることができます。Honda スマートキーの施錠ボタンと解錠ボタンを同時に約3秒長押しするとインジケータが2回点滅し、電波の受信が停止します。

Honda スマートキーのいずれかのボタンを1回押すと電波の受信が再開します。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



施錠 / 解錠の作動範囲

Honda スマートキーを携帯し、ドアロックセンサー、ドアハンドル、テールゲートハンドルを操作することでドア、テールゲート、充電リッドの施錠や解錠ができます。施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートハンドルから周囲約 80cm 以内です。

※車外でのドアの施錠 / 解錠

ドア、テールゲートを解錠すると、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。

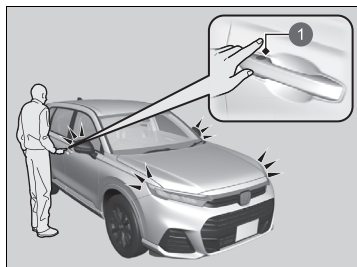
約 30 秒点灯し、徐々に暗くなります。30 秒以内にドア、テールゲートを施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。

▶ 室内灯 P.188

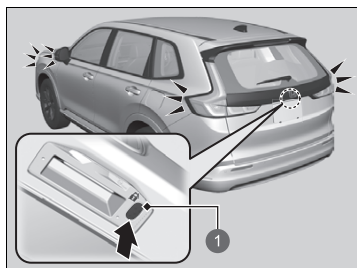
※Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードがOFFモード以外のときはHonda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。



① ドアロックセンサー



① ロックボタン

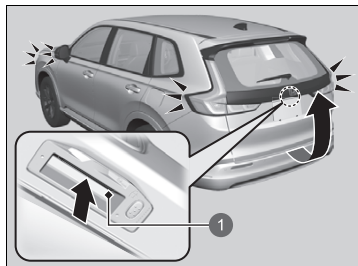
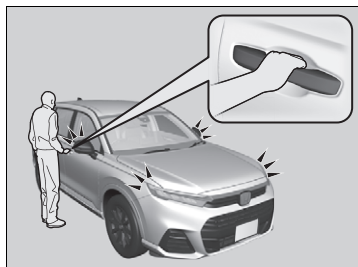
■施錠するには

フロントドアハンドルのドアロックセンサーに触れる、またはテールゲートのロックボタンを押します。

- ▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り、非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲート、充電リッドが施錠されます。

※Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもドアロックセンサーやフロントドアハンドル、テールゲートハンドルで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、フロントドアハンドルでの解錠操作やロックセンサーでの施錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がフロントドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約2秒間は、フロントドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- フロントドアハンドルを握った直後、もしくはテールゲートハンドルを押した直後はドア、テールゲートが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおすか、テールゲートハンドルを押しなおして解錠されていることを確認してから開けてください。



① テールゲートハンドル

■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートハンドルを押します。

- ▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲート、充電リッドが解錠します。

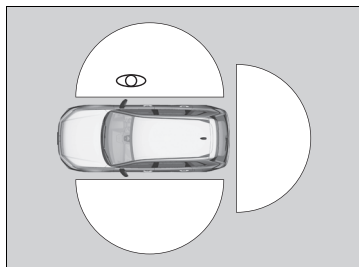
※Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- フロントドアハンドル、テールゲートハンドルより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。

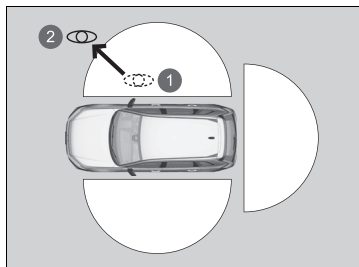
カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



オートロック機能の作動範囲



■施錠するには(降車時オートドアロック機能)

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドアが自動的に施錠します。

このオートロック機能は、以下の状態で Honda スマートキーが運転席、助手席ドアハンドル、テールゲートハンドルから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。

- すべてのドア、テールゲートが閉まっている状態
- すべてのドアを閉めたあと、パワーテールゲートが自動で閉じ始めた状態

Honda スマートキーを携帯し、降車してドアを閉めてください。

1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。
2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

※施錠するには(降車時オートドアロック機能)

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。

ON にするときは、カスタマイズ機能で設定を変更してください。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

オートロック機能を使用する時は、車内に残ってる人がいないことを確認し、車から離れてください。

オートロック機能が起動し、作動範囲内にいるときはドアが施錠されるまで、Honda スマートキーのインジケーターが点滅します。

オートロック機能が起動し、車から離れずに作動範囲内にいた場合は、アンサーバック音が鳴ってから、約 30 秒後に自動で施錠されます。

オートロック機能が起動してからドアまたはテールゲートを開けた場合、オートロック機能は中断されます。

以下のときオートロック機能は起動しません。

- Honda スマートキーが車内にいるとき
▶ 警告ブザーは鳴りません
- Honda スマートキーが作動範囲に無いとき
▶ 警告ブザーが鳴ります

一時的にオートロック機能を OFF にするとき：

1. パワーモードを OFF モードにする。
2. 運転席ドアを開ける。
3. マスタードアロックスイッチを施錠→解錠→施錠→解錠の順番で押す。
▶ オートロック機能が OFF になり、アンサーバック音が鳴ります。

以下のいずれかの操作をした場合、オートロック機能が ON に戻ります。

- パワーモードを ON モードにする
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムもしくは Honda スマートキーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠する
- Honda スマートキーを携帯したままオートロック機能の作動範囲内から離れる
- いずれかのドアを開ける

❖ 施錠するには(降車時オートドアロック機能)

次のような場合は、オートロック機能は作動しません。

- Honda スマートキーが車内に置いてあるとき
- ドア、テールゲート、ボンネットが完全に閉まっていないとき
- パワーモードが OFF モード以外のとき
- 降車時にすでに Honda スマートキーが作動範囲内にないとき

オートロック機能の起動後に、次のような場合は、オートロック作動中止警告ブザーが約 2 秒間鳴ります。

- Honda スマートキーを窓から車内に置いたとき
- 車に近づきすぎているとき
- Honda スマートキーをカーゴスペース内に置いたとき

オートロック作動中止警告ブザーが鳴ったときは、車から離れても自動で施錠されません。Honda スマートキーを携帯していることを確認し、再度ドアを開閉してオートロック起動ブザーが鳴ることを確認してください。

意図しないタイミングでオートロック機能が作動した場合、車外にいるときは再度解錠してください。

乗車しているときは、**POWER** を押し、車両を ON モードにしてください。

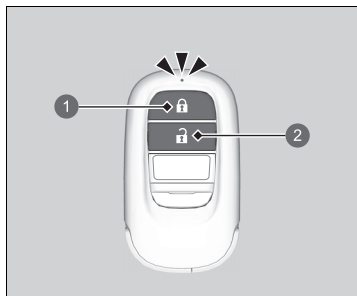
※施錠するには(降車時オートドアロック機能)

予約クローズと併用すると、パワーテールゲートが閉まっている途中で車から離れても施錠されます。

▶テールゲートが閉じているとき車から離れると、ドアとテールゲートが自動的に施錠されます。

🔑 予約クローズ P.144

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



- ① 施錠ボタン
- ② 解錠ボタン



■施錠

施錠ボタンを押します。

1 回目：

- ▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲート、充電リッドが施錠されます。

2 回目(施錠ボタンを押して 5 秒以内)：

- ▶ アンサーバックブザーが鳴りドア、テールゲートが施錠されたか確認できます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲート、充電リッドが解錠されます。

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードが OFF モード以外のときはキーレスエントリーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

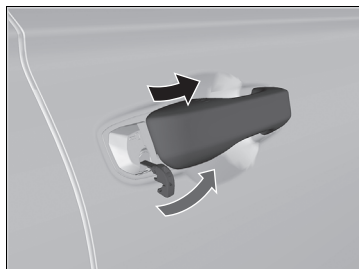
■ 電池交換のしかた P.438

■キーを差し込んでの解錠

Honda スマートキーのボタンで解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。

鍵穴はドアハンドルを引いた裏側にあります。

🔑 電池交換のしかた P.438



ドアハンドルの下にあるキーシリンダーに内蔵キーを挿入し、回します。

🔑キーを差し込んでの解錠

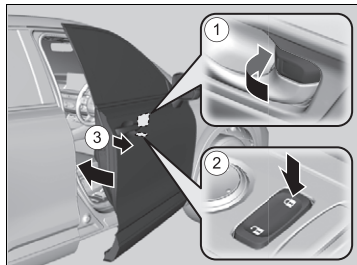
運転席ドアにキーを差し込んで解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、充電リッドも同時に解錠されます。

Honda スマートキーのボタンで施錠できないときは、下記を参照してください。

🔑 キーを使わない施錠 P.133

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ(①)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(②)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(③)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じこみ防止装置

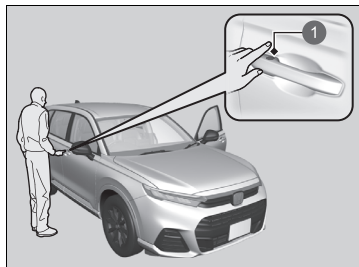
Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

❏キーを使わない施錠

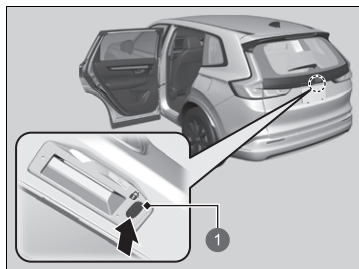
運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、充電リッドも同時に施錠されます。

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

■ 予約ロック機能



① ドアロックセンサー



① ロックボタン

あらかじめ施錠操作をする事で、ドアやテールゲートを閉めた後、自動で施錠する機能です。

運転席ドアを閉めてから操作をしてください。

1. ドアロックセンサーに触れる、テールゲートのロックボタンを押す、または Honda スマートキーの施錠ボタンを押します。

▶ 通知音が鳴り、予約ロックが設定されます。

2. 全てのドア、テールゲートを閉める。

▶ 施錠が完了すると通知音とハザード点滅で施錠を知らせます。

施錠が完了したことを確認してから車両から離れてください。

▶▶ 予約ロック機能

⚠ 注意

パワーテールゲートに指などを挟みこまないように注意する。

特にお子さまには気をつけてください。

予約ロックによる施錠が完了する前に閉まっているドアまたはテールゲートを開くと予約ロックはキャンセルされます。

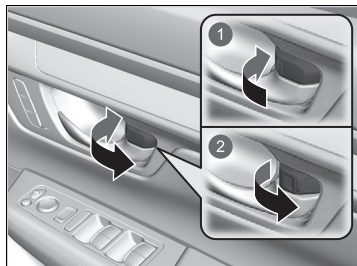
施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

予約ロックの ON/OFF 設定を変更することができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠

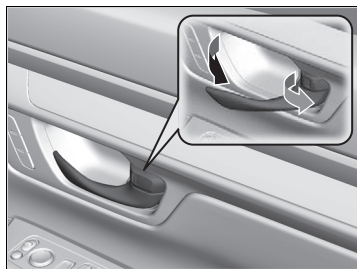


- ① 施錠
- ② 解錠

■施錠するには
ノブを押し込みます。

■解錠するには
ノブを引き出します。

■ 運転席ドアハンドルでの解錠



運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

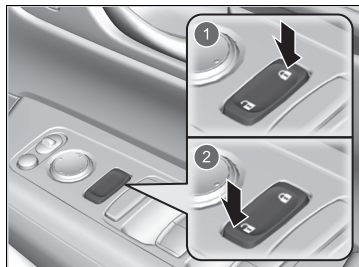
※ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、充電リッドも同時に施錠 / 解錠されます。

※運転席ドアハンドルでの解錠

走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが解錠します。走行中はドアハンドルを操作しないでください。

■ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



- ① 施錠
- ② 解錠

マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

▣ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席または助手席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、充電リッドも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドブルーフ

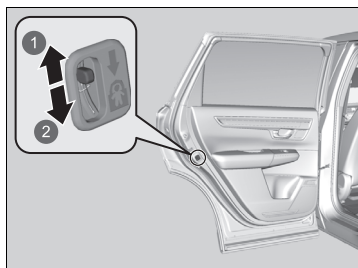
チャイルドブルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。

お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

☒チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

■チャイルドブルーフのセット



- ① 解錠
- ② 施錠

後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲート、充電リッドを解錠するシステムです。

作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

⚡ 衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

テールゲート開閉時の注意

テールゲートを開閉するときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートを開けたまま走行しない。
 - ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。

※テールゲート開閉時の注意



注意

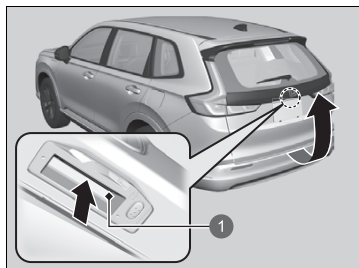
テールゲートを閉めるときは、頭をぶついたり手をはさまないように注意する。

頭をぶついたり、手などをはさんだりして重大な損傷を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

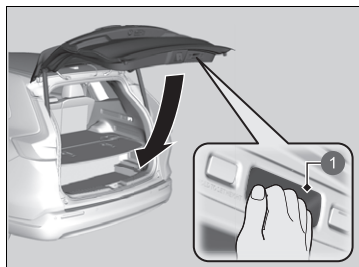
カーゴスペース内に、人を乗せない。

ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

テールゲートの開閉



① テールゲートハンドル



① インナーハンドル

施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートハンドルを約 1 秒以上押し、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

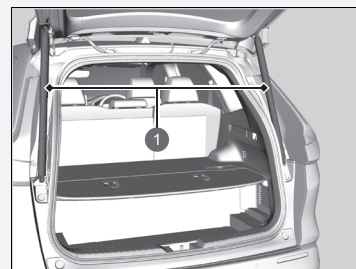
▶ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

P.125

テールゲートのインナーハンドルを持って引き下げ、外側より押して閉めます。

▶▶ テールゲート開閉時の注意

テールゲートオープンスティに荷物などが接触しないように注意してください。



① テールゲートオープンスティ

▶▶ テールゲートの開閉

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に置かないようにしてください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもテールゲートハンドルでテールゲートを解錠することができます。

パワーテールゲートの開閉

キーレスエントリーシステム、運転席にあるパワーテールゲートボタン、テールゲートハンドルやハンズフリー機能を使って、パワーテールゲートを自動で開閉することができます。

シフトポジションが **P** のとき、パワーテールゲートを操作できます。

▶▶ パワーテールゲートの開閉

注意

パワーテールゲートを確実に閉め切るため、締め切り直前の部分に挟み込みを検知しないエリアがあります。指などをはさみ込まないように、注意してください。

パワーテールゲート装備車はテールゲートを開閉するときに、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。

頭をぶつけたり、手などをはさんだりして重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯してドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

アドバイス

パワーテールゲートが自動で開閉しているときはテールゲートに触れないでください。無理な力をかけると、フレームが変形するおそれがあります。

❖ パワーテールゲートの開閉

次のような場合はパワーテールゲートが確実に開閉しないことがあります。

- 自動開閉中にパワーシステムを起動したとき
- 傾斜している場所
- 風が強いとき
- パワーテールゲートやルーフに雪がつもっているとき(開閉する前に雪を取り除いてください)

パワーテールゲートが開いている状態で、12V バッテリーやヒューズを交換した場合は、自動で閉まらなくなります。

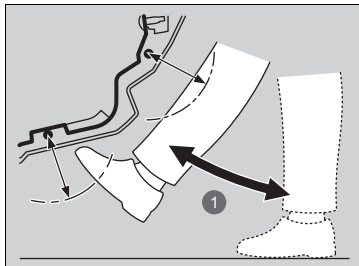
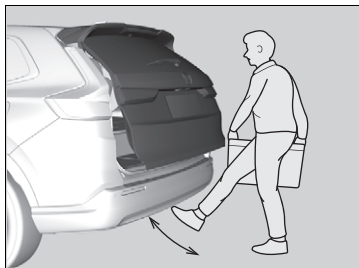
その場合は、手動でパワーテールゲートを閉めると機能が復帰します。

パワーテールゲートにアクセサリや字光式ナンバープレートを取り付ける場合は、指定の Honda 販売店にご相談ください。

荷物の出し入れは、パワーテールゲートが完全に開ききったことを確認してから行ってください。

パワーテールゲートが開いているときや、閉じようとしているときに走行すると警告ブザーが鳴ります。

■ハンズフリーアクセスパワーテールゲート



① 約 1 秒

Honda スマートキーを携帯し、片足のつま先をリヤバンパー中央の下へ入れて引くような動作を行うとテールゲートを自動で開閉することができます。

▶「ピー」とブザーが鳴り非常点滅表示灯が点滅し、テールゲートが動作します。

■ハンズフリーアクセスパワーテールゲート

雨のときや、車体に水分が付着しているとき、センサーが足の動きを検知できないことがあります。

テールゲート周辺で作業などをすると、開閉機能が作動し、テールゲートが開閉することがあります。

開閉機能を作動させたくない場合は、開閉機能を OFF にすることができます。

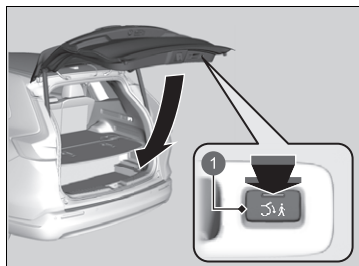
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

足による操作中にリヤバンパー中央の下のセンサーの検知範囲内で足をとどめた場合、パワーテールゲートが開閉しないことがあります。およそ 1 秒で足の操作を行ってください。

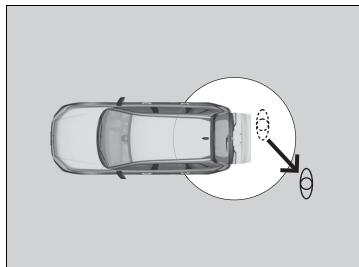
Honda スマートキーを携帯していないと開閉しません。Honda スマートキーを携帯していることを確認し、操作を行ってください。

■ 予約クローズ

Honda スマートキーを携帯して車両から離れると、パワータールゲートが自動で閉まります。



① 予約クローズボタン



1. Honda スマートキーを携帯し、ボタンを押します。
▶ 予約クローズの設定ができると、インジケーターが緑色に変わります。

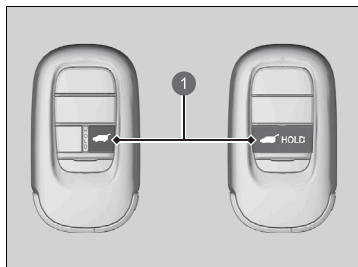
2. ボタンを押してから 30 秒以内に、車両から約 1m 離れます。
▶ 「ビー」とブザーが鳴り非常点滅表示灯が点滅し、テールゲートが閉まります。

▶▶ 予約クローズ

降車時のオートロック機能の設定が ON のとき、すべてのドアとテールゲートが閉じると自動的に施錠されます。

▶ 施錠するには(降車時オートドアロック機能) P.128

■ キーレスエントリーシステムで開閉する



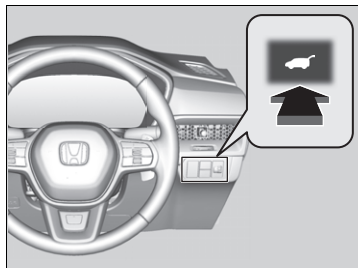
① パワータールゲートボタン

パワーモードが OFF モードのとき、パワータールゲートボタンを長押しします。

▶「ピー」とブザーが鳴り非常点滅表示灯が点滅し、テールゲートが動作します。

動作中にパワータールゲートボタンを押すと、動作を停止します。停止した状態でパワータールゲートボタンを長押しすると、逆方向に動作します。

■ パワータールゲートボタンで開閉する



パワータールゲートを開閉するために、パワータールゲートボタンを長押しします。

▶「ピー」とブザーが鳴り非常点滅表示灯が点滅し、テールゲートが動作します。

動作中にパワータールゲートボタンを押すと、動作を停止します。停止した状態でパワータールゲートボタンを長押しすると、逆方向に動作します。

※ パワータールゲートの開閉

パワータールゲートの自動開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりパワータールゲートが反対側に動きます。このとき、ブザーが「ピーピーピー」と鳴ります。

オートリバース機能作動中、完全にテールゲートを閉じるため、センサー機能は閉まる直前で停止します。

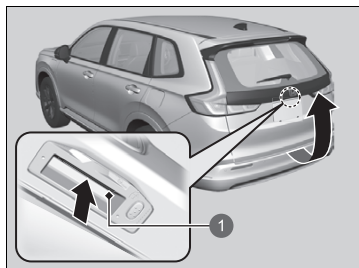
パワータールゲートには、内蔵モーターの保護機能を搭載しています。

短時間にパワータールゲートの開閉を繰り返すと、モーターの保護のため一時的にパワータールゲートの開閉が停止します。数分経過すると、開閉ができます。

※ キーレスエントリーシステムで開閉する

キーレスエントリーシステムでの開閉条件をカスタマイズすることができます。ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■ テールゲートハンドルで開閉する



① テールゲートハンドル

テールゲートハンドルを押すと、自動で開きます。

▶ 「ピー」とブザーが鳴り、テールゲートが動作します。

▶ 手動で開きたいときは、テールゲートハンドルを約 1 秒以上押してください。

❏ テールゲートの開閉 P.140

Honda スマートキーを携帯している場合、テールゲートを開く前に解錠する必要はありません。

開閉中にテールゲートハンドルを押すと、途中で止まります。再度テールゲートハンドルを押すと、「ピー」とブザーが鳴り、反対側に動きます。

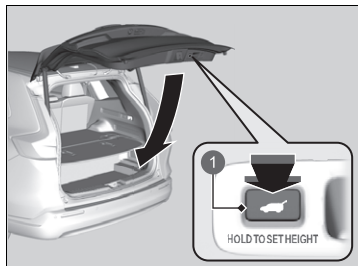
❏ テールゲートハンドルで開閉する

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に置かないようにしてください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもテールゲートハンドルでテールゲートを解錠することができます。

テールゲートハンドル機能の設定は変更することが可能です。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■ テールゲートインナーボタンで開閉する



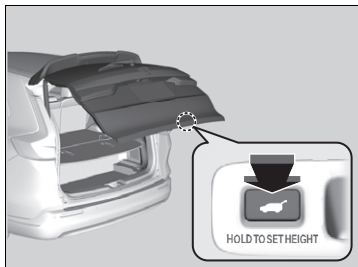
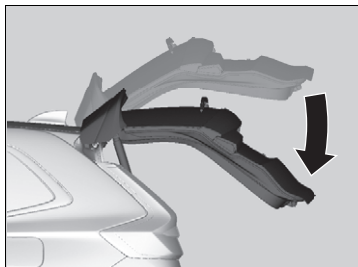
① テールゲートインナーボタン

テールゲートインナーボタンを押すと、テールゲートが閉まります。

▶「ピー」とブザーが鳴ります。

開閉中にテールゲートインナーボタンを押すと、途中で止まります。再度テールゲートインナーボタンを押すと、「ピー」とブザーが鳴り、反対側に動きます。

■テールゲート位置の設定



パワータールゲートの開く範囲を設定することができます。

設定するには：

1. 希望する位置までテールゲートを開ける。
2. テールゲートインナーボタンを長押しする。
▶「ピー」とブザーが鳴り、続いて「ピピッ」とブザーが鳴ると、設定は完了です。

☒テールゲート位置の設定

テールゲートがわずかに開いているときは、設定できません。

パワータールゲートが全開するように再設定するには、手動でテールゲートを全開位置まで上げ、2 の手順に進んでください。

■ オートクローザー機能

テールゲートを手動で半ドア状態まで下げると、自動的に閉まります。

■ テールゲート落下検知機能

パワーテールゲートが開いているとき、テールゲートに付着した雪などの重みによって、自動的にパワーテールゲートが下がることがあります。下がっている間は、「ピー」とブザーが鳴り続けます。

※ オートクローザー機能



注意
 パワーテールゲートは半ドア状態の位置から自動的に閉まるため手をはさまないように注意する。重大な傷害を負うおそれがあります。

テールゲートを閉じているときにテールゲートハンドルスイッチを押すと、オートクローザー機能は作動しません。

アドバイス

パワーテールゲートが閉まる前は、無理な力をかけないでください。

※ テールゲート落下検知機能

パワーテールゲートを全開した直後に、手動で閉めようとした場合、テールゲート落下検知機能が作動することがあります。

テールゲート落下検知機能が作動した場合、テールゲートから離れ、完全に停止するまで待ってください。

テールゲート落下検知機能が毎回作動する場合は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

イモビライザーシステム

車両とキーで電子照合をしており、登録されたキーでないとパワーシステムの起動は出来ないシステムです。

POWER を押すときは、下記の点に注意してください。

- **POWER** の近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、内蔵キー、キーレスエントリーシステムあるいは Honda スマートキーシステムを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

※イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

※セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。

ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。

状況によっては、5 分間以上作動することがあります。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

☒セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。

パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

⌘ パワーウィンドーの開閉

警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

注意

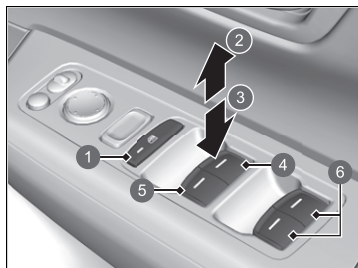
指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーモードを OFF モードにしても、約 10 分間は自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。

この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



- ① パワーウィンドー
ロックボタン
- ② ウィンドーを閉める
- ③ ウィンドーを開ける
- ④ 運転席用スイッチ
- ⑤ 助手席用スイッチ
- ⑥ 後席用スイッチ

■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す

閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す

閉めるとき：スイッチを強く引き上げる

自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

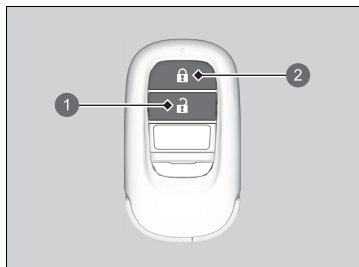
▶▶ パワーウィンドーの開閉

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなつたときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■キーレスエントリーシステムでのパワーウィンドーの開閉



① 解錠ボタン

② 施錠ボタン

キーレスエントリーシステムを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき：キーレスエントリーシステムで解錠後、10 秒以内に再度、解錠ボタンを押し続ける

閉めるとき：キーレスエントリーシステムで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

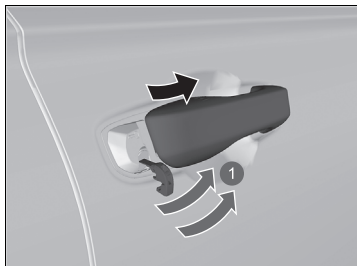
希望の位置で手を離すことで、ウィンドーの開閉を調節します。

ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

☒キーレスエントリーシステムでのパワーウィンドーの開閉

キーレスエントリーシステムでのパワーウィンドーの開閉の設定を変更することができません。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■ キーシリンダーでのパワーウィンドーを開ける



① 開

運転席ドアのキーシリンダーを使用してパワーウィンドーを開けることができます。

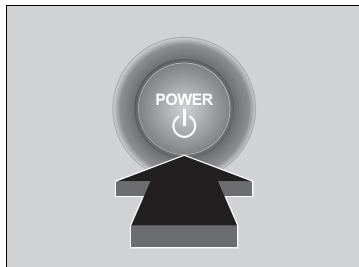
開けるとき：運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで解錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、解錠側いっばいに内蔵キーを回したままにする

希望の位置で手を離すことで、ウィンドーの位置を調節します。

ウィンドーを開けている途中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

POWER スイッチ

■ パワーモードの切り換えかた



Honda スマートキーを携帯し、ブレーキを踏まずに **POWER** を押すと OFF モード→アクセサリモード→ON モード→OFF モードの順にパワーモードが切り換わります。

OFF モード：

車両の電源が OFF の状態です。

アクセサリモード：

オーディオなど一部のアクセサリが使用できます。

ON モード：

すべてのアクセサリが使用できます。

■ パワーモードオートオフ機能

シフトポジションが **P** でパワーモードがアクセサリモードのときに 30 分～60 分経過すると、12V バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。

■ パワーモード警告ブザー

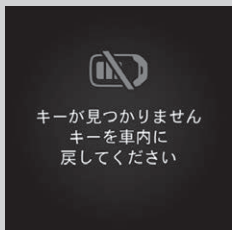
次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリモードのとき

※ POWER スイッチ

小物入れなど車両との通信に影響がある場所に Honda スマートキーが置かれている場合、パワーモードが切り換わらないことがあります。

■ Honda スマートキー持ち去り警告



パワーモードが OFF モード以外有的时候に Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると警告ブザーが鳴ります。警告状態が続くときは Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードがアクセサリモードのとき

車外から警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードが ON モードのとき

車外と車内から警告ブザーが鳴ります。また、メーター内に警告が表示されます。

☒ Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。

パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

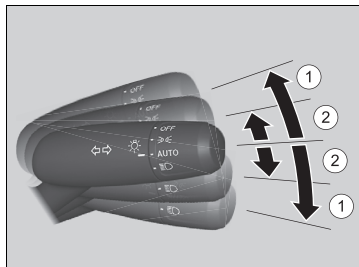
窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーがパワーモード ON の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



■①：方向指示器

進行方向に応じてレバーを下または上に押し込むと方向指示器が点滅します。

■②：ワンタッチターンシグナル

レバーを下または上に軽く押してレバーを放すと、方向指示器が3回点滅します。

- ▶ 点滅中にレバーを反対方向に軽く押して放すと点滅が停止します。

■方向指示器(ウィンカースイッチ)

方向指示器が点滅するとメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。

■表示灯 P.93

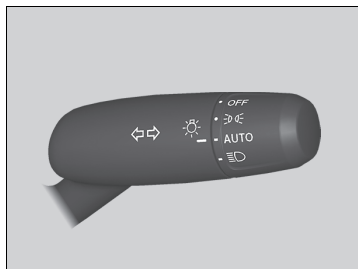
ワンタッチターンシグナルの ON/OFF 設定を変更することができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

ライトの使い方

■ヘッドライト・車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯 / 消灯させることもできます。



パワーモードがONモードのとき、ライトスイッチを **AUTO** にすると自動点灯が作動します。

■手動点灯 / 消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯：

ライトスイッチを **☀** にします。

車幅灯の点灯：

ライトスイッチを **☀** にして手を放します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中に行くとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを **☀** にしたあと、**AUTO** にします。または、**☀** にして手を放します。

☒ ライトの使い方

ライト類が点灯するとメーター内の表示灯が点灯します。

☒ **表示灯** P.93

☒ ヘッドライト・車幅灯

車幅灯が点灯しているときは尾灯、番号灯も点灯します。

スイッチを **☀** にしたままパワーモードをOFFモードにすると、運転席のドアを開けた時にライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。このとき、Honda スマートキーシステム、または、キーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ライトが消灯します。

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12V バッテリーあがりの原因となります。

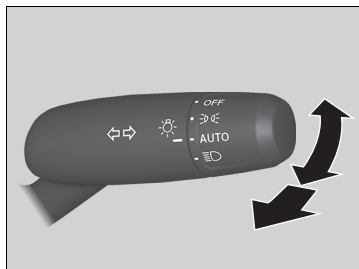
ヘッドライト・車幅灯の消灯：

シフトポジションが[P]もしくはパーキングブレーキをかけて停車しているとき、ライトスイッチを[OFF]にして手を放します。

- ▶ 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

■ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。



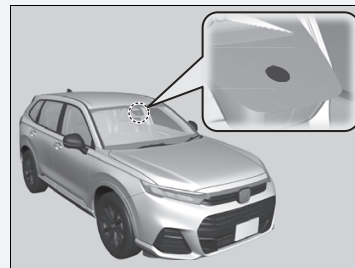
■パッシング

レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。

- ▶ レバーを放すとレバーはロービームの位置に戻ります。

※ヘッドライト・車幅灯

照度感知センサーは、図の位置にあります。



■ ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーシステム、およびキーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを **AUTO** にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

■ デイタイムランニングライト

デイタイムランニングライトは以下の条件をすべて満たしたときに点灯します。

- パワーモードが ON モード
- 車両の周囲が明るい
- ヘッドライトが消灯している

停車しているときにライトスイッチを **OFF** にして手を放すとデイタイムランニングライトは消灯します。

車両を発進させると再び点灯します。

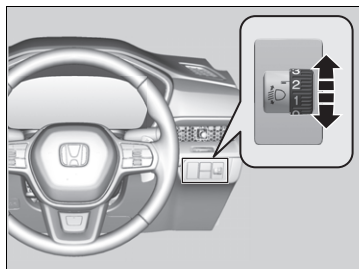
※ デイタイムランニングライト

デイタイムランニングライトと車幅灯は光源を共用しています。

デイタイムランニングライトは車幅灯よりも明るく点灯します。

デイタイムランニングライトの ON/OFF 設定を変更することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

ヘッドライトレベリングダイヤル



車幅灯、ヘッドライトが点灯しているとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。

光軸の調節はダイヤルを回して行います。

ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	1
5名乗車時	2
5名乗車でカーゴスペース満載時	3
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	4

※ヘッドライトレベリングダイヤル

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを[0]の位置に戻してから行ってください。

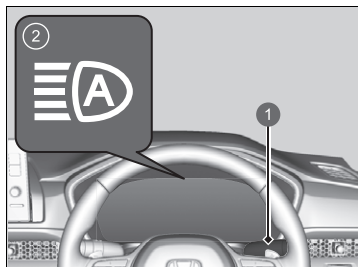
オートハイビーム

夜間走行時にフロントセンサーカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

オートハイビームの使いかた

■システムの作動

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームとロービームが切り換わります。



- ① ライトスイッチ
- ② オートハイビーム表示灯

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- ライトスイッチを **III** に回したあと、 **AUTO** に戻す

※オートハイビーム

オートハイビームはあらゆる状況で動作する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

■フロントセンサーカメラ P.352

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラススクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリ、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは指定の Honda 販売店にご相談ください。

⌘ オートハイビーム

オートハイビームの ON/OFF 設定を変更することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■ハイビーム / ロービームの自動切り換え

オートハイビーム表示灯が点灯しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビーム

以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。

- 車速が 30km/h 以上
- 前方にライトを点灯した車両がない
- 前方に街灯などの光が少ない



ロービーム

以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。

- 車速が 24km/h 以下
- 前方にライトを点灯した車両がいる
- 前方に街灯などの光が多い

■ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作：

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。

- ▶ オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。
- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを $\boxed{\text{LO}}$ に回した後、 $\boxed{\text{AUTO}}$ に戻す

このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作：

ライトスイッチを $\boxed{\text{LO}}$ に回す。

- ▶ オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを $\boxed{\text{AUTO}}$ に戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

※ハイビーム / ロービームの自動切り換え

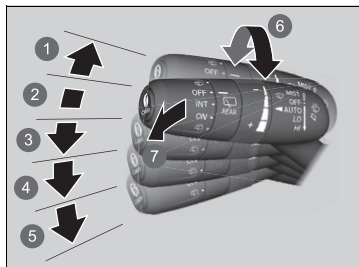
次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われな場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントセンサーカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

ワイパー / ウォッシャー

■ フロントワイパー / ウォッシャー



- ① MIST : (レバーを操作している間作動)
- ② OFF : 停止
- ③ AUTO : 自動作動
- ④ LO : 低速(普通の雨量のとき)
- ⑤ HI : 高速(雨量が多いとき)
- ⑥ センサー感度の調節
- ⑦ ウォッシャー

パワーモードがONモードのときに使用できます。

■ MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。

霧や小雨のときに使用します。

■ ワイパースイッチ(OFF、AUTO、LO、HI)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。

レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

※ ワイパー / ウォッシャー

⚠ 注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーアームを起こす際は、ワイパーメンテナンスポジションへ動かしてから、ワイパーアームを起こしてください。

❗ フロントワイパーアームの起こしかた P.428

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

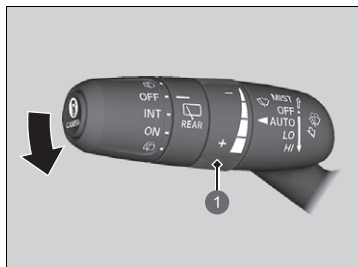
アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

ワイパーには、内蔵モーターの保護機能を搭載しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、モーターの保護のため一時的にワイパーが停止することがあります。数分経過すると、通常通り使用できるようになります。

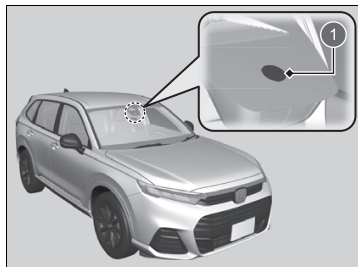
オートワイパー



① リング

☐：雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。

⊕：雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。



① 雨滴感知センサー

レバーを **AUTO** の位置にするとワイパーが 1 回作動し、その後は自動作動に切り換わります。

フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

ワイパー作動中に雪などがたまると雨滴検知をしていなくてもワイパーが作動し続けることがあります。

レバーを OFF の位置にすると、ワイパーを停止することができます。

ワイパー / ウォッシャー

アドバイス

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

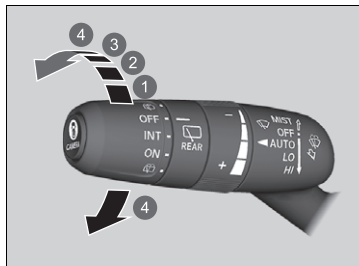
オートワイパー

⚠ 注意

フロントガラスのお手入れをするときは、**レバーを必ず OFF にしてください。**

パワーモードが ON モードでレバーが **AUTO** のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

■ リヤワイパー / ウォッシャー



- ① OFF : 停止
- ② INT : 間欠作動
- ③ ON : 低速作動
- ④ : ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ リヤワイパースイッチ (OFF、INT、ON)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ ウォッシャースイッチ

スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。

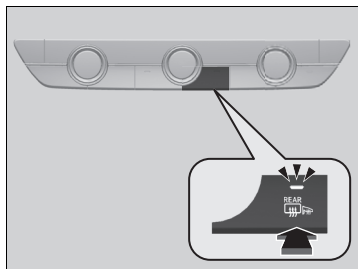
スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■ リバース連動モード

フロントワイパー作動中にシフトポジションを **[R]** にするとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーの作動モード	リヤワイパーの作動モード
AUTO (間欠作動)	間欠作動
低速作動	連続作動
高速作動	

リヤデフロスター/ヒータードアミラースイッチ



パワーモードがON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃以下のときは自動的に停止しません。

❏ リヤデフロスター/ ヒータードアミラースイッチ

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。

また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12Vバッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

パワーモードをONモードにしたとき、外気温が5℃以下の場合、ヒータードアミラーのみ約 10 分間作動することがあります。

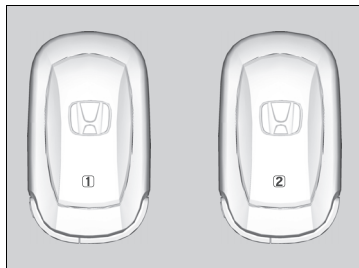
ドライビングポジションシステム

シートの位置(ランバーサポート以外)を2種類記憶させ、それぞれの位置に自動で調節させることができます。

Honda スマートキーで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1 のキーと DRIVER2 のキーを判別して、記憶したシート位置に自動で調節されます。

DRIVER1 で解錠して運転席ドアを開けたとき：メモリーボタン 1 で記憶したシート位置に自動調節

DRIVER2 で解錠して運転席ドアを開けたとき：メモリーボタン 2 で記憶したシート位置に自動調節



乗車や降車をしやすくするため、以下の条件のときに運転席が後ろに下がります。

- 停車したとき
 - シフトポジションを **P** にしたとき
 - パワーモードを OFF モードにしたとき
 - 運転席ドアを開けたとき
 - メモリーボタン (1 または 2) の記憶位置が最後部以外するとき
- パワーモードをアクセサリモードにすると、シートは記憶された DRIVER1 または 2 の位置に調節されます。

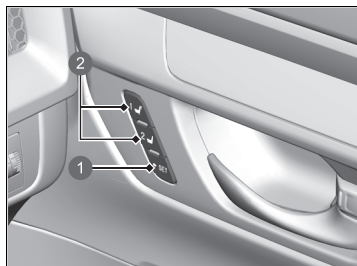
☒ ドライビングポジションシステム

カスタマイズ機能について

ドライビングポジションシステムの作動をカスタマイズすることができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

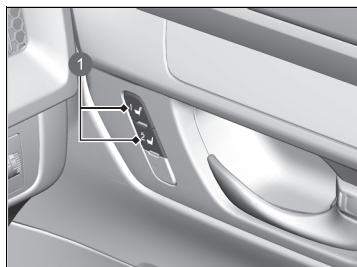
記憶のさせかた



- ① セットボタン
- ② メモリーボタン

1. パワーモードを ON モードにし、運転席シートを希望の位置に調節します。
2. セットボタンを押す。
▶ セットボタンの表示灯が点灯します。
3. セットボタンを押してから5秒以内にメモリーボタンの1か2を「ピッピッ」と音が鳴るまで押す。

記憶の呼び出しかた



- ① メモリーボタン

1. シフトポジションを **P** にする。
2. メモリーボタン(1 または 2)を押す。

記憶させた位置までシートが自動的に移動し、移動が完了します。

❖記憶のさせかた

セットボタンを押した後、以下のような状況になったときは記憶操作がキャンセルされます。

- 5 秒経過してもメモリーボタンを押さなかったとき
- シート位置を調節したとき
- パワーモードを ON モード以外にしたとき

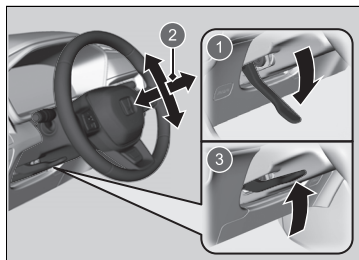
❖記憶の呼び出しかた

自動でシートが移動しているときに、以下のような操作を行うとシートの移動が止まります。

- セットボタン、またはメモリーボタン(1 または 2)を押したとき
- シート位置を調節したとき
- シフトポジションを **P** 以外にしたとき

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



- ① 解除
- ② 調節
- ③ 固定

1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバ
ーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が
見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハ
ンドルを固定する。
▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向
の力を加え、ハンドルがしっかり固定
されていることを確認してください。

▶▶ ハンドルの調節

⚠ 注意

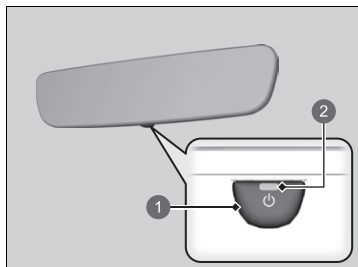
走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

自動式防眩ミラー



- ① オートミラースイッチ
- ② 表示灯

夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。
パワーモードがON モードで、オートミラースイッチがON のときに作動します。スイッチを押すごとに ON、OFF が切り換わりません。
ON にすると表示灯が点灯します。

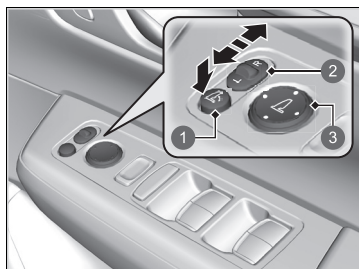
▶ミラー類の調節

ミラー類の調節は走行前に行ってください。

▶自動式防眩ミラー

シフトポジションを[R]にしているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー



- ① 格納スイッチ
- ② 左右切り換えスイッチ
- ③ 角度調節スイッチ

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

■ リバース連動ドアミラー

後退時、車両の左側面の視界をよりよく確保するため、シフトポジションの **R** と連動して助手席側ドアミラーが自動的に下向きになります。



① 左右切り換えスイッチ

パワーモードが ON モードで、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側にあることを確認します。

シフトポジションを **R** の位置にすると、助手席側ドアミラーが下向きになります。

シフトポジションを **R** 以外の位置にすると元の位置に戻ります。

※ リバース連動ドアミラー

次の場合にも、ミラーが元の位置に戻ります。

- 左右切り換えスイッチを左側以外の位置にしたとき
- パワーモードを ON モード以外にしたとき

リバース連動ドアミラーは、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側以外の位置にあるときは作動しません。作動させるには左右切り換えスイッチを左側にしてください。

■オートリトラミラー

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するとき：

- Honda スマートキーの施錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、運転席ドア、助手席ドアのドアロックセンサーに触れるか、テールゲートのロックボタンを押す。

元の位置に戻すとき：

- Honda スマートキーの解錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルを握るか、テールゲートハンドルを押す。
- パワーモードを ON モードにする。

☒オートリトラミラー

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

オートリトラミラーの設定を変更することができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■フロントシート

注意

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

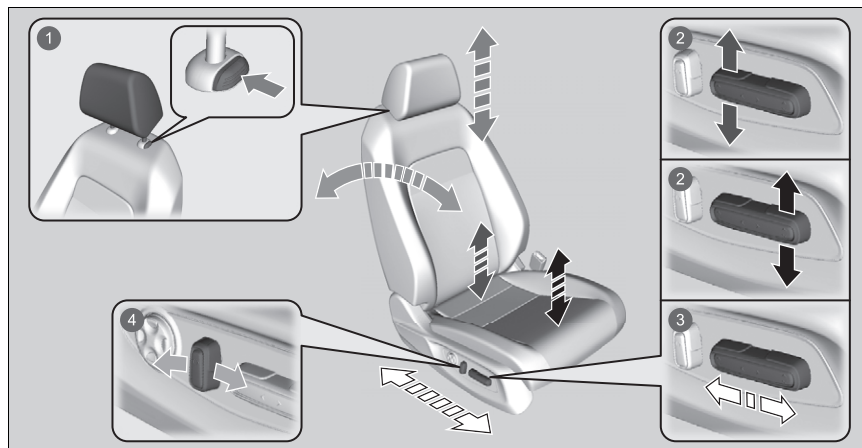
フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては指定の Honda 販売店にご相談ください。

■シートの動かし方

■フロントパワーシート



① ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる

② 高さの調節（運転席）

スイッチを上下に動かして高さを調節

③ 前後位置の調節

スイッチを前後に動かして前後位置を調節

④ 背もたれの角度調節

スイッチを前後に動かして調節

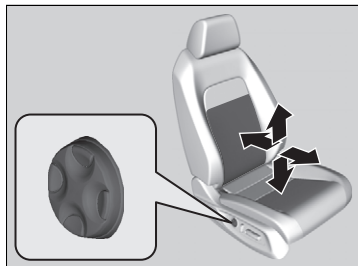
▶▶ フロントパワーシート

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

■運転席ランバーサポートの調節



シート腰部の固さを調節できます。

全体を硬くする：スイッチを前側に押す

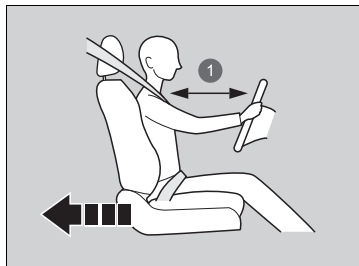
全体をやわらかくする：スイッチを後側に押す

上部を硬くする：スイッチを上側に押す

下部を硬くする：スイッチを下側に押す

▶ 上部はやわらかくなります。

■フロントシートの調節

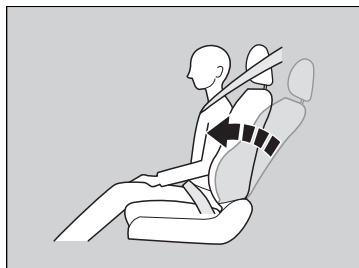


① 十分な距離をとる

■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

▶フロントシートの調節

⚠ 警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

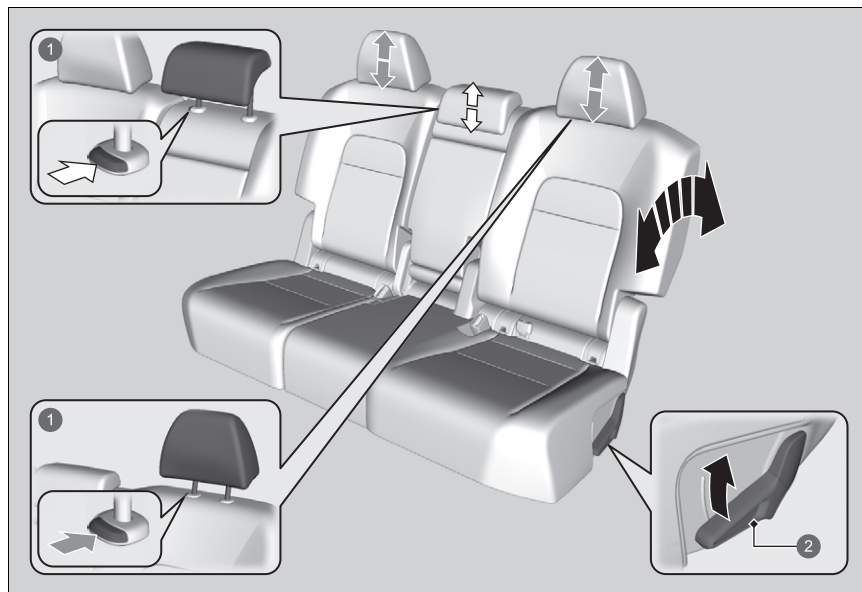
⚠ 注意

背もたれと背中間にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

■シートの動かし方



① ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる

② 背もたれの角度調節

レバーを引き上げながら調節

※リヤシート

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

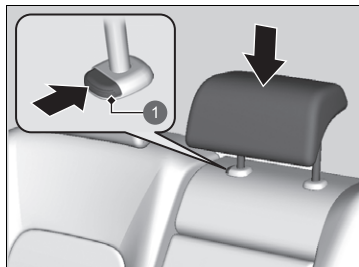
走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手などをはさまないように十分注意する。

シートを操作したら、シートを前後にゆすって固定されていることを確認してください。

■ 背もたれの倒しかた



① ノブ

リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。
片側ずつ独立して行えます。

■ 倒しかた

1. 中央の三点式シートベルトを分離・収納する。

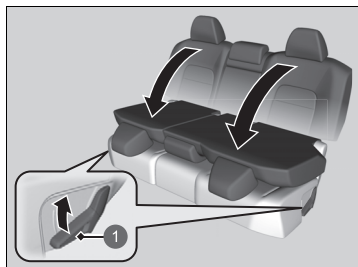
■ 分離収納式シートベルト P.46

2. ヘッドレストを下げ、アームレストを収納する。

※ 背もたれの倒しかた

以下のような場合、ヘッドレストがシートバックポケットに引っかかりやすいので注意してください。

- フロントシートの背もたれを後ろに倒したとき
- シートバックポケットにものが入ったままリヤシートの背もたれを倒すとき



① 背もたれ調節レバー

■戻しかた

背もたれを起こして固定します。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

3. 背もたれ調節レバーを引き、前方に倒す。

※背もたれの倒しかた

アドバイス

シートを格納する前にシートの周りを確認してください。シートの上にものやシートベルトやバックルを置いたまま操作しないでください。

シートベルトやバックルが破損することがあります。

シートの座面や収納される場所の荷物等はあらかじめどけてから操作してください。

背もたれを倒すときは、カーゴスペースの荷物等を固定してください。

急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

シートを格納するときは、シートの下にものやシートベルトを置いたまま操作しないでください。

背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。

はさまれると正しく着用できません。
シートベルトが破損することがあります。

リアシートリマインダー

後席への人や荷物の置き去りがないようにお知らせする機能です。この機能は、パワーモードをONモードにする直前または直後に、後席ドアを開けた場合に作動します。



作動後、パワーモードをOFFモードにしたとき、マルチインフォメーションディスプレイにお知らせが表示され、音が鳴ります。

リアシートリマインダー

パワーモードを OFF モードにしたとき、お知らせが行われ機能が終了します。

後席ドアを開けた後、10 分以内にパワーモードをONモードにしなかった場合は作動しません。

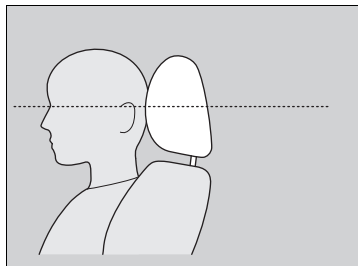
このシステムは後席の人や荷物をセンサーで検出するのではなく、後席ドアの開閉の記録から後席に人や荷物がある可能性をお知らせします。

お知らせ機能が作動しないように設定することができます。

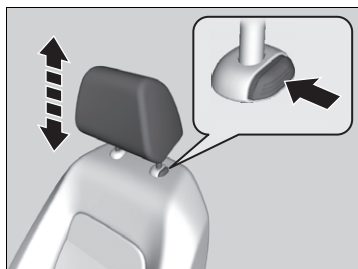
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

ヘッドレスト

■ フロントシートヘッドレストの調節



後頭部の中心がヘッドレストの中心に



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。

低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■ ヘッドレスト



警告

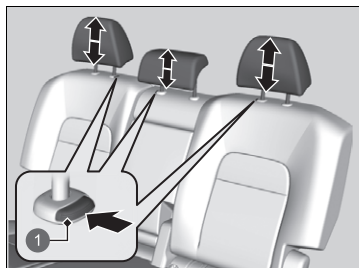
ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。

ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。

衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■リヤシートヘッドレストの位置変更



① ノブ

乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。

低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：

ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：

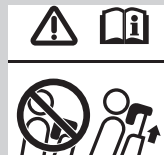
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

▣リヤシートヘッドレストの位置変更



警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

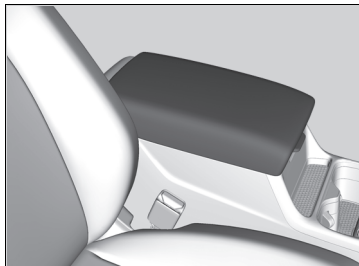


▣ヘッドレストの取り外しと取り付け

天井とシートバックのスペースが限られているため、リヤシートヘッドレストの取り外しや取り付けを行うときは、シートバックを少し前に倒してください。

アームレスト

■ フロントシートアームレスト



■ リヤシートアームレストの操作



前に倒して使います。

▶▶ アームレスト



警告

シートベルト着用時にアームレストに引っ掛けない。

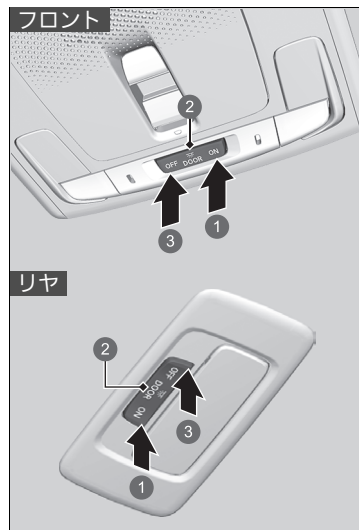
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アドバイス

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

室内灯スイッチ



- ① ON
- ② ドア連動
- ③ OFF

■ON

ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動

以下のときに室内灯が点灯。

- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF

ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に減光しながら消灯します。

以下の場合も約 30 秒後に消灯します。

- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

室内灯の消灯する時間をカスタマイズすることができます。

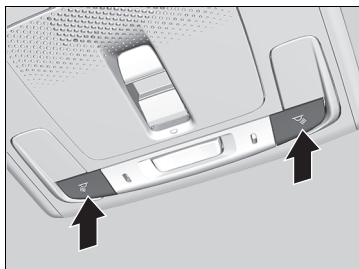
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席のドアを施錠したとき
- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

12V バッテリーが上がるおそれがあるため、パワーシステムが停止しているときは室内灯を長時間点灯させないでください。

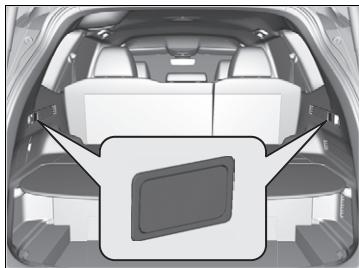
■ マップランプスイッチ



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

■ カーゴスペース照明灯



テールゲートを開けると点灯します。

※ 室内灯

パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。

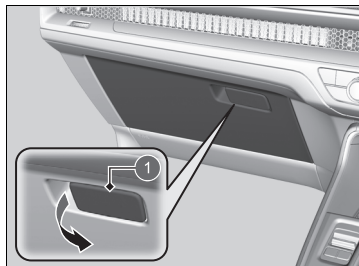
※ マップランプスイッチ

以下のときマップランプのスイッチを押しても消灯できません。

- 室内灯スイッチが ON のとき
- 室内灯スイッチがドア連動のときで、ドアが開いているとき

収納装備

■グローブボックス



① ノブ

ノブを引くと開きます。

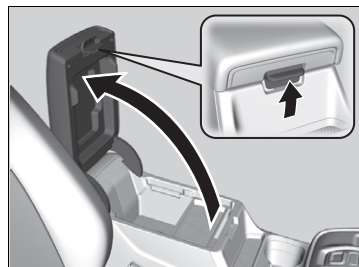
※グローブボックス



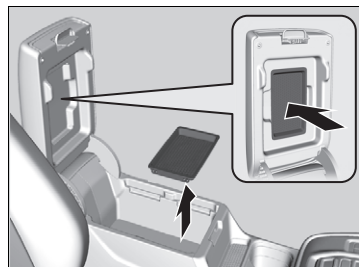
警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ センターコンソールボックス



ノブを引くと開きます。



■ トレーの取り外し

トレーは取り外すことができます。

取り外したトレーはアームレスト内側に収納することができます。

☒ センターコンソールボックス

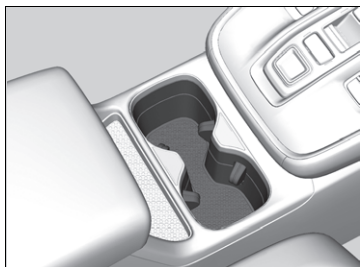


警告

走行中は必ずセンターコンソールボックスを閉める。

センターコンソールボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー



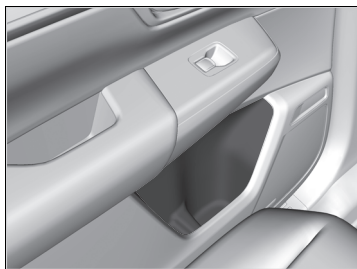
ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。

☒ドリンクホルダー

⚠ 注意

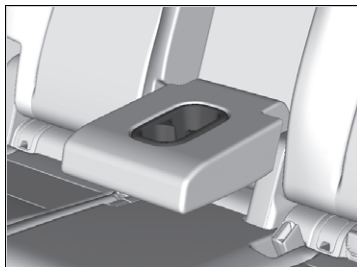
飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。



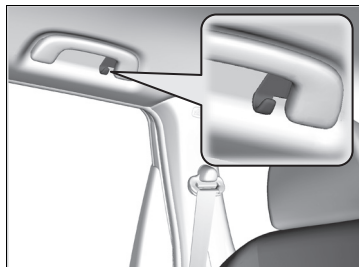
■リヤシート用ドリンクホルダー

ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。



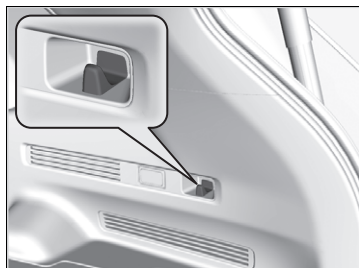
アームレストを前に倒して使います。

■コートフック



リヤシート運転席側のグラブレールに付いています。

■コンビニフック



軽い荷物をかけておくのに便利です。

※コートフック

⚠ 注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。

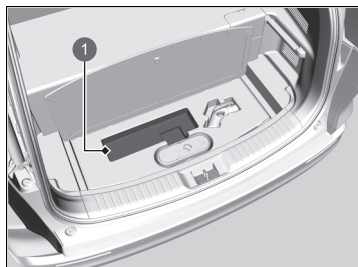
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

※コンビニフック

アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの(約 3kg 以上)や大きいものをかけないでください。

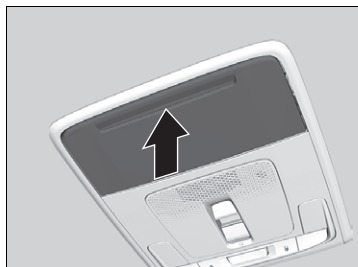
■ 停止表示板入れ



① 停止表示板入れ

カーゴリッドの下にあります。

■ サングラスボックス



矢印部を押すと開きます。
もう一度押すと格納されます。

サングラスなどを入れることができます。

☒ 停止表示板入れ

収納可能な停止表示板のサイズは以下の通りです。

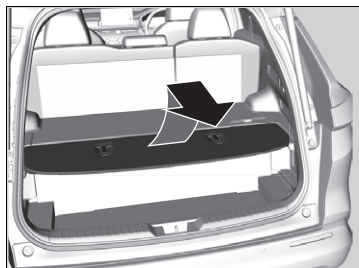
- 長さ …433mm 以下
- 高さ …54mm 以下
- 幅 …123mm 以下

☒ サングラスボックス

炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。
レンズやフレームが、変形やひび割れをおこすことがあります。

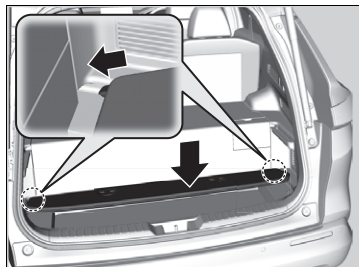
開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

■フレキシブルボード



■フレキシブルボードを下段へ移動する

1. フレキシブルボードの手前側を上へ持ち上げ、引き出す。
2. フレキシブルボードの先端をくぼみへさしこみ、手前側を降ろす。



※フレキシブルボード

⚠ 注意

走行中は荷物の出し入れをしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

フレキシブルボードの上、およびカーゴスペースには人を乗せて走行しない。

ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

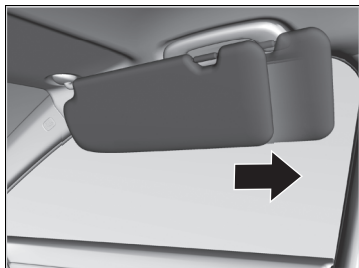
アドバイス

フレキシブルボードが破損するおそれがありますので、上段で使用するときは重いもの(約30kg以上)をおかないでください。

フレキシブルボードは確実にセットしてください。

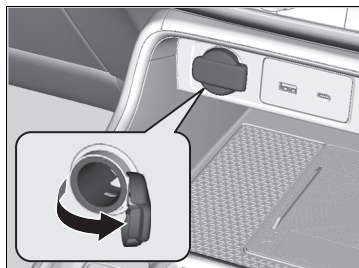
その他の室内装備品

■ サンバイザー



サンバイザーは横に伸ばして使えます。

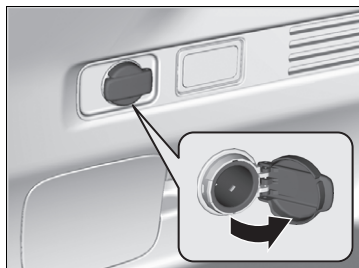
■アクセサリースOCKET



パワーモードがアクセサリモード、または ON モードのときに使用できます。

■フロントコンソール

カバーを開けて使います。



■カーゴスペース

カバーを開けて使います。

※アクセサリースOCKET

⚠ 注意

アクセサリースOCKETや USB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。

電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりする恐れがあります。

シガレットライターは差し込まないでください。

発熱するおそれがあります。

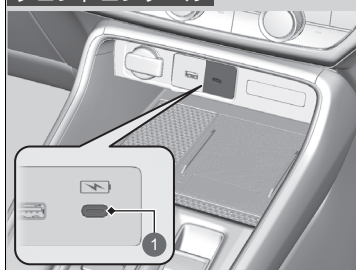
消費電力 180W(15A)以下のアクセサリに、直流 12V の電源を供給します。

12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

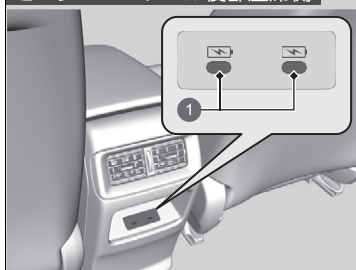
使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

充電専用 USB ジャック

フロントコンソール



センターコンソール後部座席側



① USB ジャック

充電する機器の USB ケーブルを USB ジャックに接続します。

▶ 車のマークがある USB ジャックは充電専用 (3.0A) です。

充電専用 USB ジャック

接続した機器を車内に放置しないでください。

USB 延長コードを使用すると、充電できない場合があります。

ハードディスクやカードリーダー、メモリーリーダーは機器およびデータが破損することがあるため、使用しないでください。

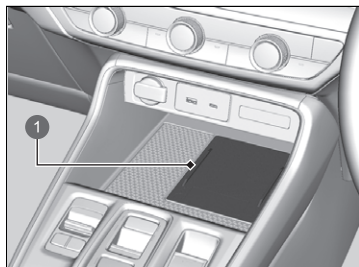
誤って接続した場合はパワーモードを OFF モードにしてから取り外してください。

データ破損のおそれがあるため、ファイルのバックアップをおすすめします。

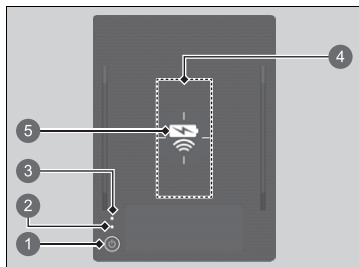
充電器が高温になった場合、充電停止する場合があります。

接続した機器の種類によっては充電できない場合があります。

■ワイヤレス充電器



① ワイヤレス充電器



- ① 電源スイッチ
- ② インジケーター(グリーン)
- ③ インジケーター(オレンジ)
- ④ 充電エリア
- ⑤ Qiマーク

パワーモードがアクセサリモード、またはONモードのときに使用できます。ワイヤレス充電規格 Qi に適合した機器をワイヤレス充電器の充電エリアの上に置くことで充電できます。

電源スイッチを長押しすることで、電源のON/OFF が切り替わります。

▶ 電源が ON のときはインジケーター(グリーン)が点灯します。

ワイヤレス充電器がONのとき、対応機器を充電エリアに置くと、充電を開始します。このとき、インジケーター(オレンジ)が点灯します。

▶ 対応機器の充電面を下にして、充電エリアの中央に置いてください。

充電が完了すると、インジケーター(グリーン)が点灯します。

▶ 対応機器によっては、充電完了後もインジケーター(オレンジ)が点灯し続ける場合があります。

☒ワイヤレス充電器

⚠警告

以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至る恐れがあります。

- ワイヤレス充電器と対応機器の間に金属類を挟んだ状態で充電しない。
- タオルなどをかぶせた状態やほこりが被った状態で充電しない。
- 水や飲料物等で機器を濡らさない。
- 油類、アルコール、ベンジン、シンナーなどで拭いたり、ヘアスプレー、殺虫剤などをかけたりしない。

ワイヤレス充電を行う際は、対応機器に付属の取扱説明書もお読みください。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。

12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

ワイヤレス充電器は最大 15W 充電に対応していますが、機器や条件によって充電の電力は変化します。

※ワイヤレス充電器

注意

ペースメーカー(植え込み型心臓ペースメーカーおよび除細動機能なし植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ)およびICD装着のお客様は、充電時にはワイヤレス充電器から 22cm 以内に植込み部位を近づけない。

充電によりペースメーカーおよびICDの動作に影響を与える恐れがあります。ご使用になる前に医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

充電中に充電エリア内に磁気記録メディアや精密機器などを置かない。

磁気の影響により、クレジットカードや ETC カードなどのデータが消えることがあります。また、腕時計などの精密機器は故障するおそれがあります。

“Qi” 及び、 マークはワイヤレスパワーコンソーシアム(WPC)の登録商標です。

ワイヤレス充電器上の対応機器が充電状態のときに、オーディオ/インフォメーション画面の画面上にマークが表示されます。

■充電できないときは

次の表に基づき、対処してください。

インジケーター		エラー原因	対処方法
グリーン & オレンジ	同時点滅	対応機器と充電エリアの間に異物がある	対応機器と充電エリアの間にある異物を取り除く。
		充電エリアから対応機器がずれている	充電エリア中央の☼マーク付近に置き直す。
		ワイヤレス充電器内部の温度上昇	一旦充電を停止し、しばらくたってから充電を開始してください。
オレンジ	点滅	ワイヤレス充電器の故障	指定の Honda 販売店へご相談ください。

☼ワイヤレス充電器

次のような場合は充電できないことがあります。

- 対応機器が満充電
- 対応機器が高温になっているとき
- テレビ塔や発電所、ガソリンスタンドなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ワイヤレス充電に対応していないカバーやアクセサリーが対応機器に取り付けられている

充電エリアに対応機器の充電面を接地できない形状、サイズの機器には本機能を使用できません。また、機器によっては、正常に作動しない場合があります。

充電中や充電直後は、充電エリアと対応機器が温かくなりますが、異常ではありません。

次のような場合、充電を一時的に停止することがあります。その後、自動的に充電は再開します。

- Honda スマートキーシステムへの影響を避けるため、すべてのドアを閉めたとき

充電するときは、同時に複数の機器を充電しないでください。

❏ ワイヤレス充電器

対応機器が高温になり、対応機器のバッテリー保護機能が作動した場合、充電速度が著しく低下し、または、充電停止する場合があります。

バッテリー保護機能が作動する温度は対応機器によって異なります。

■ステアリングヒーター



パワーモードが ON モードのときに使用できます。

スイッチを押すと表示灯が点灯し、ハンドルを暖めることができます。停止するときは、再度スイッチを押し、表示灯を消します。

▣ステアリングヒーター

⚠ 注意

低温やけどに注意する。

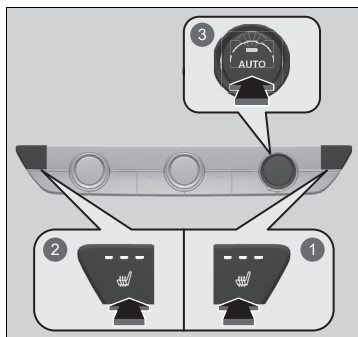
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱い人
- 疲労の激しい人

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。

12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

シートヒーター



- ① 運転席シート
ヒータースイッチ
- ② 助手席シート
ヒータースイッチ
- ③ **AUTO** スイッチ

パワーモードがONモードのときに使用できます。

スイッチを押すたびに設定が切り換わります。

- 1 回目 - 高：インジケーターが 3 個点灯
- 2 回目 - 中：インジケーターが 2 個点灯
- 3 回目 - 低：インジケーターが 1 個点灯
- 4 回目 - OFF：インジケーターが消灯

パワーモードを一度OFFモードにしてから再度ONモードにしても、前回と同じ設定で復帰します。

AUTO を押したとき：

エアコンに連動して作動し、環境に応じて適切な温度に自動で切り替わります。

- ▶ スイッチ操作をした場合は手動の設定に切り替わります。

シートヒーター

⚠ 注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いのかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいため、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。

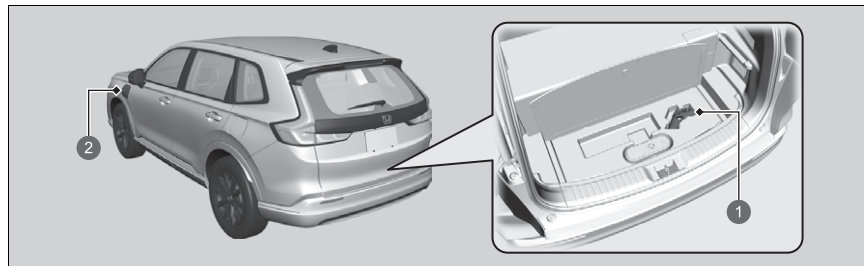
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

ある程度時間が経過するとシートヒーターの設定が自動で一段階低くなり、最終的に OFF になります。
経過時間は使用環境により異なります。

助手席に荷物などを置くと、センサーが重量を検知して作動する事があります。

自動で作動させたくない場合は、シート温度調節を OFF にすることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■ パワーサプライコネクター



① パワーサプライコネクター

② 充電リッド

車両から電気機器へ給電することが出来ます。

パワーサプライコネクターを使用する前に下記の項目を確認してください。

- パワーサプライコネクターが破損していないか？
 - ▶ 破損している場合は、指定の Honda 販売店に連絡をしてください。
- パワーサプライコネクターや充電口 / 給電口に異物が入っていないか？
 - ▶ 異物が入っている場合は、指定の Honda 販売店に連絡をしてください。
 - ▶ パワーサプライコネクターおよび充電口 / 給電口は常に清潔な状態にしてください。
- パワーサプライコネクターが水で濡れていないか？
 - ▶ 濡れた手で使用しないでください。パワーサプライコネクターが水で濡れている場合は、十分に乾かしてから使用してください。

☒ パワーサプライコネクター

⚠ 警告

車庫、倉庫、トンネル内などの換気の悪い場所では使用しないでください。

換気の悪い場所は、酸素不足の危険があります。

⚠ 注意

以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

- 落雷のおそれがあるときは給電を行わない
- この機器のコネクターや電源プラグ差込口、電気機器のプラグが濡れた状態でこの機器を使用しない
- 濡れた手で本機を使用しない
- パワーサプライコネクターを分解や改造しない
- パワーサプライコネクターが破損もしくは故障している場合は使用しない

適切な指示、説明なしでは絶対に本機を操作させないでください。また、お子さまには操作させないでください。

▶▶▶ パワーサプライコネクタ

 注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、給電の操作はご自身で行わないでください。

給電時は、車両、パワーサプライコネクタ、ケーブルに近づかないでください。機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

消費電力 1,500W(15A)以下のアクセサリに、交流 100V の電源を供給します。

車両の状態によっては、自動的に給電が停止することがあります。

アース線のある電気機器を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。

消費電力が 1,500W(15A)以下であっても、次のような電気製品は正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- 極めて安定した電力供給を必要とする電気製品
- プログラム機能やタイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

⌘ パワーサプライコネクター

以下の状態では使用できません。

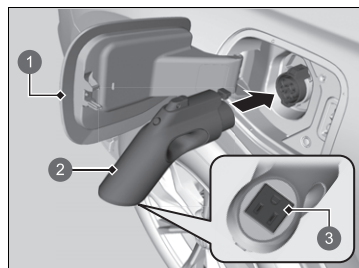
- 水素残量が少ないとき
- 車内が高温、または低温のとき

使用する電気機器によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

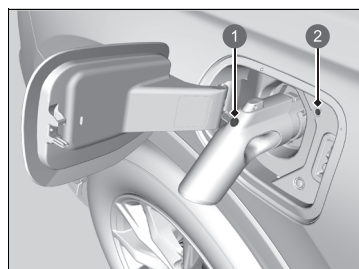
工場出荷時、電源周波数は50Hzに設定されています。使用する電気機器側で50Hz/60Hzの切り換えができる場合は、車両側に設定を合わせてください。車両側の電源周波数を切り換えたい場合は、指定の Honda 販売店にご相談ください。

パワーサプライコネクターに汚れや水滴が付着している場合は、乾いたきれいな布で拭き取ってください。水洗いやケミカル類を使用での掃除は行わないでください。

この装備はこの車専用です。



- ① 充電リッド
- ② パワーサプライコネクター
- ③ 電源プラグ差込口



- ① 給電開始ボタン
- ② 表示灯

■給電のしかた

1. シフトポジションが[P]でブレーキペダルを踏みながら **POWER** を押し、パワーシステムを起動する。

2. 充電リッドを開ける。

▶ 充電リッドの開け方については、下記を参照してください。

❏ 普通充電 P.404

3. パワーサプライコネクターの電源プラグ差込口に電気機器のプラグを差し込む。

4. 充電口 / 給電口にパワーサプライコネクターを差し込む。

5. パワーサプライコネクターの給電開始ボタンを2回連続で押す。表示灯がゆっくり点滅(ホワイ)し、スイープ点灯(ブルー)へ変わります。

6. 電気機器の電源を入れる。

7. パワーシステムを停止する。

8. ドアを閉めて、ドアロックする。

❏給電のしかた

アドバイス

給電を停止する残燃料量を設定し自動的に給電を止めることが出来ます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

パワーサプライコネクターはパワーモードをONモードのままでも使用できます。

パワーモードをONモードのまま使用している時に、給電が自動的に停止してもパワーモードはOFFモードにはなりません。

12V バッテリーがあがるおそれがあるため、以下の理由で給電が自動的に停止したときは、すみやかにパワーモードをOFFモードにしてください。

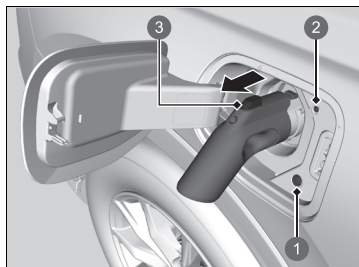
- 車両の水素残量が少なくなったとき
- 消費電力が給電可能電力を超えたとき
- 接続やシステムに異常があるとき
- 漏電しているおそれがあるとき

パワーサプライコネクターを使用している時は、車両から離れないでください。

外部給電機能を使用している時に、パワーサプライコネクターを併せて使用することはできません。

たこ足配線はしないでください。

コードリールを使用するときは、コードをすべて引き出してから使用してください。



- ① ロック解除ボタン(車両側)
- ② 表示灯
- ③ ロック解除ボタン(パワーサプライコネクタ側)

■停止のしかた

1. 電気機器の電源を OFF にする。
2. Honda スマートキーを携帯した状態で車両側のロック解除ボタンを押す。表示灯がゆっくり点滅(ホワイト)し、しばらくしたのち点灯(ホワイト)に変わります。
3. パワーサプライコネクタのロック解除ボタンを押し、パワーサプライコネクタを引き抜く。
4. パワーサプライコネクタの電源プラグ差込口から電気機器のプラグを引き抜く。
5. 充電リッドを閉める。

※停止のしかた

アドバイス

気温が低いときなど、パワーサプライコネクタが氷結して取り外せないときは、40℃以下のぬるま湯をかけて氷を溶かし、水分を十分にふき取ってから、パワーサプライコネクタを引き抜いてください。

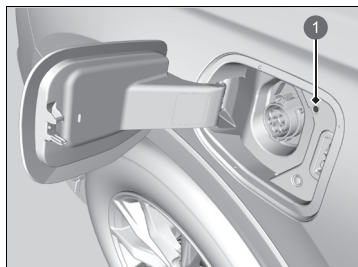
氷解剤や熱いお湯で溶かすと、破損や故障するおそれがあります。

再度パワーサプライコネクタを接続するときは、十分に乾かしてから、パワーサプライコネクタおよび充電口/給電口が濡れていないことを確認してください。

パワーモードをONモードで使用している場合は、12V バッテリーがあがるおそれがあるため、給電終了後はすみやかにパワーモードをOFFモードにしてください。

パワーサプライコネクタが外れない場合は、下記のページを参照してください。

❖ 充電/パワーサプライコネクタが抜けるとき P.501



1 表示灯

■表示灯

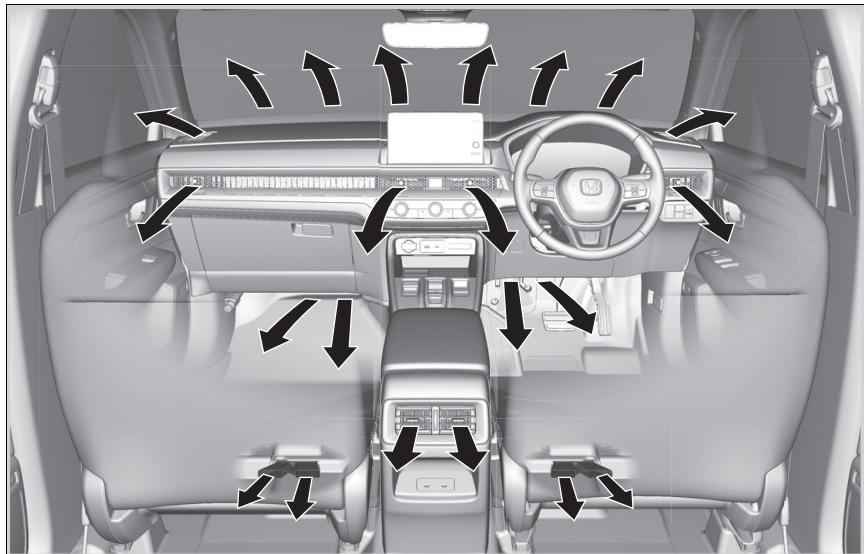
パワーサプライコネクターの状態を表します。

表示灯の状態	説明
ゆっくり点滅(ホワイト)	パワーサプライコネクター準備中
スロープ(ブルー)	パワーサプライコネクター給電中
点滅(レッド)	- 給電システムが異常のとき ▶ 給電は開始されません。
点灯(レッド)	- パワーサプライコネクターが正しく差し込まれていない。 ▶ パワーサプライコネクターを車両に接続する際は、パワーサプライコネクターが傾かないように奥まで差し込んでください。 - 外部給電機と同時に接続されている。
点灯(ホワイト)	- 操作して給電が停止した。 - 給電下限水素残量設定で給電が自動で停止した。 - パワーサプライコネクターの取り外し操作が完了した。

エアコン

エアコンの吹き出し口

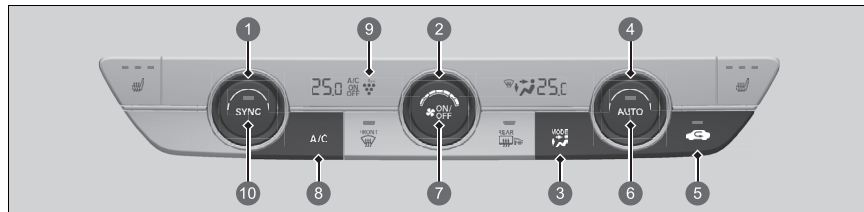
■吹き出し口の位置



オートエアコンの使いかた

パワーシステムを起動した状態で使用します。

1. **AUTO** を押す。
2. 温度調節ダイヤルで温度を調節する。
3. 停止するときは、**ON/OFF** を押す。



- | | |
|--------------------|----------------------|
| ① 助手席側温度調節ダイヤル | ④ 運転席側温度調節ダイヤル |
| ② ファンスピード切り換えダイヤル | ⑤ 内外気切り換えスイッチ |
| ③ MODE スイッチ | ⑥ AUTO スイッチ |
| • 上半身送風 | ⑦ ON/OFF スイッチ |
| • 足元送風、上半身送風 | ⑧ A/C スイッチ |
| • 足元送風 | ⑨ プラズマクラスターマーク |
| • 足元送風、窓ガラスの曇り取り | ⑩ SYNC スイッチ |

※オートエアコンの使いかた

オート(AUTO)で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき **AUTO** の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、**AUTO** を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

高電圧バッテリーの残量が少なくなきエアコンの効きが弱くなる場合があります。

ON/OFF を押すたびに ON や OFF に切りかわりません。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

フロントシートヒーターの取り扱いについては、下記を参照してください。

■ シートヒーター P.205

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせてを押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯)：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯)：換気を行う場合

■除湿暖房

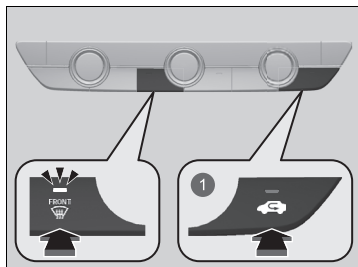
AUTO で使用中、自動で除湿暖房となります。

AUTO でない時、暖房中に**A/C**を押して**A/C** ON にすると除湿暖房となります。

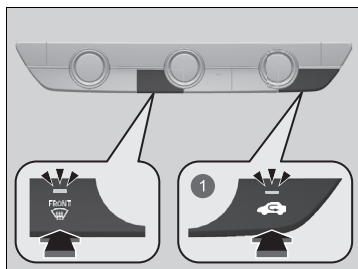
※オートエアコンの使いかた

パワーモードをONモードにしたときには、前回と同じ設定になります。また、Honda スマートキーに刻印されている番号ごとにエアコンの設定を記憶します。

前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



① 外気導入(表示灯消灯)



① 内気循環(表示灯点灯)

を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。

■急速に霜を取りたいとき

1. を押す。
2. を押す。

※前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

安全のため、運転する前に視界が確保されていることを確認してください。

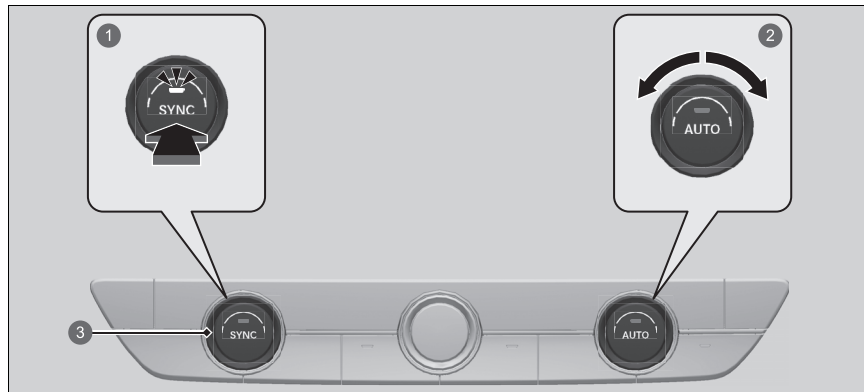
設定温度を最大冷房付近にしないでください。

冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

連動作動(シンクロ)モード



- ① SYNC スイッチ
- ② 運転席側温度調節ダイヤル
- ③ 助手席側温度調節ダイヤル

エアコンの設定操作を独立モードから連動作動モードに切り換えます。
運転席側と助手席側の設定温度を連動させて設定することができます。

1. **SYNC** を押す。
▶ 連動作動モードに切り換わります。
2. 運転席の温度調節ダイヤルで室内の温度を設定する。

独立モードに戻すときは、**SYNC** を押すか、助手席側の温度調節ダイヤルを操作します。

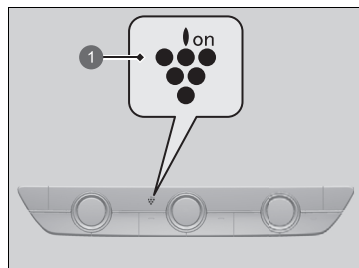
連動作動(シンクロ)モード

 を押すと、連動作動モードに切り換わります。

独立モードの場合は、エアコンの設定温度を運転席側と助手席側で個別に設定できます。

連動作動モードにすると、運転席側の設定温度に切り換わります。

■ プラズマクラスター



① プラズマクラスターマーク

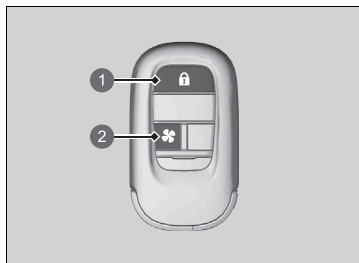
エアコンもしくは送風に連動してプラズマクラスターも作動し、マークが点灯します。

▶ プラズマクラスター

プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、Plasmaclusterはシャープ株式会社の登録商標です。

■お出かけ前エアコン

キーレスエントリーシステムを使用してオートエアコンの作動 / 停止が行えます。
走行前にオートエアコンを作動させて、車内の温度を快適にしておくことができます。



- ① 施錠ボタン
- ② エアコンボタン

■作動させるとき

1. 施錠ボタンを押す。
▶ 非常点滅表示灯が 1 回点滅します。
2. 施錠ボタンを押してから約 5 秒以内に、エアコンボタンを長押しする。
▶ 非常点滅表示灯が 1 回点滅します。
▶ 数秒後に非常点滅表示灯が 6 回点滅し、オートエアコンが作動します。

■停止するとき

- エアコンボタンを長押しします。
- ▶ 非常点滅表示灯が 1 回点滅し、オートエアコンが停止します。

⌘お出かけ前エアコン



警告

お子さまや介護を必要とされる方、ペットだけを車内に残さない。

キーレスエントリーシステムでエアコンを使用したとしても、タイマーなどにより、エアコンは自動で停止します。車内が高温または低温になり、重大な傷害、または死亡に至る事故につながるおそれがあります。

次の場合、オートエアコンは作動しません。

- パワーモードが OFF モード以外するとき
- シフトポジションが[P]以外するとき
- ボンネットが開いている、またはいずれかのドア、テールゲートが解錠されているとき
- パワーモードを ON モードにせずにお出かけ前エアコンを 3 回目に操作するとき
- Honda スマートキーがもうひとつ車内にあるとき
- アンテナに異常があるとき
- 内蔵キーでドアを解錠したとき
- テレマティクスユニットに異常があるとき
- セキュリティアラームシステムがセットされていないとき
- バッテリーの容量が低いとき

❖お出かけ前エアコン

次の場合、オートエアコンは自動で停止します。

- お出かけ前エアコンを作動させ、10 分以内に走行しないとき(お出かけ前エアコン作動中にもう一度エアコンボタンを操作すると、再度 10 分間オートエアコンが作動します。)
- キーレスエントリーシステムでお出かけ前エアコンを停止したとき
- セキュリティアラームシステムがセットされていないとき
- 内蔵キーでドアを解錠したとき
- ボンネットが開いている、またはいずれかのドア、テールゲートが解錠されている。
- シフトポジションが[P]以外のとき
- バッテリーの容量が低いとき

充電プラグを接続していても、充電環境によっては高電圧充電量が低下する場合があります。

❖ お出かけ前エアコン

周囲の温度状況に応じて、以下の機能が自動的に設定されます。

外が暖かいとき：

- エアコンが内気循環で作動します

外が寒いとき：

- 前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)が作動します
- リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラーが作動します
- シートヒーターとステアリングヒーターが作動します

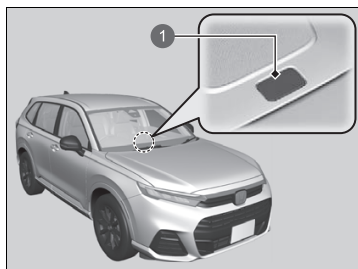
❖ シートヒーター P.205

❖ ステアリングヒーター P.204

お出かけ前エアコンの温度や作動時間、デフロスター連動、作動スケジュールを変更することができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

オートエアコンのセンサー



① センサー

オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



① センサー

本機は、一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン(V2H DC 版、V2L DC 版)に準拠しています。電動自動車用充放電システムガイドライン(V2H DC 版または V2L DC 版)に適合した機器との接続・通信の互換性はありますが、供給できる電力、給電可能時間、その他機能については、機器の組み合わせにより異なります。ご使用の際は、必ず本機ならびに接続する機器の取扱説明書をご確認ください。

本機を電動自動車用充放電システムガイドライン(V2H DC 版または V2L DC 版)に適合した機器と接続することで、電気機器へ電気を供給できます(高温 / 低温環境下では出力制限や、停止する場合があります)。

給電を始める前に下記の項目を確認してください。

- 給電口に異物が入っていないか？
 - ▶ 異物が入っている場合は、指定の Honda 販売店にご相談ください。
給電口は常に清潔な状態にしてください。
- 給電口を水で濡らさないか？
 - ▶ 水の近くや濡れた手で使用しないでください。
- 給電口と接続先の給電コネクタは直接接続されているか？
 - ▶ 延長コード等は使用しないでください。

外部給電のしかた



警告

以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

- 落雷のおそれがあるときは給電を行わない
- 雨の中や水のかかる場所で、本機を使用しない
- 濡れた手で本機を使用しない
- 給電コネクタや給電ケーブルが破損している場合は使用しない

電力会社からの電気配線や屋内配線には絶対接続しない。

本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。

適切な指示、説明なしでは絶対に本機を操作させないでください。また、お子さまには操作させないでください。

■外部給電のしかた

 警告

車庫、倉庫、トンネル内などの換気の悪い場所では使用しないでください。

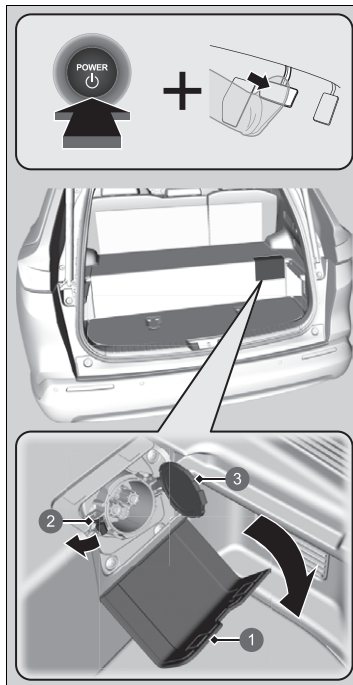
換気の悪い場所は、酸素不足の危険があります。

 注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、給電の操作はご自身で行わないでください。

給電時は、車両、本機、給電ケーブルに近づかないでください。機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

給電の準備



- ① カバー
- ② ノブ
- ③ 給電口キャップ

1. シフトポジションが **P** でブレーキペダルを踏みながら **POWER** を押し、パワーシステムを起動する。
2. テールゲートを開ける。
■ テールゲートの開閉 P.140
3. カバーを開ける。
4. ノブを押して給電口キャップを開ける。

外部給電のしかた

電力会社からの電気配線から分離して使用できる非常時の給電システムなどに給電する場合は接続先システムの製造業者、販売業者などに事前に相談してください。

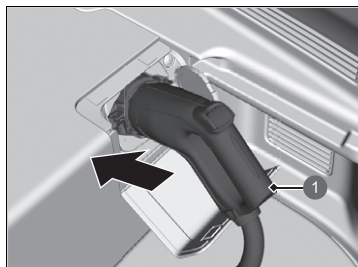
医療用電気機器を使用するときは、医療機器メーカー・医師・病院等に事前に相談してください。

精密機器を使用するときは、他の電気機器の干渉がないことを確認してください。

外部給電機能を使用している時に、パワーサンプライコネクターを併せて使用することはできません。

給電の準備

給電中は、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。



① 給電コネクタ



5. 給電コネクタを給電口に確実に挿し込む。

6. 接続先の機器を操作する。

▶ 接続先の機器の取扱説明書を確認してください。

▶ 車両側のシステム準備のため、電源を入れてから給電開始するまで数分かかることがあります。

7. 車両の **POWER** を押して、パワーモードを OFF モードにする。

給電の準備

アドバイス

外部給電が自動的に停止してもパワーモードは OFF モードになりません。

12V バッテリーがあがるおそれがあるため、以下の理由で外部給電が自動的に停止したときは、すみやかにパワーモードを OFF モードにしてください。

- 車両の燃料が少なくなったとき
- 消費電力が給電可能電力を超えたとき
- 接続やシステムに異常があるとき
- 漏電しているおそれがあるとき

外部給電中は車両から離れないでください。車両から離れるときは、外部給電を中止し、車両を施錠してください。

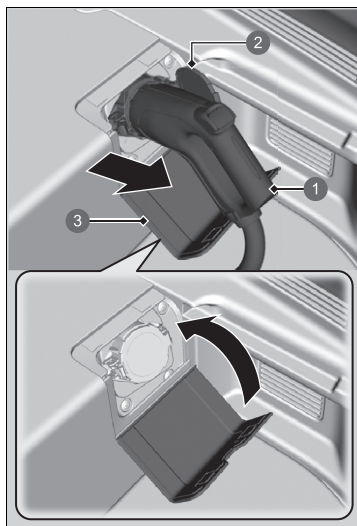
給電中はカーゴルームランプが点灯しますが、30 分で自動消灯します。

給電中はテールゲート開いている事を知らせる警告表示が点灯します。

■ 停止のしかた

1. 電気機器の電源を切り、外部給電器のコンセントからプラグを抜く。
2. 接続先の機器の電源を切る。

■ 給電コネクターの取り外し



1. 給電コネクタを給電口から取り外す。
▶ 接続先の機器の取扱説明書を確認してください。
2. 給電口キャップとカバーを閉める。
3. テールゲートを閉める。

■ テールゲートの開閉 P.140

- ① 給電コネクタ
- ② 給電口キャップ
- ③ カバー

オーディオ

オーディオに関する情報は、
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



運転

この章では、運転操作、水素ガスの充てんなどについて記載しています。

運転の前に	230
運転操作	
パワーシステムの起動	233
走行時の注意点	237
トランスミッションについて	239
シフト操作	240
減速セレクト	245
車両接近通報装置	248
ドライブモードスイッチ	249
ヒルディセントコントロール	253
VSA (ピークルスタビリティアシスト)	255
アジャイルハンドリングアシスト	257
ブラインドスポットインフォメーション ..	258
寒冷時の FC システムの特性	262

Honda SENSING	264
各機能を作動させるためのスイッチと表示	265
衝突軽減ブレーキ (CMBS)	267
踏み間違い衝突軽減システム	277
路外逸脱抑制機能	283
歩行者事故低減ステアリング	291
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)	298
車線維持支援システム (LKAS)	321
トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能)	333
先行車発進お知らせ機能	342
標識認識機能	346

フロントセンサーカメラ	352
レーダーセンサー	354
ソナーセンサー	356
ブレーキ操作	357
ブレーキシステム	357
ABS (アンチロックブレーキシステム) ..	366
電子制御ブレーキアシスト	368
エマージェンシーストップシグナル ..	369
駐停車操作	370
マルチビューカメラシステム	381
水素ガスの充てん	396
高電圧バッテリーの充電	399

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
 - ▶ 氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
 - **タイヤの点検と整備** P.433
- 車の周囲に子供はいないか？
車の周りに障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。
- 充電ケーブルが車に接続されていないか？
 - ▶ 充電ケーブルを取り外します。

車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。

凍結すると、キーが差し込めなくなります。

モータールーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
 - ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
 - ❏ 車内での施錠 / 解錠 P.135
- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
 - ❏ シートの調節 P.177
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
 - ❏ ミラー類の調節 P.173
 - ❏ ハンドルの調節 P.172

❏ 車内での確認項目

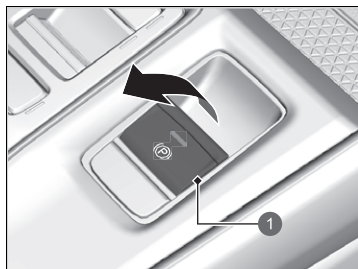
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

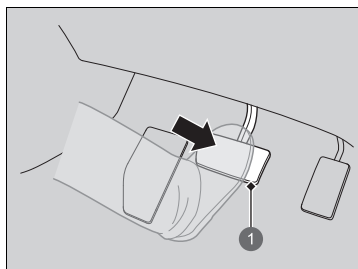
車に合ったフロアマットをお使いください。

- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
 - 📖 シートベルトの着用 P.44
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
 - 📖 警告灯 P.83

パワーシステムの起動



① パーキングブレーキスイッチ



① ブレーキペダル

1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。

▶ パーキングブレーキがかかっていると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が約30秒間点灯します。

2. 右足でブレーキペダルを踏む。

▶ パワーシステムの起動

⚠ 警告

12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。

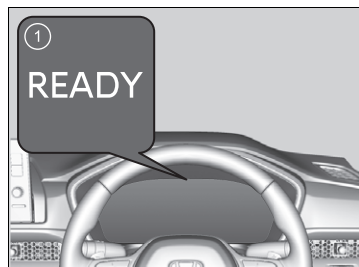
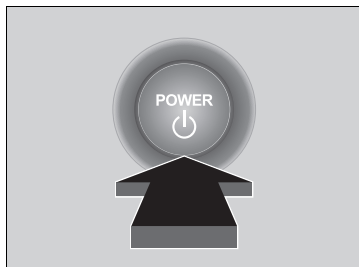
12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠ 注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリを OFF にしてから行います。

寒いときのパワーシステムの起動は、12Vバッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリをすべて OFF にしてから行ってください。



① READY 表示灯

3. ブレーキを踏んだままアクセルペダルを踏まずに、**POWER** を押す。

4. READY 表示灯の点灯を確認する。

- ▶ READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
- ▶ パワースシステムが起動すると、READY 表示灯が点灯し運転することができます。
- ▶ 外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。このとき、READY 表示灯が点灯せず、他のメッセージが表示されます。

❏ 表示灯 P.93

❏ パワースシステムの起動

POWER は、パワースシステムが起動するまで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで **POWER** に触れてください。

❏ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.471

Honda スマートキーが強い電波を受けていると、パワースシステムが起動しないことがあります。

パワースシステムが起動しない場合は、30 秒以上待ってから操作してください。

READY 表示灯が点灯している状態で、ブレーキペダルを踏んで **POWER** を押すとパワーモードがOFFになり、走行できなくなります。

❏ READY 表示灯 P.95

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。

そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワースシステムの起動ができません。

❏ イモビライザーシステム P.150

発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、READY 表示灯の点灯を確認し、シフトポジションを **[D]** にする。
▶ 後退する場合は **[R]** にします。
2. パーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。
▶ ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。
▶ 運転席シートベルトを装着していないと、発進時でも電子制御パーキングブレーキは自動解除されません。
❏ 電子制御パーキングブレーキ P.357

❏ パワーシステムの起動

パワーモードをONモードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けることがあります。ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

パワーシステムが低温のとき、マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム低温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」のメッセージが表示されることがあります。

パワーシステムが適正な温度に戻ると、メッセージが消えます。消えないときは、指定のHonda 販売店で点検を受けてください。

❏ 発進時の操作



注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

パーキングブレーキスイッチの操作で解除することもできます。

下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

■パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトポジションを **P** にする
▶ メーターのシフトポジション **P** が表示されるまでブレーキペダルを離さないでください。
2. **POWER** を押す。

※ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。

トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

※走行時の注意点

注意

減速の強さを変更する際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激な回生ブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護のはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

走行中はパワーシステムを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。

わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。パワーシステムや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

※走行時の注意点

走行中はシフトポジションを「N」にしないでください。

回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。

下り坂を利用した移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、FC システムやパワートレイン系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

※雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。

ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

トランスミッションについて

■ クリープ現象

パワーシステムが起動しているとき、シフトポジションが[P][N]以外に入っているとオートマチック装備のガソリン車と同様に、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

☒ クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

シフト操作

走行状態に応じてシフトポジションスイッチを押して切り換えます。

■シフトポジションの名称とはたらき



[P]パーキング

駐車またはパワーシステムを起動するとき

[R]リバース

車を後退

[N]ニュートラル

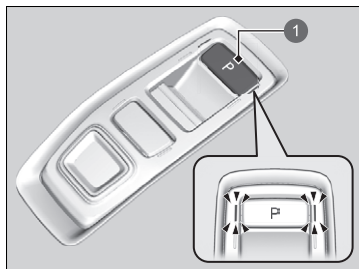
駆動力が伝達されない状態

[D]ドライブ

通常走行

- 一時的に減速セクターを使用するとき
- 減速セクターを使用するとき (SPORTモード走行時)

■パーキングスイッチ



① **[P]**スイッチ

パワーモードがONモードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションが**[P]**になり、スイッチのインジケーターが点灯します。

※シフト操作

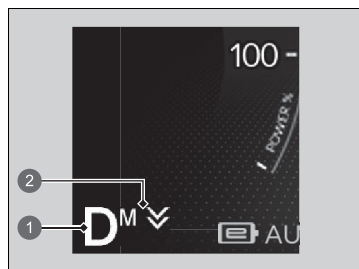
高電圧バッテリーの充電量が満充電に近い状態のとき、または高電圧バッテリーの温度が低いときは、回生ブレーキの効きが弱くなることがあります。

故障と予期しない作動を防止するため：

- シフトポジションスイッチに液体などをこぼさないでください。
- シフトポジションスイッチやまわりに、衝撃を与えたりものを落とさないでください。
- お子さまや運転者以外の方がシフトポジションスイッチを操作しないようご注意ください。

[N]のポジションの時にアクセルペダルを踏むとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを**[D]**または**[R]**にしてください。

シフトポジションの操作



- ① シフトポジション表示灯
- ② 減速セレクト表示灯

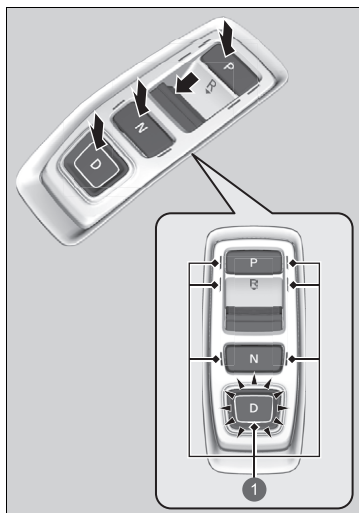
シフトポジションの操作

アドバイス

車両を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままシフトポジションを[D]から[R]または[R]から[D]に切り換えてください。

シフトポジションを[P]に切り換えるときは、メーターのシフトポジション[P]が表示されるまでブレーキペダルを離さないでください。

シフト操作前後に、シフトポジション表示灯とシフトポジション表示を確認してください。



① シフトポジション表示

- P** パーキングにするときは、**P**を押します
- R** 後退するときは、**R**を押します
- N** ニュートラルにするときは、**N**を押します
- D** 通常走行するときは、**D**を押します

シフトポジションの操作

走行中にトランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。
急加速を避け、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

外気温が非常に低い(マイナス 30 度以下)とき、シフトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずシフトポジションを確認してください。

Rのポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトポジションが**R**の位置になっていることを知らせます。

■ 自動パーキング選択制御

■ ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードが ON モードで車が停止、または、車速が 2km/h 以下のときに、**[P]**以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動で**[P]**になります。

■ パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションが**[P]**以外のまま、パワーモードを OFF モードにすると、シフトポジションが自動で**[P]**になります。

▶▶ ドア Open 自動パーキング選択制御

駐車をするときは、安全のために、運転席ドアを開ける前にシフトポジションを**[P]**にし、適切な方法により行ってください。

▶▶ 駐停車操作 P.370

この制御により**[P]**になった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

■シフトポジションの選択制限

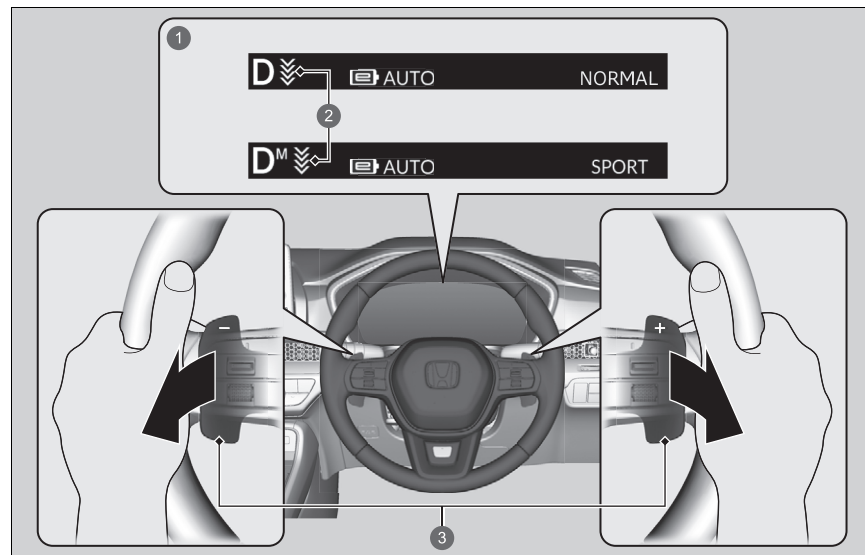
不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフト ポジション	1. 操作・走行状態	2. パーキングスイッチ・ シフトポジションの操作	3. 操作後のシフト ポジション	対処のしかた
P	ブレーキペダルを踏んでいない アクセルペダルを踏んでいる	他のシフトポジションを選択 する	P	アクセルペダルから足を 離し、ブレーキペダルを踏む
N	低速走行中で、ブレーキペダルを踏んでいない		N	
	低速走行中で、アクセルペダルを踏んでいる			
N D	前進している			
R N	後退している	D		
R N D	走行中	P		
P N	READY 表示灯が点灯していない	P N以外を選択する	P N	READY 表示灯の点灯を確認する

減速セクター

ハンドルにあるセクターで、アクセルペダルを離したときの減速の強さをハンドルから手を離さずに、4段階で変更できます。前走車との車間調整や坂道などで減速の強さを変更したいときに使用してください。

減速セクターの操作方法



- ① 減速セクター表示灯
- ② 減速の強さ
- ③ セクター

減速セクター

⚠ 注意

減速する際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激な減速がタイヤのスリップを招くことがあります。

■SPORT モードスイッチが OFF のとき

セクターを引くと一時的に減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さが表示されます。減速セクターをキャンセルするには、**[+]**のセクターを数秒間引き続けます。一定速度の走行や加速の状態、停止間際まで減速すると減速の強さは自動的に解除され表示は消灯します。

■SPORT モードスイッチが ON のとき

セクターを引くと減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さと M が表示されます。SPORT モード中は自動解除されません。解除する場合は、SPORT モードスイッチを OFF にするか、**[+]**のセクター(右側)を数秒間引き続けます。解除されると表示は消灯します。

※減速セクターの操作方法

以下の状態のときはセクターを引いても減速の強さが変更されずに表示が点滅します。また、自動的に減速の強さが弱くなったり解除されることがあります。

- 高電圧バッテリーが満充電時、低温時、高温時
- 車速が減速の強さの許容範囲外るとき
- パワーシステムの保護が必要なとき
- プレーキパッドが高温のとき
- シフトポジションを **[P]**、**[R]**または**[N]**にしたとき

渋滞追従機能付 ACC が作動しているときは減速セクターを使用できません。

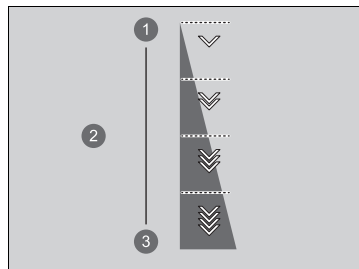
走行中にセクターを操作すると渋滞追従機能付 ACC 作動は解除されます。

左右のセクターを同時に操作すると、変更しないことがあります。

■共通の操作

減速の強さを変更するには

- **+**のセクター(右側)を引くと減速の強さが弱くなる
- **-**のセクター(左側)を引くと減速の強さが強くなる



- ① 弱
- ② 減速の強さ
- ③ 強

1回のセクター操作で、減速の強さを1段が変更します。

▶ セクターを引き続けても連続では変更しません。

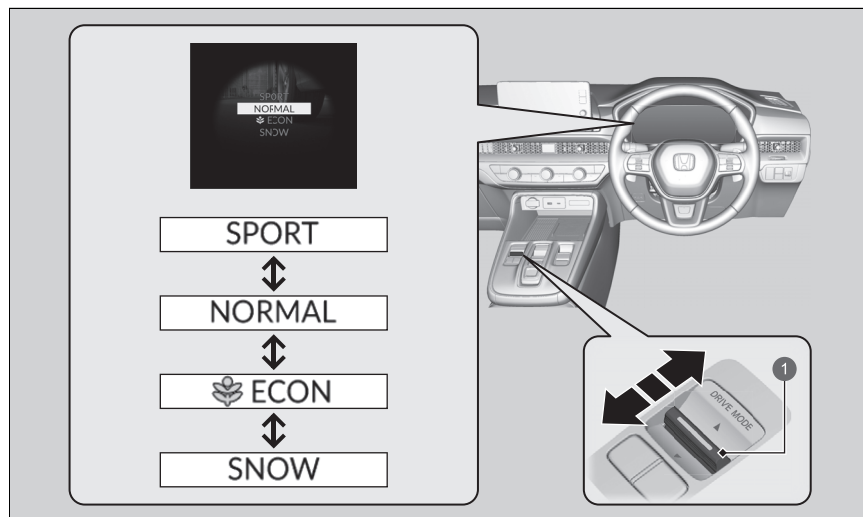
車両接近通報装置

約 25km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

ドライブモードスイッチ

選択したモードに応じた走行性能へ車両を制御します。

選択しているモードはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



① ドライブモードスイッチ

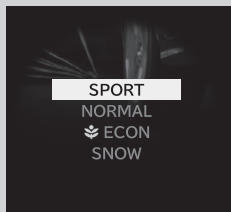
⚠ ドライブモードスイッチ

運転状況などによってはモードの変更ができない場合があります。

また、車両に異常があるときなども下記のメッセージが表示され、モードの変更ができません。

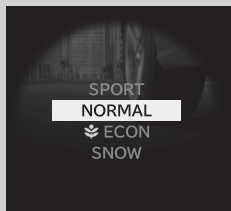


■ SPORT モード



運転操作に対しての応答性を高めたモードです。

■ NORMAL モード



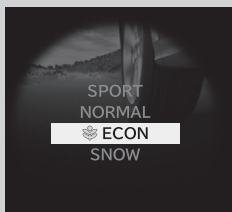
操作性と快適性のバランスを最適化したモードです。

▶▶ SPORT モード

EVモードを使用しているときに、SPORTモードを選択すると自動的に AUTO モードへ切り替わります。

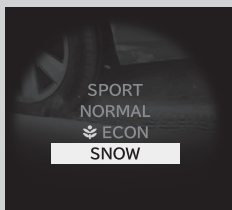
▶▶ **e ボタン** P.9

ECON モード



省燃費運転をしやすいモードです。

SNOW モード



パワートレインを制御して雪道での操作性を最大化したモードです。

❖ECON モード

ECON モードにするとエアコンの効きが弱くなり加速の応答性が低くなります。

❖SNOW モード

アドバイス

SNOW モードはあらゆる状況の積雪路や凍結した道路での走行を可能にするものではありません。あくまでも、運転者をアシストするためのモードです。

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

❖ 冬のタイヤ P.437

■再度パワーモードを ON にしたときのモード

再度パワーモードを ON にしたときのモードは、以下のとおりです。

最後に使用したモードは、Honda スマートキーの DRIVER1 と DRIVER2 に応じて記憶されます。

パワーモードを ON にする前のモード	パワーモードを ON にしたときのモード
SPORT モード	NORMAL モード
NORMAL モード	NORMAL モード
ECON モード	ECON モード
SNOW モード	NORMAL モード

ヒルディセントコントロール

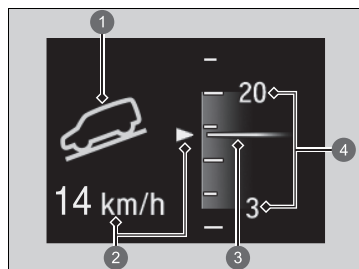
回生ブレーキだけでは十分に減速できない下り坂での走行中に、ブレーキペダルを踏むことなく車速を一定に保つよう支援する機能です。

ヒルディセントコントロールの作動条件

システムは以下の条件で作動します。

- 車速が約 3 ～ 20km/h で走行しているとき
- 下り坂を走行しているとき
- アクセルペダルとブレーキペダルを踏んでいないとき

マルチインフォメーションディスプレイの表示



- ① システムの作動状態
 - グリーン：作動中
 - ホワイト：スタンバイ
- ② 車速表示
 - ホワイト：設定車速
 - グレー：現在車速

▶ 作動車速を超過すると点滅します。
- ③ 現在車速
- ④ 設定可能車速

⚠ ヒルディセントコントロール



警告

ヒルディセントコントロールはあらゆる状況で車速を一定に保つことができるシステムではありません。

急な下り坂や滑りやすい路面を走行しているときは車速を一定に保つことができず、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

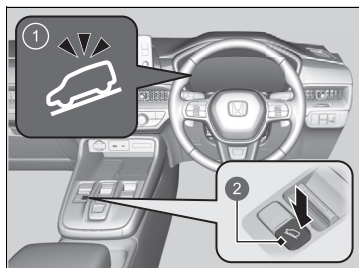
車両性能の限界を高めるためのものではないので、常に路面状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

システムによるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

緩やかな下り坂では作動しないことがあります。システムの作動状態をヒルディセントコントロール表示灯で確認してください。

下り坂でなくても段差を乗り越えるときなどに車両が傾くとシステムが作動することがあります。

■ヒルディセントコントロールの操作方法



- ① ヒルディセントコントロール表示灯
- ②  (ヒルディセントコントロール)スイッチ

■作動させるには

車速が約 20km/h 以下のときに  を押してシステムを ON にします。

- ▶ スタンバイ状態になりヒルディセントコントロール表示灯(ホワイト)が点灯します。

作動条件を満たすとシステムが作動し、下り坂で車速を一定に保つよう走行します。

- ▶ システムの作動中はヒルディセントコントロール表示灯(グリーン)が点灯します。

■設定車速を調整するには

アクセルペダルかブレーキペダルを踏み、作動範囲内で設定車速を調節します。ペダルを離すと、そのときの車速が設定車速になります。

■OFF にするには

 を押してシステムを OFF にします。

■ヒルディセントコントロールの操作方法

長時間連続して使用するとブレーキの温度が上昇し、一時的にシステムがスタンバイ状態になることがあります。

前回走行時にシステムをONにした状態でも、パワーモードを OFF モードにする度にシステムは OFF になります。

作動中はペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。

■OFF するには

車速が約 60km/h 以上になるとシステムは OFF になります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 ■ P.366

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

■電子制御ブレーキアシスト P.368

■VSA(ビークルスタビリティアシスト)

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSAが正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードをONモードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

このとき車速 20km/h 以上であれば走り続けると、これらの警告灯は消灯します。消灯しないときは、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

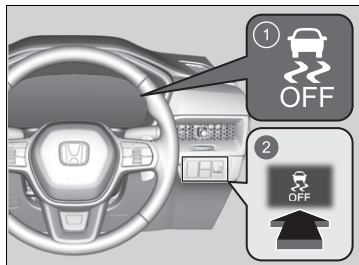
■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

- ① VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯

■ VSA の ON と OFF



- ① VSA OFF 警告灯
②  (VSA OFF) スイッチ

VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。

TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的にONになります。

▶▶ VSA の ON と OFF

新雪やぬかるみから脱出したいときに、で VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためモータールームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、前輪に軽いブレーキがかかることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とする機能です。

⚡アジャイルハンドリングアシスト

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。

安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

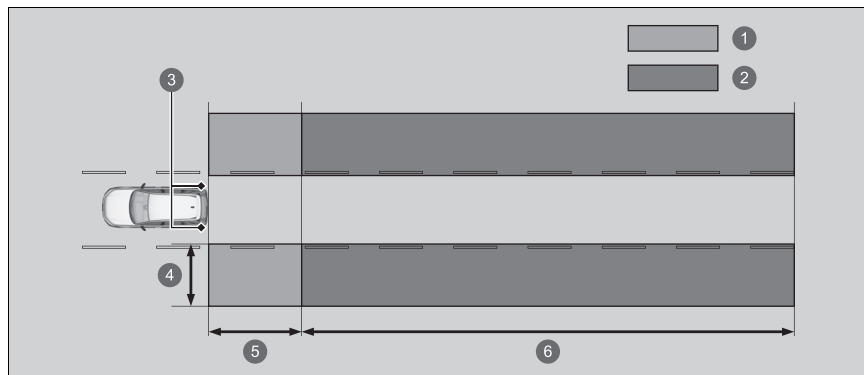
アジャイルハンドリングアシストが作動中、モータールームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ブラインドスポットインフォメーション

隣接する車線後方に他の車両が走行していることを知らせ、運転者の車線変更などの操作の際の負担を軽減するシステムです。

■ システムの作動条件

自車の车速が 20km/h 以上で前進しているとき、レーダーセンサーが検知範囲内に走行している車両を検知します。



- ① 検知範囲 1
- ② 検知範囲 2
- ③ レーダーセンサー：リアバンパーコーナーの内側にあります
- ④ 検知距離 A：側面から約 0.5 ～ 3m
- ⑤ 検知距離 B：リアバンパーから約 3m 後方
- ⑥ 検知距離 C：リアバンパーから後方約 3 ～ 25m(接近する車両が自車に対して速いほど、より遠くから検知します。)

※ ブラインドスポットインフォメーション



警告

車線変更の際は、目視やミラーなどで確認する。

状況により、車両を検知できない場合があります。直接確認をせずに車線変更を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

他の運転支援システムと同様に、ブラインドスポットインフォメーションには制限があります。

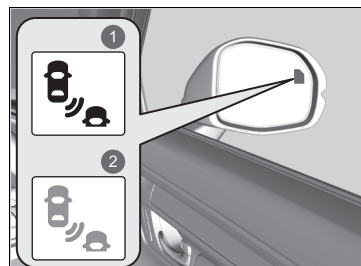
以下の場合、指定の Honda 販売店にご相談ください。

- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺に衝撃が加わったとき
- 検知範囲内を他の車両が走行しているときに警告灯が点灯しないことが続くとき
- リヤバンパーや関連するシステムの修理を行うとき

リヤバンパーや関連するシステムの修理を行うと、再度システムが調整を行うまでは検知範囲は工場出荷直後の状態(検知範囲 1)になります。

工場出荷直後の検知範囲は検知範囲1です。路側に設置物があり、交通量のある直線道路を一定時間走行することで、システムが調整を行い、検知範囲が広くなります(検知範囲1と2)。

■システムが車両を検知したとき



① 点灯

② 点滅

ブラインドスポットインフォメーション警告灯：両側のドアミラー内にあります。

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する条件：

- 他の車両が、自車より車速約 50km/h 以下の車速差で追い越しのために後方から接近してきたとき
- 約20 km/h 以下の車速差で他の車両を追い越したとき

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点滅し、警報音が鳴る条件：

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯している状態で、検知された車両の方向に方向指示器(ウィンカー)スイッチを操作したとき

▶ 警報音は3回鳴ります。

※ブラインドスポットインフォメーション

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺は常にきれいにしておく
- リヤバンパーの周辺にシールなどを貼り付けない

他の車両が検知範囲内を走行している場合でも、以下のように作動することがあります。

- ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯せず、マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットインフォメーションがセンサーの汚れ/高温のため作動しません」と表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットインフォメーションがセンサーの汚れ/高温のため作動しません」と表示されていても、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

📺 表示の切り換えかた P.107

📺 安全支援情報 P.115

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

📺 ブラインドスポットインフォメーション

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

このとき車速 20km/h 以上でしばらく走行すると、これらの警告灯は消灯します。消灯しないときは、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

📺 システムの ON と OFF

警報音、警報表示の設定をカスタマイズすることができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■ ブラインドスポットインフォメーションの条件と制限

以下のような場合、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯しないことがあります。

- 自車と隣接する車線を走行する車両との速度差が大きいとき
- 隣接する車線に駐車車両があるとき
- レーダーセンサーによって検知されていないものに接近したり、通過したりしたとき
- 自車と隣接する車線を走行する車両が二輪自動車などの小型な車両のとき

以下の場合、システムが影響を受け正確に表示しないなどの可能性があります。

- 交差点を右左折しているとき
- 路側の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を検知したとき
- 二輪車が検知範囲に入ったときや、電波を反射しないものが検知範囲にあるとき
- カーブした道路を走行しているとき
- 他の車両が隣接する車線よりさらに外側から接近してきたとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などによりシステムが干渉を受けたとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が土・泥・雪・氷で覆われているとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が破損、変形しているとき
- 悪天候(雨、雪、霧など)のとき
- 旋回や路面の凸凹により車体が傾いているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを取り付けているとき

寒冷時の FC システムの特性

寒冷時、始動性や耐久性の向上のためにシステムが作動する場合があります。作動音や駐車中の自動処理などが通常と異なりますが、異常ではありません。

寒冷時、暖機が完了する前に高車速や急加速を伴う運転を行うと出力が制限されます。暖機が完了するまでは周囲の交通状況に気をつけて運転してください。

排気管がふさがれると、パワーシステムが停止する場合があります。特に寒冷時は駐車中のシステム凍結防止処理ができなくなる場合があります。また、12V バッテリーの端子を外すと、駐車中にシステム凍結防止処理ができないため、FC スタック(燃料電池本体)の劣化が進みますので気をつけてください。

寒冷時は通常よりも水素ガスの消費が早くなる場合があります。

寒冷時のパワーシステム起動や停止、もしくは駐車中のシステム凍結防止処理において、排気管から白煙が出ることがあります。これは水蒸気ですので異常ではありません。

寒冷時の FC システムの特性

注意

寒冷時のパワーシステム停止処理中、もしくは駐車中のシステム凍結防止処理において、水たまりができる場合があります。そのまま凍ると足を滑らせる可能性があるので注意してください。

寒冷時、次のようなときは車両後方に立つと水がかかる場合があります。

- パワーシステムを起動するときの READY 表示灯が点灯するまでの待機状態
- 暖機が完了する前にシステムを停止した場合の停止処理中の状態

低温でパワーシステムを起動する場合、起動準備中の作動音が、通常時よりも大きくなります。

外部給電機能が正常に動作しない場合があります。

❖ 寒冷時の FC システムの特性

非常に寒い状況では、パワーシステムの起動に時間がかかり、温度が上昇するまで起動しない場合があります。

燃料電池、または高電圧バッテリーの温度が -30°C 以下になると燃料電池は作動せず、パワーシステムが起動できなくなります。

バッテリー加温システムが作動する場合は高電圧バッテリーが温まるのを待ち、作動しない場合はけん引などで車両を暖かい場所に移動させてください。

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING には、次の機能が 있습니다。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ (CMBS) ➡ P.267
- 踏み間違い衝突軽減システム ➡ P.277
- 路外逸脱抑制機能 ➡ P.283
- 歩行者事故低減ステアリング ➡ P.291
- 先行車発進お知らせ機能 ➡ P.342
- 標識認識機能 ➡ P.346
- オートハイビーム ➡ P.163
- ブラインドスポットインフォメーション ➡ P.258
- 後退出庫サポート ➡ P.377
- パーキングセンサーシステム ➡ P.372

■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) ➡ P.298
- 車線維持支援システム (LKAS) ➡ P.321
- トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) ➡ P.333

▶▶Honda SENSING



警告

Honda SENSING は、補助システムとして使用してください。

自動運転システムではありません。

あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

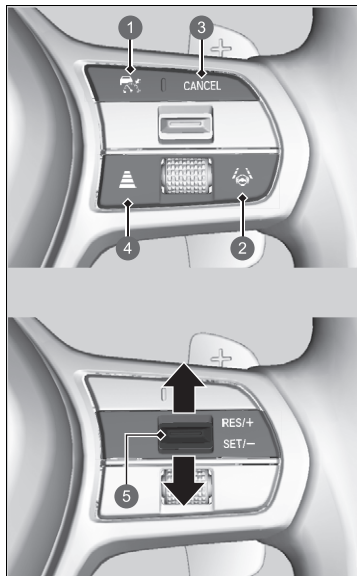
各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、各機能が作動しない場合があります。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ステアリングスイッチ



- ① **スイッチ**
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)の待機状態の設定を行います。
- ② **車線維持支援システム(LKAS)スイッチ**
車線維持支援システム(LKAS)およびトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)の待機状態の設定を行います。
- ③ **CANCEL スイッチ**
渋滞追従機能付 ACC の解除を行います。
- ④ **ディスタンススイッチ**
渋滞追従機能付 ACC の車間距離設定を行います。
- ⑤ **RES/+ スイッチ / SET/- スイッチ**
渋滞追従機能付 ACC の车速のセットと復帰、設定车速の調整を行います。

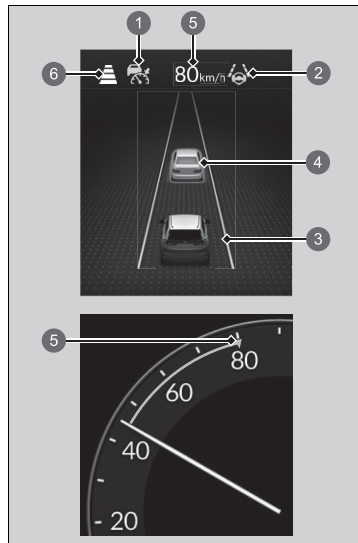
▶Honda SENSING

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■メーターの表示

渋滞追従機能付 ACC、LKAS およびトラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) の現在の状態を表示します。



① 渋滞追従機能付 ACC の作動状態

- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

② LKAS およびトラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) の作動状態

- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

③ LKAS およびトラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) の検知状態

- グリーンの線：作動中
- ホワイトの線：車線を検知した状態
- オレンジの線：
点灯した側の車線逸脱を検知

④ 渋滞追従機能付 ACC の前走車検知状態

- 制御対象車両アイコン：
ホワイト、車両輪郭グリーン
- 制御対象外車両アイコン：グレー

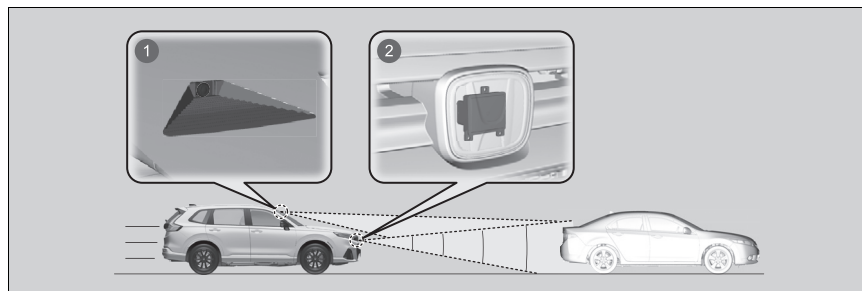
⑤ 渋滞追従機能付 ACC の設定車速

⑥ 渋滞追従機能付 ACC の設定車間

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両(二輪車含む)のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車(移動する自転車)に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

■システムの作動



① フロントセンサーカメラ

▶ フロントガラスの上部にカメラを装備

② フロントグリルにあるHondaエンブレムの奥に、CMBSのレーダーセンサーを装備

自車の车速が約5km/h以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の検知を開始。

⚠衝突軽減ブレーキ(CMBS)



警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

■ レーダーセンサー P.354

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

■ フロントセンサーカメラ P.352

自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

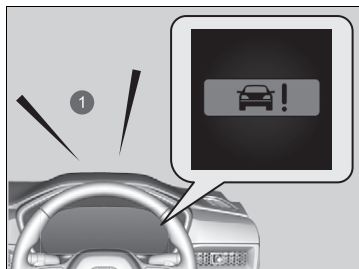
交差点などでの右折時は、自車が約 30km/h 以下で走行中に対向車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車に対して正面で衝突するおそれがあるときに、CMBS が作動します。

対向車両、停止車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車に対しては、自車が約 100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、CMBS は解除されます。

なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、CMBS が解除されることがあります。

■CMBS の警告のしかた



① 警告音

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。

- ▶ マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告音が発生します。

CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

遠めは標準に対して遠くで警告します。近めは標準に対して近くで警告します。

※衝突軽減ブレーキ(CMBS)

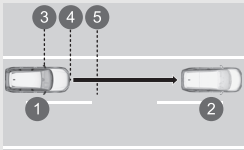
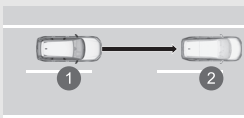
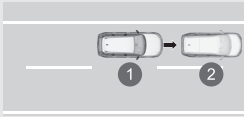
アクセルペダルの踏み込み量が多いときに、システムが作動しない場合があります。

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ピークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

このとき車速 20km/h 以上でしばらく走行すると、これらの警告灯は消灯します。消灯しないときは、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離	状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第1段階 	車両への衝突のおそれが出てきた状況	警告表示が点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。	—
第2段階 	衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	軽いブレーキ
第3段階 	回避が困難な状況		強いブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

- ① 自車
- ② 車両
- ③ 遠め
- ④ 標準
- ⑤ 近め

■ CMBS の ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

📖 表示の切り換えかた P.107

📖 安全支援情報 P.115

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

▶▶衝突軽減ブレーキ(CMBS)

走行中は CMBS を OFF にすることはできません。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
 - 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
 - パーキングブレーキをかけて走行したとき
 - カメラの温度が高温になっているとき
 - フロントグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
 - タイヤの異常を検出したとき
- CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

CMBS の条件と制限

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車や路面状況を正しく検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

❏ フロントセンサーカメラ P.352

❏ レーダーセンサー P.354

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 車両(二輪車含む)、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車と背景のコントラストが低いとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が車両、歩行者、移動する自転車および路面に反射しているとき
- 木や建物の影などで明るさが変化したとき
- 路上の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を、車両や歩行者と誤って認識したとき
- 車内の物がフロントガラスに反射したとき
- 前方の車両(二輪車含む)による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の全体が照らされていないとき

❏ 衝突軽減ブレーキ(CMBS)

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 不鮮明な車線、タイヤのあと、ライトの反射、水しぶき、高いコントラストなどがある雪道、または湿った路面のとき
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 車両、歩行者および移動する自転車の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- パーキングブレーキがかかった状態で走行中のとき
- ウィンドウォッシャーからの水滴またはワイパーブレードによってカメラの視野が遮られているとき
- 滑りやすい路面などで車の動きが不安定なとき
- フロントグリル周辺が汚れ、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどで覆われているとき

■前方の車両、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車との距離が極端に短いとき
- 前方に車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 自転車が停止しているとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が集団で前方にいますとき
- 移動する自転車が集団で前方にいますとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 暗がりや前方の車両、対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 車両が斜め横から接近してきたとき
- 特殊な形状の車両(タンクローリーなど)が側方から接近してきたとき
- カーブや坂を走行中の車両が側方から接近してきたとき

■その他検知、作動できない事例

- 小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、歩行者および移動する自転車が自車の正面にいないとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が小さく、対象物との距離が短いとき
- 側方から接近する車両、歩行者、および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 側方から接近する車両、歩行者、および移動する自転車と自車との速度差が小さく、対象物との距離が短いとき
- 前方の車両(二輪車含む)や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作(交差点などでの右折時を除く)^{※1}をしながら、前方の車両(二輪車含む)、対向車両、歩行者および移動する自転車に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車および三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンデム自転車などの全長が長い自転車
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 前方または側方から接近する車両の最低地上高が極端に高いとき
- 右左折時に自車の進行方向と同方向に方向指示器(ウィンカー)スイッチを操作していないとき

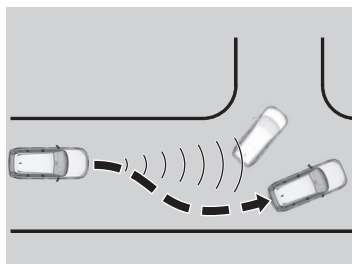
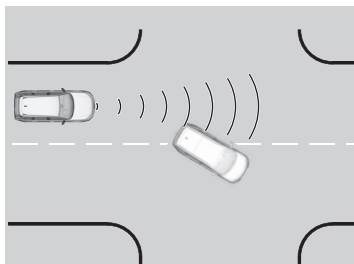
※1：右折時に対向車両に対して正面で衝突のおそれがあるときに CMBS が作動しますが、急なハンドル操作などによっては作動できない場合があります。

衝突の可能性が高くない場合の作動について

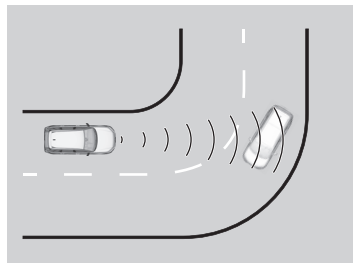
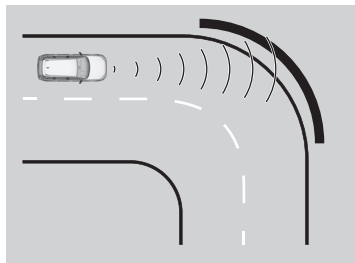
衝突の可能性が高なくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

また、車両、歩行者および移動する自転車の動きによってシステムが衝突の可能性があると判断した場合には CMBS が作動することがあります。

- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合



- 車両、歩行者および移動する自転車と自車が接近したとき
- 車両や歩行者、移動する自転車が自車の前方を通過したとき
- 低い構造物の下や狭いゲートの間などを規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき



- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき
- カーブを走行中に側方から車両が接近するとき
- 左折または右折する車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車を通過するとき
- 前方の側方から近づいてくる車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車の前を通過するとき
- 車両(二輪車を含む)、歩行者、および自転車が左折または右折して自車の側方から近づいたとき
- 左折または右折中に前方の車両(二輪車含む)、および自転車の前を通過しようとしたとき
- 左折または右折中に車両(二輪車含む)、および自転車が自車の前方を通過しようとしているとき
- 車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車が自車の進路に入って止まったとき
- 左折または右折中に横断中の歩行者が自車の進路に入って止まったとき
- 路上駐車中の車両の横を通過するとき

踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の3つの機能を持ったシステムです。

フロントグリル、フロントバンパーおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

❏ 踏み間違い衝突軽減システム



警告

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎ、または見落としによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

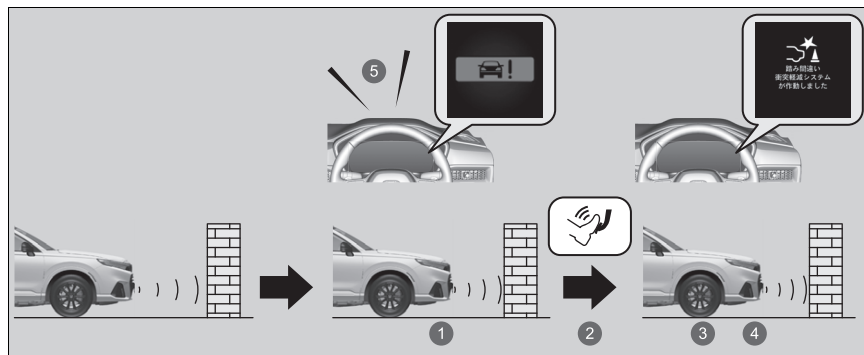
踏切内に閉じ込められた場合など、意図しないタイミングで踏み間違い衝突軽減システムが作動したときは、ブレーキペダルを踏み、システムが解除されてから運転を続けてください。

縁石・輪留め、道路上の段差によりシステムが作動し、駐車や段差を乗り越えることができない場合には機能をOFFにしてください。

■システムの作動

近距離衝突軽減ブレーキ

約2km/h～約10km/hで走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、音と表示でお知らせします。



- ① 緊急ブレーキ作動開始
- ② ブレーキ
- ③ 停車
- ④ 停止保持後ブレーキ解除
- ⑤ 警告音

パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしている場合は、後退時の近距離衝突軽減ブレーキが作動しません。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

※踏み間違い衝突軽減システム

ソナーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

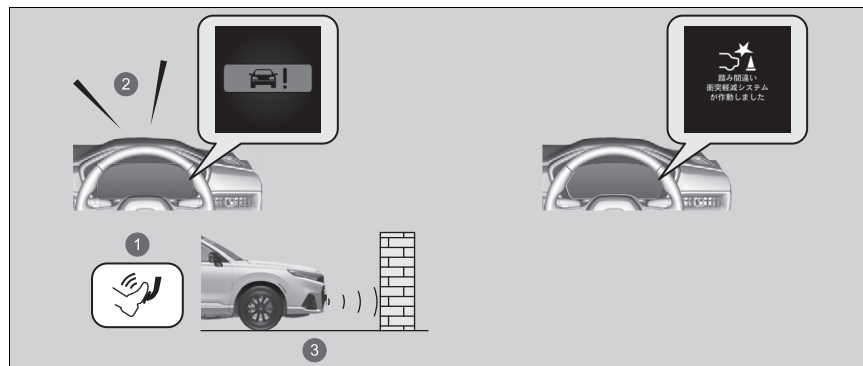
■ソナーセンサー P.356

システムが作動してから一定時間経過するとブレーキ操作の支援が解除されます。停車状態を保持するには、ブレーキペダルを踏み続けるか、シフトポジションを **P** にしてください。

不要な作動を防ぐために、車両の整備や船舶、トラックなどへの積載時、検査の際のシャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは OFF にしてください。

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともにパワーシステムの出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。



- ① アクセル誤踏み込み
- ② 警告音
- ③ パワーシステムの出力を制御

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が作動しないとき
前進：急な坂道やシフトポジションが、**P**、**R**、**N**のとき
後退：

- ・ 急な坂道やシフトポジションが**R**以外のとき
- ・ パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしているとき
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

次ページに続く

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

📖 表示の切り換えかた P.107

📖 安全支援情報 P.115

機能を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

※システムの ON と OFF

12V バッテリー再接続後、踏み間違い衝突軽減システムが一時的に OFF になる場合があります。

車速 20km/h 以上でしばらく走行すると自動で ON になります。

ON にならないときは指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

作動解除の条件

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の解除条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

近距離衝突軽減ブレーキの解除条件

近距離衝突軽減ブレーキが作動してから、一定時間経過したとき

踏み間違い衝突軽減システムの条件と制限

次のような状態のときは、システムが正常に作動しない場合があります。

■ソナーセンサーが検知しない障害物の事例

- 人・雪・布・スポンジなど音波を反射しにくい障害物のとき
- フェンス・自転車・標識の支柱など細い障害物のとき
- 背が低い・小さい障害物のとき
- バンパーのすぐ近くにある障害物のとき
- 地面に対して垂直でない壁などの障害物のとき
- 移動する物体など進路上に飛び出してきた障害物のとき

■ソナーセンサーが障害物を正しく検知できない事例

- ソナーセンサーが汚れているとき(雪、氷、泥などで覆われているとき)
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 障害物に対して斜めに接近する場合やハンドルを大きく切っているとき

作動解除の条件

近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が一度作動した後は、同じ障害物に近づいた場合は作動しません。

作動後一定距離走行した場合に再作動が可能となります。

近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能は、前進時と後退時にそれぞれ作動することができます。

(例：前進時に作動し一定距離走行前でも、後退時には作動する)

ただし近距離衝突軽減ブレーキが作動した場合、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の再作動には一定距離の走行が必要となります。

■その他システムが正しく作動しない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき
- 気温・湿度が高いまたは低いとき
- 急勾配の坂道を走行するとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

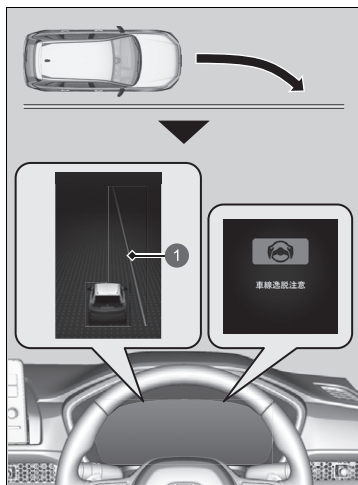
■次のような場合は衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります

- 低いゲートや狭いゲートなどの間を通過しようとするとき
- 凸凹な路面や、草地、段差がある場所を走行するとき
- 高い位置に斜めの柱や壁などが突き出しているとき
- 道路脇に障害物があるとき
- 旗や幕、木の枝、踏切や ETC ゲートのバーなどに向かって走行するとき
- 冠水した道を走行するとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

システムの作動



① 車線表示(オレンジ)

このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器(ウィンカー)スイッチを使用せずに白線(黄線)を逸脱した、または、草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき、作動します。

▶ 車線区画線(白線や黄線)を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。

路外逸脱抑制機能



警告

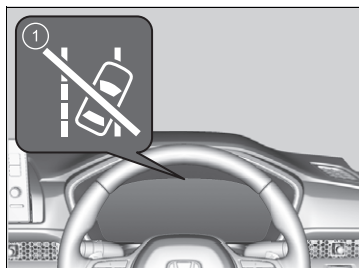
路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)スイッチを使用しない車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検知したときに警告します。

車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検出できない場合があります。天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。



① 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し路外逸脱抑制機能は復帰します。

路外逸脱抑制機能

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

❏ フロントセンサーカメラ P.352

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。

❏ 路外逸脱抑制機能の条件と制限 P.287

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

このとき車速 20km/h 以上でしばらく走行すると、これらの警告灯は消灯します。消灯しないときは、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

▶▶路外逸脱抑制機能

カスタマイズ機能でシステムの設定を変更することができます。

車線維持支援システム(LKAS)を作動させていない場合、車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知した場合に以下のメッセージが表示される場合があります。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線(黄線)の場合
車速が約 60km/h ~ 120km/h のとき
▶ 対向車両が走行している場合
車速が約 30km/h ~ 120km/h のとき
- 草、砂利などの道路境界の場合
車速が約 30km/h ~ 120km/h のとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)スイッチを使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

🔍 表示の切り換えかた P.107

🔍 安全支援情報 P.115

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

🔍システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、安全支援情報警告灯(オレンジ)および路外逸脱制御機能警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

🔍 警告灯 P.83

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

🔍システムの ON と OFF

オーディオ / インフォメーション画面を使用してシステムの設定をカスタマイズすることができます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし 警報のみ」を選択した場合、システムはハンドル制御を行いません。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件下では、システムは白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、対向車両の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 道路境界が草や砂利以外などのとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- サスペンションを変更したとき

■対向車両の状態により正しく検知できない事例

- 対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方に対向車両が飛び出したとき
- 対向車両が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりに対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 対向車両との距離が極端に短いとき
- 対向車両の一部が前方の車両によりかくれているとき
- 対向車線が複数あるとき、または右左折専用車線があるとき
- 隣接車線に駐停車もしくは極端に遅い速度で移動している車両があるとき

■その他、作動できない事例

- 対向車両が特殊な形状の車両
- 対向車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

■衝突の可能性のない場合の作動について

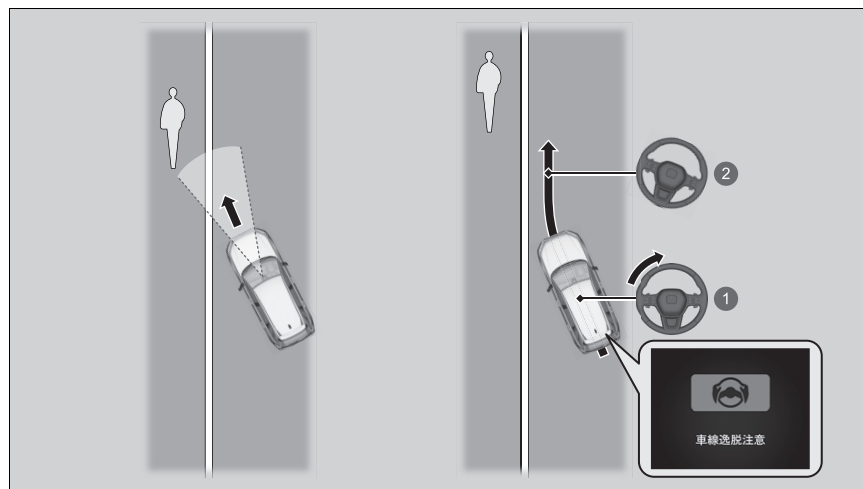
以下のとき、路外逸脱抑制機能が作動することがあります。

- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき

歩行者事故低減ステアリング

カメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

システムの作動



① 警報と支援

② 運転者の回避操作

カメラが白線(黄線)および歩行者を検出します。

路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。

車両と歩行者の位置関係によっては衝突軽減ブレーキ(CMBS)の作動が優先される場合があります。

次ページに続く

歩行者事故低減ステアリング



警告

歩行者事故低減ステアリングは、運転者の運転操作を支援するシステムです。あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

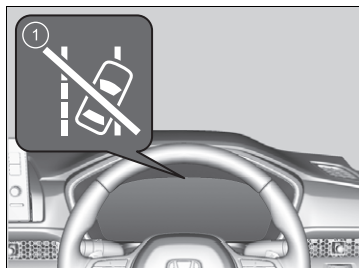
取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

■ フロントセンサーカメラ P.352



① 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し歩行者事故低減ステアリングが作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し歩行者事故低減ステアリングは復帰します。

■システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)スイッチを使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

歩行者事故低減ステアリング

歩行者事故低減ステアリングは、正常に作動しないことがあります。

歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限 P.294

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

❏ 表示の切り換えかた P.107

❏ 安全支援情報 P.115

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

❏システムの ON と OFF

オーディオ / インフォメーション画面を使用し、路外逸脱抑制機能の設定をカスタマイズすることができます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし 警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

❏歩行者事故低減ステアリング

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

このとき車速 20km/h 以上でしばらく走行すると、これらの警告灯は消灯します。消灯しないときは、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。

運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、歩行者の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- サスペンションを変更したとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき

■歩行者の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 歩行者との距離が極端に短いとき
- 前方に歩行者が飛び出したとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- 運転者が急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両など

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)

渋滞追従機能付 ACC は、フロントグリルにある Honda エンブレムの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

渋滞追従機能付 ACC を作動させるには：

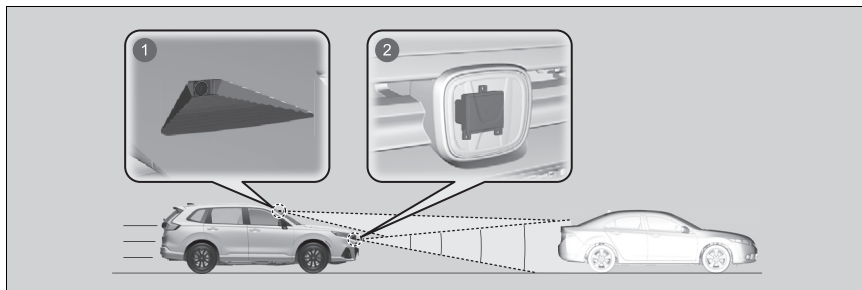
渋滞追従機能付ACCシステムは、シフトポジションが **D** のときに使用することができます。

※渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

警告

渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。

高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。



- ① フロントガラス上部にカメラを装備
- ② フロントグリルにある Honda エンブレムの奥に、レーダーセンサーを装備

ブレーキペダルを踏んでいるときや、ヒルディセントコントロールがスタンバイ状態または作動中のときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

※渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

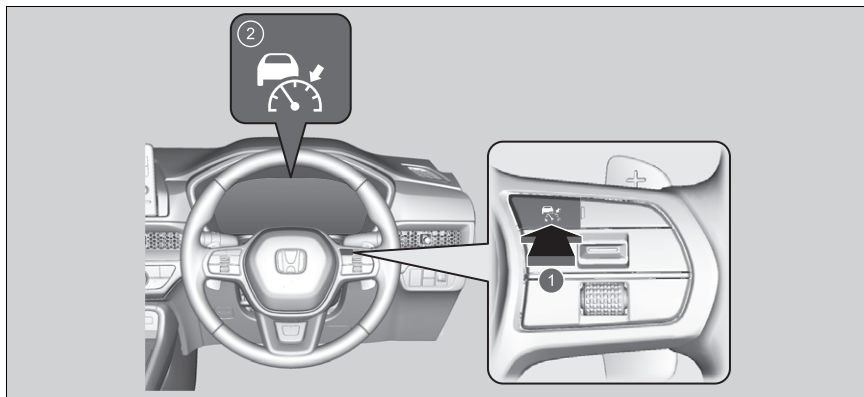
⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。

適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

■システムを作動させるには



- ① ハンドルの  スイッチを押す
- ② メーター内に  (ホホワイト) が点灯し、渋滞追従機能付 ACC が操作可能になります

■渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)

使用上の注意：

渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

ECON モードまたは EV モードのときは、設定車速に到達するまでに時間がかかる場合があります。

渋滞追従機能付 ACC を使用中、車速が約 125km/h 以上では、EV モードが自動的に解除されることがあります。

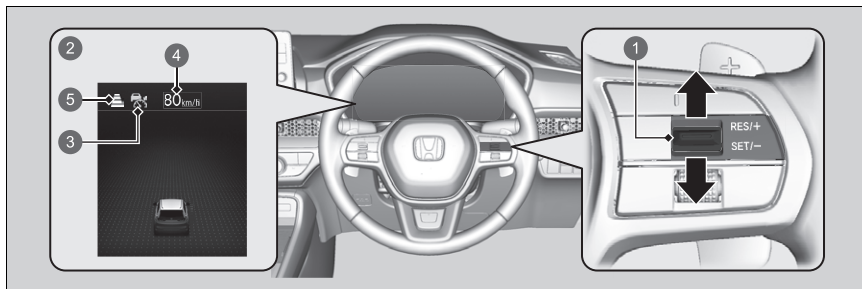
レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

■レーダーセンサー P.354

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

■フロントセンサーカメラ P.352

車速をセットするには



- ① **RES/+SET/-** スイッチ
- ② 渋滞追従機能付 ACC 開始時に点灯
- ③ (グリーン)
- ④ 設定車速(ホワイト)
- ⑤ 車間距離設定表示灯

ブレーキペダルを操作していないときに **RES/+SET/-** スイッチを上か下に押すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、メーターにアイコンや設定車速が表示されます。

渋滞追従機能付 ACC を使用すると Straight Driving Assist (直進保舵支援機能) が作動します。

これはEPS(電動パワーステアリング)の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。

車速をセットするには

下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- 車線変更や急な加減速を繰り返すような交通状況では、適切な車間距離が保てません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに入るときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できない場合があります。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な上り坂や急な下り坂を走行しているとき。
- 起伏のある坂道を走行しているとき。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき：

先行車を検知している場合のみ作動させることができ、現在の車速にかかわらず設定車速が約 30km/h に設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでも作動することができます。

■渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

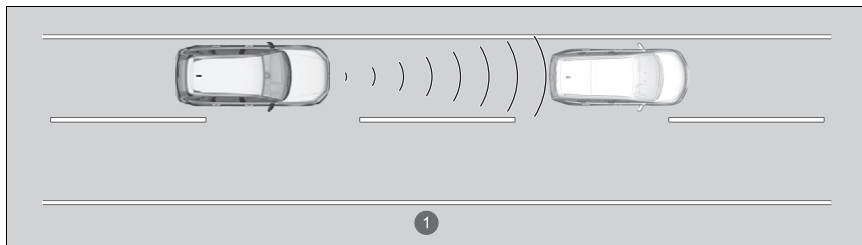
12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

このとき車速 20km/h 以上でしばらく走行すると、これらの警告灯は消灯します。消灯しないときは、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

渋滞追従機能付 ACC の作動

■ 先行車がいるとき

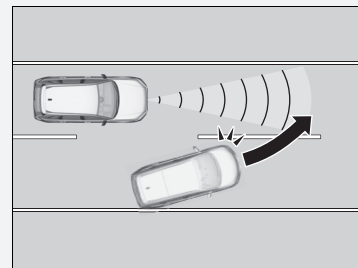
渋滞追従機能付 ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



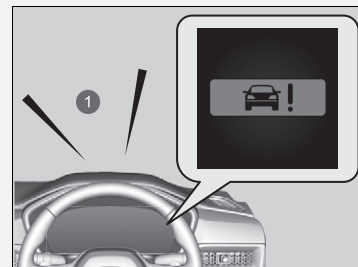
① 渋滞追従機能付 ACC の検知範囲：120m

渋滞追従機能付 ACC の作動

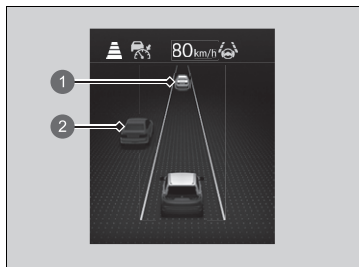
先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



① 警告音

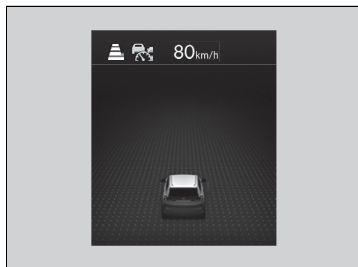


設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

- ① 検知範囲に入ると車のアイコンが表示されます。
- ② 検知範囲外の車などのアイコンが表示されます。

- 制御対象車両アイコン：ホワイト、車両輪郭グリーン
- 制御対象外車両アイコン：グレー

■先行車がいらないとき



先行車がいらない場合、設定した車速で定速走行します。

先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

急な下り坂では、過度な加速を防ぐと共に設定した車速を保持するために減速制御を行います。設定した車速を超えてしまう場合があります。

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付 ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付 ACC の警告範囲内に先行車がいっても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はできません。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付 ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

■渋滞追従機能付 ACC の作動

先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警告が出ず、そのまま追従することがあります。

オーディオ/インフォメーション画面を使って先行車検知音の有り/無しを設定できます。ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

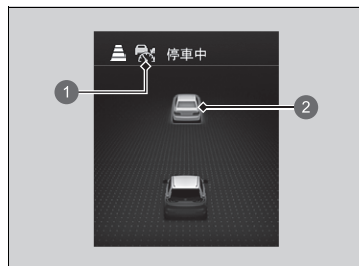
制限：

安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。

■ 渋滞追従機能付 ACC の条件と制限 P.307

■ 車間距離を設定するには P.311

■先行車が減速して停車するとき



① (グリーン)

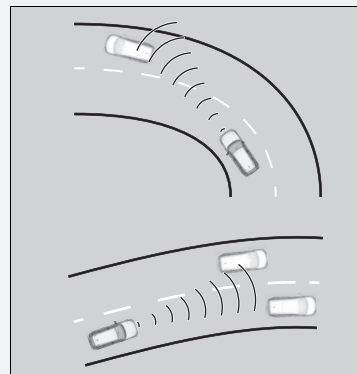
② 先行車

先行車が停車すると、自車も自動で停車します。メーターにメッセージが表示されません。

先行車の動きに合わせて **RES/+ / SET/-** スイッチを上か下に押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定车速の範囲内で追従走行します。

※渋滞追従機能付 ACC の作動

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

❑ フロントセンサーカメラ P.352

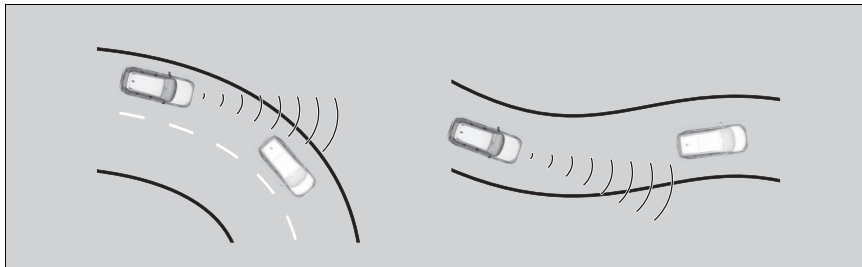
❑ レーダーセンサー P.354

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

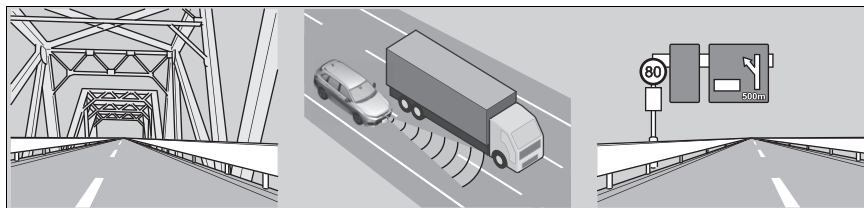
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき



■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

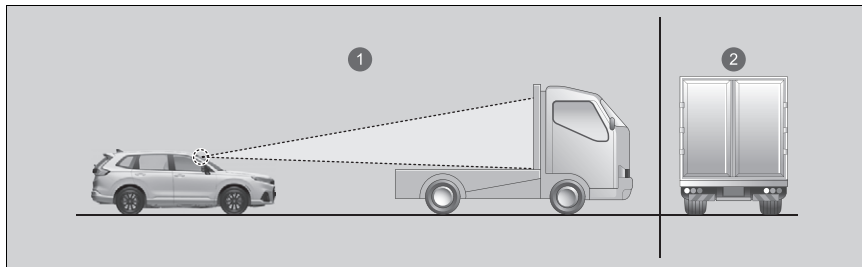
- フロントグリル周辺が汚れ、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどで覆われているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

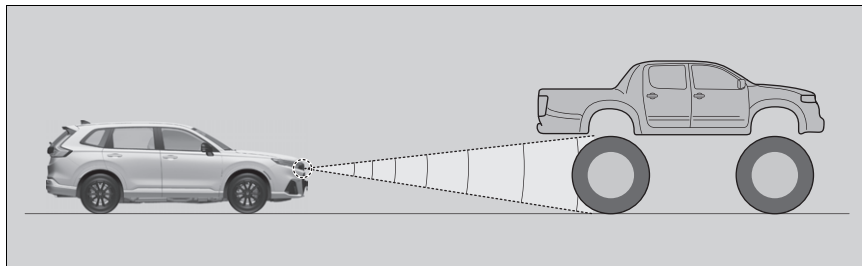
- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき



① トラックの上部を検知

② パネルトラックやタンクローリーなど

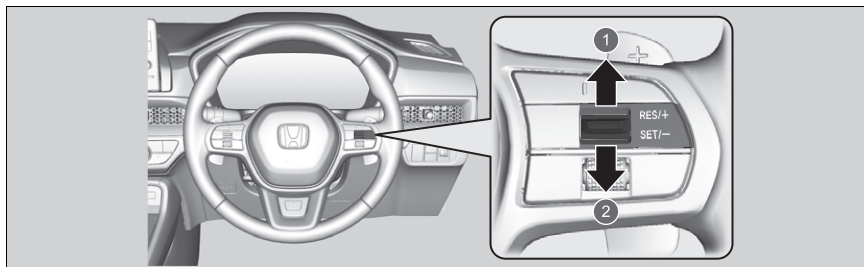
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



次ページに続く

設定車速を調整するには

手元の **RES/+SET/-** スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



- ① 車速を上げる
- ② 車速を下げる

RES/+ 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

SET/- 側

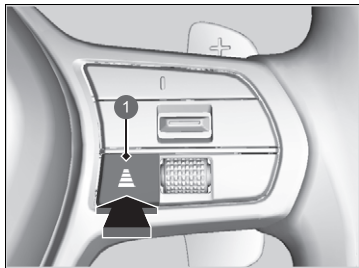
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

アクセルペダルを踏み、**RES/+SET/-** スイッチを下に押すと、現在の車速が設定車速になります。

車間距離を設定するには



① ディスタンススイッチ

ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。

先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。

ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。

適切な車間距離の設定を決定してください。

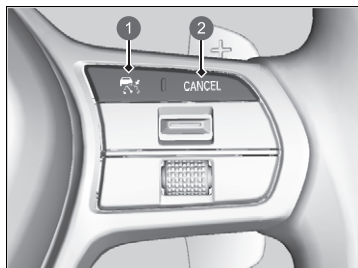
車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 33m	約 42m
長		約 47m	約 59m
最長		約 65m	約 80m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

解除するには



- ① スイッチ
- ② **CANCEL** スイッチ

以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。

- **CANCEL** スイッチを押す
 - ▶ メーター内の (グリーン) が (ホワイト) になります。
- スイッチを押す
 - ▶ メーター内の (グリーン) が消灯します。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む
 - ▶ メーター内の (グリーン) が (ホワイト) になります。

解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

渋滞追従機能付 ACC を解除したあと、先行車を検知している場合、停車状態でも **RES/+SET/-** スイッチを上を押すとメーター上に表示されている解除前の設定車速(グレー)で作動を開始することができます。

CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。**RES/+SET/-** スイッチを上にした場合、この車速で作動が開始されます。

また、 (ホワイト) が表示され、解除前の設定車速(グレー)の表示が無い状態で **RES/+SET/-** スイッチを上にした場合は、**RES/+SET/-** スイッチを下にした場合と同様に現在の車速が設定されます。ただし、以下の場合は復帰しません。

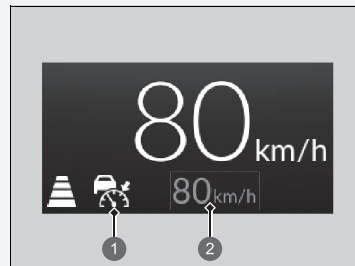
- スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF したあと
- 30km/h 以下で先行車がないとき

■渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、メッセージが表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

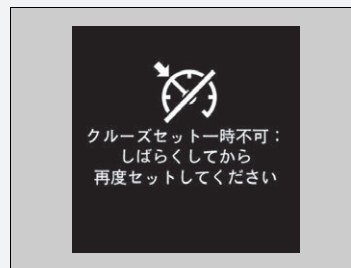
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- フロントグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または衝突軽減ブレーキ（CMBS）や踏み間違い衝突軽減システムが作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎる時
- 停車状態で先行車がいなくなったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき

▶解除するには



- ① （ホワイト）
- ② 解除前の設定車速（グレー）

加減速を多く繰り返す走行や長い下り坂の走行、重い荷物を積んで走行しているときなどに渋滞追従機能付 ACC が自動解除された後、条件が継続する場合は、その後一時的に渋滞追従機能付 ACC をセットできない場合があります。



- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯したとき
- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき
- LKAS が作動しているときに、システムが一定時間運転者の操作がないと判断したとき

解除するには

停車中の解除：

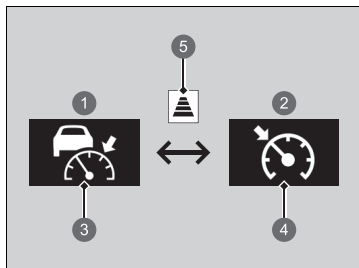
渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。



① 警告音

すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

■クルーズモードへの切換え



- ① 渋滞追従機能付 ACC ON
- ② クルーズモード ON
- ③  (ホワイト)
- ④  (ホワイト)
- ⑤ ディスタンススイッチ

ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けます。

マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズモードに設定しました」と表示された後、クルーズモードに切り換わります。

同時に、メーター内の (ホワイト)が (ホワイト)に変わります。

再度ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けると、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC モードに設定しました」と表示された後、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

▣クルーズモードへの切換え

現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

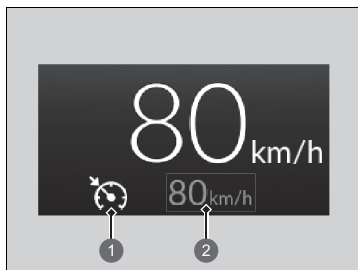
以下の場合、モードを切り換えられません。

- 車速をセットしているとき
 -  スイッチが OFF のとき
- クルーズモードへ切り換えた状態でも スイッチを押して ON にし直すたびに、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

■車速をセットするには

希望の車速になったらペダルから足を離し、**RES/+ / SET/-** スイッチを上か下に押します。

RES/+ / SET/- スイッチを上か下に押して離すと、離れたときの車速にセットされ自動定速走行になります。



同時に、メーターに (グリーン) と設定車速が表示されます。

- ①  (グリーン)
- ② 設定車速

■作動条件

約 30km/h 以上で走行しているとき

クルーズモードを使用するとStraight Driving Assist (直進保舵支援機能) が作動します。

これはEPS (電動パワーステアリング) の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。

■車速を調節するには

RES/+ 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

SET/- 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。

- **CANCEL** スイッチを押す
▶ メーター内の (グリーン)が (ホワイト)になります。
-  スイッチを押す
▶ メーター内の (グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む
▶ メーター内の (グリーン)が (ホワイト)になります。

解除するには

解除前の設定車速に復帰させる

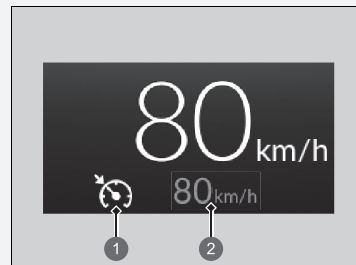
自動定速走行を解除したあとも、30km/h以上の車速で走行中に **RES/+SET/-** スイッチを上を押すとメーター上に表示されている解除前の設定車速(グレー)で作動を開始することができます。

CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。**RES/+SET/-** スイッチを上にした場合、この車速で作動が開始されます。

また、 (ホワイト)が表示され、解除前の設定車速(グレー)の表示が無い状態で **RES/+SET/-** スイッチを上にした場合は、**RES/+SET/-** スイッチを下にした場合と同様に現在の車速が設定されます。ただし、下記の場合は復帰できません。

- 車速が 30km/h 未満のとき
-  スイッチで OFF 操作をしたとき

※解除するには



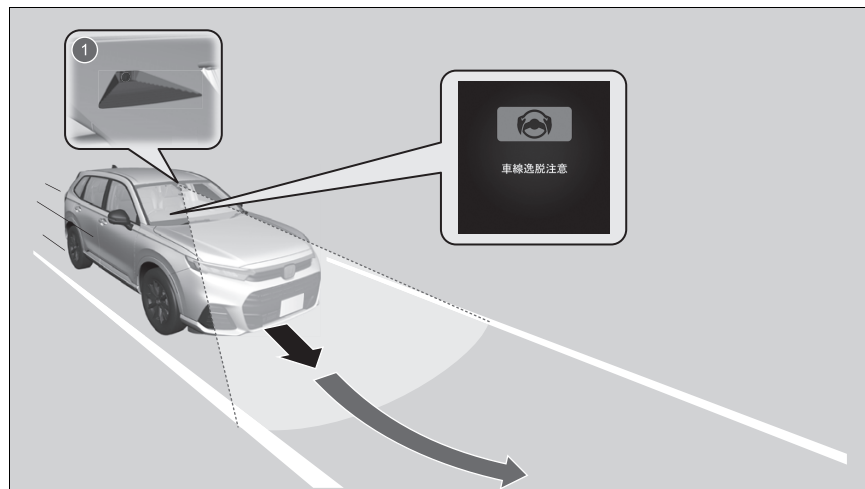
- ①  (ホワイ)
- ②  解除前の設定車速(グレー)

車速が 25km/h 未満になると自動的に自動定速走行が解除になります。

車線維持支援システム(LKAS)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



① フロントセンサーカメラ

車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)スイッチを操作するとLKASが一時的解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKASが復帰します。方向指示器(ウィンカー)スイッチを出さずに車線変更すると、LKASが解除されず車線逸脱警報が作動します。

⚠車線維持支援システム(LKAS)



警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

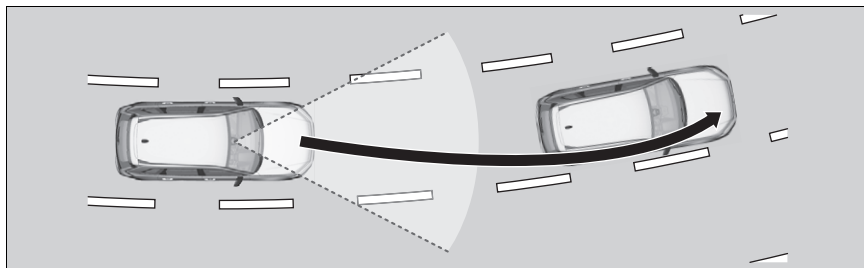
取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



▶車線維持支援システム(LKAS)

LKAS は方向指示器(ウィンカー)スイッチを出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。

LKAS は、すべての車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。

運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

▶ フロントセンサーカメラ P.352

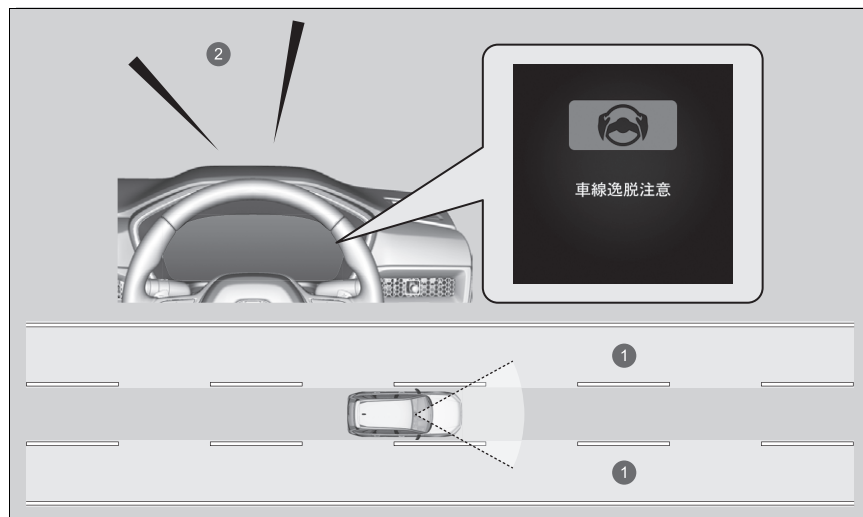
LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

▶ LKAS の条件と制限 P.329

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動と音およびディスプレイ表示で行います。



① 警報エリア

② 警告音

■ LKAS を作動させるには

LKAS は、以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 120km/h で走行しているとき
- 左右に白線(黄線)が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)スイッチを出していないとき
- 急ブレーキをかけていないとき

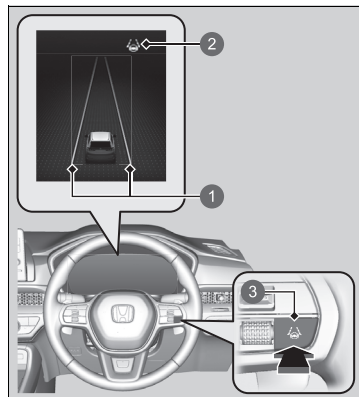
▣ LKAS を作動させるには

システムが作動しているときに、左右の白線(黄線)に偏る場合は、システムを停止し指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

白線(黄線)を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

🔍 LKAS の条件と制限 P.329

■システムの作動方法



- ① 車線表示(ホワイト)
- ② 車線維持支援システム (LKAS)表示灯(ホワイト)
- ③ 車線維持支援システム (LKAS)スイッチ

1. 車線維持支援システム (LKAS) スイッチを押す。

▶ 車線維持支援システム (LKAS) 表示灯 (ホワイト) が点灯します。

システムが待機状態になります。

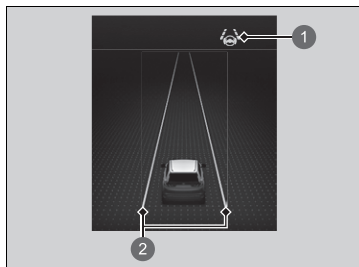
▶ カメラが両側の白線(黄線)を検知すると、メーターに車線表示(ホワイト)が点灯します。

☒ LKAS を作動させるには

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

システムが作動可能状態のときに車線維持支援システム (LKAS) スイッチを押すと、LKAS は待機状態なしで制御を開始します。

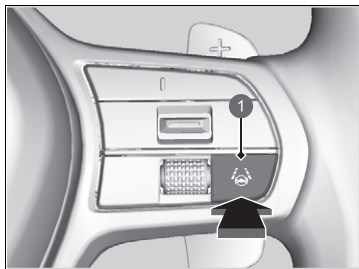


2. 車線の中央付近を走行する。

- ▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線(黄線)を検知すると、メーターの車線表示と車線維持支援システム(LKAS)表示灯がグリーンに切り替わり、LKAS の制御を開始します。

- ① 車線維持支援システム (LKAS)表示灯(グリーン)
- ② 車線表示(グリーン)

解除するには

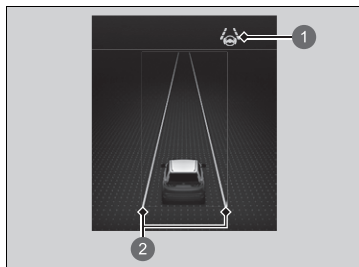


① 車線維持支援システム (LKAS)スイッチ

車線維持支援システム(LKAS)スイッチを押すと、LKAS が解除されます。
 前回走行時に LKAS が ON 状態でも、パワーモードを OFF モードにする度に LKAS は OFF になります。

■LKAS が自動的に一時解除されるとき

次の場合、メーターの車線表示と車線維持支援システム(LKAS)表示灯がホワイトに切り替わり、LKAS が自動解除されます。



- ① 車線維持支援システム (LKAS) 表示灯(ホワイト)
- ② 車線表示(ホワイト)

- 白線(黄線)を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- ABS、VSA が作動しているとき
- 路外逸脱抑制機能が作動したとき
- 急ブレーキをかけたとき

これらの条件が続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき

次の場合、メーターの車線表示が消え、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき

▶▶LKAS が自動的に一時解除されるとき

カスタマイズ機能で自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■ LKAS の条件と制限

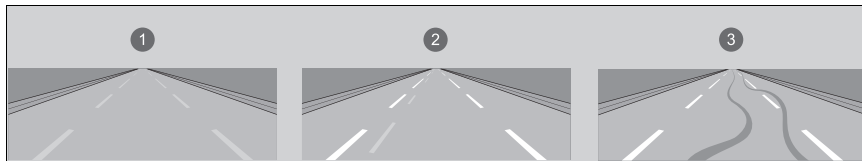
以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき

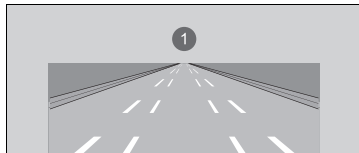
■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき



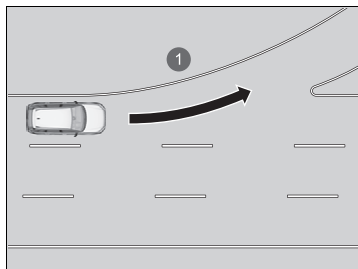
- ① 線が薄くなっている
- ② 古い車線の消し残し
- ③ タイヤ痕

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



- ① 車線幅が極端に広い／狭い

- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



① 線のひかれていない分岐

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

トラフィックジャムアシストは、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストし、渋滞時に車線維持走行を補助するための機能です。

⚠️ トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

⚠️ 警告

トラフィックジャムアシストは補助機能として使用してください。トラフィックジャムアシストは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするための機能です。

機能に頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

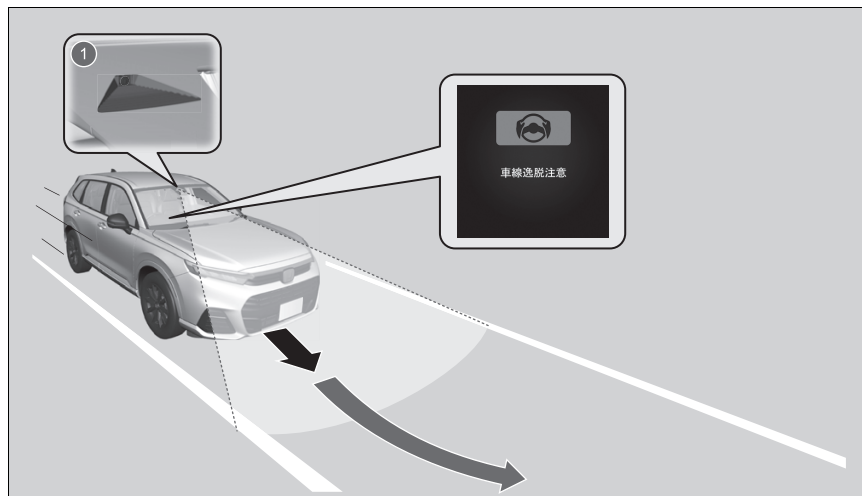
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

📷 フロントセンサーカメラ P.352

■ トラフィックジャムアシストの作動

車線維持支援システム(LKAS)作動中の渋滞時に白線(黄線)を検知すると、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストします。



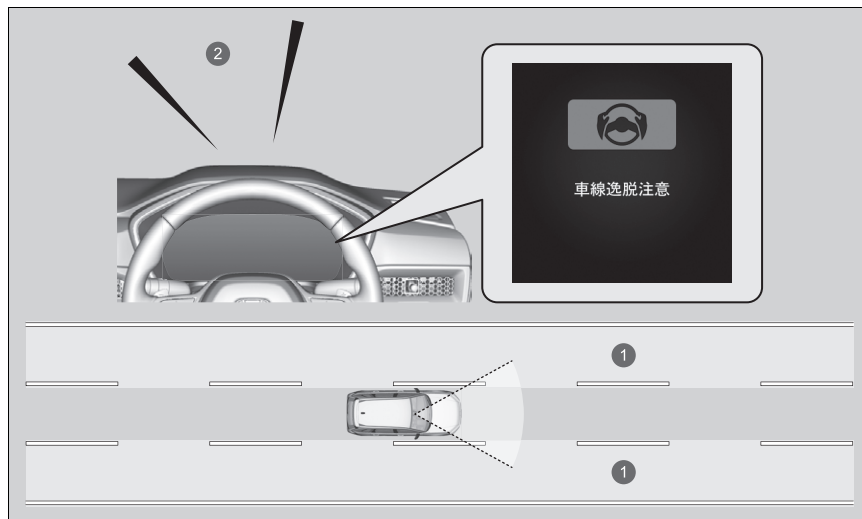
① フロントセンサーカメラ

車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)スイッチを操作するとトラフィックジャムアシストが一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行し白線(黄線)を検知すると機能が自動復帰します。

機能の作動中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。運転者による操作が行われているときや、路面の状況によってはアシストが感じられないことがあります。

■車線逸脱警報機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報を音とディスプレイ表示で行います。



① 警報エリア

② 警告音

▶▶トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

トラフィックジャムアシストは方向指示器(ウィンカー)スイッチを出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。

トラフィックジャムアシストは、すべての車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが正しく機能しないことがあります。

運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

トラフィックジャムアシストは条件により正常に作動しない場合があります。

▶▶トラフィックジャムアシストの条件と制限
P.338

■トラフィックジャムアシストを作動させるには

トラフィックジャムアシストは、以下の条件で作動します。

- LKAS が ON のとき
- 左右に白線(黄線)が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 車速が約 0 ～ 65km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ハンドル操作をしているとき
- シフトポジションが **D** のとき

下記の状況のときは、トラフィックジャムアシストを使用しないでください。

- 急カーブのある道るとき
 - ▶ 道路状況に応じた走行ができなくなることがあります。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき
- 悪天候(雨、霧、雪など)のとき
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面のとき
 - ▶ タイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

※トラフィックジャムアシストを作動させるには

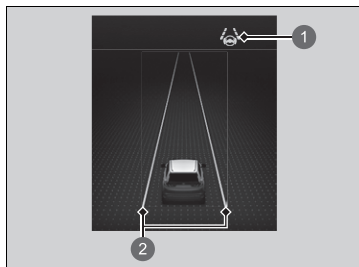
LKAS の取り扱いについては下記を参照してください。

■車線維持支援システム(LKAS) P.321

各機能のステアリングスイッチと表示については下記を参照してください。

■各機能を作動させるためのスイッチと表示 P.265

■トラフィックジャムアシストの作動方法



- ① 車線維持支援システム (LKAS) 表示灯(グリーン)
- ② 車線表示(グリーン)

車線の中央付近を走行する。

- ▶ 両側の白線(黄線)を検知するとシステムが作動を開始し、車線維持支援システム(LKAS)表示灯と車線表示がホワイトからグリーンになります。

☒トラフィックジャムアシストの作動方法

トラフィックジャムアシストが作動しているときに、白線(黄線)の左右に寄って走行してしまう場合は、トラフィックジャムアシストを停止し、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

白線(黄線)を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

☒トラフィックジャムアシストの条件と制限

P.338

作動中に運転者がハンドルから手を放したり、ハンドルの操作量が少ない場合は下記の警告を表示します。



繰り返し上記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り作動が解除されます。

解除するには

車線維持支援システム(LKAS)スイッチを押すとトラフィックジャムアシストが解除されます。

■トラフィックジャムアシストが自動的に一時解除されるとき

- 白線(黄線)を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- 作動中に運転者がハンドルから手を放したり、ステアリングの操作量が少ないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 急ブレーキをかけたとき

これらの条件が長く続かなければ、機能は自動的に再開されます。

■トラフィックジャムアシストが自動的に解除されるとき

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき

自動的に解除されると、メーターから車線表示が消えて警報音が鳴ります。

☒トラフィックジャムアシストが自動的に一時解除されるとき

オーディオ/インフォメーション画面のカスタマイズ機能「レーンキープアシストシステム制御解除警報音」で自動解除ブザーのON/OFFを設定できます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■トラフィックジャムアシストの条件と制限

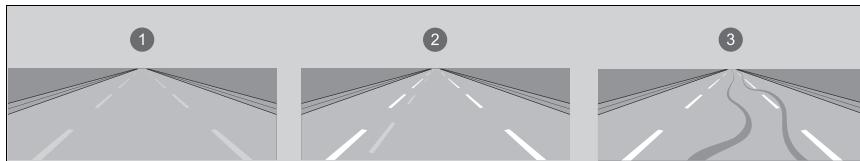
以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、トラフィックジャムアシストが正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短いときや交差点などで、車線や路面が見えないとき
- 強い光が路面に反射しているとき

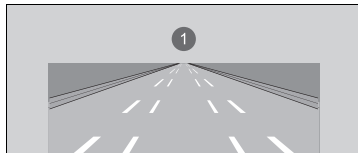
■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき



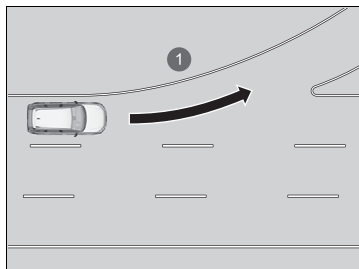
- ① 線が薄くなっている
- ② 古い車線の消し残し
- ③ タイヤ痕

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



- ① 車線幅が極端に広い／狭い

- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



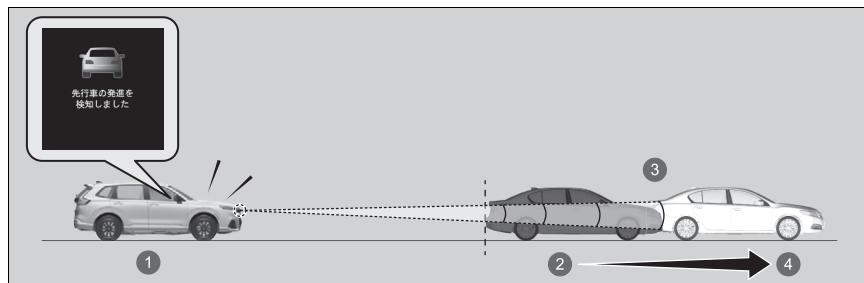
① 線のひかれていない分岐

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



- ① 停止
- ② 停止
- ③ 先行車
- ④ 発進

運転

▶▶先行車発進お知らせ機能

警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

先行車発進お知らせ機能を OFF にすることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■シフトポジションが[D]の場合

ブレーキペダルを踏んでいる、オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している、または渋滞追従機能付 ACC が作動中で停車している。

■シフトポジションが[N]の場合

ブレーキペダルを踏んでいる、パーキングブレーキが作動している、またはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

■先行車発進お知らせ機能

 (オレンジ) が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) 警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

■渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) P.298

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

■レーダーセンサー P.354

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

■フロントセンサーカメラ P.352

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

標準は先行車が停止状態から約3m以上進んだときに作動します。

早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

① 警告音

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントグリル周辺が汚れ、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどで覆われているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をメーターに表示し、運転者にお知らせする機能です。

表示される道路標識は以下の4つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■ 作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、メーターに道路標識情報を表示します。

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合、道路標識は表示されません。



① 最高速度

⚠ 標識認識機能



警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
 標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
 常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するように設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

📺 フロントセンサーカメラ P.352

走行中に認識された最高速度の標識に対して、速度超過したときは表示された最高速度アイコンが点滅します。
 ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

標識認識機能は以下の条件で作動します。

- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百～千数百 m)を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)スイッチを出しながら右左折したとき

ⓧ標識認識機能

標識認識機能表示の表示する / 表示しないを変更することができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

■標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき

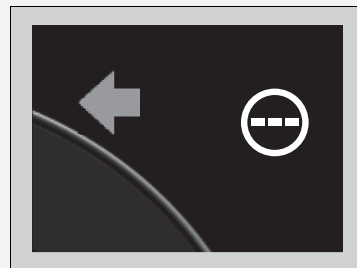
■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

▶▶標識認識機能の条件と制限

標識認識機能が故障した場合はメーターにが表示されます。

のメッセージが消えないときは、指定のHonda 販売店で点検を受けてください。



■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識(終了を示す補助標識など)

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。

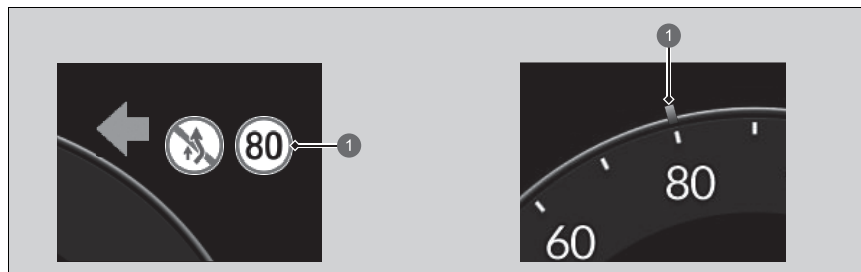
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光揭示板、看板、のぼり旗、構造物など)

■メーターの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

■表示例



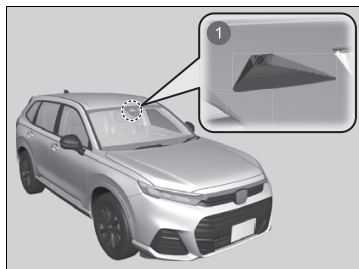
① 最高速度

左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

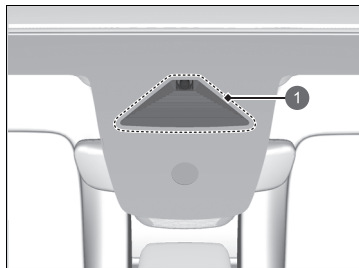
▶メーターの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

フロントセンサーカメラ



① フロントセンサーカメラ



① ステッカー貼り付け不可範囲

カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けしないでください。

※フロントセンサーカメラ

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。

フロントガラスの修理や交換をする場合は指定の Honda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。

※車内の清掃 P.443

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。

物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。次の場合は指定の Honda 販売店にご相談ください。

- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。

必要に応じてデフロスターモードを使用してください。

▶▶フロントセンサーカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

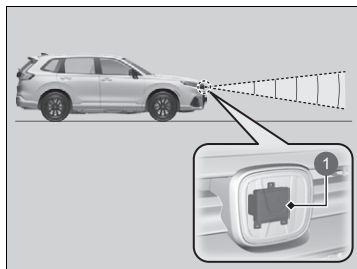
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターモードを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラ視界不良のため認識できません」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスが汚れていないか確認をしてください。フロントガラスが汚れている場合は、汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後もメッセージが消えない場合は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

レーダーセンサー



① レーダーセンサー

レーダーセンサーはフロントグリルにある Honda エンブレムの奥に設置されています。

ⓧレーダーセンサー

システムを正しく動作させるために、必ず次のことをお守りください。

- エンブレムやフロントグリルは常にきれいにしておく
- ▶ お手入れにはベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わないでください。
- エンブレムやフロントグリルを塗装したり、ステッカーなどを貼らない
- エンブレムやフロントグリルを傷つけない
- エンブレムやフロントグリル、バンパーを交換しない
- レーダーセンサーを取り外したり、分解しない

次の場合は、指定の Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わった場合
- フロントグリルやバンパーの修理を行うとき

以下のときは、レーダーセンサーが正常に動作しなくなる場合があるため、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントグリルやバンパーが段差、縁石、輪留め、スロープ、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

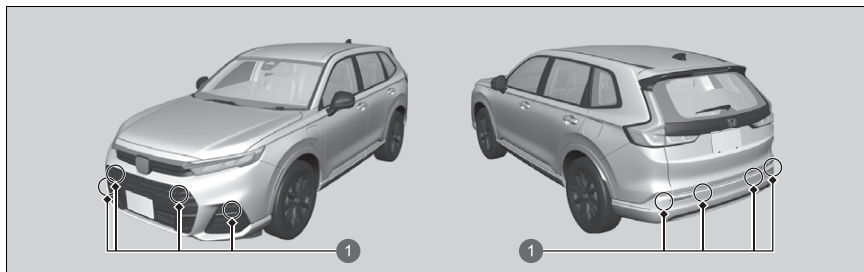
ⓧレーダーセンサー

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、各機能が作動しない場合があります。

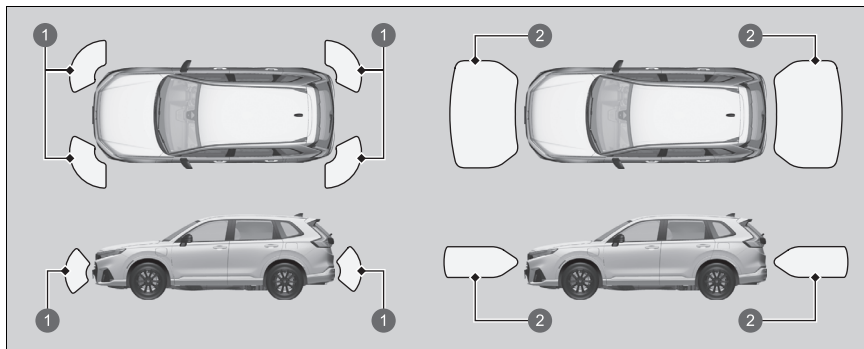
ソナーセンサー

■センサーの取り付け位置と検知範囲

ソナーセンサーはフロントグリル、フロントバンパーおよびリアバンパーに設置されています。



① ソナーセンサー



① コーナーセンサーの検知範囲

② センターセンサーの検知範囲

※ソナーセンサー

ソナーセンサーの取り扱いについて

- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない。
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次の場合は、指定の Honda 販売店にご相談ください。

- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントバンパーおよびリアバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 車両前方または後方が衝突、接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき

ブレーキシステム

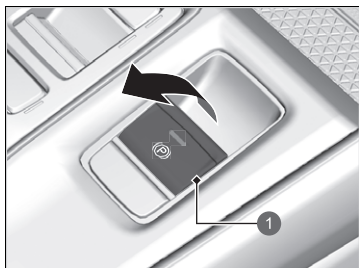
電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。

急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



① パーキングブレーキスイッチ

■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

- ▶ パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケータとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が点灯します。

▶ ブレーキシステム

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、モータールームからモーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

▶ 電子制御パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。

これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

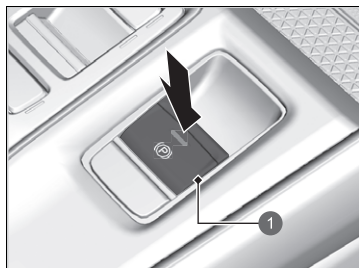
パーキングブレーキをかけたり解除するとブレーキペダルが動くことがあります。

これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

12V バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。

■ 12V バッテリーがあがったとき P.474

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。



① パーキングブレーキスイッチ

■自動パーキングブレーキ作動機能

自動パーキングブレーキ作動機能が ON になっているとき：

パワーモードを OFF モードにするとパーキングブレーキが自動でかかります。パーキングブレーキがかかっていることを、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

➡ 自動作動機能を ON/OFF するには P.360

■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードが ON モードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。
 - ▶ パーキングブレーキが解除され、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

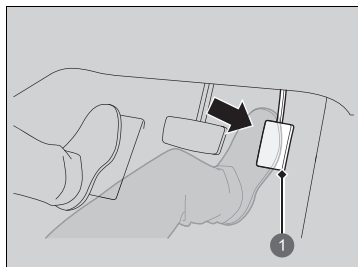
※電子制御パーキングブレーキ

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動します。

- 10分以上渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車しているとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で運転席のシートベルトを外したとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーシステムを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシステムに問題が発生したとき

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



① アクセルペダル

アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

▶ パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- パワーシステムが起動しているとき
- シフトポジションが **P**、**N** 以外のとき

※自動解除するとき

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯
 - トランスミッション警告灯
- 次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
 - VSA 警告灯
 - ABS 警告灯
 - エアバッグシステム警告灯

■自動作動機能を ON/OFF するには

パーキングブレーキの自動作動機能は、パワーモードがONモードのときに以下の操作でONとOFFを切り替えることができます。

1. シフトポジションを[P]にする。
2. ブレーキペダルを踏まずに、パーキングブレーキスイッチを上げます。
▶ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯していることを確認してください。
3. パーキングブレーキスイッチを上げたままにする。
「ピーッ ピーッ ピーッ」と鳴り始めたら手を離し、3秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを上げたままにする。
4. 操作完了音が聞こえたらスイッチから手を離す。
▶ 自動作動機能がONになると、「ピーッ ピーッ」と鳴ります。
▶ 自動作動機能がOFFになると、「ピー」と鳴ります。
▶ パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

また、下記操作を行うことで、パーキングブレーキの自動作動を一時的にOFFすることもできます。

1. ブレーキペダルを踏んで停車する。
2. パワーモードをOFFモードにした後、2秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。
▶ 自動作動機能のON/OFF設定は変わりません。
▶ 渋滞追従機能付ACCおよびオートマチックブレーキホールドシステムの機能がOFFになっている状態で行ってください。
▶ パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

※自動作動機能を ON/OFF するには

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

自動作動機能をOFFにして、石などで輪留めをしてください。

また、けん引の場合は、必要に応じて自動作動機能をOFFにして、パーキングブレーキがかからないようにしてください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

❏ 電子制御ブレーキアシスト P.368

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

❏ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.366

❏ フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

指定のHonda販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などでは回生ブレーキを使用します。

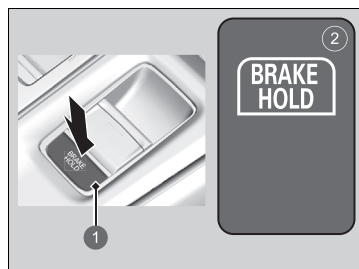
アクセルペダルから足を離し、減速セレクトを使用すると、回生ブレーキの強さが調整できます。

❏ 減速セレクト P.245

■オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには



- ① オートマチックブレーキホールドスイッチ
- ② オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯

シートベルトを着用し、パワーシステムを起動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

- ▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能がONになります。

パワーシステムを一度停止してから運転席のシートベルトを着用し再度起動しても、前回と同じ設定で復帰します。

※オートマチックブレーキホールド

⚠ 警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

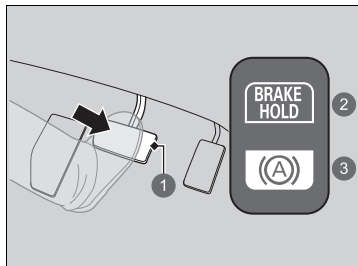
急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを[P]にしてパーキングブレーキをかけてください。

■ブレーキを保持させるには



- ① ブレーキペダル
- ② オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯
- ③ オートマチックブレーキホールド表示灯点灯

シフトポジションが[P][R]以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

- ▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。
- ▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

※オートマチックブレーキホールド



警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

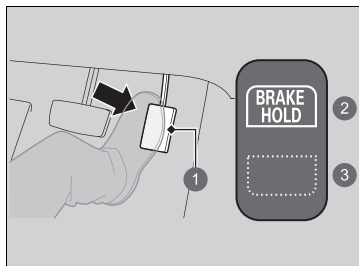
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

システムが作動していても通常と同じ手順でパワーシステムの停止が行えます。

■ 駐停車操作 P.370

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

■車両を発進させるには



シフトポジションが[P][N]以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

- ▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

- ① アクセルペダル
- ② オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯
- ③ オートマチックブレーキホールド表示灯消灯

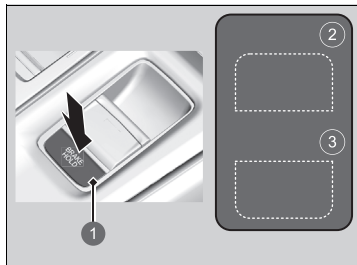
■ブレーキ保持機能が自動的に解除される時

- パーキングブレーキスイッチを引いたとき
- シフトポジションが[P]もしくは[R]で、ブレーキペダルを踏んでいるとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーシステムを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

■機能を OFF させるには



- ① オートマチックブレーキホールドスイッチ
- ② オートマチックブレーキホールドシステム表示灯消灯
- ③ オートマチックブレーキホールド表示灯消灯

オートマチックブレーキホールドシステム表示灯のみ点灯しているとき：

- オートマチックブレーキホールドスイッチを押す
 - ▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールドシステム表示灯とオートマチックブレーキホールド表示灯が同時に点灯しているとき：

- ブレーキペダルを踏みながら、オートマチックブレーキホールドスイッチを押す
 - ▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯およびオートマチックブレーキホールド表示灯が消灯します。

※機能を OFF させるには

自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

機能が ON のときに運転席のシートベルトを外す、またはパワーシステムを停止すると機能が OFF になります。この場合は、運転席のシートベルトを着用し、パワーシステムを起動すると、オートマチックブレーキホールドスイッチ操作なしで機能が ON になります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10 km/h 以下)ではABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

※ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。

ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

❏ABS(アンチロックブレーキシステム)

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためモータールームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

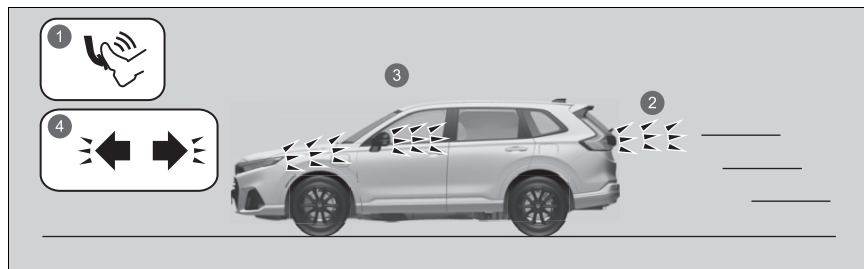
ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

🔗 VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.255

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



- ① 急ブレーキをかける
- ② 制動灯点灯
- ③ 非常点滅表示灯が高速で点滅
- ④ メーター内の方向指示器表示灯が左右同時に高速で点滅

エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

※エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかりと踏んで車両を停止させる。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. シフトポジションを[P]にする。
 - ▶ メーターにシフトポジション[P]が表示されるまでブレーキペダルを離さないでください。
4. パワーシステムを停止する。
 - ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

駐停車操作

⚠ 注意

駐車時はパワーシステムをオフにする。

万一、シフトポジションが[P][N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

⚠ 注意

停車中の空ぶかしはしない。

万一、シフトポジションが[P][N]以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

シフトポジションを[N]にすると同時に[POWER]を押さないでください。
[N]ポジションの状態になることがあります。
シフトポジションは[P]にしてください。

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。

無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして
思わぬ事故につながるおそれがあります。

❏ 駐車する

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で[P][N]以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。

パワーシステムが過熱し、故障の原因となります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。

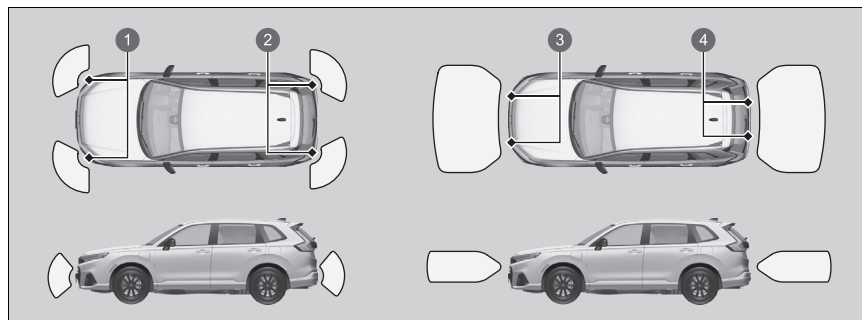
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離を警報音と表示で知らせます。

■ ソナーセンサー P.356

■ パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



- ① フロントコーナーセンサー
- ② リヤコーナーセンサー
- ③ フロントセンターセンサー
- ④ リヤセンターセンサー

■ パーキングセンサーシステム

駐車する前に車両の周りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。

- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 車両が高温または低温の状態にあるとき
- 超音波や周波数の高い音を発するものが近くにあるとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき

次のようなときは、システムが障害物を検知できないことがあります。

- 障害物が細いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- パンパーの真下に障害物があるとき

次のようなときは、システムが誤って障害物を検知することがあります。

- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 大雨などによりセンサー付近に水しぶきがかかったとき

■ パーキングセンサーの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

警報音および表示が OFF になります。

🔧 表示の切り換えかた P.107

🔧 安全支援情報 P.115

フロントコーナーセンサーおよびリヤセンサーは、シフトポジションが **R** で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが **P** **R** 以外で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

🔧 パーキングセンサーシステム

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。
リヤセンサーや、その周囲にアクセサリー(自転車ラックなど)を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動する恐れがありますので、リヤパーキングセンサーを OFF にしてください。

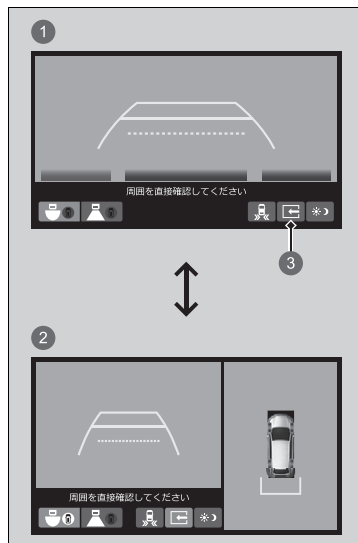
🔧 パーキングセンサーの ON と OFF P.373

🔧 パーキングセンサーの ON と OFF

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

オーディオ/インフォメーション画面を使用して、リアパーキングセンサー警報設定の ON/OFF を切り換えることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

画面操作



- ① 通常表示
- ② 分割表示
- ③ アイコン

アイコンをタッチして、ディスプレイを通常表示または分割表示に切り替えることができます。

▶▶ パーキングセンサーの ON と OFF

車速が 8km/h 以下で走行しているとき、車両前方の障害物を検知し、障害物との距離が近づくと前方のカメラ画像がオーディオ / インフォメーション画面に表示されます。

▶ マルチビューカメラシステム P.381

障害物が検知されなくなるか、障害物が検知範囲と非検知範囲の間にある場合、ディスプレイは前の画面に戻ります。

障害物が検知されたときに前方のカメラ画像を表示するかどうかをカスタマイズすることができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

障害物を検知したときの作動状態



パーキングセンサー警告灯

パーキングセンサー警告灯が点滅します。

▶ システムを OFF にしても障害物を検知するとパーキングセンサー警告灯のみが点滅します。

警報音の間隔	障害物との距離		インジケーター	マルチインフォメーションディスプレイ / オーディオ / インフォメーション画面	
	コーナーセンサー	センターセンサー			
長い	—	フロント： 約 80-70cm リヤ： 約 110-70cm	点灯※1/ 点滅※2 (イエロー※3)	オーディオ / インフォメーション画面	オーディオ / インフォメーション画面
短い	約 60-45cm	約 70-60cm	点灯※1/ 点滅※2 (オレンジ)		
非常に短い	約 45-35cm	約 60-50cm			
連続	約 35cm 以下	約 50cm 以下	点灯※1/ 点滅※2 (レッド)	オーディオ / インフォメーション画面	マルチインフォメーションディスプレイ

※1 : マルチインフォメーションディスプレイ

※2 : オーディオ / インフォメーション画面

※3 : このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

① 障害物を検知した場所をインジケーターで知らせる

警報音を一時的にOFFにするには、警報音がなっているときにライトセレクトホイールを押してください。シフトポジションを切り替えるか 14 km/h 以上で走行すると一時 OFF が解除されます。

後退出庫サポート

駐車場などから後退で出庫するときに、リヤバンパー左右にあるレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

■後退出庫サポート



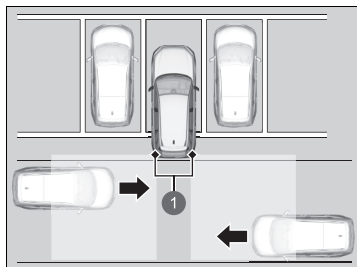
警告

このシステムは出庫時の後方確認などをサポートするためのものであり、衝突を防止するためのシステムではありません。

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

状況によっては、検知のできない可能性があるため、ブザーや画面の表示のみを頼って後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 作動条件と作動タイミング



① 検知範囲

パワーモードがONモードでシフトポジションが[R]のときにシステムをONにしていると、自車の車速が約5 km/h以下の場合に車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、ブザーと画面の表示でお知らせします。

自車の真後ろから接近する他の車両は検知しません。また、検知している他の車両が自車の真後ろまで到達した時点でお知らせを停止します。

自車から離れていく車両に対しては検知をしません。また接近する歩行者、自転車、二輪車などに対して検知する場合があります。

※ 後退出庫サポート

以下のような状況では、接近する車両を検知できなかったり、検知が遅くなったり、接近する車両がないのに検知したりする場合があります。

- リヤバンパーの周囲に他の車両や壁などがあり、レーダーの検知範囲が影響を受けたとき
- 自車の車速が約5 km/hを越えているとき
- 接近する他の車両の車速が約10～25 km/h以外のとき
- レーダーなどを装備した他の車両が近くにいるとき
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- リヤバンパー側面に雪や泥などが付着しているとき
- 悪天候で、接近する他の車両をシステムが認識できないとき
- 坂道またはカーゴスペースや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 壁、ポール、他の車両などに近付くように後退したとき

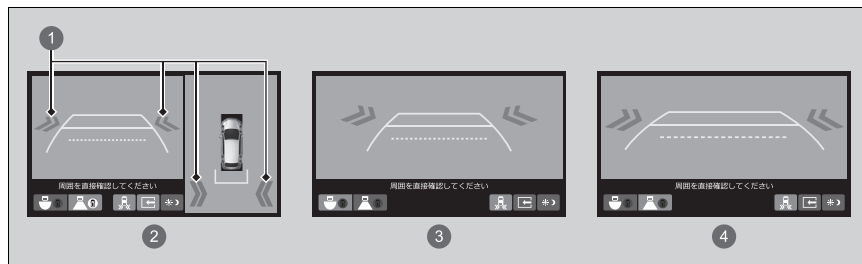
リヤバンパーに衝撃が加わったり、リヤバンパー周辺の修理を行ったときは、指定のHonda販売店で点検を受けてください。

リヤバンパー側面にシールなどを貼らないでください。レーダーの電波がさえぎられるため、他の車両を正しく検知できません。

システムを正しく作動させるために、リヤバンパー側面は常にきれいにしておいてください。

画面表示について

接近してくる車両を検知している間は、接近方向矢印が表示されます。



- ① 接近方向矢印
- ② リアノーマルビュー＋グラウンドビュー
- ③ リアワイドビュー
- ④ リアノーマルビュー

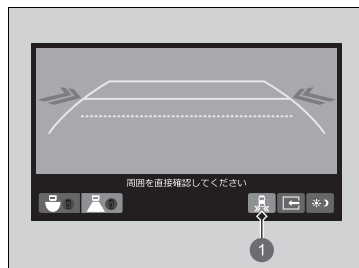
後退出庫サポート

パーキングセンサーシステムが最短距離を検出しているときは、パーキングセンサーシステムのブザーが優先され、後退出庫サポートのブザーは鳴りません。

画面表示について

画面右下のアイコンが  から  (オレンジ) に変わったときは、リヤバンパー側面に雪や泥などが付着していることにより一時的にシステムが動作しません。リヤバンパー側面の付着物を取り除いてください。

■ 後退出庫サポートの ON と OFF



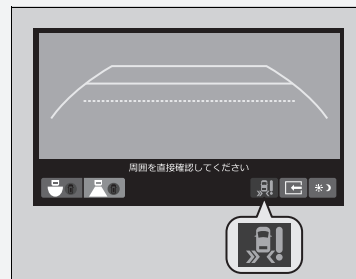
① 後退出庫サポートアイコン

後退出庫サポートアイコンを押して、システムの ON/OFF を切り換えます。ON にすると、アイコンの表示灯(グリーン)が点灯します。

また、カスタマイズ機能を使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

▶▶ 画面表示について



画面右下のアイコンが上記の表示に変わったときは、システムに異常がありますので、システムを使用せず、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

シフトポジションを[R]にしても画面が切り換わらないときは、カメラシステムに異常があります。このとき、後退出庫サポートも正常に作動できなくなります。指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

マルチビューカメラシステムは、運転席から死角となる部分を、オーディオ／インフォメーション画面に映る画像で確認するシステムです。このシステムを補助的に使用することで、次のような場合に運転者の負担を軽減します。

- 後方の障害物を確認する

❑ 後方の障害物を確認するには P.393

- 狭い道でのすれ違いや路肩への幅寄せ、車庫入れなどで前方の障害物を確認する

❑ 前方と前方側面の障害物を確認するには P.388

- 車両の周囲を確認する

❑ 車両の周囲を確認するには P.390

- 見通しの悪い交差点で左右を確認する

❑ 見通しの悪い交差点で左右を確認するには P.391

❑ マルチビューカメラシステム

⚠ 警告

周囲の安全は、マルチビューカメラシステムの画像だけに頼らず、目視やミラーなどで直接確かめてください。

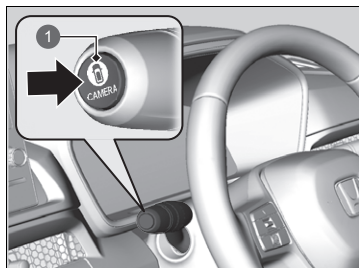
このシステムは運転者の操作をサポートするためのものであり、事故や衝突を防止するためのシステムではありません。

運転操作時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

状況によっては、表示できない可能性があるため、画面の表示のみを頼って操作すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

事故防止のため、周囲の安全を確かめてご使用ください。

マルチビューカメラの画像を表示させるには



①  スイッチ

前方表示：

シフトポジションが **R** 以外のときに  スイッチを押します。

 スイッチを押すと画像が切り換わりま
す。

後方表示：

停車中にシフトポジションを **R** にします。

 スイッチを押すと画像が切り換わりま
す。

表示設定はカスタマイズできます。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情
報をご覧ください。

▶▶ マルチビューカメラの画像を表示させるには

パーキングセンサーが障害物を検知すると、
インジケーターが表示されます。

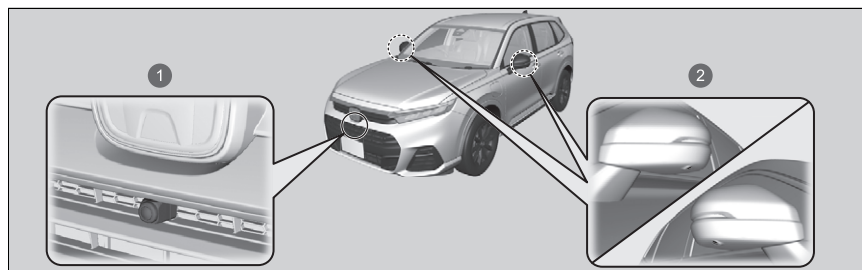
 **パーキングセンサーシステム** P.372

車両が後方から接近していることが検知され
ると、後退出庫サポートが警告します。

 **後退出庫サポート** P.377

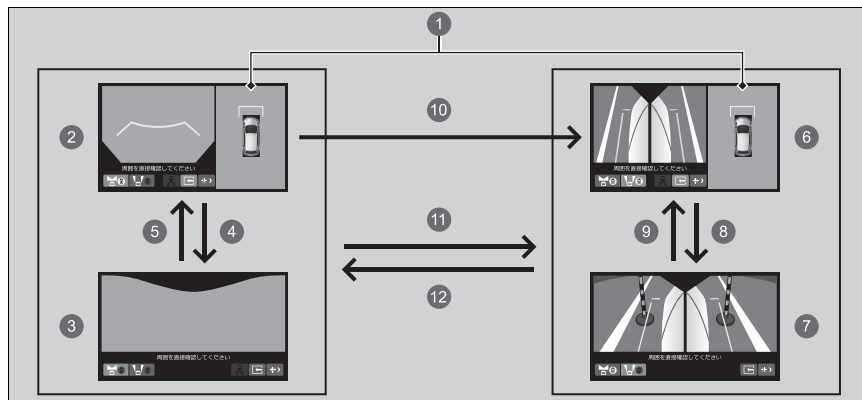
シフトポジションが **R** のときは、オーディオ
とナビゲーションシステムは操作できませ
ん。

カメラの設置場所と画像について



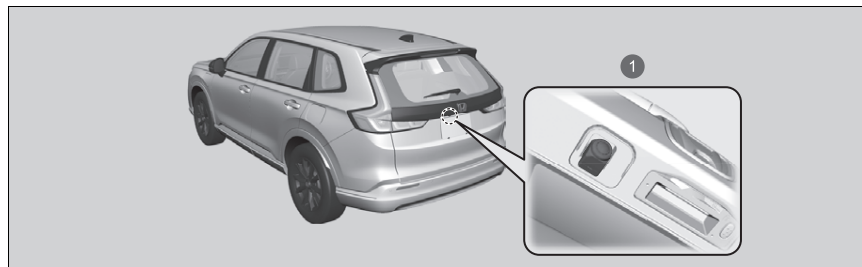
① フロントカメラ

② サイドカメラ

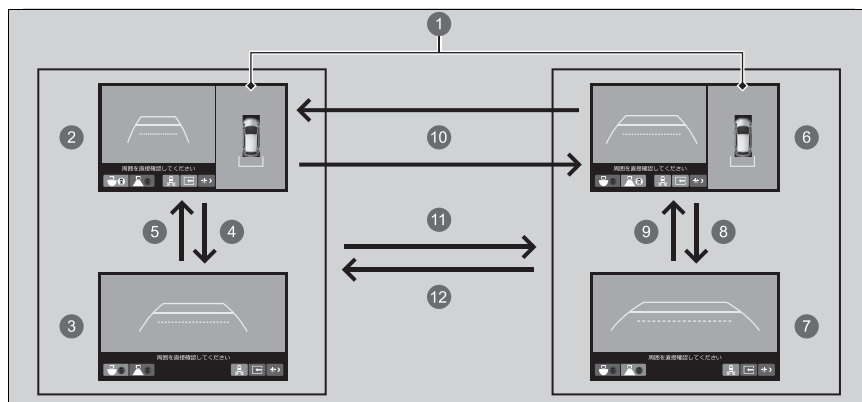


- ① グラウンドビュー：4 台のカメラでとらえた合成画像で、車両を真上から見たイメージで表現されます。
- ② フロントビュー+ グラウンドビュー
- ③ フロントブラインドビュー
- ④  or 
- ⑤  or  or  スイッチ
- ⑥ 左右サイドビュー+ グラウンドビュー
- ⑦ 左右サイドビュー
- ⑧  or 
- ⑨  or  or  スイッチ
- ⑩  スイッチ
- ⑪  or 
- ⑫  or 

カメラは特殊なレンズを使用しています。そのため、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して表示されることがあります。車両から離れるほど、その傾向は強くなります。



① リアカメラ



- ① グラウンドビュー：4 台のカメラでとらえた合成画像で、車両を真上から見たイメージで表現されます。
- ② リアワイドビュー+ グラウンドビュー
- ③ リアワイドビュー
- ④  or 
- ⑤  or  or  スイッチ
- ⑥ リアビュー+ グラウンドビュー
- ⑦ リアビュー
- ⑧  or 
- ⑨  or  or  スイッチ
- ⑩  スイッチ
- ⑪  or 
- ⑫  or 

カメラは特殊なレンズを使用しています。そのため、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して表示されることがあります。車両から離れるほど、その傾向は強くなります。

■ 目安ガイド線と予測ガイド線表示

マルチビューカメラシステムが起動している状態のときに以下のガイド線を表示できます。

目安ガイド線：車両からの距離を表示することができます。この距離は、実際の距離とは異なる場合があります。

予測ガイド線：ハンドル操作に応じて、車両の動く方向を表示することができます。

■ 目安ガイド線と予測ガイド線表示

目安ガイド線および予測ガイド線とカメラ画像が示す距離は、車高の変化や路面の状態の影響などにより、実際の距離と異なることがあります。

目安ガイド線および予測ガイド線はあくまでも参考としてお使いください。

目安ガイド線および予測ガイド線はカスタマイズにより表示/非表示を切り換えることができます。

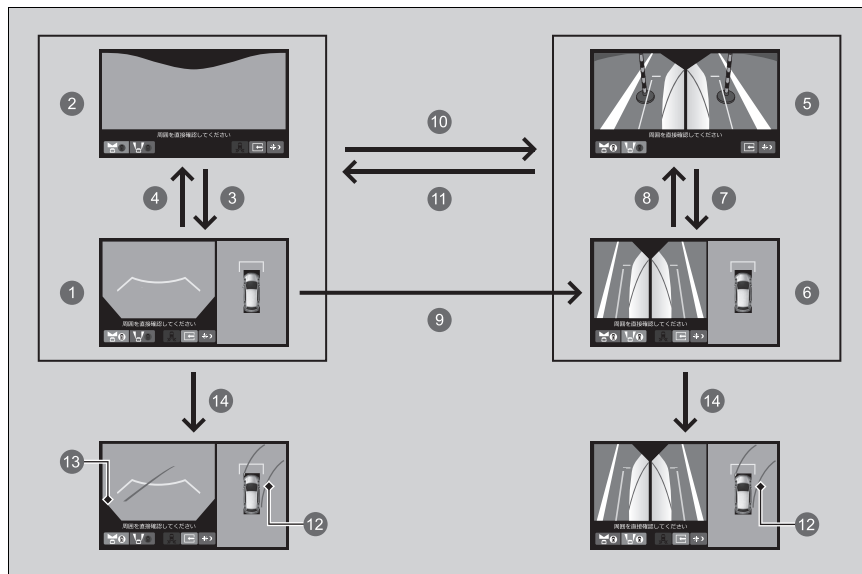
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

目安ガイド線および予測ガイド線を非表示にした場合、再度表示にするまで非表示の状態が維持されます。

■マルチビューカメラの使いかた

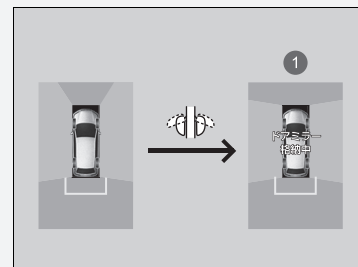
■前方と前方側面の障害物を確認するには

⑥スイッチを押すと前方画面表示が表示できます。シフトポジションが[R]以外のときに⑥スイッチを押すと、画像が以下のように切り換わります。



▶マルチビューカメラの使いかた

ドアミラーを格納してもグラウンドビューは表示されます。ただし、ドアミラー格納中は表示エリアおよび死角が異なりますので注意してください。

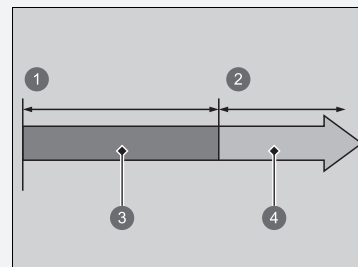


① 格納中の表示

- ① フロントビュー+ グラウンドビュー
- ② フロントブラインドビュー
- ③  or  or  スイッチ
- ④  or 
- ⑤ 左右サイドビュー
- ⑥ 左右サイドビュー+ グラウンドビュー
- ⑦  or  or  スイッチ
- ⑧  or 
- ⑨  スイッチ
- ⑩  or 
- ⑪  or 
- ⑫ 予測ガイド線は、車両の外側から約 35cm の位置に表示されます。
- ⑬ 死角になる部分は黒く表示されます。
- ⑭ ハンドルを 90 度以上切る

※前方と前方側面の障害物を確認するには

車速が 25km/h を超えるとフロントビューまたはサイドビュー画面は自動的にオーディオ / インフォメーション画面に切り換わります。ただし、表示から約5秒間は表示を続けます。



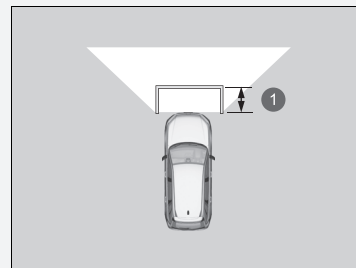
- ① 0 km/h
- ② 25 km/h
- ③ カメラ画面
- ④ オーディオ / インフォメーション画面

■車両の周囲を確認するには

グラウンドビュー画面は停車時などで車両の周囲を確認する際に使用すると便利です。

※前方と前方側面の障害物を確認するには

ガイド線の距離は、およその距離です。



① 約 1.1m

■見通しの悪い交差点で左右を確認するには

フロントブラインドビュー画面は見通しの悪い交差点などで左右を確認する際に使用すると便利です。



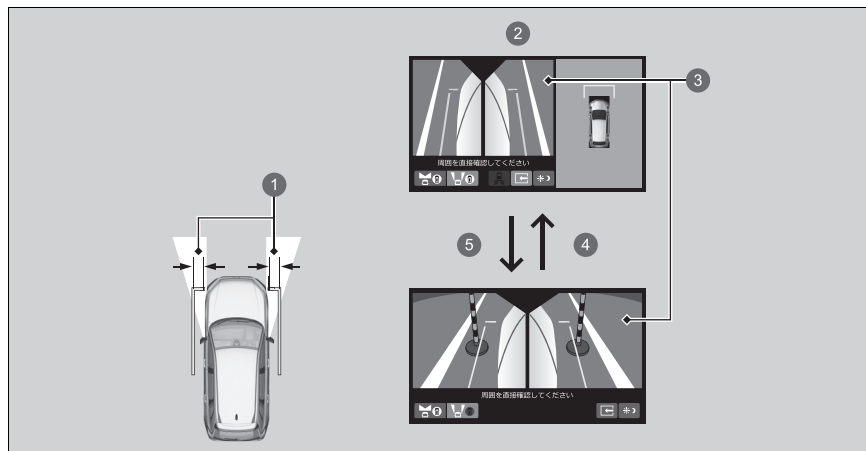
- ① フロントブラインドビュー画面に表示される範囲は約 180 度です。
- ② フロントブラインドビュー

※見通しの悪い交差点で左右を確認するには

フロントブラインドビュー画面は広い範囲を写すため、画像は大きくゆがんで表示されます。また障害物との距離が実際より近くまたは遠くに見えることがあります。

■前方側面の障害物を確認するには

左右サイドビュー画面は路肩や料金所に幅寄せしたり、狭い道でのすれ違いの際に使用すると便利です。



- ① 40cm
- ② サイドビュー画像
- ③ サイドビュー：サイドカメラの画像です。
- ④ or or スイッチ
- ⑤ or

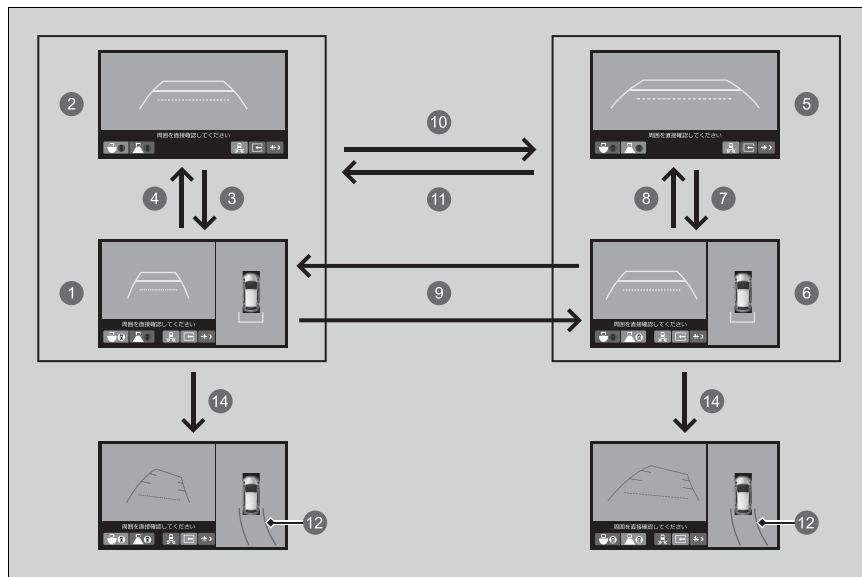
目安ガイド線の距離車両外側から約 40cm

※前方側面の障害物を確認するには

サイドビューは、ドアミラーを格納しているときは表示されません。

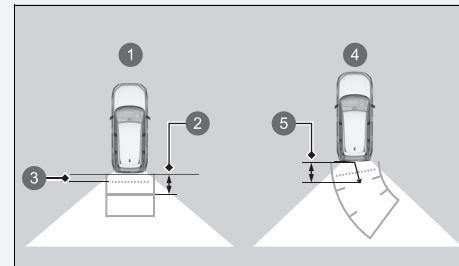
■後方の障害物を確認するには

シフトポジションを[R]にすると、自動的に後方画面表示に切り換わります。



☒後方の障害物を確認するには

シフトポジションを[R]に切り換えたときに、後方画面表示が遅れて切り換わることがあります。



おおよその距離

- ① 目安ガイド線の距離
- ② 約 1.1m
- ③ 約 80cm
- ④ 予測ガイド線の距離
- ⑤ 約 1.1m

- ① リアワイドビュー+ グラウンドビュー
- ② リアワイドビュー
- ③  or  or  スイッチ
- ④  or 
- ⑤ リアビュー
- ⑥ リアビュー+ グラウンドビュー
- ⑦  or  or  スイッチ
- ⑧  or 
- ⑨  スイッチ
- ⑩  or 
- ⑪  or 
- ⑫ 予測ガイド線は、車両の外側から約 35cm の位置に表示されます。
- ⑬ ハンドルを 90 度以上切る

マルチビューカメラシステムの制限

次の状態では、システムは適切に働きません。

状態		対処のしかた
予測ガイド線が不正確		指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
カメラの画像が不鮮明	雨、霧、雪などの悪天候のとき、または周囲が暗い場合 - カメラが高温になった場合 - トンネルの出入り口などで明るさが変化した場合 - 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行する場合 - カメラのレンズに傷がついた場合	システムが適切に作動するまでマルチビューカメラシステムを使用せず、目視やミラーで直接周囲を確認してください。
	- カメラのレンズが汚れ、水滴、ちりなどでおおわれている場合 - 水滴や虫などがついた場合	レンズが汚れたときは、水や中性洗剤、ガラスクリーナーなどを含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
	画面が指紋などで汚れている場合	オーディオ / インフォメーション画面の汚れを柔らかい布で拭き取ってください。
	カメラの位置がずれた	カメラもしくは、その周囲に強い衝撃が加わったことが考えられます。
マルチビューカメラシステムを使用中に画面にエラーメッセージが表示された		マルチビューカメラシステムの使用をやめて、ただちに指定の Honda 販売店にご相談ください。
25 km/h 以下で走行中に、画面に映像が表示されない		

指定燃料について

水素充てん口は、助手席側後方にあります。

指定燃料：圧縮水素

水素充てん圧力：70.0MPa(15℃時)最大 87.5MPa

水素充てん量※：約 4.3kg(70MPa 時)

タンク容量：109 リットル

※：SAE 規格(J2601)の標準条件に基づいた水素充てん圧力 70MPa ステーションで充てんした場合の Honda 測定値。

水素タンクを満充てんするには、充てん圧力 70MPa の水素ステーションで充てんする必要があります。35MPa の水素ステーションでも充てんは可能ですが、充てん圧力が低いため、満充てんになりません。

水素ガスの充てん

警告

水素ガスを充てんするときは、火気厳禁です。タバコなどの火気を近づけないでください。水素ガスは引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。パワーシステムを停止して、燃料電池を必ず停止してください。

アドバイス

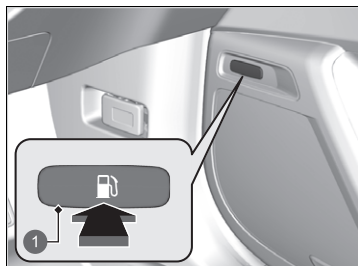
不適切な水素ガスを使用すると、燃料電池に悪影響を与えます。必ず指定された水素ステーションで補給してください。

水素ステーションの場所については、Honda インターナビシステムで探すことができます。ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

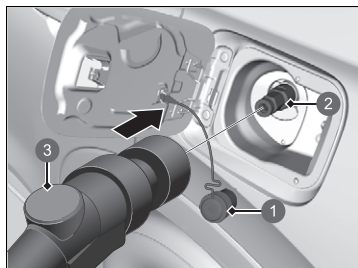
水素は非常に軽く、無色無臭で、引火しやすい性質があります。また、燃えているときの炎は見えにくい特徴があります。

水素ガスの充てんのしかた

水素ガスの充てんは、水素ステーションの係員におまかせください。



① フューエルリッドオープナー



- ① ダストキャップ
- ② 水素充てん口
- ③ 水素充てんノズル

1. 助手席側に水素ステーションの充てん機がくるように車を停める。
2. シフトポジションを **[P]** にする。
3. パワーモードを OFF モードにする。
4. 運転席ドアにあるフューエルリッドオープナーを押してリッドを開ける。

5. 水素充てん口のダストキャップを外す。
6. 水素ガスの充てんを水素ステーションの係員に依頼する。
7. ダストキャップはゴミが入らないよう必ず締める。

❏ ダストキャップとフューエルリッドの閉めかた P.398

❏ 水素ガスの充てんのしかた

⚠ 警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- パワーシステムは常に止める
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱い屋外で行う

⚠ 警告

燃料補給作業は、フューエルリッドを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

パワーモードが OFF モードでシフトポジションが **[P]** のときのみフューエルリッドが開きます。

❏ フューエルリッドが解錠できないとき P.499

■ダストキャップとフューエルリッドの閉めかた

1. 水素充てん口にダストキャップを取り付ける。
2. フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉める。

▶▶ 水素ガスの充てんのしかた

アドバイス

充てん時以外、充てん口は不用意に触れないでください。故障の原因になる可能性があります。

充てん量は、周囲の温度により変わります。

注入するときに、「ヒューッ」という注入音がしますが、異常ではありません。

▶▶ ダストキャップとフューエルリッドの閉めかた

フューエルリッドが閉まっていないときは、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、パワーモードを ON モードにすることができません。



▶▶ 「フューエルリッドが開いています」のメッセージが表示された P.487

高電圧バッテリーの充電の準備

充電を始める前に下記の項目を確認してください。

確認項目

- 接地施工された専用回路を使用しているか？
 - ▶ 施工状態がわからないときは、電気工事業者に確認を依頼してください。
- 充電専用コンセントに充電ケーブルのプラグを直接差し込んでいるか？
 - ▶ 延長コード、コードリール、プラグ変換アダプターは使用しないでください。また、たこ足配線はしないでください。
- 充電ケーブルは伸ばした状態で使用をしているか？
 - ▶ 伸ばした状態で使用をしてください。
- 充電コネクタ、充電ケーブルが破損していないか？
 - ▶ 破損している場合は、使用を中止してください。
- 充電コネクタや充電口に異物が入っていないか？
 - ▶ 異物が入っている場合は、指定の Honda 販売店にご相談ください。
充電コネクタと充電口は常に清潔な状態にしてください。
- 充電コネクタ、充電ケーブルが水で濡れていないか？
 - ▶ 水の近くや濡れた手で使用しないでください。

注意：充電専用コンセントは変形していないことを確認してください。充電専用コンセントが磨耗または損傷していると、充電ケーブルのプラグにうまく接触しません。充電ケーブルのプラグが完全に接続され、取り付け後に充電専用コンセントから出していないことを確認してください。正しく接続しないと、プラグ内が高温になり、プラグが損傷することがあります。

高電圧バッテリーの充電

警告

ブレーカーに単独配線をされ、接地施工された充電専用コンセントを使用する。

適切な電源回路を使わないときは、火災になるおそれがあります。

施工状態がわからないときは、電気工事業者に確認を依頼してください。

以下の状態のときに高電圧バッテリーに充電をすると、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

- 落雷のおそれがあるときは充電を行わない
- 水の近くや濡れた手で、充電コネクタ、充電ケーブルの使用をしない
- 充電コネクタ、充電ケーブルが破損している場合は、使用しない

これらの状態のときは、充電をしないでください。

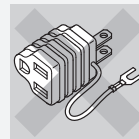
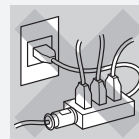
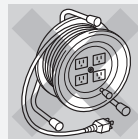
本田推奨工事仕様については指定の Honda 販売店に確認してください。

⌘ 高電圧バッテリーの充電

⚠ 警告

充電機器の不適切な取扱いは火災や重大な傷害につながるおそれがあるため、次のことを守る。

- 接地施工された適切なコンセントを使用すること
- 延長コードやコードリールは使用せずにコンセントに直接プラグを差し込むこと
- たこ足配線はしないこと
- 発電機は使用しないこと
- 充電コネクタや充電口に異物が入っていないことを確認すること
- 電源プラグや充電コードは水や他の液体に浸さないこと
- 充電ケーブルを落下させる、衝撃を与える、水没させる、プラグや充電コネクタへ異物を挿入させるなどの行為をしないこと。



高電圧バッテリーの充電方法

充電には FC システムによる発電、走行時の充電以外に普通充電があります。

普通充電は、住宅などで AC200V の充電器で行う充電です。

充電方法	充電時間
普通充電(AC200V 32A のとき)	満充電まで約 2.5 時間(150 分)

- 充電時間は、バッテリーの残量や気温、使用する充電器により異なります。
- 充電時間は、気温が 25℃ を基準とした時間です。
- AC100V の充電器を使用しても充電できますが、AC200V と比べ充電終了までの時間が長くなります。
- 満充電までの残り時間の目安は、メーターで確認できます。

高電圧バッテリーの充電方法



警告

損傷や改造された充電機器を使用することは、感電や火災の原因となり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

決して分解や改造をしないでください。もし、充電機器に損傷があるときは、使用を中止し、指定の Honda 販売店にご相談ください。



注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、充電時には充電スタンドや充電ケーブルに植込み部位を近付けず離してください。

充電により、機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

アドバイス

車両カバーを装着したまま充電しないでください。

誤動作を引き起こしたり、車両や充電機器が故障する可能性があります。

⚡高電圧バッテリーの充電方法

充電ケーブルに、汚れや水滴が付着している場合は、乾いたきれいな布で拭き取ってください。水洗いやケミカル類を使用しての掃除は行わないでください。

充電口とコネクターの金属部分が損傷や腐食している場合は、指定の Honda 販売店にご相談ください。

充電機器の損傷を防ぐために、次の点に注意してください。

- 充電機器に強い衝撃をあたえない
- ケーブル部分を引っ張らない、ねじらない、折り曲げない、踏みつけない、引きずらない
- 充電機器は、ヒーターなどの温度が高くなるものに近づけたり、高温場所で保管や使用しない

バッテリー加温システムが作動すると、高電圧バッテリーの充電に時間がかかる場合があります。

12Vバッテリーが外されていると、充電はできません。12Vバッテリーを接続したら、パワーシステムの起動、停止を行ってください。その後、充電コネク터를再接続し、充電が開始されることを確認してください

⚡ **パワーシステムの起動** P.233

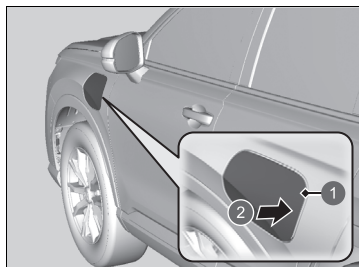
❏ 高電圧バッテリーの充電方法

充電中に停電が発生したときは、電力が復旧して、充電システムが充電可能な状態になると自動的に充電が再開されます。

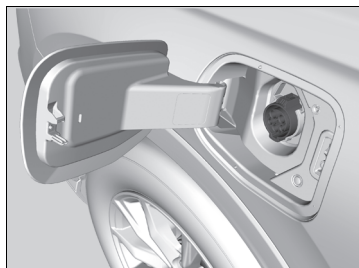
外気温が -30°C 以下の場合、高電圧バッテリーの充電が開始されないことがあります。

充電中は、電磁波によるノイズのために、ラジオが聞こえなくなることがあります。

■ 普通充電



- ① 充電リッド
- ② 押す



1. シフトポジションを **[P]** にして、パワーモードを OFF モードにする。
▶ パワーモードが OFF になっていることを確認してください。
2. 運転席ドアを解錠する。
▶ 車の外側の充電リッドが解錠されます。
3. 充電リッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離す。
▶ リッドが少し浮き上がります。
4. 充電リッドを開ける。

▶▶ 普通充電

推奨の充電ケーブル(別売)のご購入や取り扱い、指定の Honda 販売店にご相談ください。

充電を行うには専用のコンセントが必要です。また、漏電遮断器付コンセントを使用することをおすすめします。

Honda スマートキーを携帯している場合、ドアが施錠されていても充電リッドを開けることができます。

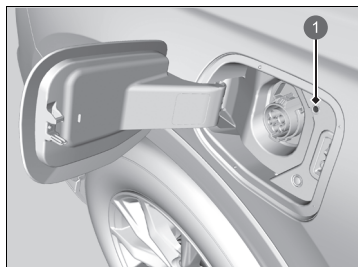
充電タイマーが設定されている場合は、充電コネクターが車両に正しく接続されていても、高電圧バッテリーの充電がされない場合があります。

▶ すぐに充電を開始したい場合は、充電コネクターのロック解除ボタンを長押しすると充電が開始されます。

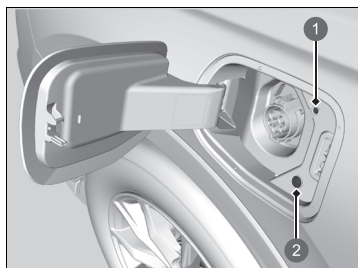
充電機器に付属の指示と安全上の注意事項に必ず従ってください。

充電コネクタを一差し込んだら、ゆっくりと手前に引いて抜けないことを確認し、しっかりと差し込んでください。

- 充電コネクターは充電口に斜めに差し込まない
- 充電コネクターを差し込む際は、上下に動かさない



① 充電インジケータ



① 充電インジケータ

② ロック解除ボタン

5. 充電コネクタを充電口に差し込む。

- ▶ 充電インジケータ(ホワイト)の点滅が停止し、充電インジケータ(ブルー)がスワイプ(連鎖点灯)します。

■充電が完了したとき

車両側のロック解除ボタンを押し、モーターの作動音が聞こえるまで充電コネクタに触れずに待ちます。モーターの作動音が止まったことを確認してから、充電口から取り外します。

- ▶ 充電が完了すると、充電インジケータ(ブルー)のスワイプ(連鎖点灯)が停止します。
- ▶ 約 15 秒後、充電インジケータは消灯します。

❏普通充電

満充電付近になると充電される速度が遅くなります。
また高電圧バッテリーの温度が低いときは充電される速度が遅くなったり満充電にならないことがあります。

充電を途中でやめたいときは、充電コネクタを抜き取ってください。
充電は自動的に中止されます。

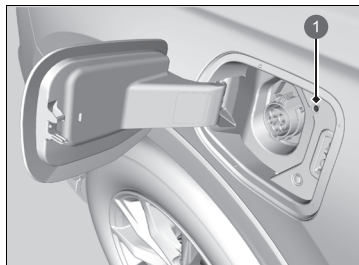
施錠されている場合、Honda スマートキーを携帯していないと、車両側のロック解除ボタンを押しても充電コネクタを外すことはできません。充電コネクタを外すには、解錠した状態で、Honda スマートキーを携帯した状態で、車両側のロック解除ボタンを押してください。

また、充電コネクタロックを解除してから 30 秒以内に充電コネクタを外さないと、充電コネクタは自動的に再度ロックされます。

充電コネクタが外れない場合は、下記のページを参照してください。

❏ 充電/パワーサプライコネクタが抜けないとき P.501

■ 充電インジケータ



充電インジケータは高電圧バッテリーの充電状態を表示します。

① 充電インジケータ

インジケータの状況	車の状態
ゆっくり点滅 (ホワイト)	- 充電待機状態のとき。 - 充電タイマーが設定されているとき。
スリープ (連鎖点灯) (ブルー)	充電をしているとき。
点灯 (ブルー)	充電が終了したとき。
1 回点滅 (ブルー)	充電が終了し、バッテリー加温システムが作動しているとき。
点滅 (レッド)	- 充電システムが異常のとき。 ▶ 充電は開始されません。
点灯 (レッド)	- 充電コネクタが正しく接続されていないとき。 ▶ 接続の際は、充電コネクタが傾かないよう奥側に突き当たるまで差し込んでください。
点灯 (ホワイト)	- 充電機器の停止ボタンが押されたとき。 - タイマー充電が停止したとき。

タイマー充電

オーディオ/インフォメーション画面のカスタマイズ機能を使ってタイマー充電を行うことができます。

充電コネクタが車に接続されているとき、設定された日時以外の時間帯で充電を行います。

■タイマー充電の設定



1. 「FCEV 設定」アイコンを押し、「充電待機時間タイマー設定」を押す。

▶ 12V バッテリー再接続後、GPS 取得できていない場合は設定できません。通信環境のよい場所へ移動して再度設定を行ってください。

2. 「スケジュール 1」または「スケジュール 2」を選択する。

❏タイマー充電

充電待機時間タイマー設定で設定した時間内であっても、以下のシステムが作動している場合は、十分に充電されない場合があります。

- バッテリー加温システム
- お出かけ前エアコンタイマー設定

❏タイマー充電の設定

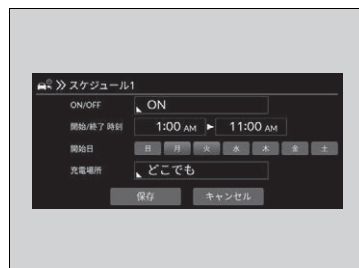
「ON/OFF」：ON または OFF を選択します。
「開始/終了時刻」：充電を行わない時間帯の設定

「開始日」：充電を行わない曜日の設定

「充電場所」：自宅またはどこでもを選択します。

自宅の近くで車両を充電する場合、「自宅」設定されることがあります。

ナビゲーションシステムに自宅が登録されていない場合、「どこでも」が設定されます。



3. 「ON」または「OFF」を選択し、上から順にすべての項目を設定する。

4. 「保存」を押す。

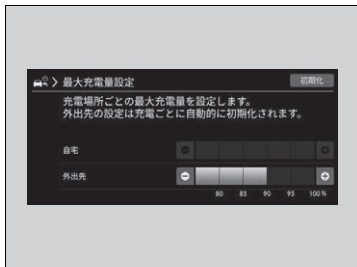


最大充電量設定

オーディオ / インフォメーション画面の設定機能を使って、高電圧バッテリー充電時の最大充電量の上限を変更することができます。

充電場所が丘の上などにある場合は、長い下り坂の走行で発生する回生エネルギーにより高電圧バッテリーが充電されるため、最大充電量を下げておくことで充電を効率的に行うことができます。あなたのドライビングの予定に合わせて設定してください。

オーディオ / インフォメーション画面による設定



1. 「FCEV 設定」を選択する。
2. 「最大充電量設定」を選択する。
3. 「自宅」か「外出先」を選択する。
 - ▶ 充電時の自車位置により、それぞれの最大充電量が設定できます。
 - 「自宅」：自宅登録された地点
 - 「外出先」：それ以外の地点
4. お好みの充電量を設定する。
 - ▶ 最大充電量の設定は、80 から 100% の範囲で5%単位の変更をすることができます。

最大充電量設定

「自宅」で設定した上限量で充電するには、ナビゲーションシステムに自宅登録する必要があります。

ナビゲーションシステムに自宅が登録されていない場合、「外出先」が設定されます。

充電電流設定

オーディオ / インフォメーション画面の設定機能を使って、高電圧バッテリー充電時の最大充電量の上限を変更することができます。

▶ 自宅や外出先での充電時にブレーカーが落ちるのを防ぐことができます。

■オーディオ / インフォメーション画面による設定

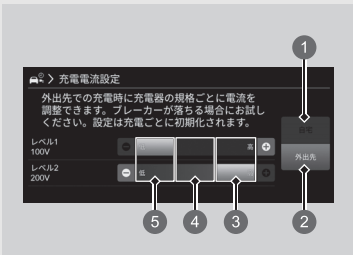


1. 「FCEV 設定」を選択する。
2. 「充電電流設定」を選択する。
3. 「自宅」か「外出先」を選択する。
▶ 充電する場所に基づいた電流設定にすることができます。
4. 「レベル 1 100V」または「レベル 2 200V」を選択する。

■オーディオ / インフォメーション画面による設定

ナビゲーションシステムに自宅が登録されていない場合、「外出先」が設定されます。

5. 充電電流を選択してください。

オーディオ / インフォメーション画面	電流設定			満充電までの時間※
	レベル 1 100V	高	15A の場合	10 時間
		高と低の間	10.5A の場合	14 時間
		低	6A の場合	24 時間
	レベル 2 200V	高	32A の場合	2.5 時間
		高と低の間	19A の場合	4 時間
		低	6A の場合	12 時間

※：充電時間は、バッテリー残量や気温、使用する充電器により異なります。

① 自宅：自宅登録された地点

▶ ナビゲーションシステムに自宅登録する必要があります。

② 外出先：それ以外の地点

③ 高：最大値(最大 15A※¹/32A※²)

④ 高と低の間：最大値と 6A の中間値

(たとえば、最大値が 15A※¹/32A※²、最小値が 6A の場合、中間値は 10.5A※¹/19A※²になります。)

⑤ 低：最小値(最小 6A)

※¹：レベル 1 AC100V

※²：レベル 2 AC200V

高電圧バッテリーの特性

車を使用しない期間が続くと高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。このため、長期間駐車をすると高電圧バッテリーの充電量は低下します。充電量が低い状態で放置するとバッテリー寿命を縮める原因になります。

バッテリーの性能を維持するために、少なくとも3ヶ月に一度充電する、または30分以上起動をしてください。起動により高電圧バッテリーが充電されます。高電圧バッテリーの寿命は周囲の温度に影響されます。特に外気温が低いときは走行の航続可能距離が短くなり、充電が長くなります。さらに、極端な高温または低温下での駐車は高電圧バッテリーの消耗を加速させます。

バッテリーの寿命を長くするために、走行直前に満充電にすることをおすすめします。

■バッテリー加温システム

外気温が低いときに高電圧バッテリーの温度が下がらないように設計されているため、始動と運転がしやすくなります。

外気温が低いときバッテリー加温システムは、運転を開始するまで高電圧バッテリーの温度を維持します。

車両に充電コネクタを差し込んだ状態で4日以上使用していない場合や、車両に充電コネクタを差し込んでいない場合は、高電圧バッテリーの電力を使います。

そのため高電圧バッテリーの残量が低下することがあり、再充電することがあります。

❏高電圧バッテリーの特性

高電圧バッテリーは時間の経過や使用状況により蓄電能力が低下します。蓄電能力の低下に伴い航続可能距離が短くなります。

❏バッテリー加温システム

高電圧バッテリーの温度が -30 °C 以下になると、パワーシステムは起動できません。

高電圧バッテリーの温度が極端に低下した場合で、バッテリー加温システムが作動する場合は高電圧バッテリーが温まるのを待ち、作動しない場合はけん引などで車両を暖かい場所に移動させてください。

4日以上車両を使用しない場合、充電待機時間タイマー設定を OFF に設定し、充電コネクタを接続しておくことをお勧めします。

❏タイマー充電 P.407

バッテリー加温システムは、12V バッテリーを外した状態では作動しないため、システムの起動ができません。

したがって、寒い場所で駐車、または保管する場合は、12V バッテリーを外さないことをお勧めします。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に	
点検整備について	414
メンテナンスを安全に行うために	415
メンテナンスに関する注意事項	416
イオン交換器の交換時期メッセージ	417
モータールーム内のメンテナンス	
モータールーム内のメンテナンス項目	419
ボンネットを開ける	420
ウィンドウォッシャー液の補給	422
電球の交換	423
ワイパーブレードラバーの点検と整備	428
タイヤの点検と整備	
タイヤの点検	433
タイヤとホイールの交換	435
タイヤのローテーション	436
冬のタイヤ	437
Honda スマートキー	
Honda スマートキーの取り扱いと電池交換	438
エアコンのお手入れ	
エアクリーンフィルター	441
清掃	
車内の清掃	443
車外の清掃	446
アクセサリーと改造	450

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・水素充てん時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

※点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、指定の Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- モータールーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

車についての安全事項

- モータールーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
▶ 車両の状態によっては、パワーモードを OFF モードにしても冷却ファンが作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
▶ 部品に触れる前に、モータールーム内の部品を十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
▶ 指示されたとき以外は、パワーシステムを起動させないでください。

⚠️ メンテナンスを安全に行うために



警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

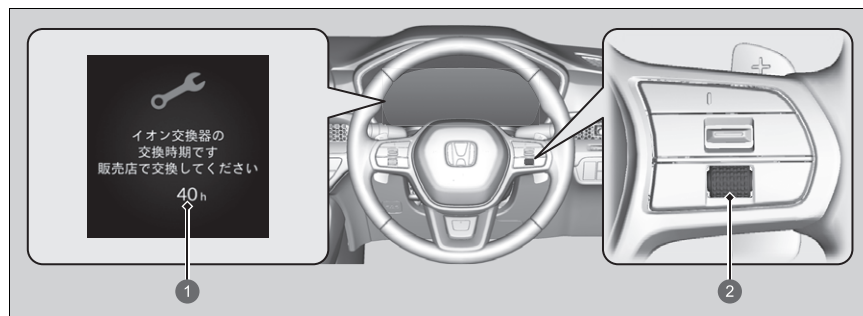
メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

イオン交換器の交換時期メッセージ

メンテナンスが必要な場合は、パワーモードをONモードにするたびにイオン交換器の交換時期メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたり、メーター内の警告灯が点灯します。メッセージが表示されたり、警告音が鳴ったり、警告灯が点灯したときは、指定の Honda 販売店で交換してください。

イオン交換器の交換時期メッセージの表示

ライトセレクトーホイールを回してイオン交換器の交換時期メッセージを表示させる。



① 次回の交換時期までの残時間

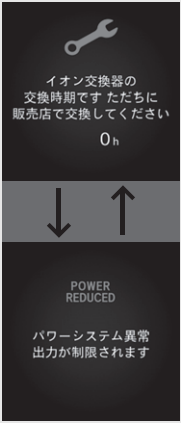
② ライトセレクトーホイール

■イオン交換器の交換時期メッセージの表示

車両の運転時間をもとに、次回の交換時期までの残時間を計算しています。

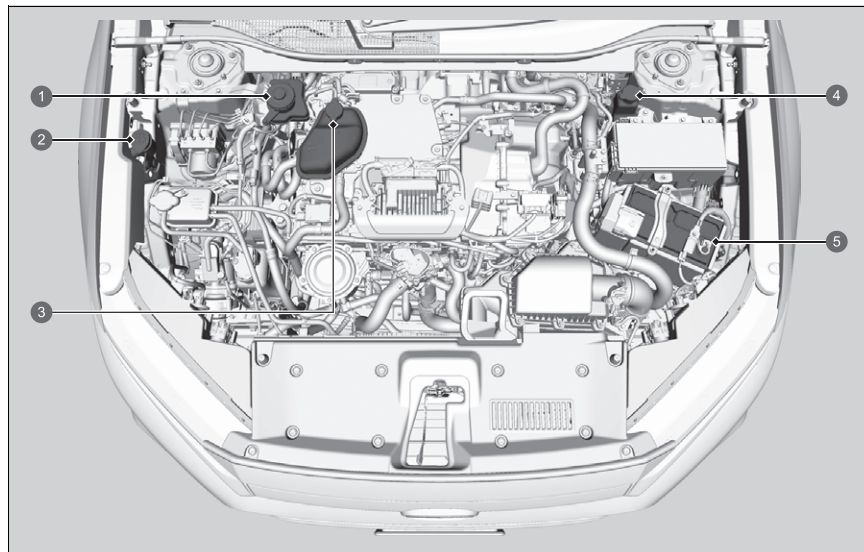
イオン交換器機能の状態によっては、表示された残時間より短くなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ情報

警告灯	メッセージ	説明	情報
	マルチインフォメーションディスプレイ		
—		交換時期までの時間が 40 時間以下になったとき	交換時期が近くなっています。
POWER SYSTEM パワーモードを ON モードにすると常時点灯する		交換時期を過ぎているとき	交換時期を過ぎています。指定の Honda 販売店で交換してください。
	交互に表示され、警告音が鳴る		

モータールーム内のメンテナンス

モータールーム内のメンテナンス項目



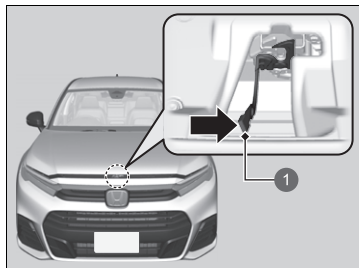
- ① ブレーキフルードリザーブタンク※
- ② ウィンドウォッシャー液注入口
- ③ 高電圧システム冷却水タンク A※
- ④ 高電圧システム冷却水タンク B※
- ⑤ 12V バッテリー※

※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける



- ① ボンネット解除ノブ
- ② 引く



- ① レバー

1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
 - ▶ ボンネットが少し浮き上がります。

3. ボンネット中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

▶▶ ボンネットを開ける



注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

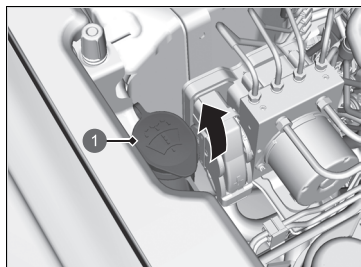


ボンネットを全開にする。

閉めるときは、ボンネットを下げ、ボンネット中央前端のロック部を手でおさえつけるように閉めます。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



① キャップ

減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

❏ ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライトは LED を使用しています。
点検、交換は指定の Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は指定の Honda 販売店に依頼してください。

デイトタイムランニングライト / 車幅灯電球

デイトタイムランニングライト / 車幅灯は LED を使用しています。点検、交換は指定の Honda 販売店に依頼してください。

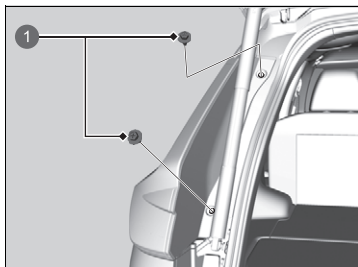
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は指定の Honda 販売店に依頼してください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

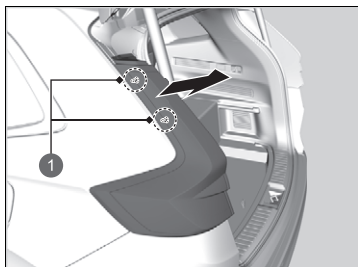
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯：12V-21W(橙色)



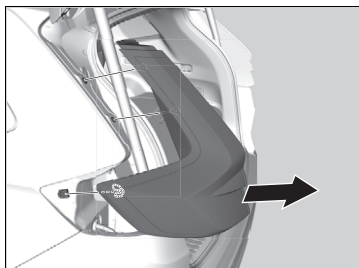
1. ボルトを外す。

① ボルト

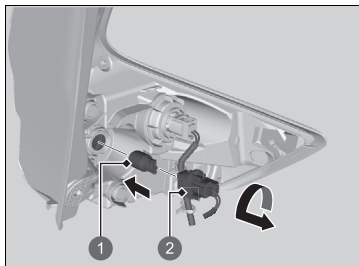


2. ライトを手前に引いて、車体側のグロメットからスナップピンを外す。

① スナップピン



3. ライト本体を後部ピラーから取り外す。



4. ソケットを左に回して外す。

5. 古い電球を抜き取り、新しい電球を差し込む。

6. ピンを車体のグロメットに合わせてから、しっかり固定されるまで押す。

- ① 電球
- ② ソケット

制動灯電球

制動灯はLEDを使用しています。点検、交換は指定のHonda販売店に依頼してください。

尾灯電球

尾灯はLEDを使用しています。点検、交換は指定のHonda販売店に依頼してください。

後部側方灯電球

後部側方灯はLEDを使用しています。点検、交換は指定のHonda販売店に依頼してください。

後退灯電球

後退灯はLEDを使用しています。点検、交換は指定のHonda販売店に依頼してください。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換は指定のHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換は指定のHonda販売店に依頼してください。

その他の電球

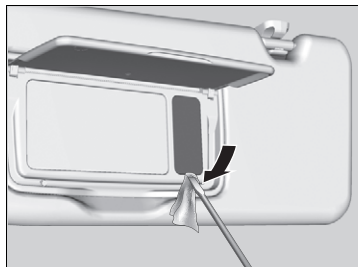
■ バニティミラー照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

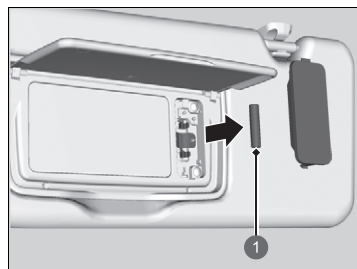
バニティミラー照明灯：14V-1.4W

1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。



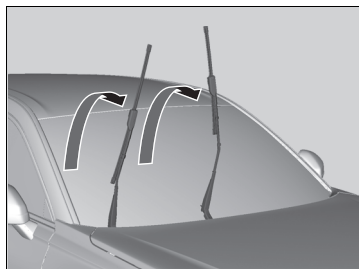
- ① 電球

ワイパーブレードラバーの点検と整備

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーアームの起こしかた



1. パワーモードを OFF モードにする。
2. パワーモードを OFF モードにしてから 10 秒以内に、ワイパースイッチのレバーを **MIST** の位置へ 2 秒以上押し上げる。
▶ 両方のワイパーアームが、ワイパーメンテナンスポジションにセットされます。
3. 両方のワイパーアームを起こす。

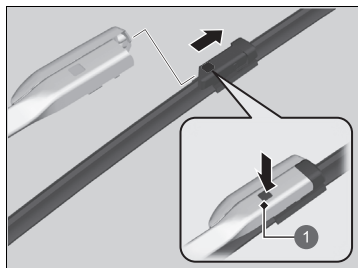
※フロントワイパーアームの起こしかた

アドバイス

ワイパーアームを起こす際は、必ず手順にしたがってワイパーメンテナンスポジションへ動かしてください。

手動でワイパーアームを動かすと、故障の原因となります。

フロントワイパーブレードの交換



① タブ

1. 両方のワイパーアームを起こす。
 ❏ フロントワイパーアームの起こしかた P.428
2. タブを押しながら、ワイパーアームからブレードをスライドさせて外す。
3. 新しいブレードをワイパーアームへスライドさせて取り付ける。
 ▶「カチッ」と音がするまで差し込み、確実に固定します。
4. 両方のワイパーアームを戻す。
5. パワーモードを ON モードにする。
6. ワイパースイッチのレバーを **MIST** の位置に押し上げて、両方のワイパーアームを通常的位置に戻す。

❏ フロントワイパーブレードの交換

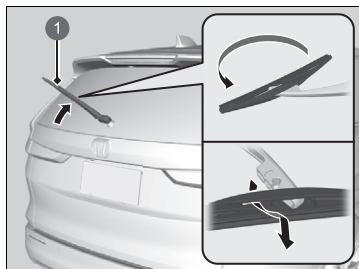
アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

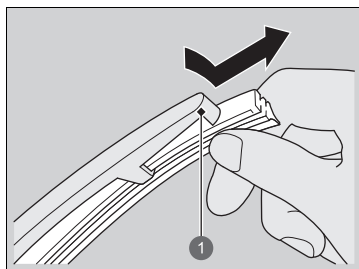
アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

リヤワイパーブレードラバーの交換



① ワイパーアーム



① ストッパー

1. ワイパーアームを起こす。
2. ブレードを回転させ、アームのホルダー部からブレードを引き抜いて取り外す。

3. ラバーの先端部をブレードのストッパーから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

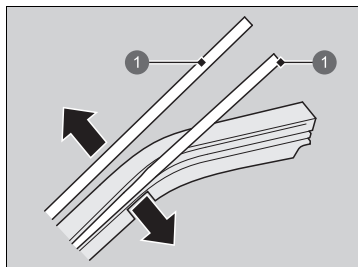
※リヤワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ワイパーアームを無理に持ち上げようとすると、ワイパーアームが破損するおそれがあります。

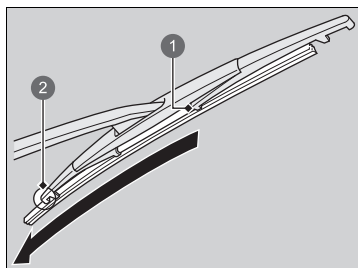
アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。

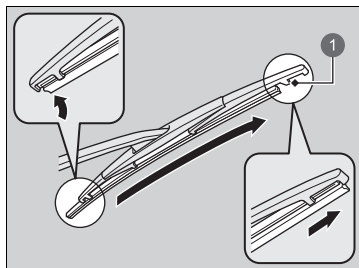
① リテーナー



5. ラバーをブレードの 2 番目のツメからブレードに沿って差し込み、ラバーをブレードのストッパーから約 2cm 引き出す。

① 2 番目のツメ

② ストッパー



① 先端のツメ

6. ブレードの先端のツメにラバーを通す。
7. ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して固定する。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができな
いばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に
保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナ
ンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■タイヤの点検について



警告

**摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でない
タイヤを使用しない。**

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害
や死亡に至る事故につながるおそれがあり
ます。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

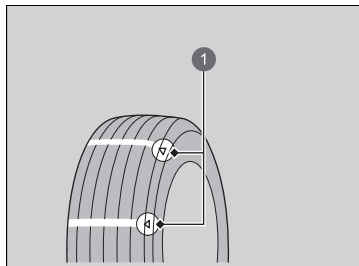
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

🔧 仕様 P.507

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
 - ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
 - ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



- ① ウェアインジケーターの位置
を示すマークの代表例

🔍 タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。

サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

⚠️ タイヤとホイールの交換



警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

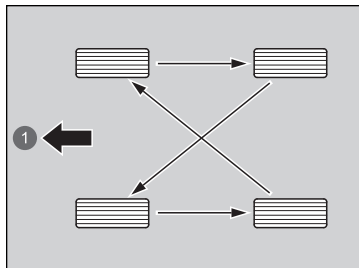
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。

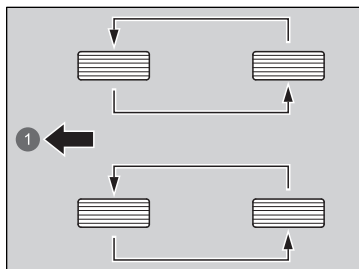
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



① 前

■回転指示マークがあるタイヤの場合



① 前

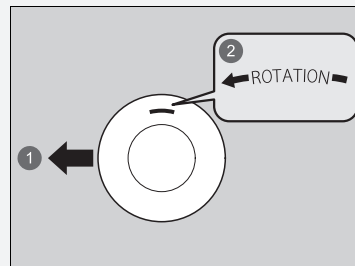
図のように、タイヤをローテーションさせます。

図のように、タイヤをローテーションさせます。

※タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。

図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



① 前

② 回転指示マークの代表例

締め付けトルク

127 N・m (13 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：

- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

❖冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。

後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。

なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■ 取り扱いについて

Honda スマートキーの取扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■ 電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

※ 取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、指定の Honda 販売店へご連絡ください。

※ 電池交換のしかた

⚠ 警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。

重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

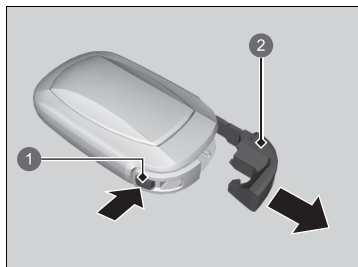
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、指定の Honda 販売店で交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は指定の Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。



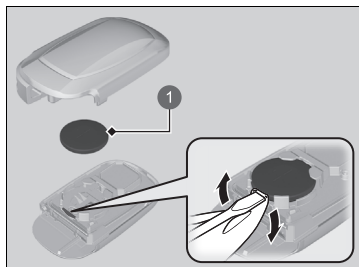
ボタン電池 CR2032

1. ボタンを押しながら、内蔵キーを取り出す。

- ① ボタン
- ② 内蔵キー



2. ボタンを下にしてカバーを外す。
 - ▶ 内蔵キーのグリップを差し込んで回します。
 - ▶ カバーに傷が付かないように、グリップに布などを巻いてカバーを取り外します。



① 電池

3. 電池を取り外す。

▶ ケースに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いて電池を取り外します。

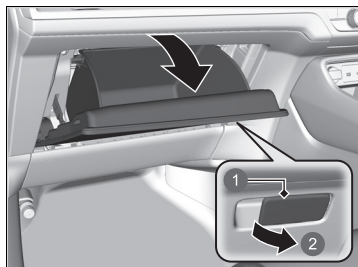
4. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

エアクリンフィルター

■エアクリンフィルターの交換時期

エアクリンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリンフィルターの交換

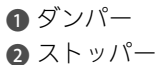


- ① ノブ
- ② 引く

1. グローブボックスを開ける。

※エアクリンフィルター

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。



- ① ツメ
- ② 押す
- ③ カバー
- ④ エアクリーンフィルター

4. 左右にあるツメを押しながら、エアクリンフィルターケースのカバーを外す。
5. エアクリンフィルターを引き出す。
6. 新品と交換する。
▶「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

※車内の清掃

室内に水をかけないでください。

室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。

故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、指定の Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。

使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

☒ ガラスのお手入れ

フロントガラスは、ガラスの内側にアンテナ線が装着されています。

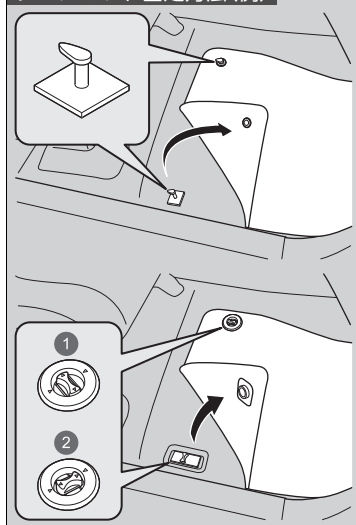
リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。

傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

ルームミラー周辺にある電子機器のカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

フロアマット

フロアマット固定方法(例)



- ① 解錠
- ② 固定

運転席のフロアマットが前方にずれるのを防止するため、フロアアンカーで確実に固定してください。

フロアアンカーで固定されているフロアマットの上に、他のフロアマットを重ねないでください。

※フロアマット

他のフロアマットをご使用の際は、フロアアンカーでしっかりと固定できるものをご使用ください。

後席のフロアマットを使用する際は、正しく取り付けてください。

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■ 洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- フェンダー内側の通気口に泥、雪、氷などの汚れがたまりやすい道路状況で走行したとき

■ 自動洗車機を使うとき

自動洗車機を使用することはできません。

■ 高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
 - ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- 水素充てん口に直接水をかけない
- カメラやカメラ周辺には、直接水をかけない
 - ▶ レンズ内に水が入り、故障の原因となります。

※ 洗車について

故意にモータールームや空気取り入れ口に水をかけないでください。

電装品などに水がかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。



① 空気取り入れ口

洗車するときは、運転席ドア(充電リッド)を施錠してください。

充電リッド付近に水をかけると充電リッドが勢いよく開いて、車体に傷を付けるおそれがあります。

ワイパーアームを起こす場合は、ワイパーアームをワイパーメンテナンスポジションにセットしてください。

❏ フロントワイパーアームの起こしかた P.428

ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

❖ 洗車について

洗車時に水やケミカル類がブレーキに付着した際は、走行してブレーキを数回かけてから駐車してください。

ブレーキが濡れたまま駐車しておくと、錆びて張り付くことがあります。

❖ ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

❖ バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、指定の Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

■ アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

■ ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。

これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

※ アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。

専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、指定の Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。

変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

■親水ミラーのお手入れ

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗淨後、十分な水で洗い流してください。
3. 5～9時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

※親水ミラーのお手入れ

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
 - ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けしないでください。

⚠アクセサリーと改造

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。

適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクタは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。

それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず指定の Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

※アクセサリと改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。

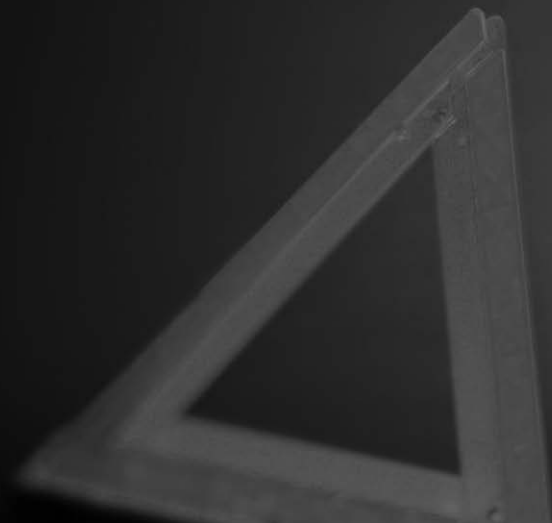
純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA
GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、指定の Honda 販売店にご相談ください。

万一の場合には

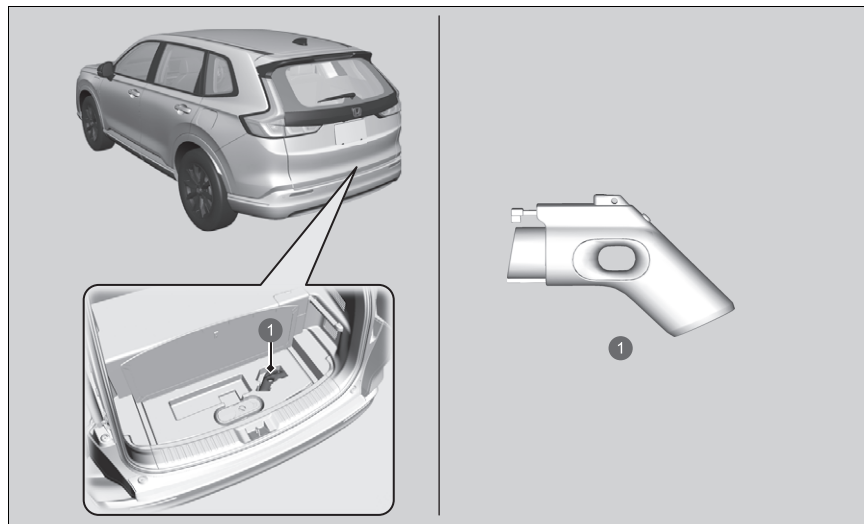
この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。



工具、発炎筒	453
パンクしたとき	
パンクしたタイヤの応急修理	455
ジャッキポイント	468
パワーシステムが起動しない	
パワーシステムの確認	469
Honda スマートキーの電池が切れたとき	471
緊急時のパワーシステム起動方法	472
緊急時のパワーシステム停止方法	473
12V バッテリーがあがったとき	474
オーバーヒート	477
水素ガスが漏れているとき	479

警告灯の点灯 / 点滅	481
ヒューズ	
ヒューズの設置場所	488
ヒューズの点検と交換	493
けん引	497
フューエルリッドが解錠できないとき ..	499
充電リッドが開かないとき	500
充電 / パワーサプライコネクタが抜けないとき	501
テールゲートが開かないとき	502
緊急時や車両トラブルのとき	503

工具の種類



① パワーサプライコネクター

工具の種類

工具類はカーゴスペース内に収納されています。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

📖 発炎筒 P.2

📖 発炎筒

⚠ 警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

⚠ 注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。

単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。

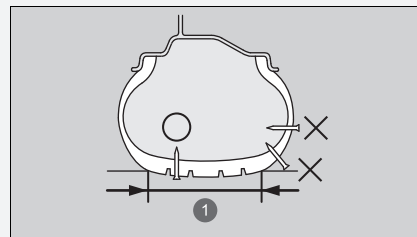
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトポジションを **[P]** にする。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

▼パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、**タイヤパンク応急修理キットは使用できません**。指定の Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき



① 接地面

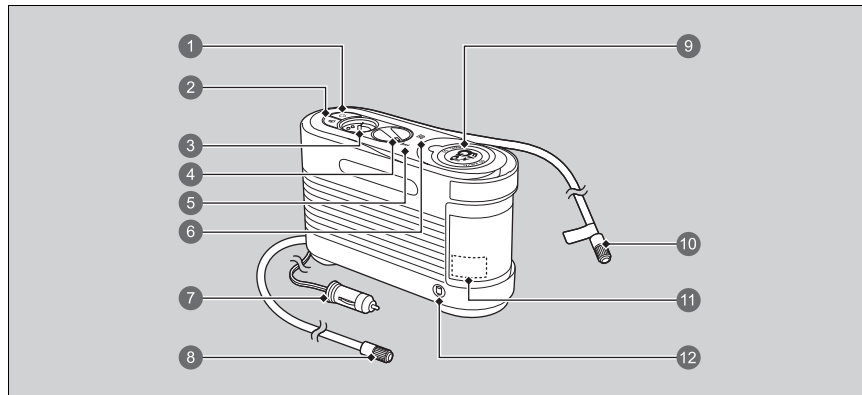
釘やネジなど	直径 4mm 以下 ○
	直径 4mm より大きい ✕

- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。

抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■タイヤ応急修理の準備



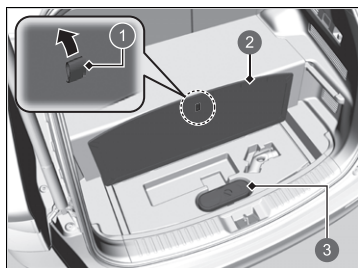
- ① スイッチ
- ② 減圧ボタン
- ③ 空気圧計
- ④ セレクタースイッチ
- ⑤ AIR
- ⑥ REPAIR
- ⑦ 電源プラグ
- ⑧ エアホース

- ⑨ 速度制限シール
- ⑩ 応急修理剤ホース
- ⑪ 有効期限年月 〇〇／〇〇〇〇
 月 年
- ⑫ ボトル取り外しボタン

▣タイヤ応急修理の準備

コンプレッサーを使用する際は、以下の点に注意してください。

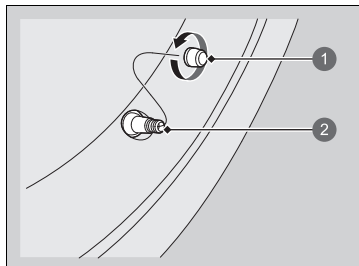
- 降雨時などは水がかからないようにしてください。
- 砂埃などを吸い込むと故障の原因になるため砂地など砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。
- オイルや潤滑油などを注油しないでください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、衝撃を与えないでください。故障の原因になります。



- ① ストラップ
- ② カーゴリッド
- ③ タイヤパンク応急修理キット

1. ストラップを引いて、カーゴリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

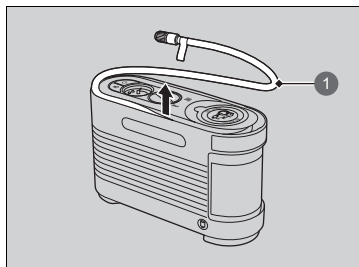
応急修理剤と空気の注入



① バルブキャップ

② バルブ

1. バルブからバルブキャップを取り外す。



① 応急修理剤ホース

2. 応急修理剤ホースを応急修理キットから取り外す。

応急修理剤と空気の注入



警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

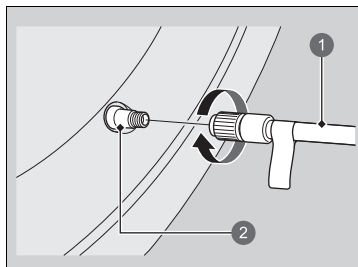
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合

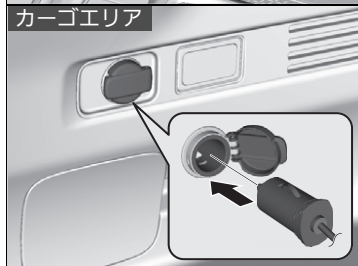
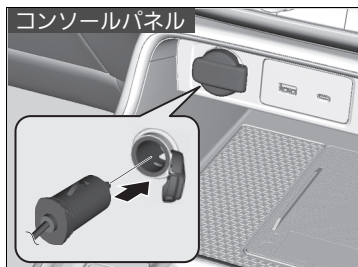
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。



- ① 応急修理剤ホース
② バルブ



3. バルブに応急修理剤ホースをきつく締め付ける。

4. 電源プラグをアクセサリソケットに差し込む。

- ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
- ▶ ほかのアクセサリソケットに、ほかの電気機器のプラグを差し込まないでください。

▶ アクセサリソケット P.198

5. パワーシステムを起動する。

▶ パワーシステムの起動 P.233

- ▶ 応急修理剤 / 空気を注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。

▶▶応急修理剤と空気の注入



警告

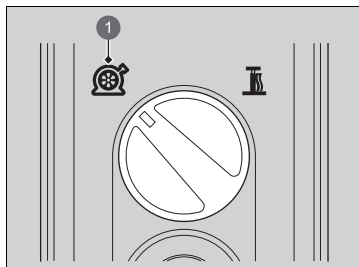
車庫、倉庫、トンネル内などや換気の悪い場所では使用しないでください。

換気の悪い場所は、酸素不足の危険があります。

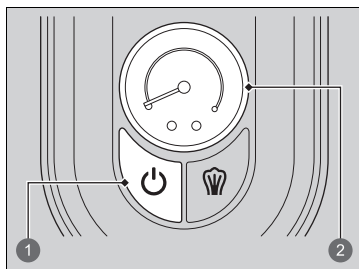
▶アドバイス

15 分以上コンプレッサーを使用しないでください。

コンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。



① REPAIR



① スイッチ
② 空気圧計

6. セレクタースイッチを REPAIR にする。

7. スイッチを押して、コンプレッサーの電源を ON にする。

▶ コンプレッサーはタイヤに応急修理剤と空気を注入し始めます。

▶ 応急修理剤の注入が完了すると、空気のみ注入されます。

8. 指定の空気圧に達したら、コンプレッサーの電源を OFF にする。

▶ コンプレッサーの空気圧計を確認してください。

※応急修理剤と空気の注入

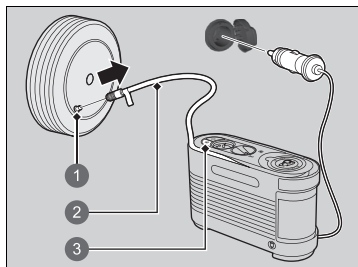
コンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえます。

応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。

正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

指定空気圧は、運転席側横の車体にある空気圧ラベルを確認してください。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。指定の Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。



- ① バルブ
- ② 応急修理剤ホース
- ③ 減圧ボタン

9. 電源プラグをアクセサリースOCKETから外す。
10. バルブから応急修理剤ホースを外しバルブキャップを取り付ける。
▶ 応急修理剤ホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。
11. 減圧ボタンを押して、空気圧計が 0kPa になるまで空気を抜く。

❖ 応急修理剤と空気の注入

アドバイス

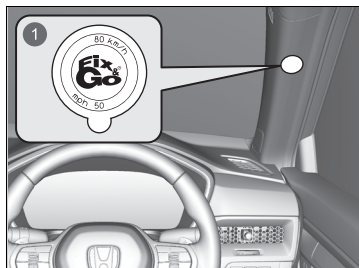
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- コンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、コンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、コンプレッサーが冷えてからお使いください。

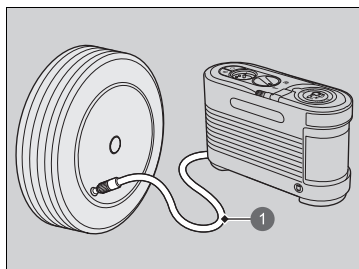
指定の Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことをお知らせください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については指定の Honda 販売店にお尋ねください。

点検走行



① 速度制限シール



① エアホース

1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
 - ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10 分または 5km 走行したあと安全な場所に車を停める。
4. エアホースを応急修理キットから取り外し、バルブにきつく締め付ける。

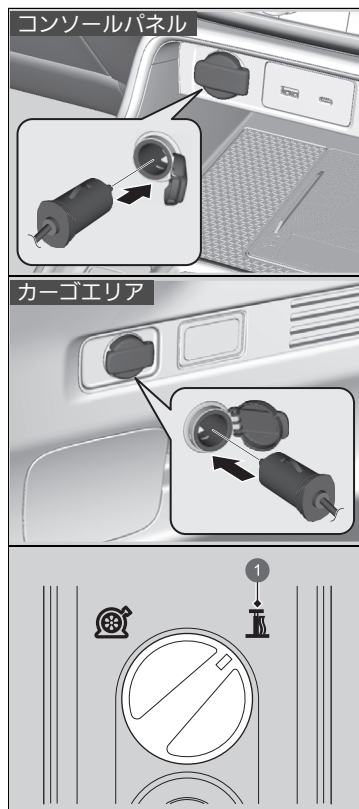
点検走行



警告

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。



① AIR

5. セレクトアススイッチを AIR にする。

- ▶ 空気圧を確認するときは、コンプレッサーの電源を OFF にしてください。

■ タイヤ空気圧の補充 P.465

点検走行

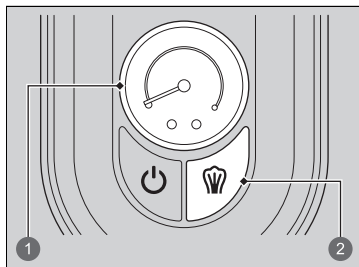
警告

車庫、倉庫、トンネル内などや換気の悪い場所では使用しないでください。

換気の悪い場所は、酸素不足の危険があります。

6. コンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を測定する。

- 空気圧が 130kPa 未満の場合：
応急修理剤では修理はできません。
運転を中止して指定の Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
 - 空気圧が指定空気圧の場合：
応急修理は完了です。
 - 空気圧が 130kPa 以上で指定空気圧以下の場合：
コンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
指定の Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 6 までを繰り返す。
- ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では80km/h以下を厳守してください。
- ▶ 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く慎重に運転してください。
- ▶ 速やかに指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。



- ① 空気圧計
② 減圧ボタン

点検走行

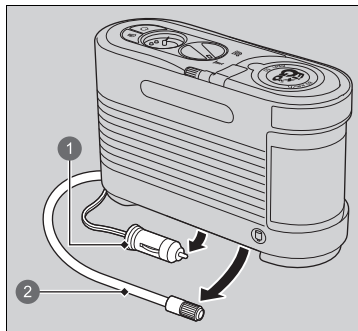
走行前に、コンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

指定空気圧は、運転席側横の車体にある空気圧ラベルを確認してください。

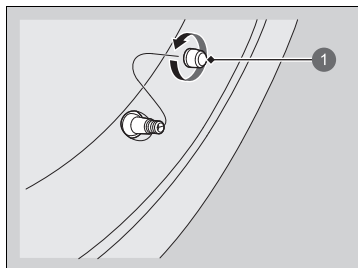
7. 電源プラグをアクセサリソケットから外す。
8. バルブからエアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
9. 減圧ボタンを押して、空気圧計が 0kPa になるまで空気を抜く。
10. キットを車両に戻す。

■タイヤ空気圧の補充

装備されているコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



- ① 電源プラグ
- ② エアホース



- ① バルブキャップ

1. コンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. 電源プラグとエアホースを応急修理キットから取り外す。

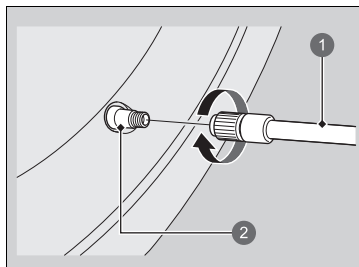
4. バルブからバルブキャップを取り外す。

☒タイヤ空気圧の補充

アドバイス

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- コンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、コンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、コンプレッサーが冷えてからお使いください。



① エアホース

② バルブ

5. バルブにエアホースをきつく締め付ける。

☒タイヤ空気圧の補充

⚠警告

車庫、倉庫、トンネル内などや換気の悪い場所では使用しないでください。

換気の悪い場所は、酸素不足の危険があります。



6. 電源プラグをアクセサリソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

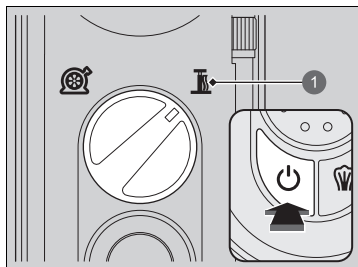
▶ ほかのアクセサリソケットに、ほかの電気機器のプラグを差し込まないでください。

☒アクセサリソケット P.198

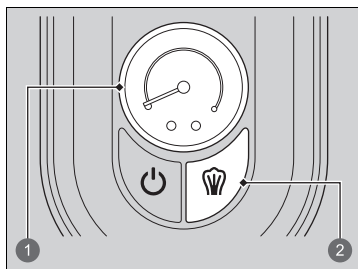
7. パワーシステムを起動する。

☒パワーシステムの起動 P.233

▶ 空気を注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。



① AIR



① 空気圧計
② 減圧ボタン

8. セレクトアーススイッチを AIR にする。
▶ 空気圧を確認するときは、コンプレッサーの電源を OFF にしてください。
9. コンプレッサーの電源を ON にして、指定の空気圧まで高める。

10. コンプレッサーの電源を OFF にする。
▶ コンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
▶ もし空気圧が高ければ、減圧ボタンを押して減圧します。
11. パワースystemを停止し、電源プラグをアクセサリースocketから外す。
12. バルブからエアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
13. 減圧ボタンを押して空気圧計が 0 kPa になるまで空気を抜く。
14. キットを車両に戻す。

点検走行

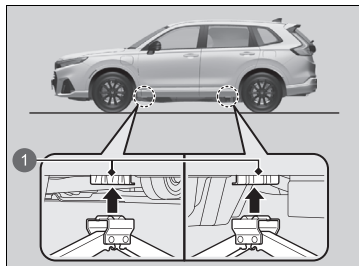
コンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえます。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、コンプレッサーの電源を OFF にしてください。

ジャッキポイント

ジャッキポイントは下記の通りです。

タイヤ交換をする場合は指定の Honda 販売店にご相談ください。



① ジャッキポイント

パワーシステムが起動しない

パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯しない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯が警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	「外気温が低いために起動できません パワーモードを OFF にしてお待ちください」と表示される	- 外気温が上がるまでお待ちください。 - 車両を暖かい場所までけん引して移動させてください。 ☞ けん引 P.497
	「キーの Honda エンブレムでスイッチに触れてください」と表示される ▶ Honda スマートキーの作動範囲を確認します。	☞ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.471
	トランスミッション警告灯が点滅し、「トランスミッション異常 停車時はパーキングブレーキを確実にかけてください」とメッセージが表示されているとき	☞ トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した P.485
	「フューエルリッドが開いています」のメッセージが表示されているとき	☞ 「フューエルリッドが開いています」のメッセージが表示された P.487
シフトポジションの位置を確認する	P 以外のシフトポジションが選択されている	シフトポジションを P にしてください。
パワーシステム起動の手順を実行する	もう一度、正しいパワーシステム起動操作をしてみてください。	☞ パワーシステムの起動 P.233
イモビライザーシステム表示灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	☞ イモビライザーシステム P.150 ☞ イモビライザーシステム表示灯 P.94
ヒューズを確認する	ヒューズが切れている	全てのヒューズを確認するか、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 ☞ ヒューズの点検と交換 P.493

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

🔧 **ジャンプスタートの方法** P.474

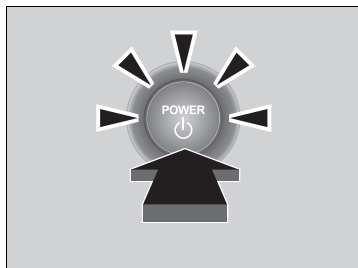
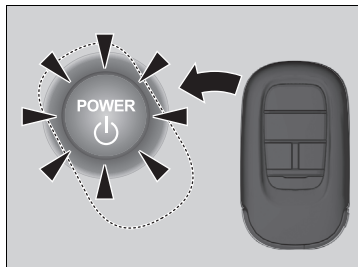
状況によっては、緊急時のパワーシステム起動方法を行うことで、一時的にパワーシステムを起動することができます。

🔧 **緊急時のパワーシステム起動方法** P.472

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーのHondaエンブレムでスイッチに触れてください」とメッセージが表示されるか、**POWER** が点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。

以下の手順でパワーシステムを起動してください。



1. **POWER** を押す。
▶ ブザーが鳴り、**POWER** が約30秒間点滅します。
2. **POWER** が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶ ブザーが鳴り、**POWER** が約 10 秒間点灯します。
3. **POWER** が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、**POWER** を押す。
▶ READY 表示灯が点灯します。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリモードになります。

緊急時のパワーシステム起動方法

通常のパワーシステムの起動方法で、パワーシステムが起動しない場合は、次の操作でパワーシステムが起動する場合があります。

緊急時など必要な場合以外は、この操作をしないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
2. シフトポジションが **P** であることを確認し、パワーモードをアクセサリモードにする。
3. ブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、**POWER** を約15秒以上押し続ける。

上記の操作でパワーシステムが起動できてもシステムの異常が考えられます。
ただちに指定の Honda 販売店で点検をうけてください。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER スイッチは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。

パワーシステムを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください：

- **POWER** を約 2 秒間押す。
- **POWER** を連続して 3 回押す。

このときハンドルはロックしません。

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。

車が停止すると、自動的にシフトポジションが **P** になり、パワーモードが OFF モードになります。

❏ 緊急時のパワーシステム停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に

POWER を押さないでください。

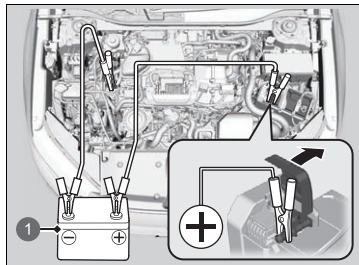
走行中に **POWER** を押すとブザーが鳴ります。

12V バッテリーがあがったとき

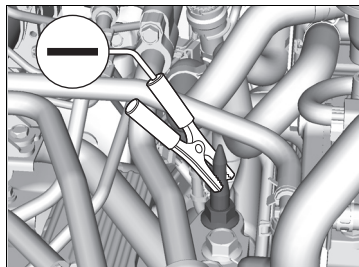
ジャンプスタートの方法

処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。



① 救援車のバッテリー



1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
2. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
4. もう 1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のパワーシステムのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。

※ジャンプスタートの方法



警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎を 12V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結した 12V バッテリーでジャンプスタートすると、12V バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの性能が低下します。パワーシステム起動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルをパワーシステムのスタッドボルト以外に接続しないでください。

12V バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■ システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のパワーシステムのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリング(走行待機)状態にしてください。
 ▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。
 ▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、指定の Honda 販売店で点検してください。
 ▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

指定の Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠ システム起動後の作業



警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、指定の Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

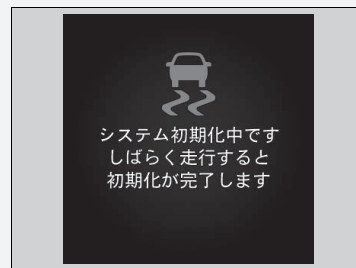
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

⌘ システム起動後の作業

12V バッテリーを外して再接続した後、
POWER を押してパワーモードを ON にすると、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに以下のメッセージが表示されます。



このとき車速 20km/h 以上でしばらく走行すると、これらの警告灯やメッセージが消えます。消えないときは、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- パワーシステム警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム異常 走行できません 点検を受けてください」とメッセージが表示される
- モータールームから蒸気が立ちのぼっている

☒ オーバーヒートしたときの対処方法



蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

冷却水がもれている場合は、指定の Honda 販売店に修理を依頼してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム異常 走行できません 点検を受けてください」とメッセージが表示されたとき

■最初にする事

1. ただちに車を安全な場所に停める。
 - ▶ パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを[P]にします。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
 - ▶ 蒸気が出ていない場合：パワーシステムを起動したままボンネットを開ける。
 - ▶ 蒸気が出ている場合：パワーシステムを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■最後にすること

- 十分にパワーシステムが冷えたら、パワーシステムを起動しマルチインフォメーションディスプレイの「パワーシステム異常 走行できません 点検を受けてください」の表示が消えている場合は、運転を再開します。表示が残っているときは、指定の Honda 販売店に修理を依頼します。

水素ガスが漏れているとき

水素ガスが漏れたときの対処方法

水素ガス漏れや異常に気づいたとき

H₂

H₂
水素漏れ検知により
システム停止
安全な場所に停車して
ただちに販売店に
連絡してください

H₂

水素漏れ検知
ただちに販売店で
点検してください

水素漏れ警告灯が点灯したときは、水素ガスが漏れています。

水素漏れが発生した場合には警告音と共に警告灯が点灯し、異常をお知らせします。マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従い、指定の Honda 販売店へご連絡ください。

■ 水素漏れ警告灯 P.87

警告灯が点灯していなくても水素ガスが漏れる音など、異常に気付いたときは直ちに屋外の安全な風通しの良い場所に駐車し、パワーモードを OFF モードにして指定の Honda 販売店へご連絡ください。

■ 水素ガスが漏れたときの対処方法



水素ガス漏れが発生した場合には警告音と共に警告灯が点灯し、異常をお知らせします。水素漏れ警告灯が点灯しているときは、火気厳禁です。

漏れた水素ガスは、車両の外へ拡散し排出されます。

水素ガスは引火しやすいため、水素ガス漏れのおそれがある場合は車両にタバコ、発炎筒などの火気を近づけないように表示もしくは運転者や同乗者が監視してください。

運転者や同乗者が監視できない場合は、付近の人に救援を求めて監視人をつけてください。

漏れた水素ガスに引火して、車両火災になるおそれがあり危険です。

警告灯の点灯に気付いたときはただちに屋外の風通しの良い安全な場所に停車し、パワーモードを OFF モードにし、ただちに指定の Honda 販売店にご連絡ください。

☒ 水素ガスが漏れたときの対処方法

 警告

車両火災が発生したときは、火災により水素タンク内の圧力が高くなり、圧力を下げるためにタンク内の水素ガスを車両斜め後方へ排出します。この水素ガスに着火し火災が噴出するおそれがあるため、車両後方からの消火は避けてください。

アドバイス

水素は非常に軽く、無色無臭で、引火しやすい性質があります。また、燃えているときの炎は見えにくい特徴があります。

車両火災が発生したときは、漏れた水素ガスに引火するおそれがあります。車から離れ、水素タンクを搭載した車両であることを消防署に連絡してください。

消火を行う場合は、大量の水、粉末(ABC)消火器または炭酸ガス消火器を使用してください。少量の水での消火は、完全に消火できない可能性がありますので、絶対に行わないでください。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

安全な場所に停車して、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

「ブレーキ性能低下」の警告メッセージが表示された



■表示の理由

ブレーキ性能が低下すると表示されます。

■表示されたらすぐのこと

速度を落として注意して運転してください。
ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

※12V バッテリー充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。

パワーシステムの起動は、12V バッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

■点滅の理由

電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅します。

■点滅したときは

パーキングブレーキを使用せずに、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

※ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した

ただちに、指定の Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、回生ブレーキを用いて減速を手助けするために減速セクターの  を引いてください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。ただちに、指定の Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

※ ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した P.484

EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS システムが異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する。
その後も走行中に点灯する場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
- マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、指定の Honda 販売店にご連絡ください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した



(オレンジ)

■ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。

❏ 電子制御パーキングブレーキ P.357



(レッド)

- ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車し指定の Honda 販売店へご連絡ください。
 - ▶ 車両が動き出さないように、シフトポジションを **P** にしてください。
- ブレーキ警告灯(レッド)だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

❏ ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した

パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが解除できなくなることがあります。

ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。

ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した



トランスミッション異常
停車時は
パーキングブレーキを
確実にかけてください

■点滅の理由

トランスミッションが故障すると表示します。

■点滅したらすること

ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

☒トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した

システムを起動できないことがあります。

停車するときは、確実にパーキングブレーキをかけてください。

走行できないときは、専門業者に連絡してください。

☒ 非常時のけん引 P.497

「高電圧バッテリー熱異常」のメッセージが表示された

■表示の理由

- 高電圧バッテリーで熱異常が生じている可能性があるとき、いずれかのメッセージが表示されます。メッセージの内容に従い対処し、指定の Honda 販売店にご連絡ください。

※「高電圧バッテリー熱異常」のメッセージが表示された

⚠ 警告

車に近づかない。

有害な煙が発生することがあります。
煙が発生しなくなっても、しばらくすると
また発生することがあります。



高電圧バッテリー熱異常
安全な場所に停車し車外へ
退避してください

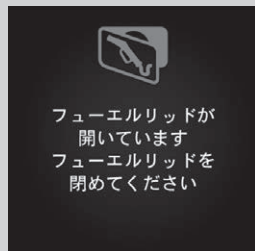


高電圧バッテリー熱異常
パーキングブレーキを
かけて車外へ
退避してください



高電圧バッテリー熱異常
車外へ退避してください

「フューエルリッドが開いています」のメッセージが表示された



■表示の理由

フューエルリッドが開いているときに、パワーモードをONモードにしようとしたときに表示します。

■表示されたらすること

- フューエルリッドを閉めてください。
- フューエルリッドを閉めても表示が消えないときは、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

※「フューエルリッドが開いています」のメッセージが表示された

以下の操作を行うと、メッセージが表示されていても、パワーモードを一時的にONモードにできます。

フューエルリッドが閉まっていることを確認し、指定の Honda 販売店まで走行してください。

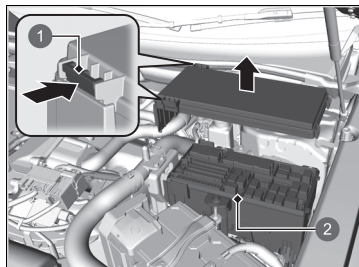
1. パーキングブレーキをかけた状態で、ブレーキペダルを踏まずに **POWER** を押す。
2. ブレーキペダルを踏み込んだあと、足をはなす。
3. アクセルペダルを奥まで踏み込んだあと、足をはなす。
4. 手順3をもう一度繰り返す。
5. ブレーキペダルを踏み込んだあと、足をはなす。
6. ブレーキペダルを踏みながら **POWER** を押す。

手順2～5は、10秒以内に行ってください。

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、モータールームと室内のヒューズボックスに入っています。

■モータールーム内のヒューズボックス A



- ① タブ
- ② ヒューズボックス

モータールーム内の助手席側にあります。

1. タブを押してフタを開ける。

■モータールーム内のヒューズボックス A

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

表示	装備	容量
1	 メインヒューズ	175A
	 ワイパー	30A
	 ABS/VSA モーター	40A
	 EPS	70A
2	 イグニッションメイン 1	30A
	—	50A
	 ABS/VSA FSR	40A
	 イグニッションメイン 2	30A
	 SRM1	30A
	 SRM2	30A
	—	70A
3	 P-ACT	30A
	 電動サーボブレーキ	40A
	—	30A
	 ヒューズボックスメイン 2	60A
	—	30A
	—	30A
4	 ヒューズボックス オプション 2	60A
	 FC ウォーターポンプ	70A
	 サブヒューズ 1	40A

表示	装備	容量
	 ヒューズボックス オプション 1	60A
4	 パワーテールゲート モーター	40A
	 サブヒューズ 2	30A
	 オーディオアンプ	30A
	—	70A
5	 リヤデフロスター	30A
	 ヒーターモーター	40A
	—	30A
	 ヒューズボックスメイン 1	60A
6	—	—
7	—	—
8	 ドライブユニット	10A
9	 P-ACT ユニット	10A
10	 非常点滅表示灯	10A
11	 ECU	7.5A
12	 IGFC1	10A
13	 ECOMP	10A
14	 LCM L	20A
15	 IGDTEWP	20A
16	 制動灯	10A
17	 LCM R	20A
18	 IGB	10A
19	—	—
20	 EWPES	10A
21	 バックアップ	10A

表示	装備	容量
22	 ウォッシャー	15A
23	 オーディオサブ	7.5A
24	—	—
25	 IGC	10A
26	 A/C ウォーターポンプ	10A
27	—	—
28	—	—
29	 SOV	10A
30	 ECHES	7.5A
31	 ホーン	10A
32	 A/C メイン	10A
33	 オーディオ	15A
34	—	—
35	 IGFC3	10A
36	 IGFC4	10A
37	 IGFC6	10A
38	—	—
39	 IGFC7	15A
40	 FC ヒーター1	15A
41	 IGFC2	10A
42	 FC ヒーター2	20A
43	—	—
44	 —	(30A)

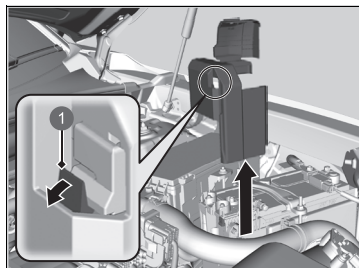
万
一
の
場
合
に
は

■ モータールーム内のヒューズボックス B

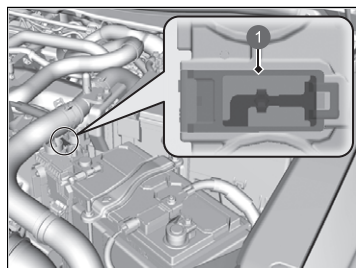
モータールーム内の助手席側に付いている、12Vバッテリーの⊕端子の隣にあります。

1. ⊕ 端子部分のフタを開ける。
2. タブを引いてカバーを取り外す。

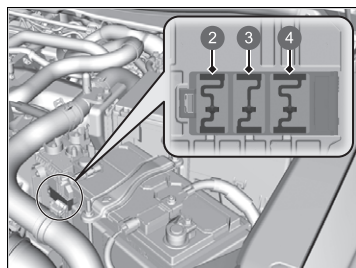
このヒューズの交換については、指定の Honda 販売店にお問い合わせください。



① タブ



① ヒューズ a



② ヒューズ b

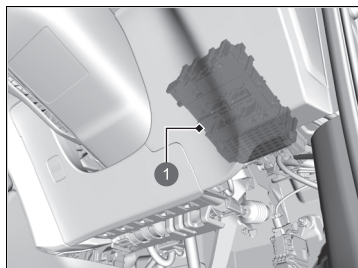
③ ヒューズ c

④ ヒューズ d

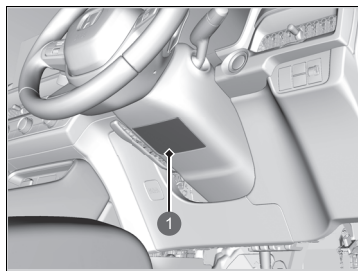
■ 各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
a		—	200A
b		RFC	70A
c		—	80A
d		—	60A

室内運転席側のヒューズボックス



① ヒューズボックス



① ヒューズラベル

インストルメントパネルの奥にあります。

▶ 下から確認できます。

室内運転席側のヒューズボックス

コラムカバー下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

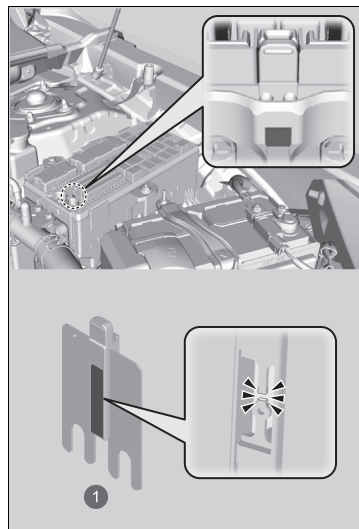
容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

表示	装備	容量
1 	運転席 パワーウィンドー	20A
2 	助手席 パワーウィンドー	20A
3 	後席右側 パワーウィンドー	20A
4 	後席左側 パワーウィンドー	20A
5 	オプション	10A
6 	SRS	10A
7 —	—	—
8 —	—	—
9 	フロントアクセサリ ソケット (フロントコンソール)	20A
10	ドアロック	20A
11	メーター	10A
12 —	—	—
13	オプション 2	10A
14 —	—	—
15 —	—	—
16 —	—	—

表示	装備	容量
17 —	—	—
18 	—	(20A)
19 	QC CNT	10A
20 	IMG	10A
21 	リヤアクセサリソケット (カーゴエリア)	20A
22 	HONDA スマートキー システム	10A
23 —	—	—
24 —	—	—
25 	シフトバイワイヤー	10A
26 	SRS	10A
27 	ACG	10A
28 	オプション 5 (ABS/VSA)	10A
29 	ED	10A
30 	左側ドアアンロック	10A
31 	右側ドアアンロック	10A
32	IGD	10A
33	USB チャージャー	10A
34	RD1/H2 LID	10A
35	V2L	10A
36 —	—	—
37 —	—	—
38	ロック / アンロック アクチュエーター	10A
39	右側ドアロック	10A

表示	装備	容量
40 	運転席パワーシート (SLIDE)	20A
41 	運転席パワーシート (REC)	20A
42 	P-ACT	10A
43 	オプション	10A
44 	デイトタイムランニング ライト	5A
45 	ACC	10A
46 —	—	—
47 	左側ドアロック	10A
48 	フロントシート ヒーター	20A
49 	助手席パワーシート (REC)	20A
50 	運転席ランバー サポート	10A
51 	OBPS	10A
52 	パワーテールゲート クローザー	20A
53	助手席パワーシート (SLIDE)	20A
54	オプション 1	10A
55 —	—	—
56 —	—	—

ヒューズの点検と交換



① メインヒューズ

1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリを OFF にする。
2. モータールーム内のヒューズボックスAのフタを取り外す。
3. 図の位置からメインヒューズを点検する。
▶ ヒューズが切れている場合は、指定の Honda 販売店に修理を依頼してください。

❏ ヒューズの点検と交換

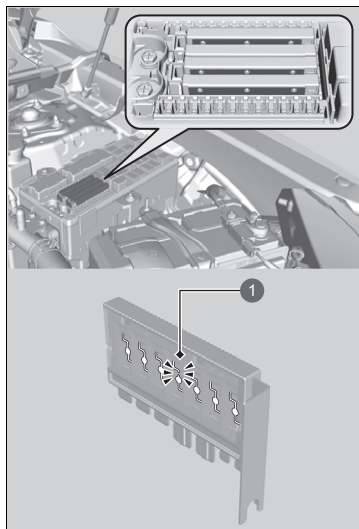
アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

❏ ヒューズの設置場所 P.488

モータールーム内のヒューズボックスAには、フタの裏にヒューズプラーがついています。ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

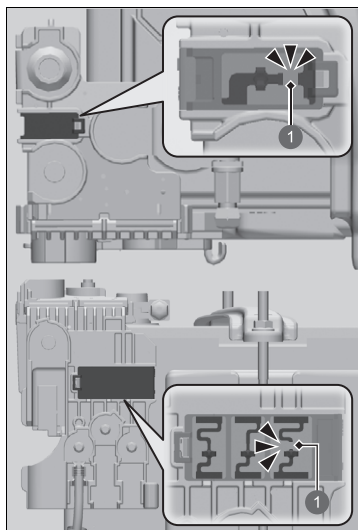


4. メインヒューズ以外の大きいヒューズを点検する。

▶ ヒューズが切れている場合は、指定の Honda 販売店に修理を依頼してください。

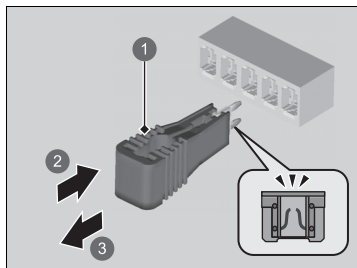
① 切れているヒューズ

万
二
の
場
合
に
は



① 切れているヒューズ

5. モータールーム内のヒューズボックスBのカバーを開ける。
6. 内部のヒューズを点検する。
 - ▶ ヒューズが切れている場合は、指定のHonda 販売店に修理を依頼してください。



- ① ヒューズプラー
- ② 取り付ける
- ③ 外す

7. モータールーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。

- ▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

非常時のけん引

けん引するときは、指定の Honda 販売店にご連絡ください。

けん引は専門業者に依頼して四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

❖ 非常時のけん引

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

パーキングブレーキが解除されていることをブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。

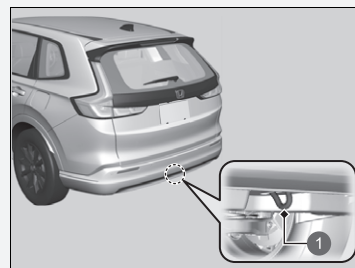
❖ 電子制御パーキングブレーキ P.357

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。

そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

⚠非常時のけん引

車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、指定のHonda 販売店やロードサービスに連絡してください。

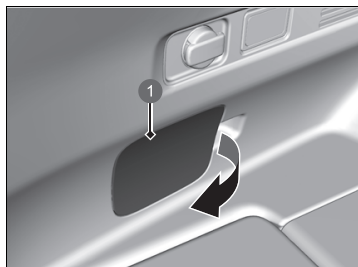


① フック

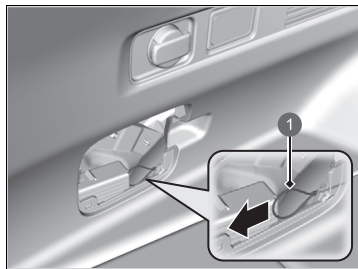
フューエルリッドが解錠できないとき

解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



① カバー



① 解錠ケーブル

1. テールゲートを開け、カーゴスペース左側のカバーを外す。

2. 解錠ケーブルを矢印の方向に引く。
▶ 解錠ケーブルを引くとフューエルリッドが解錠されます。
3. フューエルリッドを開ける。

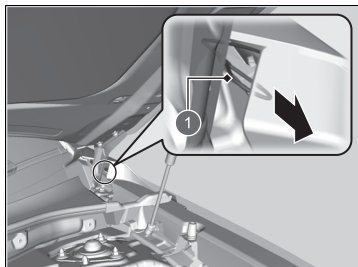
❏ 水素ガスの充てんのしかた P.397

❏ 解錠できないときの対処方法

応急処置後は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

■開かないときの対処方法

万一、充電リッドが開かなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



① 解錠ケーブル

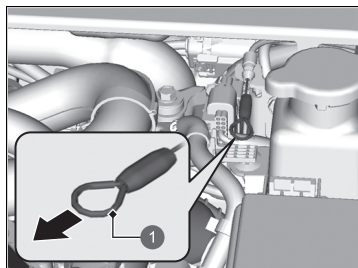
1. ボンネットを開ける。
■ ボンネットを開ける P.420
2. 解錠ケーブルを矢印の方向に引く。
▶ 充電リッドが少し開きます。
■ 普通充電 P.404

※開かないときの対処方法

応急処置後は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

抜けないときの対処方法

充電 / パワーサプライコネクタが抜けなくなったときは、応急処置として次の方法で解除してください。



① 解除ワイヤ

1. 充電給電が正しく完了していることを確認する。
2. ボンネットを開ける。
3. 解除ワイヤを引く。
▶ 解除ワイヤは高電圧システム冷却水タンク B の近くにあります。
4. 充電 / パワーサプライコネクタをインレットから引き抜く。

❏ 充電が完了したとき P.405

❏ 停止のしかた P.226

■Honda スマートキーの電池が切れたとき

ドアが施錠されている状態で、電池切れ等により Honda スマートキーを検知できないときは、充電 / パワーサプライコネクタが抜けません。内蔵キーでドアを解錠すると、インレット内の解除ボタンを押して充電コネクタを引き抜くことができます。

❏ 電池交換のしかた P.438

❏ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.471

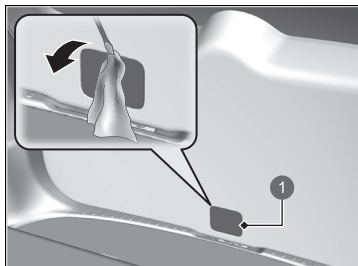
❏ 抜けないときの対処方法

応急処置後は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

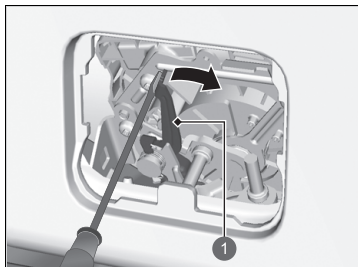
テールゲートが開かないとき

開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



① テールゲートのリッド



- ① レバー
- ② 解錠

1. テールゲートのリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

2. ドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態、テールゲートを押し開ける。

開かないときの対処方法

⚠ 注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。

人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

緊急通報

緊急通報とは、事故発生時や急病などの緊急時に、オペレーターがお客様のかわりに警察や消防へ通報するサービスです。

緊急通報

ご利用には、Honda Total Care プレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。

<https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/>

緊急通報はパワーモードがONモードのときに利用可能です。

オペレーターとの接続は、車両側から終了させることはできません。オペレーターのみが車両との接続を終了することができます。

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、オペレーターに接続できない可能性があります。

- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、オペレーターに接続できない可能性があります。

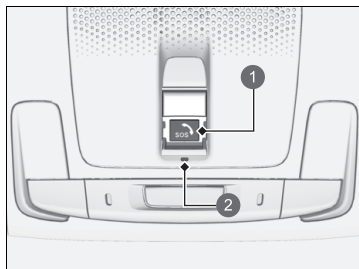
- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき

■自動通報機能

車両のエアバッグが展開した場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。接続時には車両に関する情報(場所、車両の状態など)がオペレーターに送信されます。

■手動通報機能

事故発生時や急病などの緊急時に、緊急通報ボタンを押すことで手動でオペレーターに接続することが可能です。



- ① 緊急通報ボタン(カバー付き)
- ② インジケーター

▶緊急通報

インジケーターが赤色で点灯を続ける場合は指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

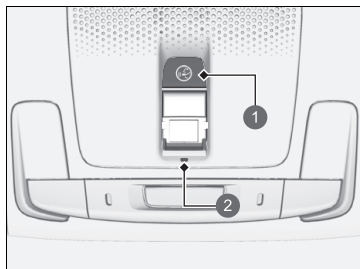
インストルメントパネル上部に物を置かないでください。通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

▶自動通報機能

エアバッグが展開しなくても、車両に一定以上の衝撃が加わった場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。

トラブルサポート

トラブルサポートとは、警告灯が点灯した場合や車両トラブルなど、乗車中の困ったときにHonda Total Care 緊急サポートセンターへ接続して、車の使い方やロードサービスの手配をサポートするサービスです。



- ① トラブルサポートボタン
- ② インジケーター

パワーモードがONモードのときにトラブルサポートボタンを押すと、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続します。

- ▶ 接続中はインジケーターが緑色に点滅します。
- ▶ 再度トラブルサポートボタンを押すと接続が終了します。

☒ トラブルサポート

ご利用には、Honda Total Care プレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。

<https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/>

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。

- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。

- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき

インジケーターが赤色で点灯を続ける場合は指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様	507
オープンソースライセンス	508



仕様

■仕様

名称	CR-V
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	5名

■走行用モーター

型式	MCF91
----	-------

■確認

ブレーキペダル	遊び	7.0-14.0mm
		127mm以上
	床板とのすき間	【約 196 N (20 kgf) の力】

■燃料

指定燃料	圧縮水素
水素充てん圧力	70 MPa (15℃時) 最大 87.5 MPa
水素充てん量※	約 4.3 kg (70 MPa 時)
タンク容量	109 L

※：SAE 規格 (J2601) の標準条件に基づいた水素充てん圧力 70 MPa ステーションで充てんした場合の Honda 測定値。

■エアクリナーエレメント

タイプ	乾式
-----	----

■12V バッテリー

容量 / タイプ	36AH (5)、45AH (20) / 46B24R (S) -MF
----------	-------------------------------------

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5 L
-------	-------

■電球

ヘッドライト (ロービーム)	LED
ヘッドライト (ハイビーム)	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯 / デイタイムランニングライト / 車幅灯	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
後部側方灯	LED
制動灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED
室内灯	LED
マップランプ	LED
アンビエントランプ	LED
カーゴスペース照明灯	LED
パニティミラー照明灯	14V-1.4W
センターポケットランプ	LED
コンソールボックスランプ	LED
グローブボックス照明灯	LED
前席フットランプ	LED
車内ドアハンドルランプ	LED

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	--------------------------------

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ HEV-F-Type 1	0.97 L (交換時)
-----	-------------------------------	--------------

■高圧システム冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	ドライブユニット 3.8 l (交換時：冷却水タンク A 0.91 L 含む) IPU 3.47 L (交換時：冷却水タンク B 0.22 L 含む)

■タイヤ

サイズ	235/60R18 103H
空気圧	前輪 260 (2.6)
kPa (kgf/cm ²)	後輪 240 (2.4)
リムサイズ	18X7 1/2J

オープンソースライセンス

メーターオープンソースライセンス

本製品に組み込まれたソフトウェアは、オープンソースソフトウェアを含みます。
オープンソースソフトウェアの詳細に関しては、以下のウェブサイトをご覧ください。
https://www.nippon-seiki.co.jp/business_ic_meter/

TCU オープンソースライセンス

Free/Open Source Software 情報

この製品は、Free/Open Source Software (FOSS) を含みます。
FOSS のライセンス情報及びソースコードは下記 URL を参照ください。
<https://www.denso.com/global/en/opensource/tcu/honda/>

オープンソースライセンス

フロントセンサーカメラオープンソースライセンス

"The product includes code under public domain : https://www.jonolick.com/uploads/7/9/2/1/7921194/jo_jpeg.cpp

The code is based on <https://github.com/jpeg-js/jpeg-js/blob/master/lib/encoder.js>
Copyright (c) 2008, Adobe Systems Incorporated

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

- * Neither the name of Adobe Systems Incorporated nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

*/
/*

数字

12Vバッテリーがあがったとき	474
12Vバッテリー充電警告灯	85, 481

A

A/C(エアコン)	212, 441
ABS(アンチロックブレーキシステム)	366
ABS警告灯	87, 366
ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)	298
ACC警告灯	89
ACC表示灯	97

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ)	267
----------------	-----

E

ECON モード表示灯	95
ECONモード	249
EPS(電動パワーステアリング)システム	
警告灯	88, 483
eボタン	9

H

Honda SENSING	27, 264
Honda Total Careプレミアム	5

Hondaスマートキー	122, 124
緊急時のパワーシステム起動方法	472
緊急時のパワーシステム停止方法	473
電池交換のしかた	438

I

ISOFIX/i-Size	73
---------------	----

L

LKAS(車線維持支援システム)	321
LKAS警告灯	89
LKAS表示灯	97

M

MIST	166
------	-----

N

NORMALモード	249
NORMALモード表示灯	95

P

POWERスイッチ	156
パワーモードの切り換えかた	156

S

SNOWモード	249
SNOWモード表示灯	95
SPORTモード	249
SPORTモード表示灯	95
SRSエアバッグ	50
エアバッグシステム警告灯	61, 87

U

USBジャック(充電専用)	199
---------------	-----

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト)	255
VSA OFF警告灯	88, 256
VSA警告灯	88, 256

W

W(ワット)数	507
---------	-----

ア

アームレスト	187
フロントシート	187
リヤシート	187
明るさ設定	117
アクセサリ	450
アクセサリースOCKET	198

アジャイルハンドリングアシスト	257
安全支援情報	115
安全支援情報警告灯(オレンジ)	90, 91
安全支援情報表示灯(グリーン/グレー)	98
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯 (オレンジ)	89
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯 (グレー)	98
路外逸脱制御機能警告灯(オレンジ)	90
路外逸脱制御機能表示灯(グレー)	98
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止 警告灯	90
安全なドライブのために	39
安全に関する表示	33
安全のための確認事項	39
アンチロックブレーキシステム(ABS)	
ABS警告灯	87, 366
アンビエントメーター	100

イ

イオン交換器の交換時期メッセージ	417
イモビライザーシステム	150
イモビライザーシステム表示灯	94
インフォメーション表示灯	96

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器)	158
------------------------	-----

ウィンドウォッシャー	
ウィンドウォッシャー液の補給	422
ウィンドウォッシャースイッチ	166
ウィンドウの開閉	152
ウェアインジケーター	434
運転	
シフト操作	240
パワーシステムの起動	233
ブレーキ操作	357

エ

エアクリーナエレメント	507
エアコン	212, 441
エアクリーンフィルター	441
オートエアコンの使いかた	213
お出かけ前エアコン	218
窓の曇りや霜の取りかた	215
エアバッグ	50
SRSエアバッグ	50
エアバッグシステム警告灯	61, 87
エアバッグのお手入れ	62
サイドエアバッグ	56
サイドカーテンエアバッグ	59
ニーエアバッグ	53
エマージェンシーストップシグナル	369

オ

応急修理剤(タイヤパンク)	455
---------------------	-----

オープンソースライセンス	508, 509
オートエアコン	213
オートハイビーム	163
オートハイビーム表示灯	93
オートマチックブレーキホールド	362
オートマチックブレーキホールドシステム 表示灯	96
オートマチックブレーキホールド表示灯 ..	96
オートワイパー	167
オーバーヒート	477
お出かけ前エアコン	218
オドメーター	100

カ

カーゴスペース照明灯	189
外気温表示	101
外部給電	
外部給電のしかた	222
鍵(かぎ)	122

キ

キー	
Hondaスマートキー	122, 124
Hondaスマートキーの電池が 切れたとき	471
解錠してもドアが開かない	31
キー閉じ込み防止装置	133
キーナンパータブ	123

キーの種類と機能.....	122
キーレスエントリー.....	131
後席ドアが開かない.....	31
電池交換のしかた.....	438
内蔵キー.....	123
キー閉じ込み防止装置	133
キーナンバータグ	123
キーレスエントリー	131
給電	
外部給電のしかた.....	222
パワーサプライコネクター.....	206
緊急通報	503

ク

空気圧.....	507
空気圧測定器による点検.....	434
グラブレード.....	3
クリープ現象.....	239
クルーズコントロール表示灯 (ホワイト/グリーン).....	97
車の改造.....	451
グローブボックス.....	190

ケ

経過時間表示.....	113
計器.....	80
警告灯.....	83
12Vバッテリー充電警告灯.....	85, 481

ABS警告灯.....	87, 366
EPSシステム警告灯.....	88, 483
VSA OFF警告灯.....	88
VSA警告灯.....	88
安全支援情報警告灯(オレンジ).....	90, 91
エアバッグシステム警告灯.....	61, 87
シートベルト非着用警告灯.....	42, 86
車線維持支援システム(LKAS)警告灯 (オレンジ).....	89
渋滞追従機能付アダプティブクルーズ コントロール(ACC)警告灯(オレンジ) ...	89
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯 (オレンジ).....	89
水素残量警告灯.....	87
水素漏れ警告灯.....	87, 479
トランスミッション警告灯.....	86, 485
パーキングセンサー警告灯.....	89
パワーシステム警告灯.....	85
ブレーキ警告灯(レッド).....	83, 482, 484
ブレーキシステム警告灯 (オレンジ).....	84, 484
路外逸脱制御機能警告灯(オレンジ).....	90
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止 警告灯.....	90
警告メッセージ	119
高電圧バッテリー熱異常.....	486
トランスミッション異常.....	485
フューエルリッド.....	487
ブレーキ性能低下.....	481

けん引	497
減速セレクター	245

コ

交換

後退灯電球.....	426
後部側方灯電球.....	426
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 電球.....	424
制動灯電球.....	426
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯 電球.....	423
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 電球.....	423
デイトタイムランニングライト/車幅灯 電球.....	423
ハイマウントストップランプ電球.....	426
パニティミラー照明灯電球.....	427
番号灯電球.....	426
尾灯電球.....	426
ヒューズ.....	488
ヘッドライト電球.....	423
ワイパーブレードラバー.....	429, 430
工具	453
航続可能距離	111
後退出庫サポート	377
後退灯	426
高電圧システム冷却水	507

高電圧バッテリー	412
高電圧バッテリー残量計	100
高電圧バッテリーの充電	399
高電圧バッテリーの充電の準備	399
高電圧バッテリーの充電方法	401
後部側方灯電球	426
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	426
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球	424
コートフック	194
コンビニフック	194

サ

最大充電量設定	409
サイドエアバッグ	56
サイドカーテンエアバッグ	59
サングラスボックス	195
サンバイザー	197

シ

シートの調節	177
アームレスト	187
フロントシート	177
ヘッドレスト	185
リヤシート	181
シートヒーター	205
シートベルト	41
アンカーポイント	49

シートベルト使用状況表示	114
シートベルトの着用	44
シートベルトの点検	49
シートベルト非着用警告灯	42, 86
シートベルトプリテンショナー	43
シートベルトリマインダー	42
妊娠中のかたのシートベルト 着用のしかた	48
シートベルト使用状況表示	114
時刻の設定	121
室内灯	188
指定燃料	396, 507
シフト操作	240
シフトポジション表示灯	94
車外の清掃	446
車線維持支援システム(LKAS)	321
車線維持支援システム(LKAS)警告灯 (オレンジ)	89
車線維持支援システム(LKAS)表示灯 (ホワイト/グリーン)	97
車速/経過時間	112
ジャッキ	468
車内の清掃	443
車幅灯	159, 423
車両接近通報装置	248
車両データの記録について	33
ジャンプスタート	474
渋滞追従機能付アダプティブクルーズ アシスト)	333

渋滞追従機能付アダプティブクルーズ コントロール(ACC)	298
渋滞追従機能付アダプティブクルーズ コントロール(ACC)警告灯(オレンジ) ...	89
渋滞追従機能付アダプティブクルーズ コントロール(ACC)表示灯 (ホワイト/グリーン)	97
渋滞追従機能付アダプティブクルーズ コントロール(ACC)/車線維持支援システム (LKAS)/トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能)表示	102
充てん	396
充電	399
最大充電量設定	409
充電インジケーター	406
充電電流設定	410
普通充電	404
充電/パワーサプライコネクタが 抜けないとき	501
充電専用USBジャック	199
充電電流設定	410
充電リッド	
充電リッドが開かないとき	500
収納装備品	190
瞬間燃費表示	110
仕様	507
衝撃感知ドアロック解除システム	138
衝突軽減ブレーキ(CMBS)	267
ショルダーアンカー	45
親水ミラー	449

ス

水素ガスが漏れているとき	479
水素ガスの充てん	396
指定燃料について	396
水素ガスの充てんのしかた	397
水素残量警告灯	87
水素残量警告灯	87
水素漏れ警告灯	87, 479
スイッチ	
POWERスイッチ	156
ステアリングヒーター	204
ドアミラー	174
ドライブモードスイッチ	249
パーキングブレーキスイッチ	357
ライトスイッチ	159
リヤデフロスタースイッチ	169
ワイパー/ウォッシャー	166
ステアリング	172
ステアリングスイッチ	265
ステアリングヒーター	204
スノータイヤ	437
スピードメーター	99

セ

清掃	443
制動灯	426
セキュリティシステム	150
イモビライザーシステム	150

セキュリティアラームシステム	150
先行車発進お知らせ機能	342
センターコンソールボックス	191

ソ

走行用モーター	507
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	423
ソナーセンサー	356

タ

タイマー充電	407
タイヤ	433
ウェアインジケーター	434
指定空気圧	507
タイヤの点検	433
タイヤのローテーション	436
タイヤパンク応急修理キット	455
冬期のタイヤ	437
パンク	455
タイヤチェーン	437

チ

チェーン	437
チャイルドシート	63
ジュニアシート	78
乳児のチャイルドシート	64
幼児のチャイルドシート	65

チャイルドブルーフ	137
駐停車操作	370

テ

停止表示板入れ	195
デタイムランニングライト	161
データの取り扱いについて	33
テールゲートの開閉	139
テールゲートが開かないとき	502
パワーテールゲートの開閉	141
デフロスター	215
リヤデフロスター	169
電子制御パーキングブレーキ	357
電子制御ブレーキアシスト	368
電池交換	438

ト

ドアの施錠と解錠	122
解錠してもドアが開かない	31
キー閉じ込み防止装置	133
キーナンバータグ	123
キーの種類と機能	122
キーレスエントリー	131
後席ドアが開かない	31
車外でのドアの施錠/解錠	125
車内での施錠/解錠	135
衝撃感知ドアロック解除システム	138
チャイルドブルーフ	137

ドアハンドル	125, 135
ドアミラー	174
冬のタイヤ	437
スノータイヤ	437
タイヤチェーン	437
時計	103, 121
ドライビングポジションシステム	170
ドライブモードスイッチ	249
トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能)	333
トラブルサポート	505
トラブルシューティング	
12Vバッテリーがあがったとき	474
アクセルペダルを踏んでもパーキング ブレーキが自動で解除できない	32
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	31
オーバーヒートした	477
解錠してもドアが開かない	31
警告灯が点灯/点滅した	481
けん引してもらいたい	497
後席ドアが開かない	31
走行するとブザーが鳴る	32
パーキングブレーキスイッチを押しても パーキングブレーキが解除できない	32
パワーシステムが起動しない	469
パンクした	455
ヒューズが切れた	488
ブレーキを踏むと音がする	32
ブレーキを踏むと振動する	31

トランスミッション	239
トランスミッション警告灯	86, 485
トランスミッションフルード	507
トリップメーター	110
ドリンクホルダー	192

ナ

ナビゲーション	114
---------	-----

ニ

ニエアバッグ	53
--------	----

ネ

燃料	507
燃料計	99
燃料計	99
燃料電池車の注意	11
燃料電池車の特徴	6

ハ

パーキングセンサーシステム	372
ハイビーム	160
電球の交換	423
ハイビーム表示灯	93
ハイマウントストップランプ	426
ハザードスイッチ	表紙ウラ

発炎筒	2, 454
-----	--------

バッテリー

12Vバッテリーがあがったとき	474
12Vバッテリー充電警告灯	85, 481
高電圧バッテリー	412
容量/タイプ	507
バッテリー加温システム	412
バニティミラー	3
パワーウィンドーの開閉	152
パワーサブリコネクター	206
パワーシステム警告灯	85
パワーシステムの起動	233
12Vバッテリーがあがったとき	474
パワーシステムが起動しない	469
パワーテールゲート	141
パワーモード	
パワーモードオフトフ機能	156
パワーモード警告ブザー	156
パワーモードの切り換えかた	156
パンク	455
番号灯	426
ハンドル	172
ハンドル位置調整レバー	172

ヒ

ビークルスタビリティアシスト(VSA)	255
ヒートッドアミラー	169
非常点滅表示灯スイッチ	表紙ウラ

尾灯	426	車間距離設定表示灯	97	ブレーキシステム	357
ヒューズ	488	車線維持支援システム(LKAS)表示灯 (ホワイト/グリーン)	97	ABS(アンチロックブレーキシステム) ...	366
ヒューズの設置場所	488	渋滞追従機能付アダプティブクルーズ コントロール(ACC)表示灯 (ホワイト/グリーン)	97	アクセルペダルを踏んでもパーキング ブレーキが自動で解除できない	32
ヒューズの点検と交換	493	衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯 (グレー)	98	エマージェンシーストップシグナル	369
標識認識機能	346	セキュリティアラームシステム作動 表示灯	94	オートマチックブレーキホールド	362
標識認識機能表示	101	ハイビーム表示灯	93	電子制御パーキングブレーキ	357
表示設定	104, 118	ヒルディセントコントロール表示灯	96	電子制御ブレーキアシスト	368
表示灯	93	方向指示器/非常点滅表示灯	93	パーキングブレーキスイッチを押しても パーキングブレーキが解除できない	32
AUTOモード表示灯	95	ライト点灯表示灯	93	フットブレーキ	361
CHARGEモード表示灯	95	路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	98	ブレーキ警告灯(レッド)	83, 482, 484
ECONモード表示灯	95	ヒルディセントコントロール	253	ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	84, 484
EV表示灯	95	ヒルディセントコントロール表示灯	96	ブレーキを踏むと音がする	32
EVモード表示灯	95	フ		ブレーキを踏むと振動する	31
NORMALモード表示灯	95	ブースターケーブル	474	ブレーキフルード	507
READY表示灯	95	ブザー		ブレーキ警告灯(レッド)	83, 482
SAVEモード表示灯	95	運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	31	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	84
SNOWモード表示灯	95	走行するとブザーが鳴る	32	フレキシブルボード	196
SPORTモード表示灯	95	普通充電	404	フロントシート	177
安全支援情報表示灯(グリーン/グレー)	98	踏み間違い衝突軽減システム	277	アームレスト	187
イモビライザーシステム表示灯	94	フューエルリッド		シートヒーター	205
インフォメーション表示灯	96	フューエルリッドが解錠できないとき	499	フロントシートヘッドレスト	185
オートハイビーム表示灯	93	ブライندスポットインフォメーション	258	フロントセンサーカメラ	352
オートマチックブレーキホールドシステム 表示灯	96	ブラズマクラスター	217		
オートマチックブレーキホールド表示灯	96				
クルーズコントロール表示灯 (ホワイト/グリーン)	97				
減速セレクト表示灯	94				
シフトポジション表示灯	94				



平均車速表示	113
--------	-----

平均燃費表示.....	110
ヘッドライト.....	159, 160, 448
オートハイビーム.....	163
電球の交換.....	423
ハイビーム表示灯.....	93
ライト点灯表示灯.....	93
ヘッドライトレベリングダイヤル.....	162
ヘッドレスト	
フロントシート.....	185
リヤシート.....	186

ホ

ホイールサイズ.....	507
方向指示器(ウィンカー)	
方向指示器/非常点滅表示灯.....	93, 158
ホーンスイッチ.....	1
歩行者事故低減ステアリング.....	291

マ

マスタードアロックスイッチ.....	136
マップランプ.....	189
マルチインフォメーション	
ディスプレイ.....	103, 107
表示の切り換えかた.....	107
マルチビューカメラシステム.....	381

ミ

ミラー.....	173
自動式防眩ミラー.....	173
ドアミラー.....	174
パニティミラー.....	3
ルームミラー.....	173

メ

メーター.....	99
アンピエントメーター.....	100
オドメーター.....	100
外気温表示.....	101
高電圧バッテリー残量計.....	100
渋滞追従機能付アダプティブクルーズ	
コントロール(ACC)/車線維持支援システム	
(LKAS)/トラフィックジャムアシスト	
(渋滞運転支援機能)表示.....	102
スピードメーター.....	99
チャージメーター表示	
(CHARGE)/減速度表示(DECEL).....	99
燃料計.....	99
パワー表示(POWER).....	99
標識認識機能表示.....	101
マルチインフォメーション	
ディスプレイ.....	103, 107
メモリーボタン.....	171
メンテナンス.....	413
Hondaスマートキー.....	438

エアコンのお手入れ.....	441
清掃.....	443
タイヤの点検と整備.....	433
メンテナンスに関する注意事項.....	416
メンテナンスを安全に行うために.....	415
モータールーム内のメンテナンス.....	419
ライト類の点検と整備.....	423
ワイパーブレードラバーの点検と整備.....	428

モ

モータールーム内のメンテナンス.....	419
ウィンドウォッシャー液の補給.....	422
ボンネットを開ける.....	420
モータールーム内のメンテナンス項目.....	419

ラ

ライトスイッチ.....	159
オートハイビーム.....	163
ハイビーム表示灯.....	93
ライト点灯表示灯.....	93
ライト類の点検と整備.....	423
後退灯電球.....	426
後部側方灯電球.....	426
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	
電球.....	424
制動灯電球.....	426
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	
電球.....	423

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 電球	423
デイトタイムランニングライト/車幅灯 電球	423
ハイマウントストップランプ電球.....	426
パニティミラー照明灯電球.....	427
番号灯電球.....	426
尾灯電球.....	426
ヘッドライト電球.....	423

リ

リアシートリマインダー	184
リムサイズ	507
リヤシート	181
アームレスト	187
リヤデフロスタースイッチ.....	169
リヤワイパー.....	168

ル

ルームミラー	173
--------------	-----

レ

レーダーセンサー	354
----------------	-----

ロ

ロービーム	159
電球の交換.....	423
路外逸脱制御機能警告灯(オレンジ).....	90
路外逸脱抑制機能	283
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止 警告灯	90
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	98

ワ

ワイパー/ウォッシャー	166
ワイパーブレードラバー	429, 430
ワイヤレス充電器	200

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <https://www.honda.co.jp>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/>

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。

ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。

QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客 様 相 談 セ ン タ ー
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010^{イフレイオ}

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、
あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談
ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、原動機の型式、登録番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離 ③ ご購入年月日 ④ 販売店名